學友年鑑

2596

太平洋防備陣

海軍根據地
日本
アメリカ
イギリス

ソビエト聯邦
滿洲國
中華民國
日本
南洋諸島
日本委任統治
オーストラリヤ
蘭領東印度
カナダ
アメリカ合衆國
メキシコ
ハワイ諸島
南アメリカ
パナマ運河

各國軍用機のマーク
日本
イギリス
アメリカ
フランス
イタリヤ
ベルギー
オランダ
ポーランド
ロシア
中華民國

君が代は
千代に
八千代に
さゞれ石の
いはほとなりて
苔のむすまで。

（國　歌）

大日本帝國ハ
萬世一系ノ天皇
之ヲ統治ス

（帝國憲法）

天壤無窮之神勅

（日本書紀）

葦原千五百秋之瑞穂國
是吾子孫可王之地也。
宜爾皇孫就而治焉。
行矣。
寶祚之隆當與天壤
無窮者矣。

○

此の國は、わが子孫の
王たるべき地なり。
汝皇孫ゆきてをさめよ。
皇位の盛なる事、天地
と共にきはまりなかる
べし。

昭和十一年 學友年鑑 目次

皇室・宮廷

重要詔勅……一二一

重要法典

御製・詞歌

歷史

政治

彩色圖解

日本地理

世界地理

滿洲帝國

國防・軍事

要目

學習・常識

特輯 學校職業立身案內……三五一

○陸軍軍人になるには ○小說家になるには
○海軍軍人になるには ○畫家になるには
○普通文官になるには ○音樂家になるには
○高等文官になるには ○小學校教員になるには
○外交官になるには ○鐵道職員になるには
○醫師になるには ○遞信官吏になるには
○齒科醫師になるには ○無電技師になるには
○銀行員になるには ○滿洲國に就職するには
○短期の修業で就職するには
○看護婦になるには
○タイピストになるには
○電話交換手になるには
○洋裁家になるには
○美容師になるには
○學校一覽

別册附錄 集印帖

郵便局名所スタンプ ○交通名勝地圖
鐵道驛風景スタンプ ○軍艦汽船マーク
著名神社寺院御朱印 ○主要都市マーク
○記念スタンプ

昭和十一年（丙子）暦

閏年 三百六十六日

神武天皇即位紀元 二千五百九十六年

祭日	日付
四方拜	一月一日
元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日
紀元節	二月十一日
地久節	三月六日
春季皇靈祭	三月二十一日
神武天皇祭	四月三日
天長節	四月二十九日
秋季皇靈祭	九月二十三日
神嘗祭	十月十七日
明治節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日
大正天皇祭	十二月廿五日

記念日・節句など	日付
桃の節句	三月三日
陸軍記念日	三月十日
花まつり	四月八日
靖國神社祭	四月三十日
端午の節句	五月五日
海軍記念日	五月二十七日
時の記念日	六月十日
震災記念日	九月一日
滿洲事變記念日	九月十八日
クリスマス	十二月二十五日
小寒	一月六日
大寒	一月二十一日
舊暦元旦	一月二十四日
節分	二月四日
初午	二月六日
八十八夜	五月二日
入梅	六月十一日
夏至	六月二十一日
土用	七月二十日
二百十日	九月一日
仲秋明月	九月三十日
冬至	十二月二十二日

大の月	小の月
一月	二月
三月	閏年二十九日
五月	四月
七月	六月
八月	九月
十月	十一月
十二月	

日曜表

月	日曜日
一月	5 12 19 26
二月	2 9 16 23
三月	1 8 15 22 29
四月	5 12 19 26
五月	3 10 17 24 31
六月	7 14 21 28
七月	5 12 19 26
八月	2 9 16 23 30
九月	6 13 20 27
十月	4 11 18 25
十一月	1 8 15 22 29
十二月	6 13 20 27
十二年 一月	3 10 17 24 31
十二年 二月	7 14 21 28
十二年 三月	7 14 21 28

西暦紀元 一九三六年
滿洲帝國 康德三年
中華民國 二五年

天皇旗　皇后旗　攝政旗

皇太子旗　皇族旗　國旗

步兵聯隊旗　騎兵聯隊旗　軍艦旗

步兵第一大隊旗　海軍大臣旗　海軍少將旗　義勇艦隊旗

步兵第二大隊旗　海軍大將旗　海軍長旗　赤十字旗

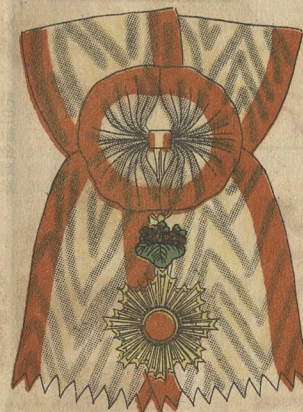
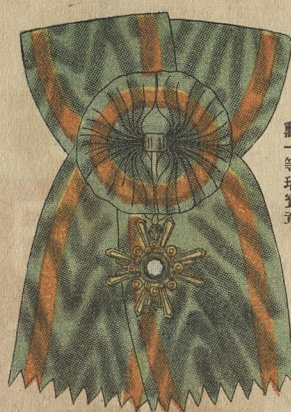
步兵第三大隊旗　海軍中將旗　海軍司令旗　稅關旗

陸軍測量部旗（陸軍）

陸軍運送船旗　鐵道省汽船旗　日本郵船會社旗　朝鮮郵船會社旗

海軍運送船旗　郵便船車旗　大阪商船會社旗　日清汽船會社旗

帝國勳章

大勳位菊花章頸飾
大勳位菊花大綬章副章
大勳位菊花大綬章
勳一等旭日桐花大綬章
勳一等旭日桐花大綬章副章
勳一等旭日大綬章
勳四等旭日小綬章
勳三等旭日中綬章
勳二等旭日重光章副章
勳二等旭日重光章
勳一等旭日大綬章副章
勳五等雙光旭日章
勳六等單光旭日章
功一級金鵄章
功二級金鵄章
功一級金鵄章副章
勳一等瑞寶章
功三級金鵄章
功二級金鵄章副章
功四級金鵄章
功五級金鵄章
勳二等瑞寶章
勳一等瑞寶章副章
功六級金鵄章
功七級金鵄章
勳四等瑞寶章
勳三等瑞寶章
勳五等瑞寶章
勳七等青色桐葉章
勳八等白色桐葉章
勳七等瑞寶章
勳六等瑞寶章
勳八等瑞寶章

日本全圖
南洋諸島
滿洲帝國
シベリヤ
中華民國
朝鮮
日本海
渤海
黃海
東支那海
南西諸島
オホーツク海
千島列島
樺太
北海道
本州
四國
九州
臺湾
太平洋
大日本
小笠原諸島
伊豆七島
カロリン諸島
マリヤナ諸島
マーシャル諸島
面積
本州 23万方粁
朝鮮 22万方粁
北海道
九州
樺太
台湾
四國
その他
新京
ハルビン
吉林
敦化
奉天
安東
營口
山海關
北平
天津
大連
青島
南京
蘇州
上海
杭州
基隆
ハバロフスク
ウラジオストック
清津
平壌
京城
釜山
豊原
大泊
稚内
小樽
旭川
札幌
函館
根室
青森
盛岡
秋田
仙台
新潟
福島
富山
金沢
敦賀
長野
東京
横浜
静岡
名古屋
京都
大阪
神戸
奈良
岡山
広島
松江
鳥取
下関
門司
福岡
長崎
熊本
鹿児島
松山
高知
シカゴ
南アメリカ
パナマ

世界領土別地圖
グリーンランド
カナダ
アラスカ
アメリカ合衆國
メキシコ
コロンビヤ
ベネズエラ
ブラジル
ペルー
ボリビヤ
チリ
アルゼンチン
シベリヤ
ソビエト聯邦
滿洲國
中華民國
日本
インド
イラン
アラビヤ
トルコ
エジプト
リビヤ
アルゼリヤ
西アフリカ
スダン
コンゴ
リベリヤ
南アフリカ
オーストラリヤ
ノルウエー
スエーデン
フィンランド
フランス
スペイン
領土別人口
日本
滿洲國
イギリス
イギリス本國
ロシヤ
アメリカ
フランス
ドイツ
イタリヤ
中華民國
その他
領土別面積
日本
滿洲國
イタリヤ
イギリス
ロシヤ
フランス
中華民國
アメリカ
ブラジル
その他

日本陸軍配備地圖
師團
軍司令部
飛行學校
飛行聯隊
高射砲聯隊
戰車聯隊
電信隊
氣球隊
自動車隊
陸軍省
東京 參謀本部
東部防衛司令部
飛行第一聯隊 各務原
飛行第二聯隊 各務原
飛行第三聯隊 八日市
飛行第四聯隊 太刀洗
飛行第五聯隊 立川
飛行第六聯隊 平壤
飛行第七聯隊 浜松
飛行第八聯隊 屏東
飛行第九聯隊 會寧
第一飛行團 各務原
第二飛行團 會寧
關東軍司令部(新京)
駐滿師團
獨立守備隊
飛行第九聯隊(會寧)
高射砲第五大隊(羅津)
朝鮮軍司令部(京城)
高射砲第六大隊(平壤)
飛行第六聯隊(平壤)
支那駐屯軍司令部
羅南
龍山
台灣軍司令部(台北)
屏東
旭川
弘前
仙台
宇都宮
東京
熊谷
所澤
立川
下志津
千葉
高射砲第一聯隊(國府臺)
金澤
高射砲第三聯隊(大津)
八日市
各務原
京都
大阪
名古屋
明野
姫路
廣島
善通寺
高射砲第四聯隊(佐賀)
久留米
太刀洗
熊本
高射砲第二聯隊(浜松)
鐵道第一聯隊
鐵道第二聯隊
(千葉)
自動車隊(東京)
電信第一聯隊(東京)
電信第二聯隊(廣島)
氣球隊(千葉)
戰車第一聯隊(久留米)
戰車第二聯隊(千葉)
南アメリカ
各國軍用機

日本海軍配備地圖

軍港又は要港
航空隊
要塞地帶

滿洲帝國
新京
駐滿海軍部
ソビエト聯邦
ウラヂオストック
中華民國
旅順要港
黃海
元山
鎭海要港
對馬
上海
東支那海
馬公要港
日本海
第三海軍區
第二海軍區
第一海軍區
舞鶴要港
舞鶴航空隊
呉軍港
呉航空隊
佐世保軍港
佐世保航空隊
大村航空隊
佐伯航空隊
鹿屋航空隊
奄見大島
大湊要港
大湊航空隊
オホーツク海
海軍省
東京
軍令部
霞ヶ浦航空隊
富岡航空隊
（神奈川）
横須賀軍港
横須賀航空隊
館山航空隊
木更津航空隊
小笠原島
太平洋

シカゴ
バルボア
パナマ運河
南アメリカ
各國軍用機（かくこくぐんようき）

禁轉載

帝國陸軍の服裝

元帥徽章

星章

一般師團星章

近衞師團星章

肩章

大將

中將

少將

大佐

中佐

少佐

大尉

中尉

少尉

准士官

曹長

軍曹

伍長

上等兵

一等兵

二等兵

臂章

精勤章

上等看護兵

襟部徽章

臺灣步兵聯隊附
將校以下

重砲兵聯隊(獨立大隊)附
將校以下

獨立守備大隊附
將校以下

山砲兵隊附
將校以下

臺灣山砲兵隊附
將校以下

電信隊附
將校以下

戰車隊附
將校以下

鐵道聯隊附
將校以下

自動車隊附
將校以下

氣球隊附
將校以下

飛行隊附
將校以下

高射砲隊附
將校以下

軍　樂　隊
將校相當官以下

士官候補生
主計候補生
見習藥劑生
見習獸醫官

學校教導大隊附
下士兵生

豫備役見習士官
各兵科部幹部候補生
豫備役見習主計
豫備役見習獸醫官
豫備役見習藥劑官
豫備役見習醫官
將校以下

徽章

憲兵科

輜重兵科

步兵科

經理部

騎兵科

衞生部

砲兵科

獸醫部

工兵科

軍樂部

航空兵科

步兵第三聯隊
士官候補生

伍長勤務上等兵

鞍工長

木工長

靴工長

藥劑官藥劑生
看護長看護兵
磨工勤務

銃工長

陸軍監獄長
陸軍監獄看手長
陸軍監獄看手

鍛工長

火工掛下士

縫工長

蹄鐵工長

喇叭長喇叭手

砲臺監守下士

帝國海軍の服裝
襟章
大將
中將
少將
大佐
中佐
少佐
大尉
中尉
少尉
候補生
生徒
肩章
大將
中將
少將
大佐
中佐
少佐
大尉
特務大尉
中尉
特務中尉
少尉
特務少尉
候補生
兵曹長
生徒
袖章
大將
中將
少將
大佐
中佐
少佐
大尉
特務大尉
中尉
特務中尉
少尉
特務少尉
候補生
兵曹長
生徒
軍帽
准士官以上及候補生
准士官以上軍帽前章
下士官及軍樂兵
兵（軍樂兵を除く）
下士官及軍樂兵軍帽前章
大日本軍艦陸奥
兵軍帽前章
臂章
一等兵曹
一等機關兵曹
一等航空兵曹
一等看護兵曹
一等主計兵曹
一等軍樂兵曹
二等兵曹
二等機關兵曹
二等航空兵曹
二等看護兵曹
二等主計兵曹
二等軍樂兵曹
三等兵曹
三等機關兵曹
三等航空兵曹
三等看護兵曹
三等主計兵曹
三等軍樂兵曹
一等水兵
一等機關兵
一等航空兵
一等看護兵
一等主計兵
一等軍樂兵
二等水兵
二等機關兵
二等航空兵
二等看護兵
二等主計兵
二等軍樂兵
三等水兵
三等機關兵
三等航空兵
三等看護兵
三等主計兵
三等軍樂兵

軍艦旗	日	米	英	佛	伊
主力艦	9	15	15	10	4
航空母艦	6	10	6	2	1
巡洋艦	35	31	58	24	29
驅逐艦	105	258	179	78	90
潜水艦	66	87	61	109	75

國史地圖

東部

皇紀年號

阿部比羅夫蝦夷征伐 一三一八年

八甲田山の遭難 二五六二年

ハーンドン・パーングボーン 機淋代出發 昭和六年

義經衣川に死す 一八四九年

八幡太郎 後三年の役 一七四七年

三陸大津波 昭和八年

白虎隊 二五二八年

間宮林藏 二四五八年

支倉常長ローマに使す 二二七三年

平將門叛く 一五九九年

阿部比羅夫 一三一八年

五稜廓陷る 二五二九年

露使根室に來る 二四五二年

日蓮 一八八二年

武田耕雲齋 二五二四年

櫻田門の變 二五二〇年

關東大震災 二五八三年

ペルリ來る 二五一三年

鎌倉幕府創設 一八五二年

賴朝擧兵 一八四〇年

日本武尊 七七〇年

家康誕生 二二〇二年

秀吉誕生 二九七年

名古屋城

桶狹間の戰 二二二〇年

曾我兄弟 一八五三年

關ケ原の戰 二二六〇年

義仲擧兵 一八四〇年

川中島の戰 二二二一年

清水トンネル 昭和六年

熊王丸

倶利加羅峠の戰 一八四三年

國史地圖

西部

皇紀年號

賤ヶ岳の戰 二二四三年

明治天皇御巡幸 二五二七年

重盛諫言

本能寺の變 二二四二年

名和長年 一九九三年

大國主命 紀元前九〇〇年頃

日本海海戰 二五六五年

平治の亂 一八一九年

四條畷の戰 二〇〇八年

櫻井の別

宇治川の先陣 一八四四年

高松城水攻 二二四二年

廣島大本營 二五五四年

一の谷の戰 一八四四年

七卿都落 二五二三年

伊賀越の仇討 二二九四年

奈良の大佛 一四〇七年

壇の浦の戰 一八四五年

嚴島の戰 二二一五年

弘法大師生る 一四三四年

那須與一 一八四五年

大阪落城 二二七五年

皇大神宮 六五六年

神武天皇大和御平定 紀元元年

南洋群島

南洋占領 二五七四年

興安嶺突破 昭和六年

チチハル入城 昭和六年

滿洲里入城 昭和七年

滿洲國建國 昭和七年

滿洲國承認 昭和七年

錦州爆撃 昭和六年

承德入城 昭和八年

奉天占領 二五六五年

平壤の戰 二五五四年

蔚山籠城 二二五七年

旅順開城 二五六五年

英艦砲撃 二五二三年

元寇 一九四一年

菅原道眞 一五六一年

日韓併合 二五七〇年

碧蹄館の戰 二二五三年

黄海の戰 二五五四年

青島陥落 二五七四年

林聯隊長戰死 昭和七年

上海攻撃 昭和七年

爆彈三勇士 昭和七年

秀吉朝鮮を討つ 二二五二年

熊本籠城 二五三七年

和氣清麿 一四二九年

西郷隆盛 二五二八年

天孫降臨

ポルトガル人鐵砲傳來 二二〇三年

霧社事件 二五九〇年

能久親王 二五五五年

世界の歴史地圖

西暦年號

ナンセン 一八九五年

ペアリー 一九〇九年

フランクリン 一七五二年

ライト兄弟 飛行機発明 一九〇三年

ポスト・ゲッテイ機 世界早廻り 一九三三年

リンカーン 奴隷を解放 一八六三年

エヂソン 一八七七年

合衆國 独立宣言 一七七六年

コロンブスアメリカ發見 一四九二年

メキシコ独立 一八二一年

パナマ運河開通 一九一四年

イスパニヤ人ブラジル發見 一五〇〇年

ハーンドン・パングボーン機 太平洋横断 一九三一年

日本海海戦 一九〇五年

滿洲國建國 一九三二年

紀元前六六〇年 神武天皇御即位

日本南洋占領 一九一四年

マゼラン比島に死す 一五二一年

英國オーストラリヤを領す 一七七〇年

スコット 南極探險 一九一二年

白瀬中尉 一九一〇年

禁轉載

NORGE

アムンゼン 一九一一年

ユトランド沖の大海戦 一九一六年

ツェッペリン ロンドン空襲 一九一六年

ノーベル 一八九六年

シェキスピア 一五六四年

ニュートン 一六六六年

パウルゼン ラヂオ發明 一九〇〇年

獨人自動車発明 一八八五年

マサリック 一九一八年

ベルダンの激戦 一九一六年

シーザー

アレクサンダー

ジャンヌ・ダーク 一四二九年

マルコーニ 一八九六年

ピーター大帝即位 一六八二年

ナポレオン モスコー退却 一八一二年

一八八一年 ケマル・パシャ

トルストイ 一八二八年

チムール 一三九九年

シベリヤ鐵道起工 一八九一年

福島中佐單騎シベリヤ横断 一八九三年

成吉思汗 一二〇六年

萬里長城 前二一四年

ガンヂー 一九二〇年

文天祥 一二八二年

山田長政 一六二一年

孔子生る 前五五一年

キリスト生る 前四年

スエズ運河開通 一八六九年

ピラミッド 前三〇〇〇年

トラファルガーの戦 ネルソン戦死 一八〇五年

リビングストン 一八五三年

釋迦生る 紀元前五六五年

セシルローヅ 一八六九年

ナポレオン セントヘレナに流さる 一八一五年

日本航路と航空路
樺太海流
千島海流
リマン海流
對馬海流
日本海流
上海
琉球海溝
タスカロラ海溝
航路
航空路
同豫定線
満洲里
ハイラル
大黒河
北安鎮
齊齊哈爾
洮南
ハルビン
佳木斯
富錦
依蘭
牡丹江
吉林
新京
敦化
圖們
赤峰
朝陽
承德
錦州
山海關
奉天
北平
天津
營口
安東
新義州
大連
平壤
京城
元山
清津
青島
南京
蘇州
杭州
釜山
蔚山
下關
門司
福岡
長崎
熊本
鹿兒島
高知
松山
岡山
鳥取
敦賀
金澤
富山
新潟
秋田
青森
盛岡
仙台
福島
宇都宮
前橋
長野
東京
横濱
靜岡
函館
小樽
札幌
旭川
根室
豊原
大泊
稚内
基隆
台北
ハバロフスク
ウラジオストック
禁轉載

北海道地方

オホーツク海

日本海

太平洋

樺太地方

間宮海峡

オホーツク海

千島列島

奥羽地方

津軽海峡

日本海

太平洋

東京横濱附近

—輸出—
生糸
人絹織物
絹織物
小麥粉
玩具
機械
電球

中部地方

日本海
富山湾
石川
富山
新潟
長野
福井
岐阜
山梨
愛知
静岡
駿河湾
伊勢湾
太平洋

京都大阪神戸附近

京都
滋賀
兵庫
大阪
大阪湾
奈良
和歌山

名古屋附近

岐阜
愛知
三重

近畿地方

日本海
若狭湾
兵庫
京都
滋賀
大阪
奈良
三重
和歌山
播磨灘
大阪湾
紀伊水道
伊勢海
熊野灘
太平洋

中國・四國地方

隠岐島
日本海
鳥取
島根
岡山
廣島
山口
周防灘
瀬戸内海
伊豫灘
香川
徳島
愛媛
高知
豊後水道
土佐湾
太平洋

九州地方

玄海灘
周防灘
對馬
壹岐
對馬海峡
五島
福岡
佐賀
長崎
熊本
大分
宮崎
鹿兒島
有明海
八代海
天草
天草灘
日向灘
大隅海峡
種子島

北九州

玄海灘
周防灘
福岡
筑豊炭田
佐賀

琉球列島

沖縄縣
東支那海
太平洋
台湾

臺灣地方

南洋群島

朝鮮地方

世界航路地圖
國際信號旗
回答旗
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
1
2
3
4
5
6
7
8
9
0
第一
第二
第三
地圖の赤線は日本汽船航路、白線は外國汽船航路
國際信號旗は汽船から他の汽船に、或は陸に通信をする場合に用ひる。遠距離の場合には無線電信による外はないが普通五、六杆の範圍内では此の信號旗を使用する。
太平洋
大西洋
印度洋
太平洋
ニューヨーク
パナマ
サンチャゴ
リオデジャネーロ
ブエノスアイレス
ケープタウン
ロンドン
マルセーユ
リスボン
ボンベイ
カルカッタ
コロンボ
シンガポール
香港
上海
大連
横濱
マニラ
シドニー
メルボルン

満洲帝國

アジヤ洲

日本委任統治南洋諸島

太平洋

印度洋

中華民国

日本

満洲国

フィリッピン諸島

ベーリング海

アラビヤ海

ベンガル湾

ボルネオ島

セイロン島

禁轉載

ヨーロッパ洲
大西洋
北海
黒海
地中海
裏海
ウラル山脈
ソビエト聯邦
アイスランド島
ビスカヤ湾
多島海
南アメリカ
各國軍用機

アフリカ洲

オーストラリヤ洲

北アメリカ洲

南アメリカ洲

日本輸出入割合圖解（昭和九年度）
棉花
鐵
麻類
機械類
石炭
羊毛
輸入
アメリカ
カナダ
木材
小麥
鉛
イギリス
パルプ
毛織物
ドイツ
硫安
合成染料
フランス
スエデン
パルプ
蘭領インド
生ゴム
砂糖
木材
採油用種子
アルゼンチン
フィリピン
海峽殖民地
生ゴム
鑛
錫
アフリカ
英領インド
銑鐵
露領アジア
支那
採油種子
紙類
鑛
オーストラリヤ
小麥
滿洲國及關東州
豆類
油粕
生肉
銑鐵
其他
生糸
絹織物
機械及同部分品
綿織物
人絹織物
メリヤス製品
輸出
英領インド
綿毛織物
糸
滿洲國及關東州
陶磁器
鐵製品
蘭領インド
鐵製品
シャム
海峽殖民地
露領アジア
オーストラリヤ
支那
砂糖
紙類
アフリカ
玩具
罐詰食料品
フランス
ドイツ
魚油及鯨油
イギリス
鐵製品
豆類
アルゼンチン
カナダ
フィリピン
アメリカ
玩具
罐詰食料品
陶磁器
其他

世界各國民の職業比較
日本
農及び林業
商業
工業
その他
イギリス
工業
商業
交通業
農業
鑛業
その他
ベルギー
工業
商業
農業
鑛業
その他
フインランド
農及び林業
工業
その他
フランス
農及び林業
工業
商業
その他
オーストラリヤ
工業
農及び林業
商業
交通業
その他
デンマーク
農及び林業
工業
商業
交通業
その他
アメリカ
工業
農及び林業
商業
交通業
その他
滿洲國
農業
商業
工業
その他
インド
農及び林業
工業
商業
その他
イタリー
農及び林業
工業
交通業
その他
ドイツ
工業
農業
商業
交通業
その他
主要國面積及人口比較
屬領アル國ハ之ヲ合算ス
面積比較內ノ斜線部ハ屬領ヲ示ス
人口ハ一九二八乃至一九三三年ノ調査
4 瑞西
8 墺地利
9 洪牙利
10 ブルガリヤ
13 丁抹
13 希臘
14 チェッコスロバキヤ
29 ルーマニヤ
32 諾威
34 フィンランド
39 波蘭
41 瑞典
47 獨逸
52 シャム
65 アフガニスタン
67 日本
75 智利
76 土耳古
80 エチオピヤ
83 西班牙
99 埃及
102 ベネズエラ
128万方粁 哥倫比亞
133万方粁 ボリビヤ
英吉利 3181万方粁
ソビエト聯邦 2135万方粁
佛蘭西 1091万方粁
支那 992万方粁
亞米利加合衆國 988万方粁
伯剌西爾 852万方粁
亞爾然丁 298万方粁
伊太利 242万方粁
白耳義 241万方粁
葡萄牙 217万方粁
和蘭 207万方粁
墨西哥 197万方粁
イラン(ペルシヤ) 162万方粁
滿洲 141万方粁
祕露 138万方粁
支那 45000万人
英吉利 43830万人
ソビエト聯邦 16100万人
亞米利加合衆國 13700万人
佛蘭西 9470万人
日本 9040万人
和蘭 6887万人
獨逸 6500万人
伊太利 4300万人
ブラジル 4027
滿洲 3000
其他 約35600万人
—61—
—60—

日本と世界の名高い山
メートル
9000
8000
7000
6000
5000
4000
3000
2000
1000
0
アジア洲
エベレスト山 (ヒマラヤ) 八八八二米
カンチエンジヤンガ山 (ヒマラヤ) 八六〇三米
ムスターグ・アタ山 (パミール高原) 七八六〇米
ハン・テングリ山 (天山山脈) 六九九〇米
アフリカ洲
キリマンジヤロ山 (東アフリカ)
ケニヤ山 (東アフリカ) 五一九四米
ヨーロッパ洲
エルブルーズ山 (コーカサス) 五六三三米
デマベンド山 (ペルシヤ) 五六七〇米
クリユーチェフ山 (カムチャッカ) 四九二〇米
モンブラン (アルプス) 四八一〇米
モンテローザ (アルプス) 四六三八米
マッテルホルン (アルプス) 四五〇五米
ユングフラウ (アルプス) 四一六六米
新高山 (台湾) 三九五〇米
次高山 (台湾) 三九三三米
秀姑巒山 三八三三米
南アメリカ洲
アコンカグア山 (アンデス山脈) 七〇三五米
メルゼダリヨ 六八〇二米
イリマニ山 (ペルー) 六四五九米
コトパクシ山 (エクアドル) 五九七八米
北アメリカ洲
マッキンレー山 (アラスカ) 六一八七米
ローガン山 (アラスカ) 六〇五〇米
オリザバ山 (メキシコ) 五六五八米
ブランカピーク (ロッキ山脈) 四三八六米
シャスタ山 (カリフォルニヤ) 四三七四米
ホイットニー山 (カリフォルニヤ) 四四二〇米
大洋洲及南極
マルカム山 (南極) 四六〇〇米
マウナケア (ハワイ) 四二一〇米
マウナロア (ハワイ) 四一六八米
富士山 (中部) 三七七六米
穂高岳 (中部) 三一九〇米
御岳 (中部) 三〇六三米
乗鞍岳 (中部) 三〇二六米
立山 (中部) 三〇一五米
駒ヶ岳 (甲斐) 二九六六米
駒ヶ岳 (木曾) 二九五六米
白馬岳 (中部) 二九三三米
白頭山 (朝鮮) 二七四四米
冠帽山 (朝鮮) 二五四一米
狼林山 (朝鮮) 二〇一三米
金剛山 (朝鮮) 一六三八米
大白山 (朝鮮) 一五六一米
霧島山 (九州) 一七〇〇米
阿蘇山 (九州) 一五九三米
石鎚山 (四國) 一九二一米
劔山 (四國) 一九五五米
櫻島 (九州) 一一一三米
背振山 (九州) 一〇五五米
筑波山 (關東) 八七六米
大山 (中國) 一七一三米
氷山 (中國) 一五一〇米
三笠山 近畿 三四三米
白山 (中部) 二七〇二米
赤石岳 (中部) 三一二〇米
悪澤岳 (中部) 三一四六
鎗ヶ岳 (中部) 三一八〇米
八ヶ岳 (中部) 二八九九米
白根山(山梨) (中部) 三一九二米
白根山(日光) (中部) 二五七八米
浅間山 (中部) 二五四二米
岩手山 (奥羽) 二〇四一米
鳥海山 (奥羽) 二二三〇米
二荒山(男體山) (關東) 二四八四米
妙高山 (中部) 二四四六米
月山 (奥羽) 一九二四米
十勝岳 (北海道) 二〇七七米
大雪山 (北海道) 二二九〇米
箱根山 (關東) 一四三九米
伊吹山 (近畿) 一三七七米
金剛山 (近畿) 一一二三米
葛城山 (近畿) 八五七米
三原山 (大島) 七五五米
恐山 (奥羽) 八〇四米
振戸山 (樺太) 一〇三四米
朝鮮及台湾
四國及九州
本州
樺太北海道

速度の比較 一秒間

光 電流	300 000 キロメートル
砲弾	810 メートル
最速水上機	189 メートル
戰闘機	90 メートル
自動車	70 メートル
競馬	57 メートル
汽車(アメリカ)	42 メートル
汽車(日本)	26 メートル
戰車	28 メートル
人(疾走)	10 メートル

地球の七周半

川の長さ

利根川	322
石狩川	365
信濃川	369
洛東江	525
鴨綠江	790
ボルガ河	3570
黒龍江	4480
レナ河	4600
揚子江	5200
イエニセイ河	5200
ナイル河	5760
アマゾン河	6200
ミシシッピ河	6530

0　1000キロメートル　2000キロメートル　3000キロメートル　4000キロメートル　5000キロメートル　6000キロメートル　7000キロメートル

一時間の速力くらべ
(單位はキロメートル)
列車(日本・燕号) 九五・〇
歩行 四・〇
競走 一六・七
戰車 一〇〇・〇
すずめ 三〇・〇
傳書鳩 一三〇・〇
旅客機(日) 一五四・〇
列車(獨) 一五〇・〇
汽船ノルマンデー号(佛) 四八・〇
戰艦陸奥 四二・〇
ヨット 二八・〇
つばめ 二九〇・〇
自動車(最速) 二五一・〇
競爭用自動車 四三九・〇
旅客機(米) 三四六・〇
戰鬪機 三三〇・〇
競爭機 四八〇・〇
最速水上機(伊) 六五〇・〇
驅逐艦吹雪 六三・〇
東京
田町 四・六
川崎 一八・二
程ヶ谷 三一・八
戸塚 四〇・九
大船 四六・五
平塚 六三・八
小田原 八三・九
眞鶴 九三・八
熱海 一〇四・六
沼津 一二六・二
富士
靜岡
中泉
天龍川 二五二・〇
豐橋 二九三・六
岡崎 三二五・九
大府 三四六・五
名古屋 三五五
關ヶ原 四三二・五
安土
姫路 六四四・三

高層建築の比較
400米
350米
300米
250米
200米
150米
100米
50米
379
ニューヨーク・エムパイヤステートビル（アメリカ）
319
ニューヨーク・クライスラービル（アメリカ）
300
パリ・エッフェル塔（フランス）
241
ニューヨーク・ウールウースビル
166
佐賀關製鑛所煙筒（大分縣）
65
帝國議事堂（東京）
57
東寺塔（京都）
55
名古屋城
53
興福寺塔（奈良）
52
大阪城
168
ワシントン記念碑（アメリカ）
161
ウルム寺院（ドイツ）
200
原の町無線電信塔（福島縣）
48
奈良大佛殿
248
（長サ）
ドイツ旅客飛行船
ツェッペリン・エルセツト
百二十九号
LZ 129
138
ローマ・聖ピエトロ大寺（イタリー）
109
ロンドン・聖ピーター大寺
40
東京帝國大學大講堂
52
三越（東京）
250
依佐美無線電信塔（愛知縣）
137
ギゼーピラミッド（エジプト）
55
ピサの斜塔（イタリー）
33
丸ビル（東京）
313
フランス汽船ノルマンデー号（長サ）
201
軍艦陸奥（長サ）
340
東京驛（長サ）
パルボア
パナマ
南アメリカ

栄養素分析表（えいやうそぶんせきへう）

- 粗蛋白質
- 粗脂肪質
- 粗含水炭素質
- 無機質
- 水分

食品	数値
えんどう	水 83.05, 1.05, 0.5
馬鈴薯（ばれいしよ）	水 78.17, 1.03, 19.2, 0.1, 1.5
玉ねぎ（たま）	水 88.86, 0.44, 0.1, 1.6, 8.0
大根（だいこん）	水 95.11, 4.5, 3.7, 0.7
ほうれん草	水 94.4, 1.30, 1.7, 0.3, 2.3
キャベツ	水 87.52, 1.18, 0.2, 2.7
にんじん	水 90.13, 0.77, 0.4, 1.8
胡瓜（きうり）	水 96.5, 0.47, 2.0, 0.1, 0.9
南瓜（かぼちや）	水 92.35, 0.75, 0.1, 0.7
甘藷（さつまいも）	水 68.68, 1.1, 28.8, 0.2, 1.4
落花生（らくくわせい）	46.0, 22.6, 18.83, 2.47
松茸（まつだけ）	水 85.6, 0.5, 2.9, 10.9
たけのこ	水 92.03, 0.77, 0.1, 2.6
わかめ	37.8, 31.35, 3, 11.5, 18.95
昆布（こんぶ）	43.7, 19.69, 28.81, 0.9, 6.6
白米（はくまい）	72.0, 0.3, 3.01, 14.12, 0.57
玄米（げんまい）	71.6, 2.5, 8.4, 15.2, 1.3
小麦粉（こむぎこ）	71.0, 1.1, 10.9, 16.5, 0.5
大麦（おほむぎ）	65.5, 2.1, 11.2, 19.98, 1.41
玉蜀黍（たうもろこし）	66.7, 8.5, 9.5, 18.3, 2.00
大豆（だいづ）	18.0, 27.7, 34.7, 14.96
小豆（あづき）	56.4, 0.4, 22.0, 18.66, 2.54
夏みかん（なつ）	多量ノ水分, 小量ノ無機質
りんご	水 90.65, 0.42, 8.9, 0.3
オレンジ	多量ノ水分, 小量ノ無機質
葡萄（ぶどう）	水 84.1, 0.50, 14.4, 1.0
なし	90.19, 0.31, 9.1, 0.4
バナヽ	水 75.77, 0.88, 21.6, 0.4, 1.4
とまと	水 94.19, 0.61, 0.2, 1.0
鶏卵（けいらん）	水 73.29, 1.01, 1.8, 10.7, 13.2
鶏肉（けいにく）	水 78.09, 0.91, 21.0
牛肉（ぎうにく）	水 72.0, 1.20, 0.7, 5.5, 20.6
豚（ぶた）	1.00, 28.1, 水 56.8, 14.0
鯉（こひ）	水 71.27, 1.03, 8.7, 18.1
鰻（うなぎ）	水 69.26, 1.14, 11.5, 18.1
鯛（たひ）	水 77.83, 1.37, 1.9, 18.9
いわし	1.64, 水 71.26, 5.7, 21.4
鮪（まぐろ）（赤身）	水 76.98, 1.44, 4.5, 17.1
鮭（さけ）	水 66.33, 1.77, 3.4, 28.5
鰹節（かつをぶし）	75.6, 14.27, 水, 5.03, 5.1
あさり	水 84.06, 1.96, 0.8, 13.2
数の子（かずのこ）	水 77.65, 0.45, 1.3, 20.6
乾のり（ほしのり）	1.3, 39.5, 30.0, 19.6, 9.60
味噌（みそ）	10.75, 18.0, 水 55.34, 3.6, 12.3
醤油（しやうゆ）	水 70.26, 16.94, 5.78
たくあん	水 84.2, 8.30, 6.0, 1.4, 0.1
梅干（うめぼし）	水 90.06, 0.34, 1.3, 0.9
納豆（なつとう）	1.80, 1.1, 8.2, 水 64.54, 19.3
とうふ	水 88.66, 0.64, 1.1, 3.0, 5.6
油あげ（あぶら）	1.35, 0.5, 18.7, 水 57.45, 22.0
牛乳（ぎうにう）	水 87.03, 0.72, 4.8, 3.8
食パン	53.5, 0.75, 38.65, 0.1, 7.0
バター	83.7, 0.8, 11.8, 0.5, 3.32
ビスケット	77.1, 6.9, 8.1, 4.7, 2.82
チョコレート	2.26, 2.26, 67.0, 6.3, 22.2
コーヒー	42.6, 4.85, 13.7, 14.1, 24.75
茶（ちや）	水 67.86, 26.1, 6.04
そば	0.45, 21.1, 水 65.45, 13.0
米飯（こめのめし）	0.17, 水 64.28, 32.3, 0.1, 3.2

ヴィタミン含有量比較表

＋ヴィタミン少量含有。
＋＋中量のヴィタミンを含有。
＋＋＋多量のヴィタミンを含有。
＋＋＋＋極めて多量のヴィタミンを含有。
＊極めて微量のヴィタミンを含有。
？ヴィタミンの有無不明。又は含有量不明。
無記號は未だ研究發表を見ざるもの

氣象信號

天氣の旗

晴

曇

雨

雪

晴時々少雨

晴時々少雪

曇一時晴

曇少雨

晴一時曇

曇少雪

雨又は雪

霧

氣溫の旗

氣溫劇昇

氣溫劇降

暴風警報

夜

晝

氣象特報

夜

晝

風が強くなる

風雨が強くなる

風雪が強くなる

風向の旗

北東の風

北の風

北西の風

東の風

南東の風

南の風

南西の風

西の風

日本氣象地圖

ラヂオ 氣象通報

日本都市分布
人口比較
昭和九年十月
● 人口十五万以上の市
○ その他の市
十万
一万
東京 5663000
大阪 2723000
京都 1088000
名古屋 1018000
神戸 854000
横浜 704000
京城 374000
廣島 296000
大連 290000
福岡 280000
台北 266000
函館 224000
長崎 217000
仙台 217000
呉 207000
八幡 201000
札幌 193000
静岡 189000
熊本 186000
鹿児島 177000
和歌山 171000
金沢 165000
岡山 161000
横須賀 160000
豊橋 155000
小樽 153000
佐世保 151000
小樽
札幌
函館
仙台
東京
横浜
横須賀
静岡
豊橋
名古屋
金沢
京都
大阪
神戸
和歌山
岡山
呉
廣島
八幡
福岡
佐世保
長崎
熊本
鹿児島
京城
大連
台北

世界の都市分布
人口比較
等温線
世界十大都市
百万以上ノ都市
-15
-10
0
+10
+20
+25
+30
ニューヨーク
フィラデルフィヤ
デトロイド
シカゴ
ロスアンゼルス
リオデジャネイロ
サンパウロ
ヴエノスアイレス
東京
大阪
京都
名古屋
上海
天津
シドニー
カルカッタ
ボンベイ
カイロ
モスコー
レニングラード
ワルソー
ベルリン
ハンブルグ
ウイーン
ブダペスト
ロンドン
グラスゴー
パリー
ローマ
バルセロナ
百万
ニューヨーク（アメリカ） 六九三・〇
東京（日本） 五六六・三
ロンドン（イギリス） 四三九・七
ベルリン（ドイツ） 四二四・三
シカゴ（アメリカ） 三三七・六
モスコー（ソビエト） 三三四・二
パリー（フランス） 二八九・一
大阪（日本） 二七三・三
レニングラード（ソビエト） 二七一・五
上海（中華民國） 二六七・四
ヴエノスアイレス（アルゼンチン） 二三一・五
フイラデルフイヤ（アメリカ） 一九五・二
ウイーン（オーストリヤ） 一八六・二
リオデヂヤネイロ（ブラジル） 一五八・五
デトロイド（アメリカ） 一五六・九
天津（中華民國） 一三八・九
シドニー（オーストラリヤ） 一二四・一
ロスアンゼルス（アメリカ） 一二三・八
カルカッタ（インド） 一二九・七
ワルソー（ポーランド） 一二〇・〇
ボンベイ（インド） 一一六・一
カイロ（エジプト） 一一六・一
ハンブルグ（ドイツ） 一一三・九
グラスゴー（イギリス） 一一二・二
京都（日本） 一〇八・八
バルセロナ（スペイン） 一〇四・二
ブダペスト（ハンガリー） 一〇二・〇
名古屋（日本） 一〇一・八
ローマ（イタリー） 一〇〇・八
サンパウロ（ブラジル） 一〇〇・六

日本人の海外分布

満洲國
1045190

ソビエト聯邦

ヨーロッパ
3924

スエーデン
イギリス
ラトビヤ
ポーランド
オランダ
ドイツ
ルーマニヤ
フランス
スイス
イタリー
スペイン
ポルトガル
ギリシヤ
トルコ

中華民國
56049

イラン
アフガニスタン

シヤム

マレー及びボルネオ
7500

フイリッピン
20558

蘭領インド
7000

アフリカ
155

エチオピヤ

シベリヤ
2416

カナダ
21062

アメリカ
146708

ハワイ
150832

キューバ

メキシコ
5360

コロンビヤ

ペルー
21127

ブラジル
173500

チリー

アルゼンチン
5334

南洋
2000

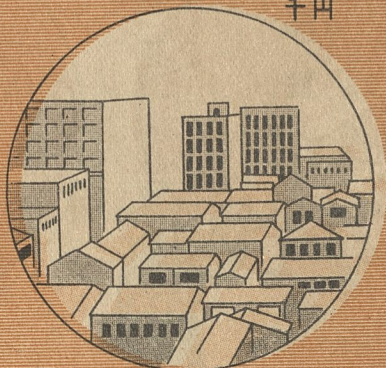
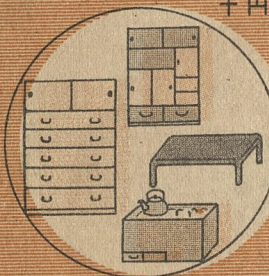
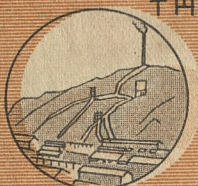
オーストラリヤ
3500

帝國大使館

帝國公使館

在外日本人總數
1803000人

昭和九年十月

各國々民一人當りの國富
アメリカ
7052円
イギリス
6380円
フランス
3205円
日本
1710円
ドイツ
1380円
イタリア
1317円
ソヴエト
899円
帝國の國富
總額一〇二、八八〇、〇〇四千円
土地
41.091.348千円
鐵道
3.598.138千円
樹
6.706.815千円
建物
22.843.300千円
家具家材
12.473.201千円
鑛山
6.499.651千円
船舶
2.060.236千円
電氣瓦斯
1.905.044千円
機械
1.809.381千円
各國々民一人當りの國債
イギリス
1661円
フランス
836円
アメリカ
360円
イタリア
235円
日本
116円
ドイツ
84円

各國々民一人當りの國民所得
イギリス
1412円
アメリカ
1251円
フランス
688円
ドイツ
601円
ソヴィエト
509円
日本
165円
職業別所得
總額一〇、六三五、七八五千円
昭和五年
（單位・千圓）
工業
3.483.011
商業
2.706.079
農業
1.883.195
公務
1.346.702
運輸業
629.631
通信業
211.685
水產業
189.548
各國々民一人當りの郵便貯金
アメリカ
1580円
オーストラリヤ
871円
イギリス
507円
フランス
489円
イタリア
420円
日本
70円

列國の國防費

單位 百萬円

國名	國防費
アメリカ	1440
日本	942
イタリア	569
イギリス	1006
フランス	843
ドイツ	321

自動車一台當り各國の人口

國名	人口
アメリカ	5人
オーストラリヤ	11人
フランス	27人
イギリス	37人
ドイツ	90人
イタリア	144人
日本	725人
インド	2000人
ロシヤ	2800人
支那	12587人

手旗現字通信原劃等ノ現字法

名稱	現字	說明及図解
原姿	‖	兩手ヲ垂直ニ垂ル
零原劃	○	右手ヲ以テ垂下ノ位置ヨリ左方ニ廻ハシ一圓ヲ畫ク
第一原劃	一	兩手ヲ左右水平ニ出ス
第二原劃	丨	左手ヲ垂レ右手ヲ垂直ニ擧ク 但「チ」「レ」及「エ」ノ第二劃ヲ畫クトキニ限リ右手ヲ垂レ左手ヲ垂直ニ擧ク
第三原劃	／	左手ヲ左四十五度上右手ヲ右四十五度下ニ出ス
第四原劃	＼	右手ヲ右四十五度上左手ヲ左四十五度下ニ出ス
第五原劃	丶	兩手ヲ兩足尖ノ方向ヨリ擧ケ頭上ニ交叉ス
第六原劃	ニ	右手ヲ右方水平ニ左手ヲ捷路ヲ經テ頭上ヨリ右方水平ニ出ス
第七原劃	L	右手ヲ垂直ニ擧ケ左手ヲ左方水平ニ出ス
第八原劃	┐	左手ヲ垂レ右手ヲ右方水平ニ出ス
第九原劃	フ	右手ヲ右方水平ニ左手ヲ右手ノ下約三十五度ノ俯角ニ出ス
第十原劃	丶ノ	兩手ヲ左右各四十五度ノ仰角ニ擧グ
第十一原劃	//	兩手ヲ左方四十五度上ヨリ右方四十五度下ニ振リ下ロス
第十二原劃	‖	兩手ヲ垂直ニ擧グ
第十三原劃	／	左手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧グ
第十四原劃	＼	右手ヲ五十四度ノ仰角ニ擧グ
起信符號	↑↑	兩手ヲ垂直ニ擧ケ各左右水平マテ振ルコト數回
應信符號	↑↓	兩手ヲ交シ上下ニ振ルコト數回
終信符號	‖	第十二原劃ヲ畫ク
解信符號	//	兩手ヲ垂直ニ擧ケ平行セル儘左右ニ振ルコト數回
區切點	＼	第十四原劃ヲ畫キ受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス
段落	L	第七原劃ヲ畫キ受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス
誤謬訂正符號	＼	右手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧ケ左右ニ振ルコト數回
數字符號	／	第十三原劃ヲ畫キ受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス
略號符號	へ	兩手ヲ左右下方四十五度ノ位置ニ出シ之ヲ下方ニ交叉スルコト數回受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス
括弧	へ	兩手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス
讀點	／	左手ヲ垂レ右手ヲ右方四十五度下ニ出ス

手旗現字通信片假名作爲法
片假名
組合セ順序
第一動
第二動
第三動
イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト チ
リ ヌ ル ヲ ワ カ ヨ タ レ
ソ ツ 子 ナ ラ ム ウ ヰ
ノ オ ク ヤ マ ケ フ コ エ
テ ア サ キ ユ メ ミ シ
ヱ ヒ モ セ ス ン ー 〃 ○
(長音)
(濁音)
(半濁音)
數字は原劃の〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九を組合せてつくります。
つくり方は前頁の原劃及び數字の表し方を御覧下さい。

太陽と地球

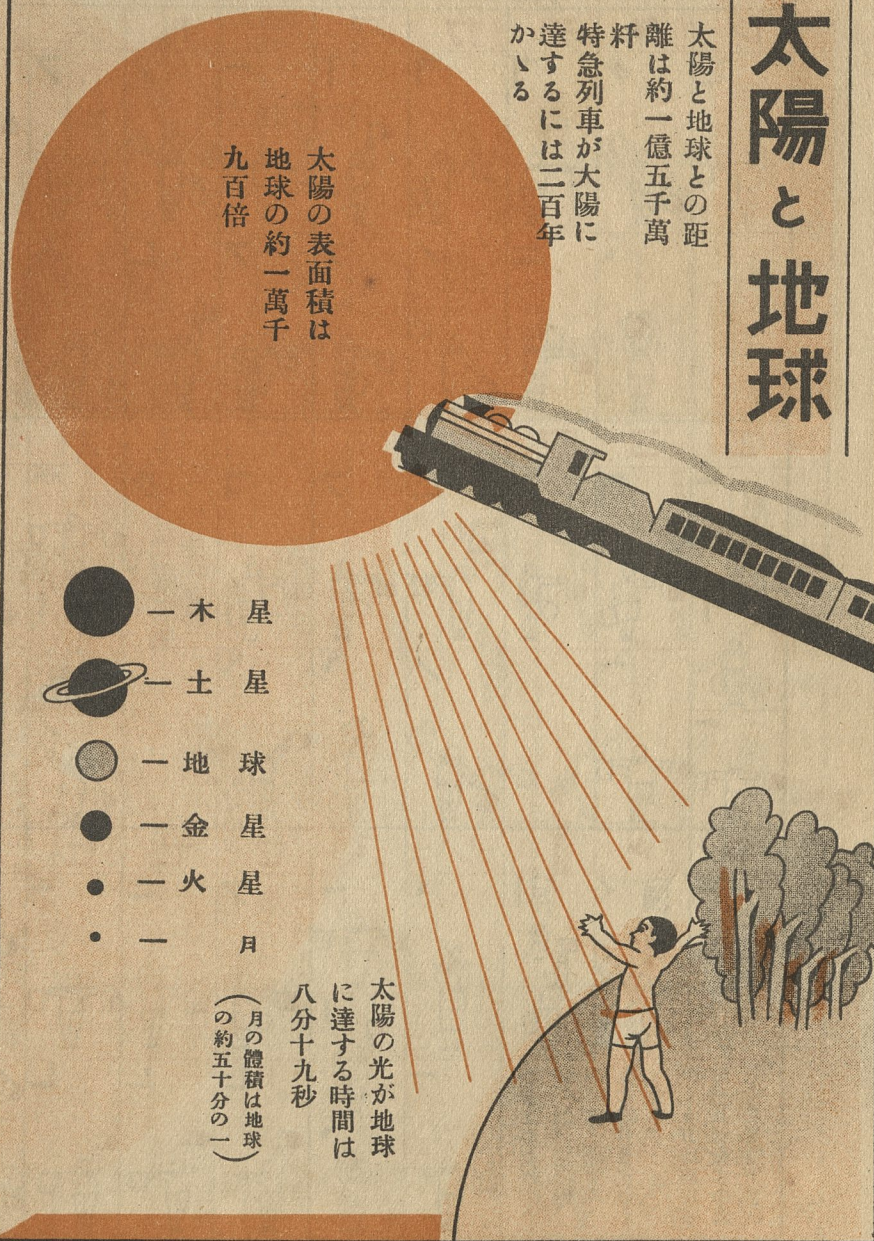
太陽と地球との距離は約一億五千萬粁

特急列車が太陽に達するには二百年かゝる

太陽の表面積は地球の約一萬千九百倍

木星
土星
地球
金星
火星
月

太陽の光が地球に達する時間は八分十九秒

（月の體積は地球の約五十分の一）

宮城 （東京市麴町區 面積約六十萬坪）

△**宮殿**　表宮殿と奥宮殿とに別れ表宮殿とは正殿、鳳凰間、桐間、化粧間、葡萄間、豐明殿、千種間、牡丹間、竹間、南溜、東溜、西溜、北溜、東一間、東二間、西一間、西二間、御車寄は表御車寄、東御車寄、北御車寄を總稱し、奥宮殿は表宮殿の西南方に連り、兩陛下の御常御殿である。

△**宮中三殿**　賢所、皇靈殿、神殿を稱し、賢所は三種の神器の一たる寶鏡を奉安し皇祖天照皇大神を奉齋し給ふ。皇靈殿は神武天皇を始め御歴代天皇、皇后、皇妃、皇親の御靈を奉祀し、神殿は神產日神外七神並に天神地祇を鎭祭し給ふ。又皇靈殿の西に神嘉殿あり、新嘗祭の時御親祭を行はせられ、元旦の四方拜はその南庭にて行はせらる。

△**吳竹寮**　宮城內舊本丸にある。皇子御殿で、現に照宮成子內親王殿下の御住居にあてさせらる。

△**振天府その他**　振天府は日清戰役の戰利品、記念品殉國者氏名及び寫眞等を藏めてある。有光亭は威海衞戰の戰利品、懷遠府は北淸事變に於る殉國者の氏名肖像、記念品、建安府は日露戰役の戰利品、記念品、殉國者の氏名、寫眞等を藏を藏めてあり、又日獨戰役の記念府たる惇明府もあり。上海、滿洲事變の記念府も御造營計畫中。

△**二重橋**　正門外から望む上下二重の鐵橋である。

△**吹上御苑**　宮城內の御庭である。

△**京都皇居**　（京都市上京區）紫宸殿、淸涼殿、宜陽殿から南庭を廻つて日華、月華、承明以下の軒廓陳座等あり、登極令により代々御大禮を擧げさせ給ふ所。

天皇陛下

皇后陛下

皇太后陛下

大日本帝國皇室

天皇陛下（第百二十四代）

御名　裕仁（ヒロヒト）。大正天皇第一皇子。明治三十四年四月二十九日御降誕。迪宮（ミチノミヤ）と稱し奉る。大正五年十一月三日立太子式御擧行。大正十年三月三日御外遊。同年九月三日御歸朝。大正十年十一月二十五日攝政御就任。大正十三年一月二十六日御成婚。大正十五年十二月二十五日御踐祚。昭和三年十一月十日御即位式御擧行。同月十四日大嘗祭御親祭。

皇后陛下

御名　良子（ナガコ）。故久邇宮邦彦王第一王女。明治三十六年三月六日御誕生。大正十三年一月二十六日御入輿皇太子妃とならせられ昭和元年十二月二十五日皇后宣下。

皇太后陛下

大正天皇御后
今上天皇御母

御名　節子（サダコ）。故公爵九條道孝第四女。明治十七年六月二十五日御誕生。明治三十三年五月十日御入輿皇太子妃とならせられ大正元年七月三十日皇后宣下。昭和元年十二月二十五日皇太后とならせらる。

皇太子殿下

順宮厚子內親王

照宮成子內親王

孝宮和子內親王

皇太子殿下

御名　明仁（アキヒト）。御稱號繼宮（ツグノミヤ）。今上天皇第一皇子。昭和八年十二月二十三日御降誕。

正仁（マサヒト）親王

御稱號　義宮（ヨシノミヤ）。今上天皇第二皇子。昭和十年十一月二十八日御誕生。

成子（シゲコ）內親王

御稱號　照宮（テルノミヤ）。今上天皇第一皇女。大正十四年十二月六日御誕生。昭和七年四月女子學習院御入學。

和子（カズコ）內親王

御稱號　孝宮（タカノミヤ）。今上天皇第三皇女。昭和四年九月三十日御誕生。

厚子（アツコ）內親王

御稱號　順宮（ヨリノミヤ）。今上天皇第四皇女。昭和六年三月七日御誕生。

秩父宮雍仁親王殿下

高松宮宣仁親王殿下

三笠宮崇仁親王殿下

秩父宮妃勢津子殿下

高松宮妃喜久子殿下

閑院宮載仁親王殿下

伏見宮博恭王殿下

梨本宮守正王殿下

東久邇宮稔彦王殿下

朝香宮鳩彦王殿下

皇族及王族

宮家	御名	勲位官職	御父ト續柄	御誕生
秩父宮	雍仁親王	大勲位陸軍歩兵少佐	大正天皇第二皇子	明治三十五年六月二十五日
	御略歴　初め淳宮と稱し奉る。大正十一年六月二十五日秩父宮の御稱號を賜り一家御創立。大正十四年五月海外御見學。昭和二年一月御歸朝。昭和六年十一月陸軍大學校御卒業。昭和九年六月滿洲國帝制實施御慶祝のため御渡滿同月御歸朝。昭和十年八月陸軍歩兵少佐に御進級、歩兵第三十一聯隊大隊長（弘前）御補任。			
	妃勢津子	勲一等	松平恒雄第一女	明治四十二年九月九日
高松宮	宣仁親王	大勲位海軍少佐	大正天皇第三皇子	明治三十八年一月三日
	御略歴　初め光宮と稱し奉る。大正二年七月六日高松宮の御稱號を賜はり一家御創立、廢絶せる有栖川宮家の御祭祀を司らせらる。大正十三年七月海軍兵學校御卒業。昭和五年四月ガーター勲章御答禮使として御渡英、歐米各國御巡遊。昭和六年六月御歸朝。昭和九年十一月海軍大學校御入學。			
	妃喜久子	勲一等	故公爵徳川慶久第二女	明治四十四年十二月二十六日
三笠宮	崇仁親王		大正天皇第四皇子	大正四年十二月二日
	御略歴　初め澄宮と稱し奉る。昭和十年十二月二日三笠宮の御稱號を賜り一家御創立。陸軍士官學校御在學。			
閑院宮	載仁親王	大勲位功二級元帥陸軍大將參謀總長	故邦家親王第十六男子	慶應元年十一月十日
	妃智惠子	勲一等	故公爵三條實美第二女	明治五年六月三十日
	春仁王	大勲位陸軍騎兵大尉	載仁親王第二男子	明治三十五年八月三日
	妃直子	勲二等	故公爵一條實輝第四女	明治四十一年十一月七日

宮家	御名	勲位官職	御父ト續柄	御誕生
東伏見宮	故依仁親王妃周子	勲一等	故公爵岩倉具定第一女	明治九年八月二十九日
伏見宮	博恭王	大勲位功四級元帥海軍大將軍令部總長	故貞愛親王第一男子	明治八年十月十六日
	妃經子	勲一等	故公爵徳川慶喜第九女	明治十五年九月二十三日
	博義王	大勲位海軍中佐	博恭王第一男子	明治三十年十二月八日
	妃朝子	勲一等	故公爵一條實輝第三女	明治三十五年六月二十日
	博英王（博恭王第四男子、大正元年十月四日御誕生）博明王（博義王第一男子、昭和七年一月二十六日御誕生）光子女王（博義王第一女、昭和四年七月二十八日御誕生）令子女王（博義王第二女、昭和八年二月十四日御誕生）章子女王（博義王第三女、昭和九年二月十一日御誕生）			
山階宮	故菊麿王妃常子	勲一等	故公爵島津忠義第三女	明治七年二月七日
	武彦王	勲一等海軍少佐	故菊麿王第一男子	明治三十一年二月十三日
賀陽宮	故邦憲王妃好子	勲一等	故侯爵醍醐忠順第一女	慶應元年十二月七日
	恒憲王	大勲位陸軍騎兵中佐	故邦憲王第一男子	明治三十三年一月二十七日
	妃敏子	勲一等	故公爵九條道實第五女	明治三十六年五月十六日
	邦壽王（恒憲王第一男子、大正十一年四月二十一日御誕生）治憲王（恒憲王第二男子、大正十五年七月三日御誕生）章憲王（恒憲王第三男子、昭和四年八月十七日御誕生）文憲王（恒憲王第四男子、昭和六年七月十二日御誕生）宗憲王（恒憲王第五男子、昭和十年十一月二十四日御誕生）美智子女王（恒憲王第一女、大正十二年七月二十九日御誕生）			
	故邦彦王妃俔子	勲一等	故公爵島津忠義第七女	明治十二年十月十九日
	朝融王	大勲位海軍少佐	故邦彦王第一男子	明治三十四年二月二日
	妃知子女王	勲一等	博恭王第三女	明治四十年五月十八日

久邇宮	邦昭王（朝融王第一男子、昭和四年三月二十五日御誕生）正子女王（朝融王第一女、大正十五年十二月八日御誕生）朝子女王（朝融王第二女、昭和二年十月二十三日御誕生）通子女王（朝融王第三女、昭和八年九月四日御誕生）			
	多嘉王	大勲位神宮祭主	故朝彦親王第五男子	明治八年八月十七日
	妃 静子	勲一等	故子爵水無瀬忠輔第一女	明治十七年九月二十五日
	家彦王（多嘉王第二男子、大正九年三月十七日御誕生）徳彦王（多嘉王第三男子、大正十一年十一月十九日御誕生）恭仁子女王（多嘉王第三女、大正六年五月十八日御誕生）			
梨本宮	守正王	大勲位功四級 元帥陸軍大將	故朝彦親王第四男子	明治七年三月九日
	妃 伊都子	勲一等	故侯爵鍋島直大第二女	明治十五年二月二日
朝香宮	鳩彦王	大勲位陸軍中將 軍事參議官	故朝彦親王第八男子	明治二十年十月二日
	孚彦王	勲一等陸軍歩兵中尉	鳩彦王第一男子	大正元年十月八日
	正彦王（鳩彦王第二男子、大正三年一月五日御誕生）湛子女王（鳩彦王第二女、大正八年八月二日御誕生）			
東久邇宮	稔彦王	大勲位陸軍中將 軍事參議官	故朝彦親王第九男子	明治二十年十二月三日
	妃 聰子内親王	勲一等 御稱號泰宮	明治天皇第九皇女	明治二十九年五月十一日
	盛厚王（稔彦王第一男子、大正五年五月六日御誕生）彰常王（稔彦王第三男子、大正九年五月十三日御誕生）俊彦王（稔彦王第四男子、昭和四年三月二十四日御誕生）			
北白川	故能久親王妃 富子	勲一等	故公爵島津久光養女	文久二年十月一日
	故成久王妃 房子内親王	勲一等 御稱號周宮	明治天皇第七皇女	明治二十三年一月二十八日
	永久王	勲一等陸軍砲兵中尉	故成久王第一男子	明治四十三年二月十九日

宮	妃 祥子	勲二等	男爵徳川義恕第二女	大正五年八月二十六日
	多恵子女王（故成久王第三女、大正九年四月十五日御誕生）			
竹田宮	故恒久王妃 昌子内親王	勲一等 御稱號常宮	明治天皇第六皇女	明治二十一年九月三十日
	恒徳王	勲一等陸軍騎兵中尉	故恒久王第一男子	明治四十二年三月四日
	妃 光子	勲二等	公爵三條公輝第二女	大正四年十一月六日
昌徳宮	李王 垠	大勲位陸軍歩兵大佐	故李太王第七王子	明治三十年十月二十日
	妃 方子女王	勲一等	守正王第一女	明治三十四年十一月四日
	李玖（李王第二王子、昭和六年十二月二十九日御誕生）			
	故李王坧妃 尹氏	勲一等	侯爵尹澤榮第一女	明治二十七年九月十九日
李鍵公	李鍵公	勲一等陸軍騎兵中尉	李堈第一男子	明治四十二年十月二十八日
	妃 誠子	勲二等	正五位松平胖第一女	明治四十四年十月六日
	李沖（李鍵公第一男子、昭和七年八月十四日御誕生）李沂（李鍵公第二男子、昭和十年三月四日御誕生）			
	李堈	大勲位	故李太王第五王子	明治十年三月三十日
	妃 金氏	勲一等	故男爵金思濬第一女	明治十一年十二月二十二日
李鍝公	李鍝公	勲一等陸軍砲兵中尉	李堈第二男子	大正元年十一月十五日
	妃 贊珠	勲二等	侯爵朴泳孝孫	大正三年十二月十一日
	故李熹公妃 李氏	勲一等	故李鱗九第一女	明治十六年七月十日
	故李埈公妃 金氏	勲一等	故金在鼎第一女	明治十一年七月十八日

滿洲帝國皇帝　康德皇帝

中華民國主腦者　蔣介石

イギリス皇帝　ジョージ五世

アメリカ大統領　ルーズベルト

イタリー首相　ムツソリーニ

ドイツ總統兼首相　ヒツトラー

フランス大統領　ルブラン

ソヴエト主腦者　スターリン

トルコ大統領　アタチユルク

內閣總理大臣海軍大將　岡田啓介

大藏大臣　高橋是清

外務大臣　廣田弘毅

內務大臣　後藤文夫

陸軍大臣陸軍大將　川島義之

海軍大臣海軍大將　大角岑生

商工大臣　町田忠治

遞信大臣　望月圭介

文部大臣　松田源治

農林大臣 山崎達之輔

鐵道大臣 内田信也

司法大臣 小原　直

拓務大臣 伯爵 兒玉秀雄

大勲位 公爵 西園寺公望

内大臣 伯爵 牧野伸顯

宮内大臣 湯淺倉平

樞密院議長 男爵 一木喜德郎

男爵 倉富勇三郎

貴族院議長 公爵 近衛文麿

衆議院議長 濱田國松

朝鮮總督 陸軍大將 宇垣一成

侍從長 鈴木貫太郎

伯爵 清浦奎吾

男爵 若槻禮次郎

子爵 齋藤　實

男爵 山本達雄

伯爵 内田康哉

陸軍大將 南　次郎

陸軍大將 渡邊錠太郎

陸軍大將 荒木貞夫

陸軍大將 眞崎甚三郎

陸軍大將 林　銑十郎

陸軍大將 本庄　繁

陸軍大將 阿部信行

陸軍大將 西　義一

陸軍大將 植田謙吉

海軍大將 末次信正

海軍大將 野村吉三郎

海軍大將 永野修身

海軍大將 山本英輔

海軍大將 中村良三

海軍大將 小林躋造

海軍中將 高橋三吉

海軍中將 米內光政

海軍中將 加藤隆義

戰艦　陸奥

戰艦　長門

戰艦　金剛

巡洋艦　高雄

驅逐艦　曙

航空母艦　赤城

戰艦　ロドニー（英國）

航空母艦　イーグル（英國）

巡洋艦　ノーフォーク（英國）

戰艦　メリーランド.コロラド（米國）

巡洋艦　シカゴ（米國）

航空母艦　レキシントン（米國）

帝國主要艦の型

主力艦陸奥・長門

主力艦日向・伊勢

驅逐艦吹雪

主力艦金剛・霧島・榛名

甲級巡洋艦妙高・那智・足柄・羽黒

甲級巡洋艦衣笠・青葉

甲級巡洋艦加古・古鷹

潜水艦伊號五十二

主力艦山城・扶桑

航空母艦加賀

航空母艦赤城

米・英主要艦の型

米主力艦メリーランド・コロラド
ウエストヴアージニヤ

米主力艦アリゾナ

米甲級巡洋艦ポートランド

米航空母艦サラトガ・レキシントン

英主力艦ロドネー・ネルソン

英主力艦フッド

英主力艦クイーン・エリザベス

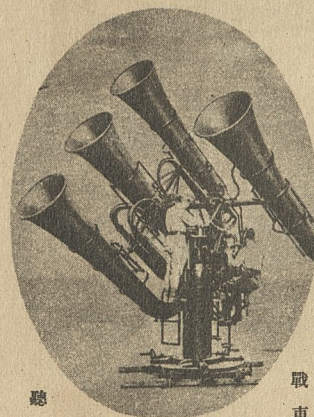
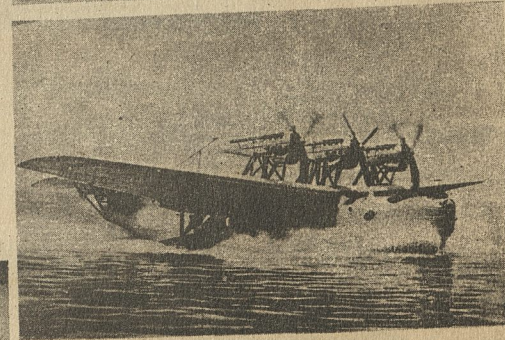
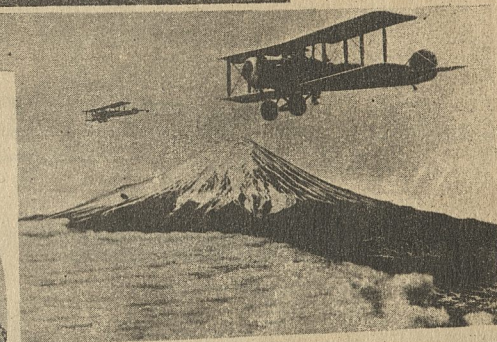
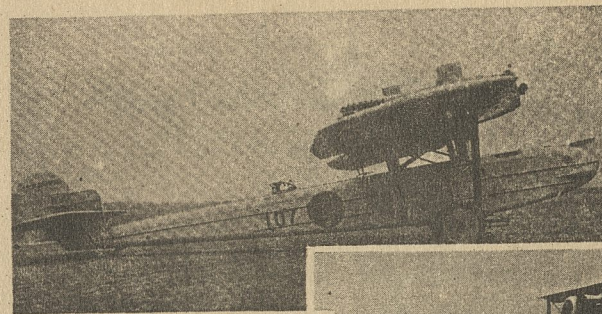
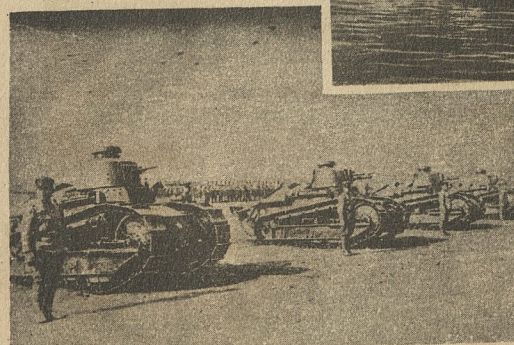
英航空母艦フューリアス

英航空母艦グローリアス
カレージヤス

英航空母艦イーグル

上から
爆撃機（八七式重爆機）
偵察機（八八式偵察機）
水上艦（九〇式一號水上偵察機）

戰車隊

聽音機

飛行機の名稱に就て

八八式、九二式等と云ふのは各飛行機の作られた年代を取つて云ふのである。即ち皇紀二五八八年に造られたのは八八式と云ふ。同樣に二五九〇年に造られたのは、九〇式と云ふ。

太平洋航路の優秀汽船

秩父丸（日本郵船會社）一萬七千五百噸

淺間丸（日本郵船會社）一萬七千噸

世界一の巨船

ノルマンデー號（七萬五千噸）

イギリスのサザンプトン——ニューヨークの間三一九二哩を四日十一時四十二分で航破し、初航海に於て大西洋横斷の新記錄をつくつた。

【三月】

彌生、花月、初花月、仲春、春分。

詞藻

○てりもせずくもりもはてぬ春の夜の朧月夜にしくものぞなき　（大江千里）

○うららとのどけき春の心よりにほひ出でたる山ざくらかな　（加茂眞淵）

○春雨のふりそめしより青柳の糸の綠ぞ色增さりけり　（凡河内躬恒）

○春がすみながれながるゝ西空は入日おほきくなりにけるかも　（齋藤茂吉）

○わが心淸しゆたけしあけぼのの春の光の中に立てれば　（佐々木信綱）

○遙かにかすみわたりて、四方の梢、そこはかとなくけぶりわたれるほど繪にいとよく似たるかな。　（源　氏）

○春は曙、やうやう白くなり行く山際、少し明りて紫たちたる雲の細くたな引きたる。　（枕草紙）

○花よりあくる三吉野の、春の曙見渡せば、もろこし人も高麗人も、大和心になりぬべし　（賴山陽）

○花の雲鐘は上野か淺草か　（芭　蕉）

○霞やら花の雲やら煙やら　（同　）

書簡用語

○春暖の候○日毎に春めき○解氷の頃○櫻花まさに開かんとする候○柳のみどりも日に濃く○曉を知らざる夢の春○立春の日かげ霞みて○それは雪の下から萌え出る愛らしい若草からの力强い春でございます○櫻花爛漫の候○春風駘蕩の好季節○柳櫻の候○晩春の候○惜春の候○新綠の候○葉櫻のみどり爽やかなる候○春既に晩く○若葉の綠色まさり○新綠のかほりなつかしき頃となりました○逝く春につきぬ名殘を惜しみながら○梅雨にならぬうち新綠を訪ねて○漸く農繁期と相成○薄暑の砌○慌しく暮れゆく春

卒業・入學

○お父様、お母様、ほんとに長い間、有り難うございました○今日卒業證書をいたゞいて今更のやうに高く深い御恩愛をしみじみと感じます。

○先生只今××中學校から合格通知がまゐりました。

○すべては御勵まし御導き下さった先生のお蔭でございます。

○この上は一そう心をしめ身を愼しみひたすらに御期待に背かぬやう努力いたします。

祝・祭・記念日

地久節　六日

春季皇靈祭　廿一日

滿洲國建國記念日　一日

陸軍記念日　十日

【四月】

卯月、櫻月、花見月、季春、晩春暮春。

祝・祭・記念日

神武天皇祭　三日

天長節　廿九日

觀櫻御會　中旬

靖國神社祭　三十日

【五月】

皐月、卯の花月、早月、花殘月、立夏、初夏。

記念日

勞働祭（メーデー）　一日

獨逸國祭日　一日

海軍記念日　廿七日

春の言葉

○春風＝光風、南風、東風、和風、そよ風、陽風、花を吹く風、春風駘蕩。

○陽炎＝陽炎燃ゆる、糸遊、夢のごと、朝かげらふ。

○春雨＝春しぐれ、烟雨、花の涙、花のしづく、きぬぎぬの雨、そぼ降る雨。

○春の朝＝春の曙、春曉、春眠、花の晨。

○春の日＝春日、遲日、麗日、のどかに、春の陽麗らか、春日遲々。

○櫻花＝山櫻、絲櫻、彼岸櫻、緋櫻、爛漫、萬朶の櫻、花曇、櫻雨。

○蝶＝胡蝶、夢魂、黃と色と花から花へ。

夏

詞藻

○今日、はじめて、蜩の聲を、後の山に聞きぬ。一聲さやかにして銀鈴を振れるが如し。晩涼に乗じて外に出づれば、川に釣る人あり、談笑の聲あり、笛の聲あり。花火をあぐる子供あり。夏は盛となりぬ。（德富蘆花）

○夏の夜、月の頃は更なり。闇もなほ螢飛びちがひたる、雨などの降るさへをかし。（枕草紙）

夏の言葉

○夏の朝＝夏のあした、殘月淡し、朝風涼しく、朝露踏んで。

○炎暑＝暑氣、暑熱、玉なす汗、流汗淋漓、陽を浴びて、炎天下に。

○夏の夜＝短夜、夕風涼し、月影さやけく、星の光もなつかしく、沖の漁火、萬山聲なく。

○夏の花＝百合、桐、合歡の花、百日紅、栗の花、橘、向日葵、葵、紫陽花くちなし、常夏、撫子、朝顔、夕顔、藻の花、葛の花、野菊。

○夕立＝驟雨、雷雨、雷鳴、電光、紫電、黒雲、空暗澹と、晴間を待てど、晴れて雫の。

○螢＝夜光、飛光、螢火、亂れ飛ぶ、流るる螢の、螢の光、葉末の螢。

○蟬＝日ぐらし、蟬しぐれ、うつ蟬、夕陽の山に。

○夏の水＝夏の海、岩清水、朝凪。

○盆踊あとは松風虫の聲（素　月）

○やがて死ぬけしきは見えず蟬の聲（芭　蕉）

書簡用語

○青葉の候○梅雨の候○麥秋○田植○梅雨○暑氣相催し○涼風なつかしく○田家多事の節○桐の花咲く初夏の候○吹く風快く新綠を渡る○螢飛び交ふ夕小川の岸に立てば○雨烟る窓の淋しさ○連日の霖雨鬱陶しく○若竹の風○苗賣りの聲さくとき○酷暑の候○大暑の折柄○三伏○炎暑の時○盛夏の節○嚴暑の砌○炎威凌ぎ難く○酷熱堪へ難く○炎熱まことに酷しく候處○炎熱更に甚だしく○炎暑去り難く○殘暑の候○殘熱しのぎかね○朝夕は新涼を覺え○立秋と申すにこの暑さ○暑氣一そう烈しさを加へ候折柄○夜に入ればさすが秋近き氣配を感じ○新秋とは申せ殘りの暑さは反つて酷しく○日毎三十度の暑さ○暑さもこの邊が峠かと存じます○日中は暑さ堪へ難く候へども○さすが夕風吹き來れば○爽やかな秋の氣分に蘇生の思ひいたし候○海は蒼く今更に夏の名殘の惜しまれて

【六　月】

水無月、早苗月、五月雨月、橘月
夏至。

記念日

英國皇帝誕辰　三日
時の記念日　十日

行事・季節

更衣　一日
芒種　六日
入梅　十一日

【七　月】

夏至　廿一日
大祓　三十日

文月、七夕月、風待月、常夏月、大暑。

記念日

米國獨立記念日　四日
佛蘭西國祭日　十四日

行事・季節

富士山山開　一日
七夕祭　七日
盂蘭盆　十五日
大暑　廿三日

【八　月】

葉月、秋風月、桂月、新秋、立秋
初秋。

行事・季節

立秋　八日
盂蘭盆　十五日

秋

詞藻

○緑なる一つ色とぞ春は見し秋はいろいろの花にぞありける　（讀人不知）

○秋は夕暮、夕日はなやかにして、山際のいと近くなりたるに、鳥のねどころに行くとて、三つ四つ二つなど飛びゆくさへ哀れなり。　（枕草紙）

○秋來ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる　（藤原敏行）

○枯枝に烏とまりけり秋の暮　（芭蕉）

○白菊と黃菊と咲いて日本哉　（漱石）

○名月や池をめぐりて夜もすがら　（芭蕉）

○三日月に地は朧なり蕎麥の花　（芭蕉）

秋の言葉

○初秋＝新秋、新涼、殘暑、秋立つ日、一葉落ちて、桐の葉落ちて、秋のけはい。

○秋草＝桔梗、女郎花、尾花、葛、萩、龍膽。

【九月】

長月、月見月、寢覺月、木染月、秋分、仲秋。

書簡用語

○新秋の候○清秋の節○秋冷相催し○秋氣動き初め○秋冷の砌○賞月の候○白露の節○秋風都門に入る○炎威全く影をひそめ○涼風訪れ○天高き候○野も山も一望の秋景色と相成○秋雨しめやかに訪れ○風の音虫の聲にも秋を覺え○早くも秋の眺めと相成○朝夕は凌ぎよい季節となり○空の色も鮮やかに○澄みわたる大空に○碧空高く○思出深い九月を迎へ○豐かなる秋を迎へて○更に御自愛御健勝のほど○秋氣清爽の折柄○秋冷漸く身に泌み○金風颯々の候○秋色漸く濃く○清秋の淸く晴れて○秋深く相成り候○天高く氣淸き候○冷氣日に加はり○燈火親しむべき好季節を迎へ○この秋こそ大いに勉强夏の怠慢を取戻したく○いよいよ菊花の時節となりました○秋風しみじみと身に迫り○朝夕は肌寒

祝・祭・記念日

秋季皇靈祭	廿三日
震災記念日	一日
伯剌西爾國祭日	七日
滿洲事變記念日	十八日
智利獨立日	十八日

【十月】

神無月、菊月、紅葉月、時雨月、小田刈月、晚秋、季秋、小春。

祝・祭・記念日

神嘗祭	十七日
中華民國國祭日	十日
教育勅語下賜	三十日

【十一月】

霜月、神樂月、立冬、小春月、初冬。

祝・祭・記念日

明治節	三日
新嘗祭	廿三日
ソ聯革命記念日	七日
伊太利皇帝誕辰	十一日
白耳義國祭日	十五日

○虫＝鈴虫、松虫、くつわ虫、蟋蟀、虫の聲、虫すだく。

○秋の夕＝秋の夕ぐれ、孤月の夕、望鄉の夕、鐘鳴る夕、夕雁わたる、長き夜、虫の音さびし、更けゆく夜、夜雨蕭々。

○秋の月＝秋月、冴ゆる月影、滿月、名月、弦月、三日月、宵月夜、夕月、月の桂。

○秋の空＝澄みて高し、天の川、銀河、星影冴えて。

○紅葉＝もみぢ葉、紅風、蔦紅葉、夕紅葉、柿紅葉、薄紅葉、紅葉の錦。

○秋の野＝秋郊、秋野、荒涼、落日、枯草。

○秋の風＝秋風、野分飄々、夜寒の風。

○秋雨＝秋時雨、小夜しぐれ、紅葉を染めて。

○秋の田＝黃雲、豐かな色、田面の穗波、黃金の波。

○雁＝雁の音、渡る雁、友呼び交す、夜をこめて。

く樹々の梢も色づき○空吹く風ももの淋しくなりました○更くる夜の靜けさ虫の音に一しほ淋しさを添へ○野菊の花も咲き初め○稻田も黃金色を帶びて來ました

冬

【十二月】

師走、極月、臘月、春待月、雪見月。

祝・祭・記念日

大正天皇祭　廿五日
基督降誕祭　廿五日
大祓（除夜）　卅一日

【一　月】

新年、正月、睦月、初春月、太郎月、大寒。

祝・祭・記念日

四方拜　一日
元始祭　三日
新年宴會　五日
政治始　四日
消防出初式　六日
陸軍始觀兵式　八日

行　事

初日の出、元旦。　一日
書初、彈初、初夢、寶船、初荷、　二日
初賣等。

【二　月】

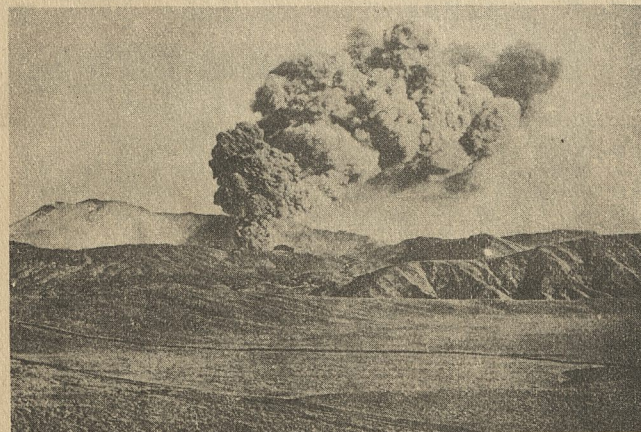
如月（衣更着）、令月、梅見月、雪消え月、立春。

祝・祭・記念日

紀元節　十一日
憲法記念日　十一日
建國祭　十一日

行　事

節分　四日
立春　五日
針供養　八日
初午　六日

詞　藻

○蕭條として石に日の入る枯野哉　（蕪村）

○思へばや泣かれ笑はれ年の暮　（嵐雪）

○正月一日は、空の景色うらうらと、珍らしくかすみこめたるに、世にありとある人は、姿かたち、心ことにつくろひ、君をも、わが身をも、祝ひなどしたるさま、ことにをかし。　（枕草紙）

○今朝見れば山も霞みて久方の天の原より春は來にけり　（源　實朝）

○元日や神代の事もおもはる、　（守　武）

○四方拜その時朝日のぼりつ、　（子　規）

書簡用語

○嚴寒の候○寒氣甚だしく○寒威肌を刺す○木枯寒く○時下寒冷相增し○酷寒の砌○寒氣相加はり○初霜白く○夜來の初雪にて○今朝は初氷を見られ○山里の冬は一しほの肌寒さを覺え○月迫りいよいよ御多忙のこと〻存じ候○一望荒涼たる冬野原○歲月流るるが如く○光陰箭の如く。

年賀用語

○謹賀新年○恭賀新春○賀正○新年おめでたう○明けましておめでたうございます○新年の御よろこび申上げます○初春の御壽芽出度申納め候○新春の嘉祥芽出度祝ひ納め候○輝く軍國の春○希望に充てる皇國の新年○舊年中は一方ならぬ御厚誼にあづかり○御健やかにて新春を迎へさせられ○皆々樣いよいよ御健勝御加齡遊ばされ大慶に存じ上げ候。

歳暮の言葉

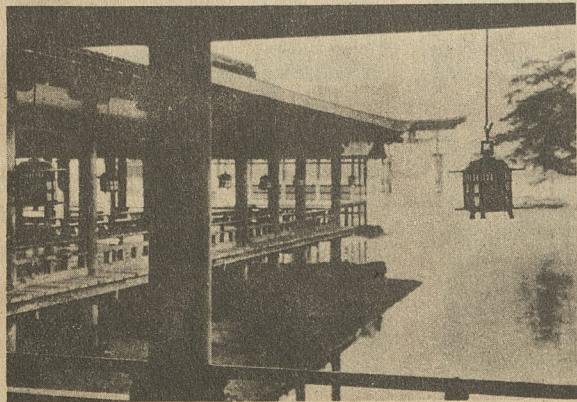
○歳晩、歳末、除夜、ゆく年、年の暮、烏兎匆々、残る一夜、除夜の鐘、舊を送り新を迎ふ。

○クリスマス＝星の光の、聖燭、サンタクロース。

新年の言葉

○新年、新歲、新正、新禧、新春、新陽、正月、年始、年甫、年頭、年首、年初、歲首、歲旦、歲始、改年、改新、改曆、開年、囘曆、元旦、元日、華節、新賀、瑞靄、屠蘇、天地一新、萬象維新、三陽肇建、千門皆新、四海同風、一陽來復、初日、若水、松風。

○早春＝初春、立春、餘寒、凍雨、寒雨、春寒き、春淺く、春立ちて、春めく、歸り來し春、春は再び、若やぐ春、萌え出る春、春遠み、春をふくみて。

○春雪＝春の雪、殘雪、雪解、淡雪、殘んの雪、降るや解けつ〻、夢のやうな淡雪、消えてまた降る。

書簡用語

○春寒き候○餘寒なほ烈しく○殘寒甚だしく○餘寒去り難く○春立ち候へども未だ肌寒く○梅花漸く綻びそめ春らしく相成候○晩冬の風寒く。

（東京名所）

明治神宮

赤坂離宮

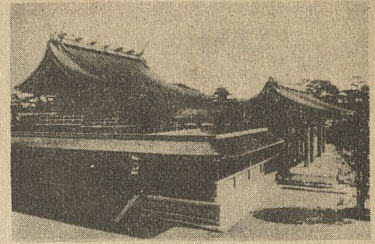
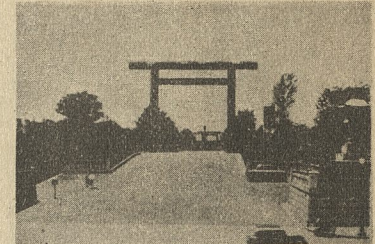
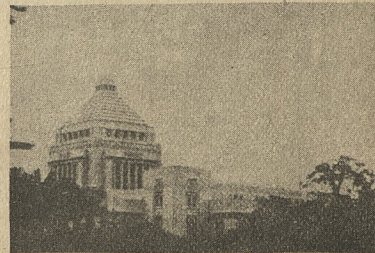
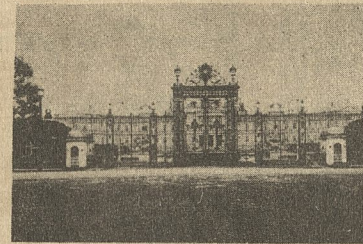
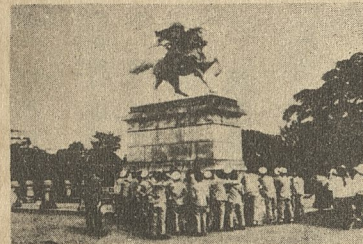
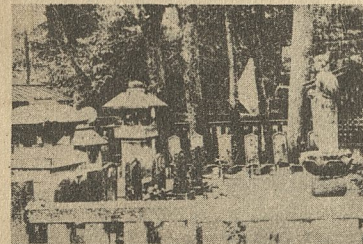
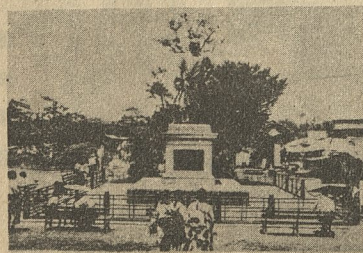
靖國神社

大楠公銅像

東京驛

泉岳寺

新議事堂

大西郷銅像

重要詔勅及法典

天孫降臨ノ神勅

葦原ノ千百秋ノ瑞穗國ハ是レ吾カ子孫ノ王タルヘキ地ナリ宜シク爾皇孫就イテ治セ行矣寶祚ノ隆エマサンコト當ニ天壤ト窮無カルヘシ

（日本書紀神代卷）

齋鏡ノ神勅

吾カ兒此ノ鏡ヲ視マサンコトマサニ吾ヲ視ルカコトクスヘシ與ニ床ヲ同シクシ殿ヲ共ニシ以テ齋鏡ト爲スヘシ

（日本書紀神代卷）

神武天皇卽位建國ノ大詔

我レ東ヲ征チシヨリ玆ニ六年ニナリヌ皇天ノ威ヲ頼リテ凶徒就戮サレヌ邊土末タ淸マラス餘妖尙梗シト雖モ中洲ノ地ニ復タ風塵無シ誠ニ宜シク皇都ヲ恢廓メ大壯ヲ規摹ルヘシ而シテ今運屯蒙ニ屬ヒ民ノ心朴素ナリ巢棲穴住習俗惟常夫レ大人ノ制ヲ立ツ義必ス時ニ隨フ苟クモ民ニ利アラハ何ソ聖造ニ妨ハム且タ當ニ山林ヲ披拂ヒ宮室ヲ經營リテ恭ミテ寶位ニ臨ミ以テ元元ヲ鎭ムヘシ上ハ則チ乾靈ノ國ヲ授ケタマフ德ニ答ヘ下ハ則チ皇孫正ヲ養ヒタマフ心ヲ弘メム然シテ後ニ六合ヲ兼ネテ以テ都ヲ開キ八紘ヲ掩ヒテ宇ト爲ムコト亦可カラスヤ夫ノ畝傍山ノ東南橿原ノ地ヲ觀レハ蓋シ國ノ墺區カ治ルヘシ

紀元元年三月一日

（日本書紀卷三）

五ケ條ノ御誓文

一、廣ク會議ヲ興シ　萬機公論ニ決スヘシ

一、上下心ヲ一ニシテ　盛ニ經綸ヲ行フヘシ

一、官武一途　庶民ニ至ルマテ　各其志ヲ逐ケ　人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス

一、舊來ノ陋習ヲ破リ　天地ノ公道ニ基クヘシ

一 智識ヲ世界ニ求メ 大ニ皇基ヲ振起スヘシ

我國未曾有ノ變革ヲ爲サントシ 朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ 天地神明ニ誓ヒ 大ニ斯國是ヲ定メ 萬民保全ノ道ヲ立ントス 衆亦此趣旨ニ基キ協心努力セヨ

（慶應四年・明治元年・戊申三月十四日）

陸海軍軍人に賜りたる勅諭

我國の軍隊は 世々天皇の統率し給ふ所にそある 昔神武天皇躬つから大伴物部の兵ともを率ゐ 中國のまつろはぬものともを討ち平け給ひ 高御座に即かせられて天下しろしめし給ひしより二千五百有餘年を經ぬ 此間世の樣の移り換るに隨ひて 兵制の沿革も亦屢なりき 古は天皇躬つから軍隊を率ゐ給ふ御制にて 時ありては皇后皇太子の代らせ給ふこともありつれと 大凡兵權を臣下に委ね給ふことはなかりき 中世に至りて 文武の制度皆唐國風に倣はせ給ひ 六衞府を置き 左右馬寮を建て 防人なと設けられしかは 兵制は整ひたれとも 打續ける昇平に狃れて 朝廷の政務も漸文弱に流れけれは 兵農おのつから二に分れ 古の徴兵はいつとなく壯兵の姿に變り 遂に武士となり 兵馬の權は一向に其武士ともの棟梁たる者に歸し 世の亂と共に政治の大權も亦其手に落ち 凡七百年の間 武家の政治とはなりぬ 世の樣の移り換りて 斯なれるは 人力もて挽回すへきにあらすとはいひなから 且は我國體に戻り 且は我 祖宗の御制に背き奉り 淺間しき次第なりき 降りて弘化嘉永の頃より 德川の幕府其政衰へ 剩外國の事とも起りて 其侮をも受ぬへき勢に迫りけれは 朕か皇祖仁孝天皇 皇考孝明天皇いたく宸襟を惱し給ひしこそ 忝くも又惶けれ 然るに 朕幼くして天津日嗣を受けし初 征夷大將軍其政權を返上し 大名小名其版籍を奉還し年を經すして 海內一統の世となり 古の制度に復しぬ 是文武の忠臣良弼ありて 朕を輔翼せる功績なり 歷世祖宗の專蒼生を憐み給ひし御遺澤なりといへとも 併我臣民の其心に順逆の理を辨へ大義の重きを知れるか故にこそあれ されは此時に於て 兵制を更め 我國の光を輝さんと思ひ 此十五年か程に 陸海軍の制をは 今の樣に建定めぬ 夫れ兵馬の大權は 朕か統ふる所なれは 其司々をこそ臣下には任すなれ 其大綱は 朕親之を攬り 肯て臣下に委ぬへきものにあらす 子々孫々に至るまで 篤く斯旨を傳へ 天子は文武の大權を掌握するの義を存して 再中世以降の如き失體なからんことを望むなり 朕は汝等軍人の大元帥なるぞ されば朕は汝等を股肱と賴み 汝等は朕

を頭首と仰ぎてそ 其親は特に深かるへき 朕か國家を保護して上天の惠に應し 祖宗の恩に報いまゐらする事を得るも得さるも 汝等軍人か其職を盡すと盡ささるとに由るそかし 我國の稜威振はさることあらは 汝等能く朕と其憂を共にせよ 我武維揚りて 其榮を輝さは 朕汝等と其譽を偕にすへし 汝等皆其職を守り 朕と一心になりて 力を國家の保護に盡さは 我國の蒼生は永く太平の福を受け 我國の威烈は大に世界の光華ともなりぬへし 朕斯も深く汝等軍人に望むなれは猶訓諭すへき事こそあれ いてや之を左に述へむ

一 軍人は忠節を盡すを本分とすへし 凡生を我國に稟くるもの誰かは國に報ゆるの心なかるへき 況して軍人たらん者は 此心の固からては 物の用に立ち得へしとも思はれす 軍人にして報國の心堅固ならされは 如何程技藝に熟し 學術に長するも 猶偶人にひとしかるへし 其隊伍も整ひ 節制も正くとも 忠節を存せさる軍隊は 事に臨みて烏合の衆に同かるへし 抑國家を保護し 國權を維持するは 兵力にあれは 兵力の消長は是國運の盛衰なることを辨へ 世論に惑はす 政治に拘らす 只々一途に己か本分の忠節を守り 義は山嶽よりも重く 死は鴻毛よりも輕しと覺悟せよ 其操を破りて不覺を取り汚名を受くるなかれ

一 軍人は禮義を正くすへし 凡軍人には 上元帥より下一卒に至るまで 其間に官職の階級ありて統屬するのみならす 同列同級とても 停年に新舊あれは 新任のものは舊任のものに服從すへきものそ 下級のものは上官の命を承ること 實は直に朕か命を承る儀なりと心得よ 己か隸屬する所にあらすとも 上級の者は勿論 停年の己より舊きものに對しては 總へて敬禮を盡すへし 又上級の者は 下級のものに向ひ 聊も輕侮驕傲の振舞あるへからす 公務の爲に威嚴を主とする時は格別なれとも 其外は務めて懇に取扱ひ 慈愛を專一と心掛け 上下一致して王事に勤勞せよ 若軍人たるものにして 禮儀を紊り 上を敬はす 下を惠ますして 一致の和諧を失ひたらんには 啻に軍隊の蠹毒たるのみかは 國家の爲にもゆるし難き罪人なるへし

一 軍人は武勇を尙ふへし 夫武勇は 我國にては古よりいとも貴へる所なれは 我國の臣民たらんもの 武勇なくては叶ふまし 況して軍人は 戰に臨み敵に當るの職なれは 片時も武勇を忘れてよかるべきか さはあれ武勇には大勇あり小勇ありて同からす 血氣にはやり粗暴

の振舞なとせんは　武勇とは謂ひ難し　軍人たらむものは常に能く義理を辨へ　能く膽力を練り思慮を殫して事を謀るへし　小敵たりとも侮らす　大敵たりとも懼れす己か武職を盡さむこそ　誠の大勇にはあれ　されは武勇を尙ふものは　常々人に接るには　溫和を第一とし諸人の愛敬を得むと心掛けよ　由なき勇を好みて猛威を振ひたらは　果は世人も忌嫌ひて　豺狼なとの如く思ひなむ　心すへきことにこそ

軍人は信義を重んすへし　凡信義を守ること　常の道にはあれと　わきて軍人は信義なくては一日も隊伍の中に交りてあらんこと難かるへし　信とは　己か言を踐行ひ義とは　己か分を盡すをいふなり　されは　信義を盡さむと思はは　始より其事の成し得へきか　得へからさるかを　審に思考すへし　朧氣なる事を假初に諾ひて　よしなき關係を結ひ　後に至りて信義を立てんとすれは進退谷りて　身の措き所に苦しむことあり　悔ゆとも其詮なし　始に能々事の順逆を辨へ　理非を考へ　其言は所詮踐むへからすと知り　其義はとても守るへからすと悟りなは　速に止るこそよけれ　古より或は小節の信義を立てんとて　大綱の順逆を誤り　或は公道の理非に踏迷ひて　私情の信義を守り　あたら英雄豪傑ともか　禍に遇ひ身を滅し　屍の上の汚名を後世まて遺せること其例尠からぬものを　深く警めてやはあるへき

一　軍人は質素を旨とすへし　凡質素を旨とせされは文弱に流れ　輕薄に趨り　驕奢華靡の風を好み遂には　貪汚に陷りて　志も無下に賤くなり　節操も武勇も其甲斐なく世人に爪はしきせらるる迄に至りぬへし　其身生涯の不幸なりといふも中々愚なり　此風一たひ軍人の間に起りては彼の傳染病の如く蔓延し　士風も兵氣も頓に衰へぬへきこと明なり　朕深く之を懼れて　曩に免黜條例を施行し　略此事を誡め置きつれと　猶も其惡習の出んことを憂ひて　心安からねは　故に又之を訓ふるそかし　汝等軍人　ゆめ此訓誡を等閑にな思ひそ

右の五ケ條は　軍人たらんもの暫も忽にすへからす　さて之を行はんには　一の誠心こそ大切なれ　抑此五ケ條は我軍人の精神にして　一の誠心は　又五ケ條の精神なり　心誠ならされは　如何なる嘉言も善行も皆うはへの裝飾にて何の用にか立つへき　心たに誠あれは　何事も成るものそかし　況してや　此五ケ條は　天地の公道　人倫の常經なり行ひ易く守り易し　汝等軍人能く　朕か訓に遵ひて　此道を

守り行ひ國に報ゆるの務を盡さば日本國の蒼生擧りて之を悦ひなん　朕一人の懌のみならんや（明治十五年一月四日）

憲法發布ノ勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ　中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ　現在及將來ノ臣民ニ對シ　此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス　惟フニ我カ祖我カ宗ハ　臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ　我帝國ヲ肇造シ　以テ無窮ニ垂レタリ　此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト　竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ　以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタノナリ　朕我カ臣民ハ　即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ　其ノ朕カ意ヲ奉體シ　朕カ事ヲ奬順シ　相與ニ和衷協同シ　益々我帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ　祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ　此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

（明治二十二年二月十一日）

教育ニ關スル勅語

朕惟フニ　我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ　德ヲ樹ツルコト深厚ナリ　我カ臣民克ク忠ニ　克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ　世々厥ノ美ヲ濟セルハ　此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源　亦實ニ此ニ存ス　爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ　朋友相信シ　恭儉己ヲ持シ　博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ　業ヲ習ヒ　以テ智能ヲ啓發シ　德器ヲ成就シ　進テ公益ヲ廣メ　世務ヲ開キ　常ニ國憲ヲ重シ　國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ　義勇公ニ奉シ　以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ　是ノ如キハ　獨リ朕カ忠良ノ臣民タル　ミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン　斯ノ道ハ　實ニ我カ　皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ　子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス　之ヲ中外ニ施シテ悖ラス　朕爾臣民ト俱ニ　拳々服膺シテ　咸其德ヲ一ニセムコトヲ庶幾フ

（明治二十三年十月三十日）

清國ニ對スル宣戰ノ詔勅

天佑ヲ保全シ　萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル　大日本帝國皇帝ハ忠實勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ清國ニ對シテ戰ヲ宣ス　朕カ百僚有司ハ　宜ク朕カ意ヲ體シ　陸上ニ　海面ニ　清國ニ對シテ交戰ノ事ニ從ヒ　以テ國家ノ目的ヲ達スルニ努力スヘシ　苟モ國際法ニ戻ラサル限リ　各々權能ニ應シテ一切ノ手段ヲ盡スニ於テ　必ス遺漏ナカラン事ヲ期セヨ

惟フニ　朕カ即位以來　茲ニ二十有餘年、文明ノ化ヲ平和ノ

治ニ求メ 事ヲ外國ニ構フルノ 極メテ不可ナルヲ信シ 有司ヲシテ 常ニ友邦ノ誼ヲ 厚クスルニ努力セシメ 幸ニ列國ノ交際ハ 年ヲ逐ウテ親密ヲ加フ 何ソ料ラム 淸國ノ朝鮮事件ニ於ケル 我ニ對シテ著著隣交ニ戾リ 信義ヲ失スルノ擧ニ出テントハ 朝鮮ハ 帝國カ其始ニ啓誘シテ 列國ノ伍伴ニ就カシメタル 獨立ノ一國タリ 而シテ淸國ハ毎ニ自ラ朝鮮ヲ以テ屬邦ト稱シ 陰ニ陽ニ 其內政ニ干涉シ 其內亂アルニ於テ 口ヲ屬邦ノ拯難ニ藉キ 兵ヲ朝鮮ニ出シタリ 朕ハ明治十五年ノ條約ニヨリ 兵ヲ出シテ變ニ備ヘシメ 更ニ朝鮮ヲシテ 禍亂ヲ永遠ニ免レ治安ヲ將來ニ保タシメ 以テ東洋全局ノ平和ヲ維持セント欲シ 先ツ淸國ニ告クルニ 協同事ニ從ハムコトヲ以テシタルニ 淸國ハ 翻テ種々ノ辭柄ヲ設ケ 之ヲ拒ミタリ 帝國ハ茲ニ於テ 朝鮮ニ勸ムルニ 其秕政ヲ釐革シ 內ハ治安ノ基ヲ堅クシ 外ハ獨立國ノ權義ヲ全クセンコトヲ以テシタルニ 朝鮮ハ既ニ之ヲ肯諾シタルモ 淸國ハ終始陰ニ居テ 百方其目的ヲ妨碍シ 剩ヘ辭ヲ左右ニ托シ 時機ヲ緩ニシ 以テ其ノ水陸ノ兵備ヲ整ヘ 一旦成ルヲ告クルヤ直ニ其ノ力ヲ以テ其ノ欲望ヲ達セントシ 更ニ大兵ヲ韓土ニ派シ 我艦ヲ韓海ニ要擊シ 殆ト亡狀ヲ極メタリ 即チ淸國ノ計圖タル明ニ朝鮮國治安ノ責ヲシテ 歸スル所アラサラシメ 帝國カ率先シテ 之ヲ諸獨立國ノ列ニ伍セシメタル 朝鮮ノ地位ハ 之ヲ表示スルノ條約ト共ニ 之ヲ蒙晦ニ付シ 以テ帝國ノ權利利益ヲ損傷シ 以テ東洋ノ平和ヲシテ 永ク擔保ナカラシムルニ存スルヤ疑フヘカラス 熟々其ノ爲ス所ニ就テ 深ク其ノ謀計ノ存スル所ヲ揣ルニ 實ニ始メヨリ 平和ヲ犧牲トシテ 其ノ非望ヲ逐ケントスルモノト 謂ハサルヘカラス 事既ニ茲ニ至ル 朕平和ト相終始シテ 以テ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚スルニ專ナリト雖モ 亦公ニ戰ヲ宣セサルヲ得サルナリ 汝有衆ノ忠實勇武ニ倚頼シ 速ニ平和ヲ永遠ニ克復シ 以テ帝國ノ光榮ヲ全クセンコトヲ期ス

（明治二十七年八月一日）

占領地還附シ東洋ノ平和ヲ鞏固ニスルノ詔勅

朕嚮ニ淸國皇帝ノ請ニヨリ 全權辨理大臣ヲ命シ 其ノ簡派スル所ノ使臣ト會商シ 兩國媾和ノ條約ヲ訂結セシメタリ 然ルニ 露西亞獨逸兩帝國及法朗西共和國ノ政府ハ 日本帝國カ 遼東半島ノ壤地ヲ 永久ノ所領トスルヲ以テ 東洋永遠ノ平和ニ利アラスト爲シ 交々 朕カ政府ニ慫慂スルニ 其ノ地域ノ保有ヲ 永久ニスル勿ランコトヲ以テシタリ 顧フニ 朕カ恒ニ 平和ニ眷々タルヲ以テシテ 竟ニ淸國ト兵ヲ交フルニ至リシモノ 洵ニ東洋ノ平和ヲシテ永遠ニ鞏固ナラシメントスルノ 目的ニ外ナラス 而シテ三國政府ノ友誼ヲ以テ 切偲スル所 其ノ意亦茲ニ存ス 朕平和ノ爲ニ計ル 素ヨリ之ヲ容ルルニ吝ナラサルノミナラス 更ニ事端ヲ滋シ 時局ヲ艱シ 治平ノ回復ヲ遲滯セシメ 以テ民生ノ疾苦ヲ釀シ 國運ノ伸張ヲ沮ムハ 眞ニ 朕カ意ニアラス 且淸國ハ媾和條約ノ訂結ニヨリ 既ニ偸盟ヲ悔ユルノ誠ヲ致シ 我カ交戰ノ理由 及目的ヲシテ 天下ニ炳焉タラシム 今ニ於テ 大局ニ顧ミ 寬洪以テ事ヲ處スルモ 帝國ノ光榮ト威嚴トニ於テ 毀損スル所アルヲ見ス 朕乃チ 友邦ノ忠言ヲ容レ 朕カ政府ニ命シテ 三國政府ニ照覆スルニ 其ノ意ヲ以テセシメタリ 若シ夫レ 半島壤地ノ還附ニ關スル 一切ノ措置ハ 朕特ニ政府ヲシテ淸國政府ト商定スル所アラシメントス 今ヤ媾和條約 既ニ批准交換ヲ了シ 兩國ノ和親舊ニ復シ 局外ノ列國 亦斯ニ交誼ノ厚ヲ加フ 百僚臣庶夫レ能ク 朕カ意ヲ體シ 深ク時勢ノ大局ニ視 微ヲ愼ミ 漸ヲ戒メ 邦家ノ大計ヲ誤ルコトナキヲ期セヨ

（明治二十八年五月十日）

露國ニ對スル宣戰ノ詔勅

天佑ヲ保有シ 萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル 大日本帝國皇帝ハ 忠實勇武ナル 汝有衆ニ示ス

朕茲ニ 露國ニ對シテ戰ヲ宣ス 朕カ陸海軍ハ 宜ク全力ヲ極メテ 露國ト交戰ノ事ニ從フヘク 朕カ百僚有司ハ 宜ク各々其ノ職務ニ率ヒ 其ノ權能ニ應シテ國家ノ目的ヲ達スルニ努力スヘシ 凡國際條規ノ範圍ニ於テ 一切ノ手段ヲ盡シ 遺算ナカラムコトヲ期セヨ

惟フニ文明ヲ平和ニ求メ 列國ト友誼ヲ篤クシテ 以テ東洋ノ治安ヲ永遠ニ維持シ 各國ノ權利 利益ヲ損傷セスシテ 永ク帝國ノ安全ヲ將來ニ 保障スヘキ事態ヲ確立スルハ 朕夙ニ以テ 國交ノ要義トナシ 旦暮敢テ違ハサラムコトヲ期ス 朕カ有司モ 亦能ク朕カ意ヲ體シテ 事ニ從ヒ 列國トノ關係年ヲ逐フテ益々親厚ニ赴クヲ見ル 今不幸ニシテ 露國ト釁端ヲ開クニ至ル 豈朕カ志ナラムヤ 帝國ノ重ヲ韓國ノ保全ニ置クヤ 一日ノ故ニ非ス 是レ兩國累世ノ關係ニ因ルノミナラス 韓國ノ存亡ハ 實ニ帝國安危ノ繫ル所タレハナリ 然ルニ露國ハ其ノ淸國トノ盟約 及列國ニ對スル累次ノ宣言ニ拘ラス 依然滿洲ニ占據シ 益々其ノ地歩ヲ鞏

固ニシテ 終ニ之ヲ併呑セントス 若シ滿洲ニシテ 露國ノ領有ニ歸センカ 韓國ノ保全ハ 支持スルニ由ナク 極東ノ平和 亦素ヨリ望ムヘカラス 故ニ 朕ハ此機ニ際シ 切ニ妥協ニ出テ時局ヲ解決シ 以テ平和ヲ 恒久ニ維持セントコトヲ期シ 有司ヲシテ露國ニ提議シ 半歳ノ久シキニ亘リテ累次折衝ヲ重ネシメタルモ 露國ハ 一モ交讓ノ精神ヲ以テ之ヲ迎ヘス 曠日彌久 徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメ 陽ニ平和ヲ唱道シ 陰ニ海陸ノ軍備ヲ增大シ 以テ我ヲ屈從セシメントス 凡ソ露國カ始ヨリ平和ヲ好愛スルノ誠意ナルモノ 毫モ認ムルニ由ナシ 露國ハ既ニ帝國ノ提議ヲ容レス 韓國ノ安全ハ方ニ危急ニ瀕シ 帝國ノ國利ハ將ニ侵迫セラレントス 事既ニ茲ニ至ル 帝國カ平和ノ交渉ニ依リ 求メムトシタル將來ノ保證ハ 今日之ヲ旗鼓ノ間ニ求ムルノ外ナシ 朕ハ汝有衆ノ忠實勇武ナルニ倚頼シ 速ニ平和ヲ永遠ニ克復シ 以テ帝國ノ光榮ヲ保全センコトヲ期ス

(明治三十七年二月十日)

戊申詔書

朕惟フニ 方今人文日ニ就リ 月ニ將ミ 東西相倚リ 彼此相濟シ 以テ其ノ福利ヲ共ニス 朕ハ茲ニ益々國交ヲ修メ友誼ヲ惇シ 列國ト與ニ 永ク其ノ慶ニ頼ラムコトヲ期ス

顧ミルニ 日進ノ大勢ニ伴ヒ 文明ノ惠澤ヲ共ニセントスル 固ヨリ內國運ノ發展ニ須ツ 戰後日尚淺ク 庶政益々更張ヲ要ス 宜ク上下心ヲ一ニシ 忠實業ニ服シ 勤儉產ヲ治メ 惟信惟義醇厚俗ヲ成シ 華ヲ去リ 實ニ就キ 荒怠相誡メ 自彊息マサルヘシ

抑々我カ神聖ナル祖宗ノ遺訓ト 我カ光輝アル國史ノ成跡トハ 炳トシテ日星ノ如シ 寔ニ克ク格守シ 淬礪ノ誠ヲ輸サハ國運發展ノ本 近ク斯ニ在リ 朕ハ方今ノ世局ニ處シ 我カ忠良ナル臣民ノ 協翼ニ倚藉シテ 維新ノ皇猷ヲ恢弘シ 祖宗ノ威德ヲ對揚セムコトヲ庶幾フ 爾臣民 其レ克ク 朕カ旨ヲ體セヨ

(明治四十一年十月十三日)

國民精神作興ノ詔書

朕惟フニ 國家興隆ノ本ハ 國民精神ノ剛健ニ在リ 之ヲ涵養シ 之ヲ振作シテ 以テ國本ヲ固クセサルヘカラス 是ヲ以テ 先帝 意ヲ教育ニ留メサセラレ 國體ニ基キ 淵源ニ遡リ 皇祖皇宗ノ遺訓ヲ掲ケテ 其ノ大綱ヲ昭示シタマヒ 後又臣民ニ詔シテ 忠實勤儉ヲ勸メ 信義ノ訓ヲ申ネテ 荒怠ノ誡ヲ垂レタマヘリ 是レ皆道德ヲ尊重シテ 國民精神ヲ

涵養振作スル所以ノ洪謨ニ非サルナシ 爾來趨向一定シテ 效果大ニ著レ 以テ國家ノ興隆ヲ致セリ 朕即位以來 夙夜兢兢トシテ 常ニ紹述ヲ思ヒシニ 俄ニ災變ニ遭ヒテ憂悚交々至レリ

輓近 學術益々開ケ 人智日ニ進ム 然レトモ浮華放縦ノ習漸ク萌シ 輕佻詭激ノ風モ亦生ス 今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ 或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル 況ヤ今次ノ災禍甚タ大ニシテ 文化ノ紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神ニ待ツヲヤ 是レ實ニ上下協戮 振作更張ノ時ナリ 振作更張ノ道ハ 他ナシ 先帝ノ聖訓ニ恪遵シテ 其ノ實效ヲ擧クルニ在ルノミ 宜ク教育ノ淵源ヲ崇ヒテ 智德ノ竝進ヲ努メ 綱紀ヲ肅正シ 風俗ヲ匡勵シ 浮華放縦ヲ斥ケテ 質實剛健ニ趨キ 輕佻詭激ヲ矯メテ 醇厚中正ニ歸シ 人倫ヲ明ニシテ 親和ヲ致シ 公德ヲ守リテ 秩序ヲ保チ 責任ヲ重シ 節制ヲ尙ヒ 忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ 博愛共存ノ誼ヲ篤クシ 入リテハ恭儉勤敏 業ニ服シ 產ヲ治メ 出テテハ一己ノ利害ニ偏セスシテ 力ヲ公益世務ニ竭シ 以テ國家ノ興隆ト 民族ノ安榮 社會ノ福祉トヲ圖ルヘシ 朕ハ臣民ノ協翼ニ頼リテ 彌國本ヲ固クシ 以テ大業ヲ恢弘セムコトヲ冀フ 爾臣民 其レ之ヲ勉メヨ

(大正十二年十一月十日)

國際聯盟脱退ノ詔書

朕惟フニ 曩ニ世界ノ平和克復シテ 國際聯盟ノ成立スルヤ 皇考之ヲ懌ヒテ 帝國ノ參加ヲ命シタマヒ 朕亦 遺緒ヲ繼承シテ 苟モ懈ラス 前後十有三年其ノ協力ニ終始セリ 今次滿洲國ノ新興ニ當リ 帝國ハ其ノ獨立ヲ尊重シ 健全ナル發達ヲ促スヲ以テ 東亞ノ禍根ヲ除キ世界 平和ヲ保ツノ基ナリト爲ス 然ルニ不幸ニシテ 聯盟ノ所見之ト背馳スルモノアリ 朕乃チ 政府ヲシテ 愼重審議 遂ニ聯盟ヲ離脱スルノ 措置ヲ採ラシムルニ至レリ

然リト雖 國際平和ノ確立ハ 朕常ニ之ヲ冀求シテ止マス 是ヲ以テ 平和各般ノ企圖ハ向後亦協力シテ渝ルナシ 今ヤ聯盟ト手ヲ分チ 帝國ノ所信ニ是レ從フト雖 固ヨリ東亞ニ偏シテ 友邦ノ誼ヲ疎カニスルモノニアラス 愈信ヲ國際ニ篤クシ 大義ヲ宇內ニ顯揚スルハ 夙夜朕カ念トスル所ナリ

方今 列國ハ稀有ノ世變ニ際會シ 帝國亦 非常ノ時艱ニ遭遇ス 是レ正ニ擧國振張ノ秋ナリ 爾臣民 克ク朕カ意ヲ體シ 文武互ニ其ノ職分ニ恪循シ 衆庶各其ノ業務ニ淬勵シ 嚮フ所正ヲ履ミ 行フ所中ヲ執リ 協戮邁往以テ此ノ世局ニ處シ 進ミテ 皇祖考ノ聖猷ヲ翼成シ 普ク人類ノ福祉ニ貢

獻セムコトヲ期セヨ

大日本帝國憲法

（昭和八年三月二十七日）

第一章　天皇

第一條　大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條　皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條　天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條　天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條　天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條　天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條　天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條　天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條　天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ增進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條　天皇ハ行政各部ノ官政及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各〻其ノ條項ニ依ル

第十一條　天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條　天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條　天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條　天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條　天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條　攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章　臣民權利義務

第十八條　日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條　日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條　日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第廿一條　日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條　日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條　日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條　日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

第二十五條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、コトナシ

第二十六條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

第二十七條　日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條　日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信敎ノ自由ヲ有ス

第二十九條　日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條　日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條　本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章　帝國議會

第三十三條　帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條　貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條　衆議院ハ選擧法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條　何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條　凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第三十八條　兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各〻法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條　兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條　兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各〻其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條　帝國議會ハ每年之ヲ召集ス

第四十二條　帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合

ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條　臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條　帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條　衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選擧セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以內ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條　兩議院ハ各〻其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條　兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條　兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

第四十九條　兩議院ハ各〻天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條　兩議院ハ臣民ヨリ提出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條　兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ揭クルモノ、外內部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條　兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條　兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ內亂外患ニ關スル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

第五十四條　國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章　國務大臣及樞密顧問

第五十五條　國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條　樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章　司法

第五十七條　司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條　裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條　特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章　會計

第六十二條　新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條　現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條　國家ノ歲出歲入ハ每年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條　豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條　皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ每年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來增額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條　憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條　特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條　避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條　公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於

テ內外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條　帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條　國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其ノ檢査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計檢査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　補　則

第七十三條　將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各〻其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條　皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條　憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條　法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ效力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

皇室典範（拔萃）

（明治二十二年二月十一日）

第一章　皇位繼承

第一條　大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條　皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條　皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條　皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條　皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第二章　踐祚卽位

第十條　天皇崩スルトキハ皇嗣卽チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條　卽位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條　踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章　成年立后立太子

第十三條　天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條　前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條　儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第四章　敬　稱

第十七條　天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條　皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃內親王王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章　攝　政

第十九條　天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク天皇久シキニ亙ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及ビ樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條　攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第六章　太　傅

第二十六條　天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キテ保育ヲ掌ラシム

第七章　皇　族

第三十條　皇族ト稱フルハ太皇太后　皇太后　皇后　皇太子　皇太子妃　皇太孫　皇太孫妃　親王　親王妃　內親王　王　王妃　女王ヲ謂フ

第三十一條　皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ內親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條　天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王タル者ニ特ニ親王內親王ノ號ヲ宣賜ス

兵役法（拔萃）

（明治二十二年二月十一日）

第一條　帝國臣民タル男子ハ本法ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ服ス

第二條　兵役ハ之ヲ常備兵役、後備兵役、補充兵役及國民兵役ニ分ツ

常備兵役ハ之ヲ現役及豫備役ニ、補充兵役ハ之ヲ第一補充兵役及第二補充兵役ニ國民兵役ハ之ヲ第一國民兵役及第二國民兵役ニ分ツ

第三條　志願ニ依リ兵籍ニ編入セラルル者ノ兵役ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四條　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵

役ニ服スルコトヲ得ス

第五條　現役ハ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年トシ現役兵トシテ徵集セラレタル者之ニ服ス現役兵ハ現役中之ヲ在營セシム

第六條　豫備役ハ陸軍ニ在リテハ五年四月、海軍ニ在リテハ四年トシ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第七條　後備兵役ハ陸軍ニ在リテハ十年、海軍ニ在リテハ五年トシ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第八條　第一補充兵役ハ陸軍ニ在リテハ十二年四月、海軍ニ在リテハ一年トシ現役ニ適スル者ニシテ其ノ年所要ノ人員之ニ服ス

第二補充兵役ハ十二年四月トシ現役ニ適スル者ノ中現役又ハ第一補充兵役ニ徵集セラレサル者及海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服ス但シ海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ十一年四月トス

第九條　第一國民兵役ハ後備兵役ヲ終リタル者及軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル補充兵ニシテ補充兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第二國民兵役ハ戶籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ常備兵役、後備兵役、補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル年齡十七年ヨリ四十年迄ノ者之ニ服ス

（昭和二年法律第四十七號）

貴族院令

（拔萃）

第一條　貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一　皇族

二　公侯爵

三　伯子男爵各〻其ノ同爵中ヨリ選擧セラレタル者

四　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五　帝國學士院ノ互選ニ由リ勅任セラレタル者

六　北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人又ハ二人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條　皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條　公侯爵ヲ有スル者滿三十歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條　伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿三十歲ニ達シ各〻其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ定ム

前項議員ノ定數ハ伯爵十八人、子爵六十六人、男爵六十六人トス

第五條　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

前項議員ノ數ハ百二十五人ヲ超過スヘカラス

第五條ノ二　滿三十歲以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　滿三十歲以上ノ男子ニシテ北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者百人ノ中ヨリ一人又ハ二百人ノ中ヨリ二人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ總數ハ六十六人以內トシ其ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ハ通常選擧每ニ人口ニ應シ勅命ヲ以テ之ヲ指定ス

（明治二十二年二月十一日勅令第十一號）

衆議院議員選擧法

（拔萃）

第五條　帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者ハ選擧權ヲ有ス帝國臣民タル男子ニシテ年齡三十年以上ノ者ハ被選擧權ヲ有ス

第六條　左ニ揭クル者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

一　禁治產者及準禁治產者

二　破產者ニシテ復權ヲ得サル者

三　貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者

四　一定ノ住居ヲ有セサル者

五　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六　刑法第二編第一章、第三章、第九章　第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ揭クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七　六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ揭クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條　華族ノ戶主ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下

士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選擧權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第八條　選擧事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選擧權ヲ有セス

第九條　在職ノ宮內官、判事、朝鮮總督府判事、臺灣總督府法院判官、關東廳法院判官、南洋廳判事、檢事、朝鮮總督府檢事、臺灣總督府法院檢察官、關東廳法院檢察官、南洋廳檢事、陸軍法務官、海軍法務官、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計檢査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選擧權ヲ有セス

第十條　官吏及待遇官吏ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外在職中議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

一　國務大臣　　二　內閣書記官長

三　法制局長官　　四　各省政務次官

五　各省參與官　　六　內閣總理大臣祕書官

七　各省祕書官

第十一條　北海道會議員及府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

（大正十四年法律第四十七號）

日本帝國憲法

欽定憲法　一八八九年大日本帝國の建國の精神に卽り帝國臣民の幸福なる發達のために天皇御自ら御下し遊ばされた憲法である。行政、司法、立法、統帥の分立した四つの權限は夫々天皇の大權事項に屬し、夫々の政治機關は各自天皇に對して責任を負ひ、且つ天皇の名において其の職務を執行するものと定められて居る。

イギリス憲法

大憲章　一二一五年ジョン王の失政に苦しんだ英國民は反王聯合軍を組織し、國王軍をロンドンに破り、遂にジョン王をして大憲章に署名せしめた。此の大憲章が今日のイギリス憲法の基礎をなすものである。主權は國王に屬すが國王の權限は大に國民の代表たる議會に制限され議會は事實上國王の上位にたつてゐる。

アメリカ合衆國憲法

一七八九年制定され、合衆國の元首は大統領であり四年每に選擧される。合衆國憲法は極端な三權分立主義を特色とし、卽ち

政府　大統領を元首とし、大統領は陸海軍の統帥權を有し閣僚を任命する。

議會　立法權を有し、政府によつて解散される事がない。

大審院　憲法を擁護する機關であつて議會を通過した法律と雖も憲法に違反する場合は大審院が其の無效を宣告する事が出來る。

明治天皇御製

あさみどり澄みわたりたる大空の
　廣きをおのが心ともがな

さしのぼる朝日のごとくさわやかに
　もたまほしきは心なりけり

子らは皆軍のにはにいではてて
　翁やひとり山田もるらむ

靖國のやしろにいつくかがみこそ
　やまと心のひかりなりけり

しきしまの大和心のをゝしさは
　ことあるときぞあらはれにける

いかならむことある時もうつせみの
　人の心よゆたかならなむ

人の世のたゞしき道をひらかなむ
　虎のすむてふ野べのはてまで

國のためあだなす仇はくだくとも
　いつくしむべき事な忘れそ

ちよろづの仇にむかひてたわまぬぞ
　日本をのこの心なりける

目に見えぬ神にむかひてはぢざるは
　人の心のまことなりけり

いさましくかちどきあげて沖つ浪
　かへりし船を見るぞうれしき

照るにつけくもるにつけて思ふかな
　わが民草の上はいかにと

國をおもふみちに二つはなかりけり
　軍の場にたつもたたぬも

千萬の民の力をあつめなば
　いかなる業も成らむとぞ思ふ

四方の海みなはらからと思ふ世に
　など波風のたちさわぐらむ

おのが身にいたでおへるも知らずして
　進みもゆくかわが軍人

世とともにかたりつたへよ國のため
　命をすてし人のいさをを

さわがしき風につけても外國に
　いでて世渡る民をこそ思へ

おのづから仇のこころのなびくまで
　誠の道をふめや國民

思ふことつらぬかずしてやまぬこそ
日本をのこの心なりけり

くろがねの的いし人もあるものを
つらぬきとほせやまとだましひ

古のふみ見るたびに思ふかな
おのが治むる國はいかにと

大空にそびえて見ゆるたかねにも
のぼればのぼる道はありけり

物學ぶ道に立つ子よおこたりに
まされるあだはなしと知らなむ

われもまたさらにみがかん曇りなき
人の心をかがみにはして

暑しとも言はれざりけりにえかへる
水田に立てる賤を思へば

とこしへに民安かれと祈るなる
わが代を護れ伊勢の大神

今はとてまなびの道におこたるな
ゆるしのふみを得たるわらはべ

年々に思ひやれども山水を
くみて遊ばむ夏なかりけり

とる棹のこゝろ長くもこぎよせむ
蘆間の小舟さはりありとも

人もわれも道を守りてかはらずば
この敷島の國はうごかじ

よきをとりあしきをすてて外國に
おとらぬ國となすよしもがな

事しあらば火にも水にもいりなむと
思ふがやがてやまとだましひ

たひらかに世はなりぬとて敷島の
大和心よ撓まざらなむ

ゆくすゑはいかになるかと曉の
ねざめ〳〵に世をおもふかな

ことなしとゆるぶ心はなかなかに
仇あるよりもあやふかりけり

國のため身のほど〳〵に盡さなむ
心のすすむ道を學びて

よの中にたかきいやしきほど〳〵に
身をつくすこそつとめなりけれ

なすことのなくて終らば世に長き
よはひをたもつかひやなからむ

たらちねのおやの教をまもる子は
まなびの道もまどはざらなむ

照憲皇太后御歌

人知れず思ふ心のよしあしも
照らし分くらん天地の神

怠りてみがかざりせば光ある
玉も瓦にひとしからまし

持つ人の心によりてたからとも
あだともなるは黄金なりけり

朝毎にむかふ鏡のくもりなく
あらまほしきは心なりけり

みがかずば玉の光はいでざらむ
人のこころもかくこそあるらし

忠君愛國の歌

思へただ空に一つの日の本に
またたぐひなく生れこし身を　（後花園天皇）

海行かば水漬く屍山行かば草むす屍大君の
邊にこそ死なめ長閑には死なじ　（大伴家持）

今日よりは顧みなくて大君の
醜の御楯と出でたつわれは　（大伴家持）

山はさけ海はあせなむ世なりとも
君にふた心わがあらめやも　（源實朝）

何事のおはしますかは知らねども
かたじけなさに涙こぼるる　（西行法師）

君の爲世の爲何か惜しからむ
捨ててかひある命なりせば　（宗良親王）

敷島の大和心を人問はば
朝日に匂ふ山櫻花　（本居宣長）

人はよしからにつくとも我が杖は
やまと島根にたてんとぞ思ふ　（平田篤胤）

斯くすればかくなるものと知りながら
已むに已まれぬ大和魂　（吉田松陰）

今日もまた知られぬ露の生命もて
千歳を照らす月を見るかな　（久坂玄瑞）

君が世を思ふ心の一すぢに
わが身ありとは思はざりけり　（梅田雲濱）

大君のためには何か惜しからん
薩摩の海に身は沈むとも　（僧　月照）

歴史上有名な歌

八雲立つ出雲八重垣夫妻ごみに
八重垣つくるその八重垣を（素盞嗚尊）

高きやにのぼりて見れば煙たつ
民のかまどはにぎはひにけり（仁德天皇）

天の原ふりさけ見れば春日なる
三笠の山に出でし月かも（安倍仲麿）

青丹よし奈良の都はさく花の
匂ふが如く今盛なり（小野老）

勅なればいともかしこし鶯の
宿はと問はばいかが答へむ（紀內侍）

東風吹かば香おこせよ梅の花
あるじなしとて春な忘れそ（菅原道眞）

七重八重花は咲けども山吹の
みの一つだになきぞかなしき（源兼明）

心にもあらで浮世にながらへば
こひしかるべき夜半の月かな（三條天皇）

この世をばわが世とぞ思ふ望月の
かけたる事のなしと思へば（藤原道長）

古の奈良の都の八重櫻
けふ九重に匂ひぬるかな（伊勢大輔）

都をば霞とともに出でしかど
秋風ぞ吹く白河の關（能因法師）

大江山生野の道の遠ければ
まだふみも見ず天の橋立（小式部內侍）

吹く風を勿來の關と思へども
道もせにちる山ざくら花（源義家）

年をへし絲の亂の苦しさに
衣のたては綻びにけり（貞任）
（義家）

わが袖は汐干に見えぬ沖の石の
人こそ知らねかはくまもなし（二條院讃岐）

今ぞ知る御裳川の流れには
波の底にも都ありとは（二位尼）

賤やしづ賤のをだまきくりかへし
昔を今になすよしもがな（靜）

さざ波やしがの都はあれにしを
昔ながらの山ざくらかな（平忠度）

時により過ぐれば民の歎きなり
八大龍王雨止め給へ（源實朝）

われこそは新島守よ隱岐の海の
あらきなみ風こころして吹け（後鳥羽上皇）

こゝにても雲井の櫻咲きにけり
唯かりそめの宿と思ふに（後醍醐天皇）

古もかかるためしをきく川の
同じ流れに身をや沈めん（藤原俊基）

さしてゆく笠置の山をいでしより
あめが下にはかくれがもなし（後醍醐天皇）

いかにせん賴むかげとて立ち寄れば
なほ袖ぬらす雨のした露（藤原藤房）

鳥の音に驚かされて曉の
ねざめ靜かに世を思ふかな（後村上天皇）

かへらじとかねて思へば梓弓
なき數に入る名をぞとどむる（楠正行）

遠くなり近くなるみの濱千鳥
なく音に潮の滿干をぞ知る（太田道灌）

治めしるわが世如何にと波風の
八十島かけて行く心かな（後柏原天皇）

ふみわけよ大和にはあらぬ唐鳥の
あとを見るのみ人の道かは（荷田春滿）

敷島の大和錦に織りてこそ
唐紅の色もはえあれ（光格天皇）

太平の眠をさます上喜撰
たつた四杯で夜もねられず（讀人しらず）

親はなし妻なし子なし版木なし
金もなければ死にたくもなし（林子平）

名歌

ひむがしの野に炎の立つ見えて
かへり見すれば月傾ぶきぬ（柿本人麿）

田子の浦ゆうち出て見れば眞白くぞ
不盡の高嶺に雪はふりける（山部赤人）

和歌の浦に潮滿ちくれば潟をなみ
葦べをさして田鶴鳴きわたる（山部赤人）

銀も黃金も玉も何せむに
まされる寶子に如かめやも（山上憶良）

うらうらに照れる春日に雲雀あがり
心かなしもひとりし思へば（大伴家持）

時知らぬ山は富士のねいつとてか
かのこまだらに雪のふるらむ（在原業平）

花の色はうつりにけりな徒に　わが身世にふるながめせしまに　（小野小町）

秋きぬと目にはさやかに見えねども　風の音にぞ驚かれぬる　（藤原敏行）

人はいさ心も知らず故鄕は　花ぞむかしの香に匂ひける　（紀貫之）

春日野の若菜つみにや白妙の　袖ふりはへて人の行くらむ　（紀貫之）

久方の光のどけき春の日に　しづ心なく花のちるらん　（紀友則）

駒とめて袖うちはらふ陰もなし　佐野のわたりの雪の夕暮　（藤原定家）

見渡せば花も紅葉もなかりけり　浦の苫屋の秋の夕暮　（藤原定家）

心なき身にも哀れは知られけり　鴫立つ澤の秋の夕暮　（西行法師）

寂しさはその色としもなかりけり　槇立つ山の秋の夕暮　（寂蓮法師）

もののふの矢なみつくらふ籠手の上に　霰たばしる那須のしの原　（源實朝）

箱根路をわが越えくれば伊豆の海や　沖の小島に浪のよる見ゆ　（源實朝）

大海の磯もとどろに寄する波　割れて碎けて裂けてちるかも　（源實朝）

わが庵は松原つゞき海近く　富士の高根を軒端にぞ見る　（太田道灌）

露おかぬ方もありけり夕立の　空より廣きむさしの原　（太田道灌）

見るふみは殘り多くも年暮れて　わがよふけゆく窓のともしび　（荷田春滿）

うらうらとのどけき春の心より　にほひいでたる山ざくら花　（賀茂眞淵）

信濃なるすがの荒野を飛ぶ鷲の　つばさもたわに吹く嵐かな　（賀茂眞淵）

墨田川簑着てくだす筏師に　霞むあしたの雨をこそ知れ　（加藤千蔭）

心あてに見し白雲は麓にて　思はぬ空にはる富士の嶺　（村田春海）

霞立つ長き春日を子供らと　手まりつきつつ今日も暮しつ　（良寛法師）

てる月の影の散り來る心地して　よるゆく袖にたまる雪かな　（香川景樹）

燕飛び來る春の山畑　すくすくと生ひたつ麥に腹すりて　（橘曙覽）

吉野山霞の奧は知らねども　見ゆる限りは櫻なりけり　（八田知紀）

宿かさぬ人のつらさを情にて　朧月夜の花の下ぶし　（太田垣蓮月）

緋縅の鎧を著けて太刀佩きて　見ばやとぞ思ふ山ざくら花　（落合直文）

夕顏の棚つくらむと思へども　秋待ちがてぬ我いのちかも　（正岡子規）

おり立ちて今朝の寒さを驚きぬ　露しとしとと柿の落葉深く　（伊藤左千夫）

東海の小島の磯の白砂に　われ泣きぬれて蟹とたはむる　（石川啄木）

隣室に書よむ子らの聲きけば　心に沁みて生きたかりけり　（島木赤彥）

幾山河越えさりゆかば寂しさの　はてなむ國ぞ今日も旅ゆく　（若山牧水）

うらうらと照れる光にけぶりあひて　咲きしづもれる山ざくら花　（若山牧水）

名句

元日や一系の天子不二の山　鳴雪

古池や蛙とびこむ水の音　芭蕉

花の雲鐘は上野か淺草か　同

しづかさや岩にしみ入る蟬の聲　同

夏草やつはものどもが夢のあと　同

荒海や佐渡に横たふ天の川　同

朝顏に釣瓶とられてもらひ水　千代女

鶯の身をさかさまに初音かな　其角

我が雪と思へばかろし笠の上　同

我と來て遊べや親のない雀　一茶

梅一輪一りんほどのあたたかさ　嵐雪

黄菊白菊その外の名は無くもがな　同

蒲團着て寢たるすがたや東山　同

目には青葉山ほとゝぎす初鰹　素堂

行水の捨てどころなし虫の聲　鬼貫

藪入の寢るやひとりの親のそば　太祇

菜の花や月は東に日は西に　蕪村
五月雨や大河を前に家二軒　同
宿かせと刀投げ出す吹雪かな　同
さみだれや或夜ひそかに松の月　蓼太
五六本寄りてしだるる柳かな　去來
ほとゝぎす鳴くや雲雀の十文字　同
しぐれけり走り入りけり晴れにけり　惟然
長々と川一筋や雪の原　凡兆
旅に病んで夢は枯野をかけめぐる　芭蕉
わが子なら供にはつれじ夜の雪　とめ女
夕涼よくぞ男に生れける　其角
やれ打つな蠅が手をする足をする　一茶
蟻の道雲の峰よりつづきけん　同
ともかくもあなたまかせの年の暮　同
山を裂く力も折れて松の雪　子葉
汐干より今かへりたる隣りかな　子規
赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり　同
大君の生れましし日や菊の花　同
柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺　同
浮草や今日はあちらの岸に咲く　乙由
木がらしの果はありけり海の音　言水

和漢名詩

偶成　朱熹（晦庵）

少年易老學難成。一寸光陰不可輕。未覺池塘春草夢。階前梧葉已秋聲。

少年老い易く學成り難し。一寸の光陰輕んず可からず。未だ覺めず池塘春草の夢。階前の梧葉已に秋聲。

九月十日　菅原道眞

去年今夜侍清涼。秋思詩篇獨斷腸。恩賜御衣今在此。捧持每日拜餘香。

去年の今夜清涼に侍す。秋思の詩篇獨り腸を斷つ。恩賜の御衣は今此に在り。捧持して每日餘香を拜す。

偶感　西鄕隆盛（南洲）

幾歷辛酸志始堅。丈夫玉碎恥甎全。我家遺法人知否。不爲兒孫買美田。

幾たびか辛酸を歷て志始めて堅し。丈夫は玉碎するも甎全を恥づ。我が家の遺法人知るや否や。兒孫の爲めに美田を買はず。

皇統歌　大窪行（詩佛）

天地開闢來。大統長相傳。天子無姓氏。正知姓是天。天皇如日月。萬古無變遷。誰道周道盛。劣能八百年。爲嬴爲劉後。至今已二千。其閒幾姓氏。相代互忽焉。如何日出國。相傳自綿綿。

天地開闢より來。大統長に相傳ふ。天子に姓氏無し。正に知る姓は是れ天なるを。天皇は日月の如く。萬古變遷無し。誰か道ふ周道盛んなりと。劣に能く八百年。嬴たり劉たる後。今に至るまで已に二千。其の閒幾姓氏。相代りて互に忽焉たり。如何日出の國。相傳へて自ら綿綿たるに。

述懷　賴襄（山陽）

十有三春秋。逝者已如水。天地無始終。人生有生死。安得類古人。千載列青史。

十有三春秋。逝く者は已に水の如し。天地始終無く。人生生死有り。安ぞ古人に類して。千載青史に列するを得ん。

春望　杜甫

國破山河在。城春草木深。感時花濺淚。恨別鳥驚心。烽火連三月。家書抵萬金。白頭搔更短。渾欲不勝簪。

國破れて山河在り。城春にして草木深し。時に感じて花にも淚を濺ぎ。別を恨んで鳥にも心を驚かす。烽火三月に連なり。家書萬金に抵る。白頭搔いて更に短かし。渾べて簪に勝へざらんと欲す。

春曉　孟浩然

春眠不覺曉。處處聞啼鳥。夜來風雨聲。花落知多少。

春眠曉を覺えず。處處啼鳥を聞く。夜來風雨の聲。花落つること知んぬ多少ぞ。

春夜　蘇軾

春宵一刻直千金。花有淸香月有陰。歌管樓臺聲細細。鞦韆院落夜沈沈。

春宵一刻直千金。花に淸香あり月に陰あり。歌管樓臺聲細細。鞦韆院落夜沈沈。

富士山　石川重之（丈山）

仙客來遊雲外巓。神龍棲老洞中淵。雪如紈素煙如柄。白扇倒懸東海天。

仙客來り遊ぶ雲外の巓。神龍棲み老う洞中の淵。雪は紈素の如く煙は柄の如し。白扇倒に懸る東海の天。

白虎隊　　佐原盛純

少年團結白虎隊。國步艱難戍保塞。大軍突如風雨來。殺氣慘憺白日晦。鼙鼓喧闐百雷震。巨砲連發僵屍堆。殊死突陣怒髮立。縱橫奮擊一面開。時不利兮戰且退。身裹瘡痍口含藥。腹背皆敵將何行。杖劍閒行攀丘岳。南望鶴城砲煙颺。痛哭飲涙且彷徨。宗社亡兮我事畢。十有六人屠腹僵。俯仰此十有七年。畫之文之世閒傳。忠烈赫赫如前日。壓倒田横麾下賢。

少年團結す白虎隊。國步艱難保塞を戍る。大軍突如風雨來る。殺氣慘憺白日晦し。鼙鼓喧闐百雷震ふ。巨砲連發して僵屍堆し。殊死陣を突いて怒髮立つ。縱橫奮擊一面開く。時利あらず戰ひ且つ退く。身に瘡痍を裹み口に藥を含む。腹背皆敵將に何くに行かんとす。劍に杖つて閒行丘岳を攀づ。南鶴城を望めば砲煙颺る痛哭涙を飲みて且つ彷徨す。宗社亡び我が事畢る。十有六人屠腹して僵る。俯仰此に十有七年。之れを畫にし之を文にし世閒に傳ふ。忠烈赫赫前日の如し。壓倒す田横麾下の賢。

無題　　村上剛（佛山）

落花紛紛雪紛紛。踏雪蹴花伏兵起。白晝斬取大臣頭。噫嘻時事可知耳。落花紛紛雪紛紛。或恐天下多事兆於此。

落花紛紛雪紛紛。雪を踏み花を蹴つて伏兵起こる。白晝斬首す大臣の頭。噫嘻時事知るべき耳。落花紛紛雪紛紛。或は恐る天下の多事此に兆するを。

九月十三夜　　上杉謙信

霜滿軍營秋氣清。數行過雁月三更。越山併得能州景。遮莫家郷憶遠征。

霜は軍營に滿ちて秋氣淸し。數行の過雁月三更。越山併せ得たり能州の景。遮莫れ家郷の遠征を憶ふを。

金州城作　　乃木希典

山川草木轉荒涼。十里風腥新戰場。征馬不前人不語。金州城外立斜陽。

山川草木轉た荒涼。十里風は腥し新戰場。征馬は前まず人は語らず。金州城外斜陽に立つ。

本能寺　　賴襄

本能寺。溝深幾尺。吾就大事在今夕。茭粽在手併茭食。四簷梅雨天如墨。老阪西去備中道。揚鞭東指天猶早。吾敵正在本能寺。敵在備中汝能備。

本能寺。溝深さ幾尺。吾大事を就す今夕に在り。茭粽手に在り茭を併せて食ふ。四簷の梅雨天墨の如し。老阪西に去れば備中の道。鞭を揚げて東に指せば天猶ほ早し。吾が敵は正に本能寺に在り。敵は備中に在り汝能く備へんや。

越中懷古　　李白

越王勾踐破呉歸。義士還家盡錦衣。宮女如花滿春殿。唯今惟有鷓鴣飛。

越王勾踐呉を破つて歸る。義士家に還つて盡く錦衣す。宮女花の如く春殿に滿ちしが。只今惟鷓鴣の飛ぶあり。

題不識庵擊機山圖　　賴襄

鞭聲肅肅夜過河。曉見千兵擁大牙。遺恨十年磨一劍。流星光底逸長蛇。

鞭聲肅肅夜河を渡る。曉に見る千兵の大牙を擁するを。遺恨十年一劍を磨き。流星光底長蛇を逸す。

題壁　　釋月性（淸狂）

男兒立志出郷關。學若無成死不還。埋骨豈惟墳墓地。人間到處有靑山。

男兒志を立てて郷關を出づ。學若し成る無くんば死すとも還らず。骨を埋む豈惟墳墓の地のみならんや。人間到る處に靑山あり。

桂林莊雜詠示諸生　　廣瀬建（淡窗）

休道他郷多苦辛。同袍有友自相親。柴扉曉出霜如雪。君汲川流我拾薪。

道ふことを休めよ他郷苦辛多しと。同袍友あり自ら相親む。柴扉曉に出づれば霜雪の如し。君は川流を汲め我は薪を拾はん。

海南行　　細川賴之

人生五十愧無功。花木春過夏已中。滿室蒼蠅

掃難去。起尋禪榻臥清風。
人生五十功なきを愧づ。花木春過ぎて夏已に中す。滿室の蒼蠅掃へども去り難し。起つて禪榻を尋ねて清風に臥す。

題長安主人壁　　張謂

世人結交須黃金。黃金不多交不深。縱令然諾暫相許。終是悠悠行路心。
世人交を結ぶに黃金を須ふ。黃金多からざれば交深からず。縱令然諾して暫く相許すとも、終に是れ悠悠たる行路の心。

貧交行　　杜甫

翻手作雲覆手雨。紛紛輕薄何須數。君不見管鮑貧時交。此道今人棄如土。
手を翻せば雲と作り手を覆せば雨。紛紛たる輕薄何ぞ數ふるを須ひん。君見ずや管鮑貧時の交。此の道今人棄てて土の如し。

望廬山瀑布　　李白

日照香爐生紫煙。遙看瀑布挂長川。飛流直下三千尺。疑是銀河落九天。
日は香爐を照らして紫煙を生ず。遙に看る瀑布の長川を挂くるを。飛流直下三千尺。疑ふらくは是れ銀河の九天より落つるかと。

山行　　杜牧

遠上寒山石徑斜。白雲生處有人家。停車坐愛楓林晩。霜葉紅於二月花。
遠く寒山に上れば石徑斜なり。白雲生ずる處人家有り。車を停めて坐に愛す楓林の晩。霜葉は二月の花よりも紅なり。

芳野　　藤井啓（竹外）

古陵松柏吼天飇。山寺尋春春寂寥。眉雪老僧時輟箒。落花深處說南朝。
古陵の松柏天飇に吼ゆ。山寺春を尋ぬれば春寂寥。眉雪の老僧時に箒を輟め。落花深き處南朝を說く

長城　　汪遵

秦築長城比鐵牢。蕃戎不敢過臨洮。焉知萬里連雲勢。不及堯階三尺高。
秦長城を築きて鐵の牢きに比す。蕃戎敢て臨洮に逼らず。焉ぞ知らん萬里連雲の勢。及ばず堯階三尺の高きに。

田氏女玉葆畫常盤抱孤圖　　梁川星巖

雪灑笠檐風捲袂。呱呱覓乳若爲情。他年鐵枴峰頭嶮。叱咤三軍是此聲。
雪は笠檐に灑ぎて風は袂を捲く、呱呱乳を覓むるは若爲の情ぞ。他年鐵枴峰頭の嶮。三軍を叱咤するは是此の聲。

蒙古　　賴襄（山陽）

筑海颶氣連天黑。蔽海而來者何賊。蒙古來。來自北。東西次第期呑食。嚇得趙家老寡婦。持此來擬男兒國。相模太郎膽如甕。防海將士人各力。蒙古來。吾不怖。吾怖關東令如山。直前斫賊不許顧。倒吾檣。登虜艦。擒虜將。吾軍喊。可恨東風一驅附大濤。不使羶血盡膏日本刀。
筑海の颶氣天に連つて黑し。海を蔽うて來る者は何の賊ぞ。蒙古來る。北より來る。東西次第に呑食を期す。趙家の老寡婦を嚇し得て。此を持して來り擬す男兒の國に。相模太郎膽甕の如く、防海の將士人各力む。蒙古來る。吾怖れず、吾は怖る關東の令山の如きを。直前賊を斫つて顧るを許さず。吾が檣を倒して虜艦に登り、虜將を擒にして吾軍喊す、恨むべし東風一驅大濤に附し。羶血をして盡く日本刀に膏せしめざりしを。

送元二使安西　　王維

渭城朝雨浥輕塵。客舍青青柳色新。勸君更盡一杯酒。西出陽關無故人。
渭城の朝雨輕塵を裛す。客舍青青柳色新なり。君に勸む更に一杯の酒を盡せよ。西のかた陽關を出づれば故人なからん。

訣別　　梅田雲濱

妻臥病牀兒泣飢。此心誓擬拂戎夷。今朝死別兼生別。唯有皇天后土知。

妻は病牀に臥し兒は飢に泣く。此の心誓つて戎夷を拂はんと擬す。今朝死別生別を兼ぬ。唯皇天后土の知るあり。

江南春　　杜牧

千里鶯啼綠映紅。水村山郭酒旗風。南朝四百八十寺。多少樓臺煙雨中。

千里鶯啼いて綠紅に映ず。水村山郭酒旗の風。南朝の四百八十寺、多少の樓臺煙雨の中。

楓橋夜泊　　張繼

月落烏啼霜滿天。江楓漁火對愁眠。姑蘇城外寒山寺。夜半鐘聲到客船。

月落ち烏啼いて霜天に滿つ。江楓の漁火愁眠に對す。姑蘇城外の寒山寺。夜半の鐘聲客船に到る。

早發白帝城　　李白

朝辭白帝彩雲間。千里江陵一日還。兩岸猿聲啼不住。輕舟已過萬重山。

朝に辭す白帝彩雲の間。千里の江陵一日に還る。兩岸の猿聲啼いて住まらざるに、輕舟已に過ぐ萬重の山。

偶成　　伊藤博文

豪氣堂堂橫大空。日東誰使帝威隆。高樓傾盡三杯酒。天下英雄在眼中。

豪氣堂堂大空に橫ふ。日東誰れか帝威をして隆ならしむる。高樓傾け盡す三杯の酒。天下の英雄眼中に在り。

泊天草洋　　頼襄

雲耶山耶吳耶越。水天髣髴青一髮。萬里泊舟天草洋。煙橫蓬窗日漸沒。瞥見大魚波間跳。太白當船明似月。

雲か山か吳か越か。水天髣髴青一髮。萬里舟を泊す天草の洋。煙は蓬窗に橫つて日漸く沒す。瞥見す大魚の波間に跳るを。太白船に當つて明月に似たり。

國史世界史對照年表

諸國興亡一覽表

(日本) 皇紀
- 神代
- 皇紀元年
- 1 創業時代
- 852
- 文物傳來時代
- 1370
- 奈良時代 1454
- 平安時代
- 1845
- 鎌倉時代
- 1993
- 吉野時代 2052
- 室町時代
- 2228
- 江戸時代
- 2527
- 現代

(支那) 西暦年號
- 太古
- 前2000
- 夏
- 前1760
- 殷
- 前1120
- 西周
- 前770
- 東周（春秋時代　前403　戰國時代）
- 前221
- 秦
- 前206
- 西漢
- 新
- 東漢
- 220
- 三國
- 東晉
- 南北朝
- 隋
- 618
- 唐
- 907
- 五代
- 960
- 北宋
- 1127
- 南宋
- 1279
- 元
- 1367
- 明
- 1644
- 清
- 1912
- 中華民國
- 滿洲國獨立 (1932)

(西歐諸國) 西暦年號
- バビロニヤ
- エジプト(埃及)王國
- 前953
- ユダヤ
- 前608
- 前525
- ペルシヤ帝國
- 前2100
- ギリシヤ(希蠟)共和國
- 前146
- 前763
- ローマ王國
- ローマ共和國
- 前27
- ローマ帝國
- 395
- 西ローマ帝國
- 東ローマ帝國
- サラセン
- 1453
- トルコ帝國
- フランク王國
- 800
- 東フランク
- 962
- 神聖ローマ帝國
- 1276
- 1580
- 987
- フランス
- イタリヤ
- ハンガリヤ
- オーストリヤ
- スヰス
- オランダ
- プロシヤ
- ポーランド
- 862
- スラブ
- ロシヤ
- ブリタニヤ
- 43
- ローマ帝國領
- 295
- イングランド
- 1600
- イギリス
- スペイン領
- 1276
- イギリス領

（最下段）トルコ　ギリシヤ　ユーゴースラビヤ　ドイツ共和國　ポーランド　ソヴイエト聯邦　南米諸國　アメリカ

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項
			伊弉諾尊伊弉冉尊大八洲御創造
			天岩戸隱れ
			素戔嗚尊天叢雲劒を天照大神に差上ぐ
			大國主命出雲地方を治めらる
			皇孫瓊瓊杵尊日向に下り給ふ
前七	1 神武		神武天皇日向を發し給ふ
元		一	橿原宮に御即位（大日本の建國）
四		四	皇祖を鳥見山に祀る
一六		一六	
二一		二一	
二九		二九	
四一		四一	
五七		五七	
六七		六七	
七五		七五	
七六		七六	神武天皇崩御
八一	2 綏靖	二	
九六		一七	
一一〇		三一	
一四〇	3 安寧	二八	

西暦	重要なる外國史事項
前四四〇〇	埃及舊王國の創建
二七〇〇	埃及クフ王大ピラミッドを建造
二六〇〇	支那黄帝建國
二三五七	支那堯即位
二二五〇	バビロン王ハンムラビ法典を作る（世界最古の法典）
二二〇五	夏起る
一九〇〇	アルファベットの始め
一七六〇	殷起る
一三二〇	モーゼ、ヘブライ人を率ゐて埃及を去る
一一二二	周起る
一〇〇〇	ヘブライ王ソロモンの榮華
八三〇	リクルグス、スパルタの憲法を定め尚武教育を起す
七七六	第一回オリンピック競技行はる
七七〇	春秋時代始まる
七五三	ローマの建國
六六七	
六六〇	
六五七	第三十回オリンピック競技行はる
六四五	齊の忠臣管仲歿す
六四〇	ギリシャ哲學の祖ターレス生る
六三二	晉の文公覇者となる
六二〇	お伽話作家イーソップ生る
六〇四	老子生る
五九四	ソロン、アテネの憲法を定む
五八六	
五八五	ユダヤ王國亡ぶ
五八〇	ピタゴラス生る
五六五	**釋迦生る**（八十歳で歿す）
五五一	**孔子生る**（七十三歳で歿す）
五二一	ダリウス、ペルシャ王位に登る

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項
一六七	4 懿德	一七	
一七一		二一	
二一七	5 孝昭	三二	
二三〇		四五	
二三六		五一	
二六二		七七	
二八九	6 孝安	二一	
二九〇		二二	
三〇一		三三	
三一三		四五	
三二八		六〇	
三三七		六九	
三三九		七一	
三四九		八一	
三五〇		八二	
三六〇		九二	
三六一		九三	
三八八	7 孝靈	一八	
四一二		四二	
四四〇		七〇	
四四五		七五	
四四九	8 孝元	三	
四五五		九	
四六五		一九	
四七二		二六	
四七八		三二	
五〇二		五六	
五一五	9 開化	一二	
五三八		三五	

西暦	重要なる外國史事項
前四九四	呉王夫差越王勾踐を會稽に降す
四九〇	ギリシャ、ペルシャをマラトンに破る
四四四	ペリクレスの全盛時代
四三一	ペロポネス戰爭開始（四〇四年終る）
四二五	歴史學の祖ヘロドッス歿す
三九九	ギリシャの哲學者ソクラテス毒死す
三七二	孟子生る
三七一	レウクトラの戰、テーベの將エパミノンダスパルタ軍を破る
三六〇	ギリシャの哲學者デモクリッス死す
三四八	ギリシャの哲學者プラトー歿す（八十一歳）
三三五	蘇秦合從の策を唱ふ
三三四	**アレクサンドル大王波斯、印度征服、東西文化の融合を企つ**（三二三年歿す）
三二二	ギリシャの哲學者アリストテレス死す
三一二	シリヤ王國の建設
三一一	張儀の連衡の策成る
三〇一	イプスの戰
三〇〇	幾何學の祖エウクリデスの盛時
二七三	印度の阿育王踐祚
二四九	秦東周を滅す
二二一	秦の始皇帝天下を統一す
二一六	カンネーの戰、ハンニバルローマ軍に大勝
二一三	始皇帝焚書坑儒を斷行す〇阿房宮成る
二〇六	秦亡び漢興る〇項羽、劉邦鴻門の會
一九六	漢の名將韓信殺さる
一八九	漢の名臣張良歿す
一八三	ハンニバル歿す
一五九	ローマ人水時計を發明す
一四六	カルタゴ亡ぶ
一三三	ローマのカイウス＝グラックス護民官に選出され兄の志を繼ぎ改革を唱ふ

皇紀	天皇	年數	重要なる國史事項	西曆	重要なる外國史事項
五六九	10 崇神	六	三種神器を笠縫村に奉遷す	前九二	
五七三		一〇	四道將軍を派遣す	八八	
五七五		一二	始めて課稅す	八六	
六〇一		三八		六〇	ローマ第一回三頭政治
六一七		五四		四四	ケーザル元老院に於て殺さる
六三四	11 垂仁	三		二七	オクタヴイヤヌス、ローマの帝制を開く
六三八		七	野見宿禰當麻蹶速と角力す(角力の始)	二三	
六五六		二五	天照大神を伊勢山田に祀る(內宮)	五	
六五七		二六		四	**キリスト生る**
六五九		二八	殉死の禁	前二	
六六一		三〇		元	**西曆紀元元年**
六八五		五四		二五	東漢光武帝即位
六九〇		五九		三〇	キリスト礫殺
七二四		九三		六四	ネロ、ローマを燒き又大にキリスト教徒を虐殺
七二六		九六		六七	佛教支那に傳はる
七三九	12 景行	九		七九	ヴエスヴイアス山噴火しポンペイ埋沒
七五七		二七	日本武尊熊襲征伐	九七	
七六五		三五		一〇五	蔡倫紙を發明す
七七〇		四〇	日本武尊蝦夷征伐	一一〇	南匈奴漢に降る
七八〇		五〇		一二〇	歴史家プルターク死す
七九三	13 成務	三	武內宿禰大臣となる	一三三	
七九五		五	山川により國縣を分つ	一三五	印度カニシカ王佛教を奉ず
八二六		三六		一六六	ローマの使節支那に至る
八五九	14 仲哀	八	熊襲征伐の爲め筑紫に行幸	一九九	
八六〇		九	**神功皇后新羅征伐**	二〇〇	
八六八	15 應神	八		二〇八	赤壁の戰
八八〇		二〇		二二〇	東漢亡ぶ
八九四		三四		二三四	諸葛孔明五丈原頭に歿す
九四〇		八〇		二八〇	西晉天下を一統
九四三		八三	弓月王秦人を率ゐて歸化す	二八三	
九四五		八五	百濟より王仁來り論語千字文等を獻す	二八五	
九六六		一〇六	阿知使主父子を吳に遣し織縫工女を求む	三〇六	

日本武尊蝦夷征伐

神功皇后新羅征伐

佛教傳來

皇紀	天皇	年數	重要なる國史事項	西曆	重要なる外國史事項
九七三	16 仁德	一	都を難波の高津宮に遷す	三一三	
九七六		四	三年間稅を免じ給ふ	三一六	西晉亡ぶ
九七七		五		三一七	東晉興る
九八二		一〇	始めて稅を課し皇居を營む	三二二	
九八五		一三		三二五	**ニケーヤの宗教會議**
一〇三五		六三		三七五	**ゲルマニヤ民族大移動**
一〇五五		八三		三九五	ローマ帝國東西に分る
一〇六三	17 履中	四	始めて諸國に史官を置く	四〇三	
一〇七〇	18 反正	五		四一〇	アラリック、ローマを焚掠す
一〇七五	19 允恭	四	盟神探湯を行ひて姓氏を正す	四一五	
一〇八〇		九		四二〇	東晉亡び宋起る
一一〇〇		二九		四四〇	南北朝の始
一一一六	20 安康	三	眉輪王の變	四五六	
一一二二	21 雄略	七	后妃に蠶業を勸めしむ	四六二	
一一三六		二〇		四七六	西ローマ帝國の滅亡
一一三八		二二	豐受大神を伊勢に祀る(外宮)	四七八	
一一三九	22 清寧	二三		四七九	宋亡び齊興る
一一四六	23 顯宗	二		四八六	フランク王國建設
一一五三	24 仁賢	六		四九三	テオドリック伊太利に東ゴート王國を建設
一一六二	25 武烈	四		五〇二	齊亡び梁興る
一一八〇	26 繼體	一四		五二〇	達磨(だるま)支那に來る(梁の武帝と會見)
一一八二		一六	司馬達等來る	五二二	
一一八九		二三		五二九	ユスチニヤヌス法典出づ
	27 安閑				
一一九七	28 宣化	二	任那を助けて新羅を伐つ	五三七	
一二一二	29 欽明	一三	**百濟王佛像と經論を獻ず**(佛教の傳來)	五五二	
一二二二		二三	新羅任那の日本府を滅す	五六二	
一二四三	30 敏達	一二		五八三	隋起る〇支那人印刷術發明す
一二四七	31 用明	二	蘇我馬子物部守屋を殺す	五八七	
一二五〇	32 崇峻	三		五九〇	ローマ法王グレゴリー一世即位(ローマ法王の始)

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西曆	重要なる外國史事項
一二五三	33 推古	一	聖徳太子攝政○四天王寺建立	五九三	
一二五四		二	太子佛敎を獎勵す	五九四	
一二六四		一二	太子憲法十七條制定○始めて曆を用ふ	六〇四	
一二六七		一五	小野妹子を隋に遣す○法隆寺建立	六〇七	
一二七八		二六		六一八	隋亡び唐起る
一二八一		二九	聖徳太子薨ず	六二一	
一二八二		三〇	蘇我馬子政を執る	六二二	マホメットの紀元元年（ヘヂラ）
一二八九	34 舒明	一		六二九	玄奘印度に行く
一二九〇		二	遣唐使の始まり	六三〇	
一二九七		九	蘇我蝦夷叛く	六三七	
一三〇三	35 皇極	二	入鹿山背大兄王を害す	六四三	
一三〇五	36 孝徳	一	蝦夷父子誅せらる○年號の始	六四五	
一三〇六		二	大化改新の詔を發す	六四六	
一三一八	37 齊明	四	阿部比羅夫蝦夷征伐	六五八	
一三二〇		六	中大兄皇子水時計を造らる	六六〇	
一三二三	38 天智	二		六六三	唐百濟を亡す
一三二七		六	都を近江大津宮に遷す	六六七	
一三二八		七		六六八	唐高麗を亡す
一三二九		八	藤原鎌足薨ず	六六九	
一三三二	39 弘文	一	壬申の亂	六七二	
一三四〇	40 天武	八		六八〇	コンスタンチノープルの宗敎會議
一三四七	41 持統	一		六八七	ピピン、フランク王國の全權を掌握
一三六一	42 文武	大寶 元	大寶律令なる	七〇一	
一三六八	43 元明	和銅 元	始めて錢を鑄しめ給ふ	七〇八	
一三七〇		三	奈良奠都	七一〇	
一三七二		五	古事記成る（太安麻呂）	七一二	玄宗即位
一三七九	44 元正	養老 三	始めて右衽にす	七一九	
一三八〇		四	日本書紀成る（舍人親王）	七二〇	
一三八四	45 聖武	神龜 元	始めて家屋を瓦にて葺く	七二四	
一三八九		天平 元	歌聖柿本人麻呂歿す	七二九	
一三九〇		二		七三〇	ローマ法王東ローマ皇帝レオを破門す
一四〇一		一三	諸國に國分寺を建てしむ	七四一	
一四〇三		一五	奈良の大佛を造らしむ○東大寺建立	七四三	

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西曆	重要なる外國史事項
一四〇九	46 孝謙	天平勝寶 元	陸奥より始めて黄金を獻ず○僧行基寂す	七四九	
一四一五		七		七五五	安祿山叛く
一四一九	47 淳仁	天平寶字 三	諸國に常平倉を置く	七五九	
一四二二		六		七六二	李白死す
一四二九	48 稱德	神護景雲 三	和氣淸麻呂道鏡の野心を挫く	七六九	
一四三〇	49 光仁	寶龜 元	阿部仲麻呂唐に歿す	七七〇	杜甫死す
一四三五		六	天長節を行ふ○吉備眞備薨ず	七七五	
一四五四	50 桓武	延暦 一三	平安奠都	七九四	
一四六〇		一九		八〇〇	チャールス大帝帝位に即く西ローマ帝國の復興
一四六一		二〇	坂上田村麿蝦夷を平ぐ	八〇一	
一四六五		二四	最澄唐より歸朝し天台宗を傳ふ	八〇五	
一四六六	51 平城	大同 元	空海唐より歸朝し眞言宗を傳ふ○磐梯山破裂し猪苗代湖を生ず	八〇六	
一四六九		四		八〇九	ハルン＝アル＝ラシッド死す（サラセン王朝ノ全盛期）
一四七〇	52 嵯峨	弘仁 元	藏人所を置く○藥子の亂	八一〇	
一四七四		五		八一四	チャールス大帝歿す
一四八一		一二	藤原冬嗣勸學院を造る	八二一	
一四八八	53 淳和	天長 五		八二八	ウエセックス王エグバード、イギリス王國の基を開く
一五〇七	54 仁明	承和 一四		八四七	白樂天歿す
一五〇九		嘉祥 二		八四九	アルフレッド大王生る（八七一即位）
一五一二	55 文德	仁壽 二	小野篁薨ず	八五二	
一五一八	56 淸和	天安 二	藤原頼房攝政となる	八五八	
一五二二		貞觀 四		八六二	ロシヤの起原、ルーリック建國の礎を開く
一五四〇	57 陽成	元慶 四	在原業平歿す	八八〇	
一五四二		六		八八二	アルフレッド大王海軍を創立
	58 光孝				
一五四八	59 宇多	仁和 四	巨勢金岡御所の障子に詩人の像を畫く	八八八	
一五五〇		寛平 二	四方拜の始まり○僧正遍昭寂す	八九〇	ノルウエー人、グリーンランドを發見す
一五五四		六	遣唐使を停む	八九四	
一五五九	60 醍醐	昌泰 二	時平左大臣となり、道眞右大臣となる	八九九	
一五六一		延喜 元	道眞太宰府に流さる	九〇一	
一五六五		五	紀貫之古今集を上る	九〇五	
一五六七		七		九〇七	唐亡ぶ

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
一五七九	60 醍醐	延喜一九		九一九	ヘンリー一世ドイツ王に選立（ドイツの始）
一五八四		延長二		九二四	エドワード全ブリテンの主權を掌握
一五八五		三	諸國に風土記を上らしむ	九二五	
一五九七	61 朱雀	承平七		九三七	契丹遼と國號を改む
一五九九		天慶二	平將門、藤原純友叛す	九三九	
一六二〇	62 村上	天德四		九六〇	宋興る
一六二二		應和二		九六二	オットー大帝神聖ローマ帝國皇帝となる
一六二六		康保三	小野道風殁す	九六六	
	63 冷泉				
一六三九	64 圓融	天元二		九七九	北宋の太宗天下を統一
一六四〇		三		九八〇	デーン人英國に侵入す
	65 花山				
一六五二	66 一條	正暦三	源氏物語の著者紫式部殁す	九九二	
一六六四		寛弘元		一〇〇四	澶州の戰．眞宗契丹を破る
	67 三條				
一六七七	68 後一條	寛仁元	**藤原道長太政大臣となる**	一〇一七	カヌート全イギリスの王となる
一六七九		三	刀伊賊入寇○藤原頼通關白となる	一〇一九	
一六八一		治安元	源頼光殁す	一〇二一	
一六八二		二	道長法成寺を建立	一〇二二	
一六八八		長元元	平忠常叛す	一〇二八	
一六九九	69 後朱雀	長暦三	延暦寺の僧始めて入京强訴	一〇三九	
一七一三	70 後冷泉	天喜元	藤原頼道鳳凰堂建立	一〇五三	
一七二二		康平五	源頼義、安倍貞任、宗任を滅す（前九年の役）	一〇六二	
一七二六		治暦二		一〇六六	ヘースチングスの戰、ノルマンヂー公ウイリアム、イギリス王位に登る
一七二九	71 後三條	延久元		一〇六九	王安石の新法
一七三七		承暦元		一〇七七	ヘンリー四世カノッサにグレゴリー七世を訪ひ謝罪す
一七四三	72 白河	永保三	源義家陸奥守兼鎭守府將軍となる	一〇八三	
一七四六		應德三		一〇八六	王安石殁す○司馬温光殁す

那須與一扇のまとを射る（屋島の戰）
源頼朝幕府を開く
曾我兄弟の仇討
ジンギスカン

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
一七四七	73 堀河	寛治元	義家藤原清衡、武衡を討ち後三年の役平定	一〇八七	
一七五六		永長元		一〇九六	**第一回十字軍出發**
一七六八	74 鳥羽	天仁元	延暦寺の僧暴動、源平二氏に防がしむ	一一〇八	フランス王ルイ六世即位（一一三七）
一七八七	75 崇德	大治二		一一二七	北宋滅亡
一八〇一		永治元		一一四一	秦檜岳飛を殺す○宋金の和なる
一八〇七	76 近衛	久安三		一一四七	第二回十字軍出發（一一四九）
一八〇八		四	源頼朝生る	一一四八	
一八一四		久壽元	源爲朝鎭西を亂す	一一五四	
一八一六	77 後白河	保元元	保元の亂○爲朝伊豆大島に流さる	一一五六	モスコーの建設
一八一九	78 二條	平治元	平治の亂	一一五九	
一八二〇		永暦元	頼朝伊豆に流さる	一一六〇	
一八二七	79 六條	仁安二	**清盛太政大臣となる**（武臣太政大臣の始）	一一六七	パリーのノートルダム寺院建立
一八三四	80 高倉	承安四	義經鞍馬山より奥羽に下る	一一七四	埃及王サラデン、シリヤを征服す
一八三五		安元元	法然淨土宗を開く	一一七五	
一八三七		治承元	俊寛等鬼界ヶ島に流さる	一一七七	
一八三九		三	重盛薨す○清盛後白河法皇を御幽閉	一一七九	
一八四〇		四	頼政擧兵○頼朝石橋山に敗戰○福原遷都 義仲擧兵○富士川の戰	一一八〇	
一八四一	81 安德	養和元	清盛薨ず	一一八一	
一八四二		壽永元	藤原俊成千載集を撰す	一一八二	
一八四三		二	倶利加羅峠の戰○義仲入洛○平家都落	一一八三	
一八四四		三	宇治川の先陣爭ひ○粟津の戰（義仲戰死） 一の谷の戰	一一八四	
一八四五		四	**屋島の戰○三月壇の浦に平家亡ぶ**	一一八五	
一八四九	82 後鳥羽	文治五	泰衡義經を衣川に殺す	一一八九	第三回十字軍○朱熹の大學章句或問成る
一八五〇		建久元	西行法師寂す	一一九〇	
一八五二		三	**頼朝征夷大將軍を拜し、幕府を開く**	一一九二	
一八五三		四	曾我兄弟の仇討	一一九三	
一八五九	83 土御門	正治元	頼朝薨す○文覺流さる	一一九九	イギリス、ジョン王即位
一八六二		建仁二	榮西歸朝し臨濟宗を開く○頼家將軍となる	一二〇二	第四回十字軍（一二〇四）
一八六三		三	實朝將軍となる	一二〇三	
一八六四		元久元	北條時政、頼家を殺す	一二〇四	**東ローマ帝國の滅亡**
一八六五		二	新古今集成る○義時執權となる	一二〇五	
一八六六		建永元		一二〇六	蒙古鐵木眞、成吉思汗を稱す

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
一八七二	84 順徳	建暦二		一二一二	兒童十字軍イエルサレムに遠征
一八七五		建保三		一二一五	英國大憲章發布
一八七九		承久元	實朝、公曉に殺され源氏亡ぶ	一二一九	成吉思汗の西征
一八八一	85 仲恭	三	承久の亂	一二二一	
一八八二	86 後堀河	貞應元	兩六波羅府の始〇三上皇遷遠島され給ふ	一二二二	
一八八四		元仁元	親鸞淨土眞宗を開く	一二二四	蒙古軍ロシャの諸侯を破る
一八八五		嘉祿元	大江廣元歿す〇平政子薨ず	一二二五	
一八八八		安貞二		一二二八	第五十字軍
一八九二		貞永元	泰時貞永式目を撰む	一二三二	ケンブリッヂ大學創立
一九〇一	87 四條	仁治二		一二四一	ワールスタットの戰、蒙古北ヨーロッパ諸侯の聯合軍を破る
一九〇六	88 後嵯峨	寛元四	時賴執權となる	一二四六	
一九〇九	89 後深草	建長元		一二四九	オクスフォード大學創立
一九一三		五	日蓮法華宗を唱ふ	一二五三	
一九一六		康元元		一二五六	ドイツの大空位時代始まる（—一二七三）
一九二〇	90 龜山	文應元		一二六〇	元忽必烈即位
一九二五		文永二	續古今和歌集成る	一二六五	英國下院創設〇伊詩聖ダンテ生る
一九二八		五	蒙古の使來る〇時宗執權となる	一二六八	
一九三一		八	蒙古の使來る〇雛を大廟に告ぐ	一二七一	マルコ=ポーロの東洋漫遊
一九三二		九		一二七二	十字軍の終焉
一九三四		一一	文永の役	一二七四	
一九三九	91 後宇多	弘安二		一二七九	南宋の滅亡
一九四一		四	弘安の役 元軍十萬來寇	一二八一	
一九四二		五	鎌倉圓覺寺建立	一二八二	宋の忠臣文天祥殺さる
一九四五		八		一二八五	フランス王フイリップ四世即位（—一三一四）
一九四八	92 伏見	正應元		一二八八	オスマン=トルコ起る
	93 後伏見				
一九六二	94 後二條	乾元元		一三〇二	フランス國會の始
一九七六	95 花園	正和五	高時執權となる	一三一六	フイリップ五世即位（—一三二二）
一九九一	96 後醍醐	元弘元	楠正成義兵を擧ぐ	一三三一	
一九九二		二	隱岐に遷幸〇千早築城〇護良親王吉野に擧兵	一三三二	
一九九三		三	北條氏滅亡〇護良親王征夷大將軍となる	一三三三	
一九九四		建武元	護良親王流され給ふ	一三三四	
一九九五		二	直義護良親王を弑す〇尊氏叛す 箱根竹下の戰、官軍敗走	一三三五	ギリシャ文藝復興

新田義貞鎌倉攻め

足利直義護良親王を弑す

楠正行

ジャンヌ＝ダルク祖國の急を救ふ（英佛百年戰爭）

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
一九九六	96 後醍醐	延元元	尊氏入洛〇多々良濱の戰〇湊川の戰、正成戰死（湊川神社に祀る）名和長年戰死（名和神社）〇天皇吉野に行宮を定め給ふ	一三三六	
一九九七		二	顯家靈山に據る〇金崎城陷る	一三三七	蒙古軍ドナウ河を渡る
一九九八		三	顯家石津に戰死（靈山神社、阿部野神社） 義貞藤島に戰死（藤島神社）	一三三八	
一九九九	97 後村上	四	天皇吉野の行宮に崩じ給ふ 親房神皇正統記を著す	一三三九	百年戰爭（—一四五三）英佛兩國相戰ふ
二〇〇七		正平二	爪生野の戰	一三四七	
二〇〇八		三	四條畷の戰 正行戰死（四條畷神社）	一三四八	プラーグ大學の創立〇ペスト歐洲を擾亂
二〇一二		七	尊氏弟直義を殺す	一三五二	
二〇一四		九	親房薨ず	一三五四	獨逸の僧シュワルツ火藥を發明
二〇一六		一一		一三五六	英國黑太子エドワード大いにフランス軍を破る〇獨逸皇帝チャールス四世黃金勅書を發布し七選擧侯を定む
二〇一八		一三	尊氏死す	一三五八	
二〇一九		一四	筑後川の戰 菊池武光小貳賴尚を破る	一三五九	
二〇二八	98 長慶	二三	義滿將軍となる	一三六八	元亡び明起る
二〇三〇		建德元		一三七〇	チムール、サマルカンドに都す
二〇五二	99 後龜山	元中九	後龜山天皇京都還幸	一三九二	李成桂朝鮮建國
二〇五四	100 後小松	應永元	義滿太政大臣となる	一三九四	
二〇五七		四	義滿金閣寺を建立	一三九七	
二〇六一		八	義滿始めて明と交通す	一四〇一	
二〇六二		九		一四〇二	アンゴラの戰、チムール大に土耳古を破る
二〇七四	101 稱光	二一		一四一四	コンスタンスの宗教會議
二〇八九		永享元		一四二九	オルレャンの少女ジャンヌ=ダルクイギリス軍を破る
二〇九八	102 後花園	一〇	足利持氏亂す	一四三八	獨人グーテンベルヒ活字印刷を發明
二一一三		享德二		一四五三	東ローマ帝國の滅亡〇百年戰爭終焉
二一一五		康正元		一四五五	英國薔薇戰爭
二一一七		長祿元	太田道灌、江戸城を築く	一四五七	
二一二七	103 後土御門	應仁元	應仁の亂起る〇雪舟明に入る	一四六七	
二一四一		文明一三	一休和尚寂す	一四八一	
二一四三		一五	義政銀閣寺を建つ	一四八三	ラファエル生る（—一五二〇）〇韃靼明を侵す
二一四六		一八	上杉定正道灌を殺す	一四八六	バーソロミュー=ヂアズ喜望峰を發見

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二一五二	103 後土御門	明應元		一四九二	**コロンブス、アメリカ發見**
二一五五		四	北條早雲小田原城を取る	一四九五	
二一五八		七	地震の爲め濱名湖海に通ず	一四九八	ヴアスコダ=ガマ印度に上陸す
二一五九		八		一四九九	ヴエスプッチ南アメリカの海岸發見
二一六〇		九		一五〇〇	ポルトガル人ブラジル發見
二一六五	104 後柏原	永正二		一五〇五	ポルトガル人の印度經營○ミケランジエロ ローマに招かる
二一六六		三	加賀一向宗亂を起す	一五〇六	コロンブス歿す
二一六八		五	大內義興將軍義植を奉じ入京	一五〇八	
二一七七		一四		一五一七	**ルーテル宗教改革を稱ふ**
二一七九		一六		一五一九	ポルトガル人マゼラン世界一周の航路に就く○レオナルドダビンチ死す○スペイン人コルテス、メキシコを略す
二一八四		大永四	北條氏綱江戸城を取る	一五二四	
二一八九	105 後奈良	享祿二		一五二九	王陽明死す
二一九〇		三		一五三〇	コペルニクス、太陽中心說及び地動說を稱ふ○アウグスブルグの宗教會議
二一九五		天文四		一五三五	ヘンリー八世英國教會の首長となる
二二〇三		一二	**ポルトガル人種ケ島に鐵砲を傳ふ**	一五四三	
二二〇四		一三	河越の戰(氏康、上杉憲政を破る)	一五四四	
二二〇九		一八	スペイン人ザビエルキリスト教を傳ふ	一五四九	英國統一令の發布
二二一一		二〇	陶晴賢大內義隆を弑す	一五五一	
二二一五		弘治元	毛利元就嚴島に晴賢を滅す(嚴島の戰)	一五五五	アウグスブルグの宗教和約
二二一八	106 正親町	永祿元		一五五八	エリザベス女皇即位す(一一六〇三)
二二二〇		三	桶狹間の戰	一五六〇	
二二二一		四	川中島の戰	一五六一	
二二二四		七		一五六四	カルヴイン死す○シエキスピーア生る
二二二五		八	松永久秀將軍義輝を弑す	一五六五	スペイン人フイリッピン占領
二二二七		一〇	信長御料所回復の勅を拜す	一五六七	
二二二八		一一	信長將軍義昭を奉じて入京	一五六八	ネーデルランドの自由戰爭
二二三〇		元龜元	姉川の戰○信長皇居を修理	一五七〇	
二二三二		三	三方ケ原の戰	一五七二	セント・バーソロミユーの大虐殺
二二三三		天正元	義昭追はれ足利氏亡ぶ	一五七三	
二二三五		三	長篠の戰	一五七五	

秀吉關白となる
德川家康江戸幕府を開く
ガリレオ
大阪夏の陣
秀吉朝鮮を討つ

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二二三六	106 正親町	天正四	信長安土城に移る	一五七六	
二二三八		六	上杉謙信卒す	一五七八	
二二四一		九		一五八一	オランダ獨立宣言
二二四二		一〇	**本能寺の變**○山崎の戰	一五八二	コサック兵シベリヤ遠征
二二四三		一一	賤ケ嶽の戰○大阪城成る	一五八三	**淸の太祖奴爾哈赤兵を起す**
二二四四		一二	小牧山の戰	一五八四	サーウオーター・ローリー北カロライナに至る
二二四五		一三	**秀吉關白となる**	一五八五	フランスの內亂、三ヘンリーの戰
二二四八	107 後陽成	一六	天皇聚樂第行幸	一五八八	**英國スペインの無敵艦隊を擊滅**
二二五〇		一八	北條氏滅亡○家康江戸城に入る	一五九〇	オランダ人ヤーセン顯微鏡發明
二二五一		一九	秀吉大閤と稱す	一五九一	
二二五二		文祿元	文祿の役	一五九二	明、朝鮮を救ふ
二二五三		二	碧蹄館の戰	一五九三	
二二五四		三		一五九四	フランスヘンリー四世即位
二二五六		慶長元	秀吉明使を逐ふ	一五九六	
二二五七		二	慶長の役○淸正蔚山籠城	一五九七	
二二五八		三	秀吉薨す○泗川の戰○外征の軍歸る	一五九八	ナントの勅令發布
二二六〇		五	**關ケ原の戰**	一六〇〇	英國東印度會社創設
二二六三		八	**家康征夷大將軍となり、江戸幕府を開く**	一六〇三	英國ヂエームス一世即位
二二六四		九	山田長政シャムに至る	一六〇四	フランス東印度會社創設
二二六五		一〇	秀忠將軍となる○山內一豐死す	一六〇五	スペイン人セルヴァンテス、ドンキホーテを著す
二二六六		一一		一六〇六	オランダ人天體望遠鏡を發明
二二六九		一四	島津家久流球を占領	一六〇九	ドイツ人ケプレル遊星運動の法則發見 アムステルダム銀行創設(銀行の始)
二二七〇		一五		一六一〇	伊太利人ガリレオ木星の衛星を發見
二二七一		一六	加藤清正卒す○淺野長政卒す	一六一一	
二二七四	108 後水尾	一九	大阪冬の陣	一六一四	
二二七五		元和元	**大阪夏の陣(豐臣氏滅亡)**	一六一五	ドイツにて始めて定期新聞刊行さる
二二七六		二	家康薨ず	一六一六	
二二七八		四		一六一八	三十年戰爭始まる
二二七九		五	儒學者藤原惺窩歿す	一六一九	オランダ、ジャバにバタビヤ府をたつ
二二八〇		六	支倉常長羅馬に使して歸る	一六二〇	英國哲學者ベーコン、論理學を發表
二二八三		九	家光將軍となる	一六二三	
二二八四		寛永元		一六二四	リシユリユー、フランス首相となる
二二八八		五	濱田彌兵衛臺灣に至りオランダ人を懲らす	一六二八	

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二二九〇	109 明正	寛永 七	キリスト教、洋書輸入禁止	一六三〇	スエーデン王グスタフ、ドイツに侵入
二二九四		一一	伊賀越の復讐〇左甚五郎歿す	一六三四	
二二九五		一二	參勤交代の制を定む	一六三五	
二二九六		一三	國民の海外渡航を禁ず〇伊達政宗卒す	一六三六	太宗國號を淸と稱す
二二九七		一四	島原の亂〇蒔人本阿彌光悅歿す	一六三七	
二三〇二		一九		一六四二	オランダ人タスマン、ニュージーランド發見
二三〇三		二〇	上野寛永寺の開祖天海寂す	一六四三	フランス、マザレン宰相となる〇伊太利人トリチエリ晴雨計を發明
二三〇八	110 後光明	慶安 元	中江藤樹歿す	一六四八	ウエストファリヤ條約成り三十年戰爭終結
二三〇九		二		一六四九	英國革命起りチャールス一世死刑
二三一一		四	由井正雪の亂〇家光薨す	一六五一	クロンウエル航海條例發布
二三一四		承應 三	明の僧隱元渡來して黄檗宗を傳ふ	一六五四	
二三一七		明暦 三	江戸大火死者十一萬を算す〇德川光圀大日本史編纂に着手	一六五七	
二三二〇	111 後西	萬治 三		一六六〇	英國王政復古チャールス二世即位
二三二二		寛文 二		一六六二	鄭成功臺灣に卒す
二三二三		三		一六六三	ミルトン失樂園を著す
二三二六	112 靈元	六	山鹿素行を赤穂に流す	一六六六	ニュートン重力に關する法則發見
二三三〇		一〇	伊達騷動起る	一六七〇	
二三三九		延寶 七		一六七九	英國の人身保護律議會通過
二三四二		天和 二	山崎闇齋歿す	一六八二	ロシヤ、ペートル大帝即位
二三四七		貞享 四	綱吉生類憐みの令を發す	一六八七	
二三四八	113 東山	元祿 元		一六八八	英國の名譽革命ウイリアム三世帝位に就く
二三五〇		三	孔子堂を湯島に移す	一六九〇	
二三五一		四	熊澤蕃山歿す	一六九一	
二三五二		五	光圀湊川の碑を建つ	一六九二	
二三五三		六	井原西鶴死す	一六九三	
二三五四		七	俳聖芭蕉歿す〇狩野益信歿す	一六九四	英蘭銀行創設
二三五六		九		一六九六	ペートル大帝、トルコを討ちてアゾフを収る
二三六〇		一三	光圀薨す〇河村瑞軒歿す	一七〇〇	
二三六一		一四	國學者僧契沖歿す	一七〇一	スペイン王位繼承戰役
二三六二		一五	赤穂義士の復讐	一七〇二	
二三六五		寶永 二	儒者伊藤仁齋歿す	一七〇五	
二三六九		六	綱吉薨す	一七〇九	ポルタヴァの戰 ペートル大帝瑞典を破る

赤穂義士の仇討

フランクリン

アメリカ獨立宣言

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二三七〇	114 中御門	寶永 七	新井白石幣制を改正〇閑院宮家御創立	一七一〇	
二三七一		正德 元	白石朝鮮使節の待遇を改む	一七一一	
二三七三		三		一七一三	ユトレヒトの條約調印
二三七四		四	菱川師宣歿す〇貝原益軒歿す	一七一四	ラスタットの條約〇ドイツ人ファーレンハイト寒暖計を發明す
二三七六		享保 元	畫人尾形光琳歿す	一七一六	康熙字典成る
二三七七		二	大岡忠相江戸町奉行となる	一七一七	
二三七八		三	畫人狩野常信歿す	一七一八	
二三七九		四		一七一九	英人デフォー、ロビンソン＝クルーソーを著す
二三八〇		五	吉宗洋書の禁を弛む	一七二〇	西藏淸に降る
二三八四		九	英一蝶歿す〇近松門左衛門歿す	一七二四	
二三八七		一二	青木昆陽甘藷栽培を試む	一七二七	
二三八八		一三	荻生徂徠歿す	一七二八	オランダ人、ベーリング海峡を發見す
二三九六	115 櫻町	元文 元	國學者荷田春滿歿す〇儒學者伊藤東涯歿す	一七三六	淸高宗乾隆元年
二四〇〇		五		一七四〇	プロシヤ、フレデリック大王即位〇マリヤ＝テレサ、オーストリヤ領を繼領〇オーストリヤ繼承戰爭起る（―一七四八）
二四〇八	116 桃園	寛延 元		一七四八	佛人モンテスキュー法律の精神を著す
二四一二		寶暦 二		一七五二	フランクリン避雷針を發明す
二四一六		六		一七五六	七年戰役起る（―一七六三）
二四一七		七	杉田玄白西洋外科術を行ふ	一七五七	英人クライブ印度に佛軍を破る
二四二三		一三		一七六二	ロシヤ、女帝カザリン即位〇ルツソー、民約論を著す
二四二五	117 後櫻町	明和 二		一七六五	印紙條令の發布
二四二六		三		一七六六	印紙條令の撤回〇英國ピット首相となる
二四二七		四	竹内式部、山縣大貳罰せらる	一七六七	英人ハーグリーヴズ紡績機發明
二四二九		六		一七六九	ワット蒸氣機關發明〇英人アークライト紡績機を改良す
二四三二	118 後桃園	安永 元	田沼意次老中となる	一七七二	第一次ポーランド分割
二四三四		三		一七七四	ヘーステングス第一回印度總督となる〇英人プリーストリー酸素を發見
二四三五		四	俳人加賀千代女歿す	一七七五	北米獨立戰爭
二四三六		五		一七七六	七月四日アメリカ獨立宣言
二四三八		七		一七七八	英人クック、ハワイ諸島を發見
二四三九		八	櫻島噴火死者一萬六千	一七七九	

皇紀	天皇	年號	主要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二四四一	119 光格	天明元	大槻玄澤蘭學を唱ふ	一七八一	カントの純理批判なる○英人天王星を發見
二四四三		三	淺間山噴火、死者二萬を算す○諸國大飢饉	一七八三	ヴェルサイユ（英、佛、西）及びパリー（英米）和約成る○英國少ピット首相となる 佛人輕氣球を發明す
二四四六		六	**家齊將軍となる**	一七八六	
二四四七		七	幕府上杉鷹山を賞す○松平定信老中就任	一七八七	
二四四八		八	皇居炎上し、定信修理す○柴野栗山幕府に仕ふ	一七八八	
二四四九		寛政元		一七八九	ワシントン、アメリカ初代大統領就任○フランス大革命起る
二四五〇		二		一七九〇	ゲーテ、ファウストを著す○アダム＝スミス歿す
二四五二		四	林子平の海國兵談を咎む○露使根室に來る	一七九二	フランス共和政體となる
二四五三		五	間宮林藏、樺太探檢○高山彦九郎自殺	一七九三	フランス王ルイ十六世死刑○フランス恐怖時代
二四五五		七	圓山應擧歿す○塙保己一和學講談所を建つ	一七九五	
二四五六		八		一七九六	ジェンナー種痘の有效を證す
二四五八		一〇	近藤重藏擇捉島に標柱を立つ	一七九八	ナポレオン埃及遠征
二四六一		享和元	本居宣長歿す	一八〇一	露帝ポール暗殺、アレクサンドル一世繼ぐ
二四六三		三	蘭醫前野良澤歿す○加藤民吉瀬戸燒を始む	一八〇三	英國フランスに宣戰
二四六四		文化元	露使レザノフ長崎に來り貿易を求む	一八〇四	**ナポレオン帝位に登る**○ナポレオン法典の發布
二四六五		二	浮世繪師歌麿歿す○加藤千蔭萬葉略解を獻ず○家齊杉田玄白を引見	一八〇五	トラファルガーの大海戰、ネルソン戰死 アウステルリッツの戰、ナポレオン墺露聯合軍を破る
二四六六		三		一八〇六	神聖ローマ帝國滅亡○ナポレオン大陸封鎖令布告
二四六七		四	**露人蝦夷を侵す**	一八〇七	**米人フルトン汽船を建造**
二四六八		五	英船長崎を掠む	一八〇八	
二四七二		九	高田嘉兵衛露船に捕へらる	一八一二	ナポレオ、ロシヤ遠征
二四七三		一〇	蒲生君平歿す	一八一三	ライプチッヒの戰、ナポレオン歐洲聯合軍と戰ふ
二四七四		一一	伊能忠敬沿海實測圖なる	一八一四	パリー陷落、ナポレオン、エルバ島に流さる ウイーン會議○**スチヴンソン汽車を發明**
二四七五		一二		一八一五	ナポレオン、エルバ島脫出○ワーテルローの戰 ナポレオン敗れ、セントヘレナに流さる
二四八一	120 仁孝	文政四		一八二一	ギリシヤ獨立戰爭○メキシコ獨立す
二四八二		五	式亭三馬歿す	一八二二	ギリシヤ獨立す
二四八三		六	膝栗毛の作者蜀山人（太田南畝）歿す	一八二三	アメリカ、モンロー主義の宣言

賴山陽の日本外史なる
ペリー浦賀に來る
吉田松陰
ナイチンゲール
櫻田門外の變

皇紀	天皇	年號	主要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二四八四	120 仁孝	文政七		一八二四	南米に於けるスペインの權力全く消滅
二四八五		八	外國船打拂令を發す	一八二五	ブラジル獨立す
二四八七		一〇	賴山陽の日本外史公にさる○俳人一茶歿す	一八二七	ベートーヴェン死す○ラプラス死す
二四九〇		天保元		一八三〇	パリーの七月革命○英國リバープール、マンチェスター間世界最初の鐵道開通
二四九一		二	十返舍一九歿す	一八三一	ベルギー獨立
二四九五		六	畫人田能村竹田歿す	一八三五	ドイツ始めて鐵道開通
二四九七		八	大鹽平八郎大阪に亂す	一八三七	モールス電信機を發明
二四九八		九		一八三八	汽船始めて大西洋を渡航○佛人ダゲール寫眞術の發明完成○林則徐阿片の害を奏す
二四九九		一〇	渡邊華山、高野長英罪せらる	一八三九	阿片戰爭起る
二五〇一		一二	家齊薨ず○水野忠邦の改革	一八四一	
二五〇二		一三	高島秋帆砲術の教授す	一八四二	英國香港を領有す○阿片戰爭終る
二五〇三		一四	平田篤胤歿す	一八四三	
二五〇六		弘化三	米船浦賀に來り交易を求む	一八四六	
二五〇七	121 孝明	四		一八四七	ムラビヨフ東部シベリヤ總督となる
二五〇八		嘉永元	瀧澤馬琴歿す○佐久間象山洋式野砲を造る	一八四八	パリーの二月革命、フランス共和制となり ルイ＝ナポレオン大統領に當選○カリフォルニヤの金礦發見
二五〇九		二	英船浦賀に來る○蘭人始めて牛痘を傳ふ	一八四九	
二五一〇		三	佐藤信淵歿す	一八五〇	英佛間に海底電線布設○長髮賊の亂（—六四）
二五一二		五	明治天皇九月廿二日御降誕（太陽暦十一月三日）	一八五二	ルイ＝ナポレオン帝位に登る（ナポレオン三世）
二五一三		六	**米使ペリー浦賀に來る**	一八五三	
二五一四		安政元	ペリー再び浦賀に來る○吉田松陰捕へらる	一八五四	クリミヤ戰爭始まる
二五一五		二	安政の大地震○藤田東湖壓死す	一八五五	パリーの國際博覽會
二五一六		三	米總領事ハリス下田に來る○二宮尊德歿す	一八五六	クリミヤ戰爭終る
二五一八		五	安政の假條約（英米佛露和と通商條約） 安政の大獄	一八五八	印度英國國王の管轄に歸す
二五一九		六		一八五九	ダーウイン進化論を發表（種の起原）
二五二〇		萬延元	櫻田門外の變○齊昭薨ず	一八六〇	**リンカーン大統領に當選**
二五二一		文久元	皇妹和宮降家	一八六一	イタリヤ王國の建設○アメリカ南北戰爭 露帝農奴を解放す
二五二二		二	生麥事件○勅使三條實美東下	一八六二	ビスマルク、プロシヤの大政を執る

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二五二三	121 孝明	文久 三	將軍家茂入京○攘夷親政の朝議一變 長州藩下關海峽に外國船を砲擊○七卿都落	一八六三	リンカーン奴隷を解放す
二五二四		元治 元	蛤御門の變○長州征伐	一八六四	萬國赤十字社創立
二五二五		慶應 元	高杉晋作擧兵	一八六五	南北戰爭終る○リンカーン暗殺さる
二五二六		二	家茂薨じ慶喜將軍となる○長州再征	一八六六	普墺戰爭起る○歐米間に電信開通
二五二七	122 明治	三	明治天皇御踐祚○**十月大政奉還**○王政復古 坂本龍馬暗殺さる	一八六七	アメリカ、アラスカを露國より買收
二五二八		明治 元	鳥羽伏見の戰 **三月五ケ條の御誓文を示し給ふ** 四月西郷隆盛、勝安房の會見○七月江戸を東京と改稱○八月即位の大禮○九月會津落城白虎隊切腹○十月奥羽平定○三井八郎右衞門貿易會社設立	一八六八	英國グラッドストン首相となる
二五二九		二	三月東京遷都○五月五稜廓陷り、榎本武揚等降る○六月藩籍奉還○八月蝦夷を北海道と改稱○十二月東京横濱間電信開通	一八六九	スエズ運河完成
二五三〇		三	**正月國旗制定**○八月東京府下に中學校を開設○九月平民に姓氏を許す 十月常備兵員を定め陸軍は佛式、海軍は英式に從ふ○十一月制服を定む○庶民の佩刀を禁す	一八七〇	**普佛戰爭起る**○ナポレオン三世降伏 佛國共和制となる
二五三一		四	正月郵便開始○七月廢藩置縣○八月散髮廢刀を許可○十月岩倉具視を歐米に派遣	一八七一	プロシャ王ウイリアム一世獨帝位に登る チエール佛國大統領となる
二五三二		五	二月京濱間の鐵道成る○八月學制頒布 十一月太陽暦を採用○紀元節の制定 十二月徵兵令制定	一八七二	獨墺露の三帝ベルリンに會す（三帝の會見）
二五三三		六	正月五節句を廢し祝日を制定○十月征韓論破れ隆盛等辭職して故郷に歸る	一八七三	スペイン共和國となる○ナポレオン三世歿す
二五三四		七	正月警視廳設置○二月佐賀の亂○四月西郷從道臺灣征伐	一八七四	萬國郵便同盟創設○英國デスレーリ首相トなる
二五三五		八	八月千島樺太の交換○東京氣象臺設置	一八七五	スペインの王制恢復
二五三六		九	八月海軍鎭守府設置す	一八七六	イギリス女王ヴイクトリヤ印度女帝と稱す 米人グラハム＝ベル電話を改良
二五三七		一〇	二月西南の役起る○五月木戸孝允薨す 九月西郷隆盛自刃	一八七七	露土戰爭○エヂソン蓄音機發明
二五三八		明治 一一	大久保利通暗殺さる	一八七八	ベルリン會議開かる
二五三九		一二	府縣會開かる	一八七九	**エヂソン白熱電燈を發明**
二五四一		一四	詔して明治二十三年を國會開設の期と定む	一八八一	獨人シーメンス電車發明
二五四二		一五	一月軍人勅諭下賜○三月伊藤博文を歐洲に派遣○上野動物園創設	一八八二	ガンベッタ及ガリバルヂ死す
二五四三		一六	岩倉具視薨す（國葬）	一八八三	
二五四五		一八	**十二月伊藤博文最初の内閣組織す**	一八八五	獨人自動車發明
二五四七		二〇	一月東京に始めて電燈點火	一八八七	
二五四八		二一	始めて博士號授與○山岡鐵太郎薨す	一八八八	ドイツ、ウイリアム二世即位
二五四九		二二	**二月十一日憲法發布**	一八八九	佛人セーデー潜水艇發明
二五五〇		二三	七月第一回總選擧○**十月教育勅語下賜**○帝國議會開會	一八九〇	ビスマルク辭職
二五五一		二四	二月三條實美薨す（國葬）○五月露國皇太子大津に遭難○十月濃尾大地震死者四千餘	一八九一	名將モルトケ薨す
二五五三		二六	福島中佐單騎シベリヤ横斷	一八九三	エヂソン活動寫眞發明
二五五四		二七	七月豐島沖の海戰 **八月清國に宣戰詔勅下る** 九月大本營を廣島に進めらる○黃海の戰 十一月旅順陷落	一八九四	
二五五五		二八	二月威海衞占領○三月下關條約 **五月三國干涉遼東還附** 十月北白川能久親王臺灣征討	一八九五	ナンセンの北極探檢 伊太利兵をエチオピアに送る
二五五六		二九	三陸大津波死者二萬五千	一八九六	エチオピア、伊國侵入軍を擊破 マルコニー無線電信發明
二五五七		三〇		一八九七	ドイツ膠洲灣租借
二五五八		三一		一八九八	米西戰爭○米國ハワイを合併 米國フイリッピンを領す
二五五九		三二		一八九九	義和團の亂○獨人ツエッペリン飛行船を發明○佛國廣州灣租借○露國旅順大連租借
二五六〇		三三	伊藤博文立憲政友會を組織	一九〇〇	デンマーク人パウルゼン、ラヂオ發明 露國滿洲占領
二五六一		三四	四月廿九日今上陛下御降誕○福澤諭吉歿す	一九〇一	李鴻章歿す○シベリヤ鐵道ウラヂオ迄開通 英女皇帝ヴイクトリヤ崩す
二五六二		三五	一月日英同盟成立	一九〇二	シベリヤ鐵道完成
二五六三		三六	尾崎紅葉歿す	一九〇三	**米人ライト兄弟飛行機を完成**
二五六四		三七	二月仁川港外の戰○**露國に對する宣戰詔勅下る**○九月遼陽占領○十月沙河の會戰	一九〇四	佛人キューリー夫妻ラヂウムを發見

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二五六五	明治 122	明治三八	元旦旅順開城○三月十日**奉天占領**（陸軍記念日）五月廿七日、**日本海大會戰**（海軍記念日）九月ポーツマス條約成る	一九〇五	清國斷髮許可○露國憲法發布
二五六六		三九	南滿洲鐵道會社創立	一九〇六	ペルシャ憲法發布○西太后清國憲法を編纂せしむ
二五六七		四〇	文部省美術展覽會開かる	一九〇七	
二五六八		四一	十月十三日戊申詔書下る	一九〇八	トルコ憲法發布○宣統帝即位
二五六九		四二	十月伊藤博文ハルビンに暗殺さる（國葬）	一九〇九	北米西部の排日○米人ピアリー北極探檢
二五七〇		四三	**八月廿九日韓國併合**○佐久間艇長殉職	一九一〇	トルストイ死す○ナイチンゲール女史死す
二五七一		四四	小村壽太郎薨ず○日英同盟改訂	一九一一	伊土戰爭○支那革命起る○ノールウエイ人アムンゼン南極探檢
二五七二		四五	金栗、三島始めてオリムピック出場 **七月三十日明治天皇崩御**	一九一二	**清亡び中華民國となる**○孫逸仙南京に於て大統領就任宣言○バルカン戰爭起る 米人デビス機關銃發明
	大正 123	大正元	九月十三日明治天皇御大葬の夜乃木大將夫妻殉死		
二五七三		二	桂太郎薨ず	一九一三	支那第二革命起る○袁世凱大總統當選 第二バルカン戰爭起る○ウイルソン米大統領となる
二五七四		三	四月照憲皇太后崩御○八月對獨宣戰○九月我陸軍山東半島上陸○膠洲占領○十月南洋占領○十一月靑島陷る○東京驛成る	一九一四	**七月歐洲大戰起る** 八月パナマ運河開通
二五七五		四	五月日支條約（二十一ケ條）成る 九月井上馨薨ず○十一月大正天皇即位大禮	一九一五	一月獨潛水艦の英船擊沈開始○十月獨墺軍ベルグラード占領す○アインスタイン博士相對性原理發表
二五七六		五	四月米人スミス靑山練兵場に於て飛行機を試む○六月印度詩聖タゴール來朝○十一月東宮立太子式○十二月夏目漱石歿す○元帥大山巖薨ず	一九一六	二月獨軍ヴエルダン大攻擊開始○五月北海の英獨大海戰○九月ツエッペリン飛行船ロンドン襲擊 十二月ロイド＝ジョージ英國首相となる
二五七七		六	日本艦隊地中海に出動す 第三回極東オリンピック大會東京芝浦に開かる	一九一七	四月米國對獨宣戰 三月露國革命勃發、過激派政府成る 七月中華民國張勳復辟運動開始 九月廣東政府成立孫文大元帥となる
二五七八		七	七月シベリヤ出兵○八月米騷動勃發	一九一八	十一月カイゼル退位大戰終る

ラヂオ初放送
NORGE
リンドバーク大西洋横斷
アムンゼン北極探檢
日本南洋占領

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二五七九	大正 123	八	一月西園寺公望、牧野伸顯巴里講和會議全權に任命 六月平和條約調印 十月東京大阪間に郵便飛行を試む	一九一九	三月ムッソリーニファシスチ團結成○五月支那に排日運動起る○六月ドイツ講和條約に調印
二五八〇		九	三月尼港事件起る○十月第一回國勢調査 十二月日本の南洋委任統治正式決定	一九二〇	十一月第一回國際聯盟總會開かる 米國加州排日案議會通過
二五八一		一〇	三月皇太子殿下御外遊○九月御歸朝 十一月首相原敬暗殺され高橋是淸之に代る○皇太子殿下攝政に任ぜられ給ふ	一九二一	五月孫文廣東政府大總統に就任 十一月ワシントン會議開かる ウイルソン辭しハーヂング米大統領となる
二五八二		一一	一月大隈重信薨ず（國民葬）○二月山縣有朋薨ず（國葬）○四月日支山東撤兵條約調印○六月加藤友三郎內閣を組織す	一九二二	四月支那內亂○吳佩孚、張作霖を破る 十月ムッソリーニ武力を以て內閣組織○十二月ソヴイエット聯邦成る
二五八三		一二	**九月一日關東大震災**○山本權兵衛內閣組織○十一月國民精神作興に關する詔書下る	一九二三	七月ローザンヌ條約調印○八月米大統領ハーディング死しフーバー之に代る
二五八四		一三	一月淸浦奎吾總理大臣に任ず 皇太子殿下御成婚○六月加藤高明內閣を組織○七月メートル法實施○松方正義薨ず	一九二四	一月レーニン歿す○英國首相ボールドウイン辭しマクドナルド之に代る○二月ガンジー釋放され印度民衆狂喜○四月米國の排日移民法案上下兩院を通過す○九月全支動亂に陷る○十一月マクドナルド內閣仆れボールドウイン代る
二五八五		一四	三月ラヂオ初放送○普選案兩院通過○五月秩父宮英國御留學○十二月照宮御降誕	一九二五	二月支那の內亂に宣統廢帝北京脫出○三月孫文歿す○四月ヒンデンブルグ元帥獨大統領に當選○十月ロカルノ會議
二五八六		一五	一月訪歐飛行士歸京○若槻禮次郎內閣組織○人見絹枝孃第二回女子オリムピックに奮鬪○十月長慶天皇を皇統に列す	一九二六	五月アムンゼン飛行船にて北極通過○七月蔣介石北伐開始
	今上 124	昭和元	十二月廿五日大正天皇崩御 今上天皇御踐祚		
二五八七		二	一月秩父宮御歸朝○二月大正天皇御大葬 四月田中義一內閣を組織、全國にモラトリアム施行○五月對支出兵 十二月地下鐵開通（上野淺草間）	一九二七	支那又動亂○リンドバーク大西洋橫斷に成功
二五八八		三	二月第一回普選施行○五月濟南事件○野口英世殉職○七月陪審法公布○八月不戰條約調印○九月秩父宮御成婚 **十一月十日即位の大禮**	一九二八	六月支那國民政府軍內亂平定○張作霖爆死 張學良東三省保安總司令就任 ノビレ少將北極探檢

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西曆	重要なる外國史事項
二五八九	今上 124	昭和四	五月英國皇子グロスター殿下來朝○六月拓務省設置○七月濱口雄幸內閣成立○十月皇大神宮遷御○十月金解禁 此年東京福岡間旅客飛行開始	一九二九	三月印度、ガンヂー又捕はる○支那、南京武漢軍開戰○六月マクドナルド內閣成立 八月ツエッペリン伯號世界一週(七日―二十九日)○クレマンソー歿す
二五九〇		五	一月ロンドン軍縮會議開催吾國より若槻禮次郎、財部彪全權出席 衆議院解散○二月高松宮御成婚 四月高松宮御外遊(翌六月御歸朝) 十一月濱口首相狙擊さる○霧社事件	一九三〇	蔣介石、反對軍討伐○コーナンドイル死す
二五九一		六	三月南京漢口濟南事件解決○四月シャム國王兩陛下來朝○若槻禮次郎內閣組織○七月萬寶山事件 八月中村震太郎大尉一行虐殺事件公表○九月清水トンネル開通 九月十八日夜支那正規兵柳條溝の滿鐵線爆破滿洲事變起る○南嶺の激戰○吉林入城 十月錦州爆擊○十一月嫩江の激戰○實業界の功勞者澁澤榮一逝く○チチハル入城 十二月犬養毅內閣成る○金輸出禁止	一九三一	一月世界大戰の勇將佛のジョッフル元帥歿す 四月スペイン革命成り共和政府成る 七月ポスト、ゲッテイ機世界早廻り完成 八月英國擧國一致內閣成る 十月ハードン・バーングボン機太平洋橫斷成功 十二月スペイン大統領にザモラ當選 發明王エヂソン歿す
二五九二		七	一月錦州入城○九日古賀聯隊長戰死○櫻田門不敬事件○二十八日上海事件起る 二月上海總攻擊○廿二日爆彈三勇士上海廟行鎭擊破 三月一日林聯隊長戰死○廿八日空閑少佐戰場跡に自刄す 五月上海停戰協定成立○五一五事件犬養首相狙擊さる○齋藤實內閣組織 七月第十回萬國オリムピック大會ロスアンゼルスに開く 八月武藤大將駐滿全權大使に任ぜらる 九月十五日滿洲國承認 十月一日大東京市成る(人口五百三十萬、世界第二位) リットン報告書發表さる 十二月皇軍興安嶺突破滿洲里入城 滿洲國に帝國大使館開設	一九三二	一月ガンヂー又投獄さる 三月一日滿洲國獨立宣言○九日滿洲國建國式 執政溥儀就任 五月佛國大統領選擧ルブラン當選 六月シャム革命立憲君主制となる 十一月米國大統領改選現大統領フーバー破れルーズベルト當選

滿洲帝國皇帝御來訪

東鄕元帥

皇太子御降誕

防空演習

皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西曆	重要なる外國史事項
二五九三	今上 124	八	一月皇軍山海關占領○三月承德入城 三月二十七日國際聯盟脫退の大詔渙發さる 四月旅順要港部新設 六月世界經濟會議ロンドンに開催さる日本より石井、深井兩全權特派 七月關東軍司令官武藤元帥薨去し菱刈隆大將親任さる 八月帝都防空演習行はる 九月日印會商シムラに開かる 十二月二十三日皇太子殿下明仁親王御降誕	一九三三	一月ドイツ、ヒットラー內閣成る○米國兩院比島獨立案を可決 三月米國銀行、一齊休業○ルーズベルト產業復興法發布 六月世界經濟會議開催(於ロンドン參加國六七) 十月ドイツ國際聯盟及び軍縮會議より脫退
二五九四		九	三月北海道函館の大火○五月秩父宮康德皇帝卽位慶祝の爲め滿洲帝國御訪問 五月三十日東鄕元帥薨去○六月日蘭會商バタヴイアに開かる○七月齋藤內閣辭職、岡田啓介之に代る 九月二十一日關西地方に大暴風雨死傷者多數○十二月ワシントン條約(五・五・三海軍制限)廢棄通告 菱刈大將辭し南次郎大將關東軍司令官兼全權大使に任ぜらる	一九三四	三月一日滿洲國帝政宣布第一世康德帝卽位 サルバドル共和國滿洲國を承認 八月獨大統領ヒンデンブルグ元帥薨去しヒットラー總統となる 十月ユーゴースラビヤ國王暗殺さる
二五九五		十	二月坪內逍遙博士逝去 三月北滿鐵道讓渡協定調印 四月滿洲帝國康德皇帝御來朝 內閣審議會を設く 九月 林陸相辭し川島義之代る 遞相床次竹二郎逝去し望月圭介代る 十月一日 國勢調査施行 十一月二十八日 第二王子義宮正仁親王御降誕 十二月 ロンドン海軍軍縮會議開かる 我が國より永野永井兩全權派遣	一九三五	一月歐洲大戰以來の懸案ザール地方の歸屬を決すべき人民投票行はれドイツ復歸派勝つ 三月シャム國王プラジャヂイポク退位アナンダ・マヒドル卽位 ドイツ、ヴエルサイユ條約軍事條項の廢棄を宣言 六月フランス、ラヴアール內閣成立 イギリス、マクドナルド首相辭しボールドウイン之に代る

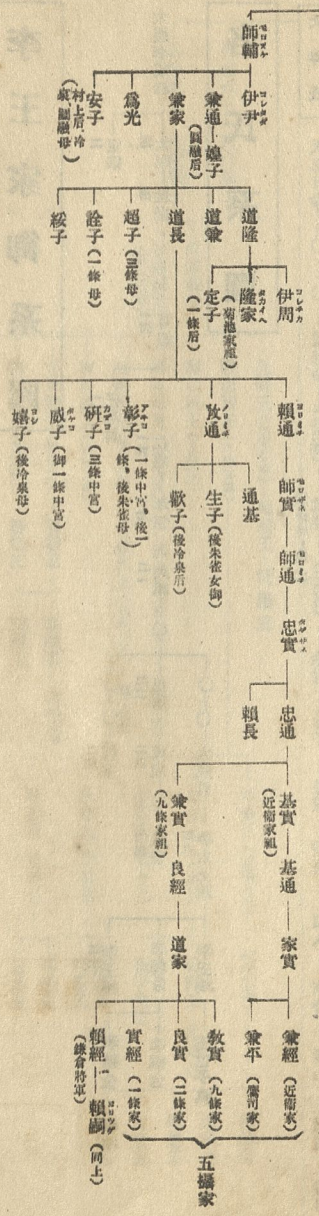
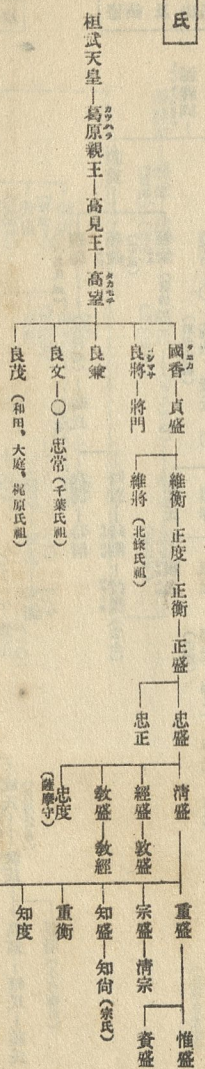
皇紀	天皇	年號	重要なる國史事項	西暦	重要なる外國史事項
二五九五		昭和十		一九三五	九月 ケーソン フイリツピン共和國初代大統領に當選す 十月 伊太利、エチオピヤ開戰 十二月 ロンドン海軍軍縮會議開かる

東アフリカと地中海

皇室御系圖
東京帝國大學史料編纂所編
讀史備要による
伊弉諾尊
伊弉冉尊
大山祇神 — 木花開耶姬尊（瓊瓊杵尊妃）
足名椎 — 奇稻田姬（素戔嗚尊妃）
天照大神 — 天忍穗耳尊 — 瓊瓊杵尊 — 彥火火出見尊 — 鸕鶿草葺不合尊
五瀨命
一 神武天皇 — 二 綏靖天皇 — 三 安寧天皇 — 四 懿德天皇 — 五 孝昭天皇
六 孝安天皇 — 七 孝靈天皇 — 八 孝元天皇 — 九 開化天皇 — 一〇 崇神天皇 — 一一 垂仁天皇 — 一二 景行天皇
吉備津彥命
大彥命 — 武渟川別尊
□ — □ — 武內宿禰
彥坐王
豐城入彥命
豐鍬入姬命
倭姬命
月讀命
素戔嗚命 — 大國主命 — 事代主命
□ — 經津主命
□ — 武甕槌命
日本武尊 — 一四 仲哀天皇 — 一五 應神天皇 — 一六 仁德天皇
一三 成務天皇
菟道稚郎子皇子
稚渟毛二派皇子 — 意富富杼王 — 宇非王 — 彥主人王 — 二六 繼體天皇
一七 履中天皇 — 磐坂市邊押磐皇子 — 二四 仁賢天皇 — 二五 武烈天皇
二三 顯宗天皇
忍海飯豐青尊
一八 反正天皇
一九 允恭天皇 — 二〇 安康天皇
二一 雄略天皇 — 二二 清寧天皇
大草香皇子 — 眉輪王
二七 安閑天皇
二八 宣化天皇
二九 欽明天皇
三〇 敏達天皇 — 押坂彥人大兄皇子
難波皇子 —（三代略）— 橘諸兄
三一 用明天皇 — 聖德太子 — 山背大兄王
三三 推古天皇（女帝）
穴穗部間人皇女（聖德太子御母）
三二 崇峻天皇
三四 舒明天皇
茅淳王 — 三五（女帝）皇極天皇・三七（女帝）齊明天皇（重祚）
三六 孝德天皇 — 有馬皇子
三八 天智天皇 — 四一（女帝）持統天皇
四三（女帝）元明天皇
三九 弘文天皇
施基皇子 — 四九 光仁天皇 — 五〇 桓武天皇
五一 平城天皇 — 阿保親王 — 在原業平
五二 嵯峨天皇 — 五四 仁明天皇 — 五五 文德天皇 — 五六 清和天皇 — 五七 陽成天皇 — 元良親王
貞純親王 — 源經基
惟喬親王
源融
五三 淳和天皇
葛原親王 — 高見王 — 平高望
五八 光孝天皇 — 五九 宇多天皇 — 六〇 醍醐天皇
六一 朱雀天皇
六二 村上天皇
兼明親王
源高明
齊世親王
六三 冷泉天皇 — 六五 花山天皇
六七 三條天皇
六四 圓融天皇 — 六六 一條天皇
爲平親王
具平親王
四〇 天武天皇 — 草壁皇子 — 四四（女帝）元正天皇
四二 文武天皇 — 四五 聖武天皇 — 四六（女帝）孝謙天皇・四八（女帝）稱德天皇（重祚）
舍人親王 — 四七 淳仁天皇
敦康親王
六八 後一條天皇
六九 後朱雀天皇 — 七〇 後冷泉天皇
七一 後三條天皇 — 七二 白河天皇 — 七三 堀河天皇 — 七四 鳥羽天皇
輔仁親王 — 源有仁
七五 崇德天皇 — 重仁親王
七七 後白河天皇 — 七八 二條天皇 — 七九 六條天皇
七六 近衞天皇
八〇 高倉天皇 — 八一 安德天皇
守貞親王 — 八六 後堀河天皇 — 八七 四條天皇
八二 後鳥羽天皇 — 八三 土御門天皇 — 八八 後嵯峨天皇
八四 順德天皇 — 八五 仲恭天皇
宗尊親王 — 惟康親王
八九 後深草天皇 — 九二 伏見天皇 — 九三 後伏見天皇 — 北朝一 光嚴院
北朝二 光明院
九五 花園天皇
久明親王 — 守邦親王
北朝三 崇光院 — 榮仁親王（伏見宮祖）— 貞成親王 — 一〇二 後花園天皇 — 一〇三 後土御門天皇 — 一〇四 後柏原天皇 — 一〇五 後奈良天皇
北朝四 後光嚴院 — 北朝五 後圓融院 — 一〇〇 後小松天皇 — 一〇一 稱光天皇
九〇 龜山天皇 — 九一 後宇多天皇 — 九四 後二條天皇
九六 後醍醐天皇
尊良親王
恒良親王
成良親王
九七 後村上天皇 — 九八 長慶天皇
九九 後龜山天皇
護良親王
宗良親王
懷良親王
一〇六 正親町天皇 — 誠仁親王 — 一〇七 後陽成天皇 — 一〇八 後水尾天皇 — 一〇九（女帝）明正天皇
一一〇 後光明天皇
一一一 後西天皇
一一二 靈元天皇
智仁親王
好仁親王（有栖川宮祖）
七代略 — 熾仁親王 — 威仁親王

宮家御系圖
一一三 東山天皇
一一四 中御門天皇
一一五 櫻町天皇
一一七 後櫻町天皇（女帝）
一一六 桃園天皇
一一八 後桃園天皇
直仁親王（閑院宮祖）
典仁親王
一一九 光格天皇
一二〇 仁孝天皇
一二一 孝明天皇
親子內親王（和宮）
一二二 明治天皇
一二三 大正天皇
昌子內親王（竹田宮妃）
房子內親王（北白川宮妃）
允子內親王（朝香宮妃）
聰子內親王（東久邇宮妃）
一二四 今上天皇
雍仁親王（秩父宮）
宣仁親王（高松宮）
崇仁親王（三笠宮）
成子內親王（照宮）
和子內親王（孝宮）
厚子內親王（順宮）
皇太子 明仁親王（繼宮）
正仁親王（義宮）
崇光院
榮仁親王
貞成親王
後花園天皇
貞常親王
邦高親王
貞敦親王
邦輔親王
貞康親王
邦房親王
貞清親王
邦尙親王
貞致親王
邦永親王
貞建親王
邦道親王
邦忠親王
貞行親王
邦賴親王
貞敬親王
邦家親王
守脩親王（梨本宮祖）
晃親王（山階宮祖）
菊麿王
武彥王
朝彥親王（久邇宮祖）
彰仁親王（小松宮）
能久親王（北白川宮）
恒久王（竹田宮）
恒德王
成久王（北白川宮）
永久王
博經親王（華頂宮）
智成親王（北白川宮）
貞愛親王（伏見宮）
博恭王
博義王
博明王
博英王
載仁親王（閑院宮）
春仁王
依仁親王（東伏見宮）
邦憲王（賀陽宮祖）
恒憲王
邦壽王
治憲王
章憲王
文憲王
宗憲王
邦彥王（久邇宮）
朝融王
邦昭王
良子女王（皇后陛下）
守正王（梨本宮）
多嘉王（久邇宮）
家彥王
德彥王
鳩彥王（朝香宮）
孚彥王
正彥王
稔彥王（東久邇宮）
盛厚王
彰常王
俊彥王
李王家御系圖
太祖李成桂
二 定宗
三 太宗
四 世宗
一四 宣祖
一五 光海君
一六 仁祖
一七 孝宗
二一 英祖
二二 正宗
二三 純祖
二四 憲宗
二五 哲宗
大院君
二六 李太王熙
二七 李王拓
李堈公
李鍵公
李沖
李鍝公
李王垠
王世子玖
各氏系圖
大伴氏
天忍日命
道臣命
（六代略）
武持（大伴姓を賜ふ）
（二代略）
金村
咋子
長德
安麿
旅人
家持
國道
善男
物部氏
饒速日命
可美眞手命
（八代略）
伊莒弗
目
荒山
尾輿
守屋
（三代略）
麁鹿火
蘇我氏
孝元天皇
彥太忍信命
屋主忍男武雄心命
武內宿禰
平群眞鳥
蘇我石川
滿智
韓子
高麗
稻目
馬子
蝦夷
入鹿
物部大臣
石川麿
乳娘（孝德妃）
磐之媛（仁德后、履中、反正、允恭母）
和氣氏
垂仁天皇
鐸石別命
（十二代略）
平麿
廣蟲
淸麿
廣世
菅原氏
野見宿禰
（十代略）
宇庭
古人
淸公
是善
道眞
淸人
高視
雅規
資忠
孝標
淳茂
在躬
輔正

藤原氏
天兒屋根命
五攝家
—182—
源氏
清和天皇
平氏
桓武天皇
北條氏
平貞盛
—183—

新田氏
足利氏
源義家—義國
義重(新田氏)—(五代略)—朝氏—義貞—義顯
義助—義治
義康(足利氏)—(五代略)—貞氏—尊氏—義詮(二)—義滿(三)
直義
基氏—氏滿—滿兼—持氏—成氏(古河公方)—政氏—高基—晴氏—義氏
義明(小弓御所)
管領及山名・今川氏
源義國
義重—義範(山名氏祖)—(六代略)—時氏(山名)—氏清—時清
義俊(里見)
義兼(新田)
時義—時熙—持豐(宗全)
義康—義兼
義清—○—義季(細川氏祖)—俊氏—○—賴春—賴元—滿元—持之—勝元—政元
和氏
賴之
義純(畠山氏祖)
義氏—長氏—國氏—(七代略)—氏親—義元—氏眞
持國—義就
政長(養子)
泰氏—賴氏—家時—貞氏—尊氏(足利氏)
家氏(斯波氏祖)—○—家貞—高經—義將—○—○—○—義建
義敏(養子)
義廉(養子)
楠氏
楠諸兄—爲政—行資—成綱—兼遠—盛仲—正遠
正成—正行—正勝
正季—正時—正秀—正盛
正氏—正儀—正平—朝成
武田氏
源賴義—義光—義清(武田氏祖)—(十五代略)—信虎—晴信(信玄)—勝賴
上杉氏
藤原冬嗣—良門—(十一代略)—重房(上杉氏祖)—賴重—重顯(扇谷上杉氏)
憲房(山内上杉氏)—(四代略)—憲實—憲忠
房顯—○—憲房—憲政
長尾氏
平高望—良文—忠通—景村—(七代略)—景忠—景廉—高景(越後長尾氏)—賴景—重景—熊景—爲景—輝虎(長尾爲景子景虎)(謙信)—景勝(養子)(出羽米澤)
織田氏
平重盛—資盛—親眞(織田氏祖)—(十五代略)—信秀—信長(將軍)—信忠—秀信
信康
信雄—秀雄
信孝
秀勝
信良
豐臣氏
木下彌右衛門—秀吉(豐臣氏)
秀長
女(三好吉房妻)—秀次
秀勝
秀次(養子)
秀秋(養子)
鶴松丸
秀賴—國松丸
徳川氏
源義家—義重—義季—(十二代略)—賴氏—清康—廣忠(新田)(徳川氏祖)(稱松平)
家康(一)(將軍)
信康
秀康(結城氏)
秀忠(二)—家光(三)—家綱(四)
忠輝
義直(尾張家祖)
賴宣(紀伊家祖)—光貞—吉宗(八)—家重(九)—家治(一〇)
賴房(水戸家祖)—光圀—(八代略)—齊昭—慶喜(一五)
宗武(田安家祖)
宗尹(一橋家祖)—治濟—家齊(一一)—家慶(一二)—家定(一三)
家茂(一四)
慶久
喜久子(高松宮妃)
慶光

御歴代皇居及御陵

御歴代	帝號	皇居	陵名	陵所在地
一	神武	橿原宮	畝傍山東北陵	奈良縣畝傍町
二	綏靖	葛城高丘宮	桃花鳥田丘上陵	奈良縣畝傍町
三	安寧	片鹽浮穴宮	畝傍山西南御陰井上陵	奈良縣畝傍町
四	懿德	輕曲峽宮	畝傍山南纖沙溪上陵	奈良縣畝傍町
五	孝昭	掖上池心宮	掖上博多山上陵	奈良縣大正村
六	孝安	室秋津島宮	玉手丘上陵	奈良縣掖上村
七	孝靈	廬戸宮	片丘馬坂陵	奈良縣王寺町
八	孝元	輕境原宮	劍池島上陵	奈良縣畝傍町
九	開化	春日率川宮	春日率川坂上陵	奈良市油坂町
一〇	崇神	磯城瑞籬宮	山邊道勾岡上陵	奈良縣柳本町
一一	垂仁	纒向珠城宮	菅原伏見東陵	奈良縣都跡村
一二	景行	纒向日代宮	山邊道上陵	奈良縣柳本町
一三	成務	高穴穗宮	狹城盾列池後陵	奈良縣平城村
一四	仲哀	穴門豐浦宮	惠我長野西陵	大阪府藤井寺町
一五	應神	豐明宮	惠我藻伏岡陵	大阪府古市町
一六	仁德	高津宮	百舌鳥耳原中陵	堺市
一七	履中	稚櫻宮	百舌鳥耳原南陵	大阪府神石村
一八	反正	丹比柴籬宮	百舌鳥耳原北陵	堺市
一九	允恭	遠飛鳥宮	惠我長野北陵	大阪府道明寺村
二〇	安康	石上穴穗宮	菅原伏見西陵	奈良縣伏見村
二一	雄略	泊瀬朝倉宮	丹比高鷲原陵	大阪府高鷲村
二二	清寧	磐余甕栗宮	河內坂門原陵	大阪府西浦村
二三	顯宗	近飛鳥八釣宮	傍丘磐杯丘南陵	奈良縣下田村
二四	仁賢	石上廣高宮	埴生坂本陵	大阪府藤井寺町
二五	武烈	泊瀬列城宮	傍丘磐杯丘北陵	奈良縣志都美村
二六	繼體	玉穗宮	三島藍野陵	大阪府三島村
二七	安閑	勾金橋宮	古市高屋丘陵	大阪府古市町
二八	宣化	檜隈廬入野宮	身狹桃花鳥坂上陵	奈良縣畝傍町
二九	欽明	磯城島金刺宮	檜隈坂合陵	奈良縣坂合村
三〇	敏達	幸玉宮	河內磯長中尾陵	大阪府磯長村
三一	用明	池邊雙槻宮	河內磯長原陵	大阪府磯長村
三二	崇峻	倉梯柴垣宮	倉梯岡陵	奈良縣多武峰村

御歴代	帝號	皇居	陵名	陵所在地
三三	推古	豐浦宮	磯長山田陵	大阪府山田村
三四	舒明	岡本宮	押坂內陵	奈良縣城島村
三五	皇極	飛鳥板蓋宮		奈良縣越智岡村
三六	孝德	長柄豐碕宮	大坂磯長陵	大阪府山田村
三七	齊明	飛鳥川原宮	越智岡上陵	奈良縣越智岡村
三八	天智	近江大津宮	山科陵	京都市山科
三九	弘文	近江大津宮	長等山前陵	大津市別所町
四〇	天武	淨見原宮	檜隈大內陵	奈良縣高市村
四一	持統	藤原宮	檜隈大內陵	奈良縣高市村
四二	文武	藤原宮	檜隈安古岡上陵	奈良縣坂合村
四三	元明	平城宮	奈保山東陵	奈良市
四四	元正	平城宮	奈保山西陵	奈良市
四五	聖武	平城•難波宮	佐保山南陵	奈良市
四六	孝謙	平城宮		奈良縣平城村
四七	淳仁	平城宮	淡路陵	淡路賀集村
四八	稱德	平城宮	高野陵	奈良縣平城村
四九	光仁	平城宮	田原東陵	奈良縣田原村
五〇	桓武	長岡•平安宮	柏原陵	京都市桃山
五一	平城	平安宮	楊梅陵	奈良縣都跡村
五二	嵯峨	平安宮	嵯峨山上陵	京都市北嵯峨
五三	淳和	平安宮	大原野西嶺上陵	京都府大原野村
五四	仁明	平安宮	深草陵	京都市深草瓦町
五五	文德	平安宮	田邑陵	京都市太秦町
五六	清和	平安宮	水尾山陵	京都市嵯峨水尾町
五七	陽成	平安宮	神樂岡東陵	京都市眞如町
五八	光孝	平安宮	後田邑陵	京都市馬場町
五九	宇多	平安宮	大內山陵	京都市宇多野谷
六〇	醍醐	平安宮	後山科陵	京都市醍醐
六一	朱雀	平安宮	醍醐陵	京都市醍醐
六二	村上	平安宮	村上陵	京都市宇多野谷
六三	冷泉	平安宮	櫻本陵	京都市法然院
六四	圓融	平安宮	後村上陵	京都市宇多野谷
六五	花山	平安宮	紙屋川上陵	京都市衣笠
六六	一條	平安宮	圓融寺北陵	京都市宇多野谷
六七	三條	平安宮	北山陵	京都市衣笠
六八	後一條	平安宮	菩提樹院陵	京都市神樂岡
六九	後朱雀	平安宮	圓乘寺陵	京都市龍安寺
七〇	後冷泉	平安宮	圓教寺陵	京都市龍安寺
七一	後三條	平安宮	圓宗寺陵	京都市龍安寺
七二	白河	平安宮	成菩提院陵	京都市竹田
七三	堀河	平安宮	後圓教寺陵	京都市龍安寺
七四	鳥羽	平安宮	安樂壽院陵	京都市竹田
七五	崇德	平安宮	白峰陵	香川縣松山村
七六	近衞	平安宮	安樂壽院南陵	京都市竹田
七七	後白河	平安宮	法住寺陵	京都市三十三間堂
七八	二條	平安宮	香隆寺陵	京都市平野八丁
七九	六條	平安宮	清閑寺陵	京都市清閑寺
八〇	高倉	平安宮	後清閑寺陵	京都市清閑寺

御歴代	帝號	皇居	陵名	陵所在地
八一	安德	福原宮	阿彌陀寺陵	下關市
八二	後鳥羽	平安宮	大原陵	京都府大原村
八三	土御門	平安宮	金原陵	京都海印寺村
八四	順德	平安宮	大原陵	京都府大原村
八五	仲恭	平安宮	九條陵	京都市深草
八六	後堀河	平安宮	觀音寺陵	京都市今熊野
八七	四條	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
八八	後嵯峨	平安宮	嵯峨南陵	京都市嵯峨
八九	後深草	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
九〇	龜山	平安宮	龜山陵	京都市嵯峨
九一	後宇多	平安宮	蓮華峰寺陵	京都市嵯峨
九二	伏見	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
九三	後伏見	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
九四	後二條	平安宮	北白河陵	京都市北白川
九五	花園	平安宮	十樂院上陵	京都市粟田口
九六	後醍醐	平安宮	塔尾陵	奈良縣吉野村
九七	後村上	平安宮	檜尾陵	大阪府川上村
九八	長慶	平安宮	―	―
九九	後龜山	平安宮	嵯峨小倉陵	京都市嵯峨
一〇〇	後小松	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
一〇一	稱光	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
一〇二	後花園	平安宮	後山國陵	京都府山國村

御歴代	帝號	皇居	陵名	陵所在地
一〇三	後土御門	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
一〇四	後柏原	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
一〇五	後奈良	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
一〇六	正親町	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
一〇七	後陽成	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
一〇八	後水尾	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一〇九	明正	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一〇	後光明	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一一	後西	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一二	靈元	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一三	東山	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一四	中御門	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一五	櫻町	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一六	桃園	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一七	後櫻町	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一八	後桃園	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一一九	光格	平安宮	後月輪陵	京都市今熊野
一二〇	仁孝	平安宮	後月輪陵	京都市今熊野
一二一	孝明	平安宮	後月輪東山陵	京都市今熊野
一二二	明治	宮城	伏見桃山陵	京都市伏見區
一二三	大正	宮城	多摩陵	東京府横山村
一二四	今上	宮城		

主なる神社

○印は例祭に特に勅祭あらせられる神社

神宮

神宮	祭神	神嘗祭	鎮座地
○皇大神宮	天照大神	一〇・一七	宇治山田市
○豊受大神宮	豊受大神	一〇・一六	宇治山田市

官幣大社

社名	祭神	祭日	鎮座地
○賀茂別雷神社	別雷命	五・一五	京都市上賀茂
○賀茂御祖神社	玉依姫命・賀茂健角身命	五・一五	京都市下鴨宮河町
○石清水八幡宮	品陀別命・息長帶姫命・比賣神	九・一五	京都府八幡町
松尾神社	大山咋命・中津島姫命	四・二	京都市松尾山
平野神社	今木神・久度神・古開神・比咩神	四・二	京都市平野宮本町
稻荷神社	倉稻魂神・猿田彦命・大宮女命	四・九	京都市深草
大神神社	倭大物主櫛𤭖玉命	四・九	奈良縣三輪町
大和神社	倭大國魂神・八千戈神・御年神	四・一	奈良縣朝和村
石上神宮	布都御魂劍	九・一五	奈良縣丹波市町
○春日神社	建御賀豆智命・伊波比主命・天之子八根命・比賣神	三・一三	奈良市
廣瀬神社	若宇迦賣命	四・四	奈良縣河合村
龍田神社	天御柱命・國御柱命	四・四	奈良縣三郷村
丹生川上神社	高龗神・闇龗神・罔象女神	上社一〇・八 中社一〇・一六 下社六・一	奈良縣川上村(上) 小川村(中) 丹生村(下)
枚岡神社	天兒屋根命・比賣神・武甕槌命・齋主命	二・一	大阪府枚岡村
大鳥神社	大鳥連祖命	八・一三	大阪府鳳町
住吉神社	表筒男命・中筒男命・底筒男命・息長帶姫命	六・三〇	大阪市住吉町
生國魂神社	生島神・足島神	九・九	大阪市生玉町
廣田神社	撞賢木嚴之御魂天疎向津媛命	三・一六	兵庫縣大社村

社名	祭神	祭日	鎮座地
○氷川神社	須佐之男命・大己貴命・稲田姫命	八・一	埼玉縣大宮町
安房神社	天太玉命	八・一〇	千葉縣神戸村
香取神宮	伊波比主命	四・一四	千葉縣香取町
鹿島神宮	武甕槌命	九・一	茨城縣鹿島町
三島神社	玉籤入彥嚴之事代主命	八・一六	靜岡縣三島町
○熱田神宮	草薙神劍	六・二一	名古屋市
日吉神社	大山咋神・大己貴神	四・一四	滋賀縣坂本村
日前神宮 國懸神宮	日前大神 國懸大神	九・二六	和歌山市
○出雲大社	大國主命	五・一四	島根縣大社町
宇佐神宮	譽田別尊・比賣命・大帶姫命	三・一八	大分縣宇佐町
霧島神宮	天津日高彥火瓊瓊杵尊	九・一九	鹿兒島縣東襲山村
伊弉諾神社	伊邪那岐命	四・二二	兵庫縣多賀村
香椎宮	仲哀天皇・神功皇后	一〇・二九	福岡縣香椎村
宮崎神宮	神日本磐余彥尊	一〇・二六	宮崎市
○橿原神宮	神武天皇・媛蹈鞴五十鈴媛皇后	二・一一	奈良縣畝傍町
平安神宮	桓武天皇	四・一五	京都市岡崎町
氣比神宮	伊奢沙別命・日本武尊・帶中津彥命・譽田別命・豐姫命・武內宿禰命	九・四	福井縣敦賀町
鹿兒島神宮	天津日高彥穗穗出見命	八・一五	鹿兒島縣隼人町
鵜戸神宮	鸕鶿草葺不合尊	二・一	宮崎縣鵜戸村
淺間神社	木花咲耶姫命	二・四	大宮町（本宮） 富士山頂（奥宮）
建部神社	日本武尊	四・一五	滋賀縣瀨田町
札幌神社	大國魂命・大己貴神・少彥名命	六・一五	北海道札幌市外藻岩村
宗像神社	多紀理姫命・市杵島姫命・多岐都姫命	二・一五	福岡縣（邊津宮） 田島村（中津宮） 大島村（沖津宮）
吉野神社	後醍醐天皇	九・二七	奈良縣吉野町
月山神社	月讀命	七・一五	山形縣立谷澤村
多賀神社	伊邪那岐命・伊邪那美命	四・二二	滋賀縣多賀村
阿蘇神社	健磐龍命	七・二八	熊本縣宮地町
筥崎宮	應神天皇	八・一五	福岡縣箱崎町
八坂神社	素戔嗚尊・稲田比賣命・八柱御子神	六・一五	京都市祇園町
日枝神社	大山咋命	六・一五	東京市永田町
竈山神社	彥五瀨命	九・二三	和歌山縣三田村

社名	祭神	祭日	鎮座地
熊野坐神社	家都御子神	四・一五	和歌山縣本宮村
熊野速玉神社	熊野速玉神	一〇・一五	和歌山縣新宮市
諏訪神社	建御名方富命（上社） 八坂刀賣命（下社）	四・一五 八・一	長野縣中洲村（上社） 下諏訪町（下社）
明治神宮	明治天皇・昭憲皇太后	一一・三	東京市
丹生都比賣神社	丹生都比賣神	一〇・一六	和歌山縣天野村
臺灣神社	大國魂命・大己貴命・少彥名命・能久親王	一〇・二八	臺北市
樺太神社	大國魂命・大己貴命・少彥名命	八・二三	豐原町
朝鮮神宮	天照大神・明治天皇	一〇・一七	京城府南山

官幣中社

社名	祭神	祭日	鎮座地
白峰宮	崇德天皇・淳仁天皇	九・二一	京都市
赤間宮	安德天皇	一〇・七	下關市
水無瀨宮	後鳥羽天皇・土御門天皇・順德天皇	三・七	大阪府島本村
鎌倉宮	護良親王	八・二〇	神奈川縣鎌倉町
井伊谷宮	宗良親王	九・二二	靜岡縣井伊谷村
八代宮	懷良親王	八・三	熊本縣八代町
梅宮神社	酒解神・大若子神・小若子神・酒解子神	四・三	京都市
貴船神社	闇龗神	六・一	京都府鞍馬村
大原野神社	建御賀豆智命・伊波比主命・天之子八根命・比賣命	四・八	京都府大原野町
吉田神社	建御賀豆智命・伊波比主命・天之子八根命・比賣命	四・一八	京都市
北野神社	菅原道眞	八・四	京都市
金鑽神社	天照大神・素戔嗚尊	四・一五	埼玉縣青柳村
金崎宮	尊良親王・恒良親王	五・六	福井縣敦賀町
太宰府神社	菅原道眞	八・二五	福岡縣太宰府町
生田神社	稚日女神	四・一五	神戸市
長田神社	事代主神	一〇・一八	神戸市
海神社	底津綿津見命・中津綿津見命・上津綿津見命	一〇・一二	兵庫縣垂水村
英彥山神社	忍骨命	九・二八	福岡縣彥山村
嚴島神社	市杵島姫命	六・一七	廣島縣嚴島町
住吉神社	表筒男命荒魂・中筒男命荒魂・底筒男命荒魂	三・一五	山口縣勝山村

社名	祭神	祭日	鎭座地
吉備津神社	大吉備津彦命	一〇・一八	岡山縣眞金町
伊太祁曾神社	大屋毘古命	一〇・一五	和歌山縣西山東村
熊野那智神社	家津御子神・熊野速玉神・熊野夫須美神	七・一四	和歌山縣那智村
御上神社	天之御影命	五・一四	滋賀縣三上村
臺南神社	能久親王	一〇・二八	臺南市

官幣小社

社名	祭神	祭日	鎭座地
大國魂神社	大國魂命	五・五	東京府府中
波上宮	速玉男尊・伊弉冊尊・事解男尊	五・一七	那覇市
竈門神社	玉依姫命	二・一五	福岡縣太宰府町
住吉神社	底筒男命・中筒男命・表筒男命	九・一三	福岡市
志賀海神社	底津綿津見神・中津綿津見神・表津綿津見神	九・九	福島縣志賀岡村

別格官幣社

社名	祭神	祭日	鎭座地
談山神社	藤原鎌足	一一・一七	奈良縣多武峰村
護王神社	和氣清麿・和氣廣蟲	四・四	京都御所西
小御門神社	藤原師賢	四・二九	千葉縣小御門村
菊池神社	菊池武時・同武重・同武光	五・五	熊本縣隈府町
湊川神社	楠木正成	七・一三	神戸市
名和神社	名和長年	五・七	鳥取縣名和村
阿倍野神社	北畠親房・同顯家	一・二四	大阪市
藤島神社	新田義貞	八・二五	福井市
結城神社	結城宗廣	五・一	津市
豐榮神社	毛利元就	一〇・一	山口市
建勳神社	織田信長	七・一	京都市
豐國神社	豐臣秀吉	九・一八	京都市
東照宮	徳川家康	六・一	栃木縣日光町
常磐神社	水戸光圀・同齊昭	五・一三	水戸市
照國神社	島津齊彬	一〇・二八	鹿兒島市
○靖國神社	明治維新前後殉國者及戰歿者	四・三〇 一〇・二三	東京市
靈山神社	北畠親房・同顯家・同顯信・同守親	四・二三	福島縣靈山村
梨木神社	三條實萬・同實美	一〇・一〇	京都御所東
東照宮	徳川家康	四・一七	靜岡縣久能村

社名	祭神	祭日	鎭座地
四條畷神社	楠正行	二・一二	大阪府四條畷村
唐澤山神社	藤原秀郷	一〇・二五	栃木縣田沼町
上杉神社	上杉謙信	四・二九	米澤市
尾山神社	前田利家	四・二七	金澤市
野田神社	毛利敬親	三・五	山口市
北畠神社	北畠顯能	一〇・一二	三重縣多氣村
佐嘉神社	鍋島直正	一〇・一二	佐賀市
山內神社	山內豐信	一一・一六	高知市

國幣大社

社名	祭神	祭日	鎭座地
氣多神社	大己貴命	四・三	石川縣一ノ宮村
大山祇神社	大山積神	四・二二	愛媛縣宮浦村
高良神社	高良玉垂命	一〇・一三	福岡縣御井町
多度神社	多度神	五・五	三重縣多度村
熊野神社	神祖熊野大神櫛御氣野命	一〇・一四	島根縣熊野村
南宮神社	金山彦命	五・五	岐阜縣宮代村

國幣中社

社名	祭神	祭日	鎭座地
敢國神社	敢國津神	三・五	三重縣府中村
淺間神社	木花開耶比咩命	四・一五	山梨縣一宮村
寒川神社	寒川比古命・寒川比女命	九・二〇	神奈川縣寒川村
鶴岡八幡宮	應神天皇	九・一五	神奈川縣鎌倉町
玉前神社	玉埼神	九・一三	千葉縣一宮町
貫前神社	經津主命	三・一五	群馬縣一ノ宮町
二荒山神社	二荒山神	四・一七	栃木縣日光町
二荒山神社	豐城入彦命	一〇・二一	宇都宮市
都々古別神社	都々古和氣神	九・一一	福島縣棚倉町
伊佐須美神社	大毘古命・建沼河別命	九・一五	福島縣高田町
志波彦神社	志波彦神	三・二九	宮城縣鹽釜町
鹽竈神社	鹽竈神	七・一〇	宮城縣鹽釜町
大物忌神社	大物忌神	五・八	山形縣吹浦村

若狹彥神社	若狹彥神・若狹比咩神	一〇・一〇 三・二〇	福井縣遠敷村
射水神社	二上神	四・二三	高岡市
彌彥神社	天香山命	五・一四	新潟縣彌彥村
出雲神社	大國主命 三穗津姫命	一〇・二	京都府千歲村
籠神社	天水分神	四・二四	京都府府中村
出石神社	八種神寶	一〇・二〇	兵庫縣神美村
宇倍神社	武內宿禰命	四・二	鳥取縣宇倍野村
水若酢神社	水若酢命	五・三	島根縣五箇村
中山神社	金山彥命	四・二四	岡山縣一宮村
安仁神社	安仁神	一〇・二	岡山縣大宮村
忌部神社	天日鷲命	一〇・一九	德島市
大麻比古神社	大麻比古神	二・一	德島縣板野町
田村神社	田村神	一〇・八	香川縣一宮村
土佐神社	一言主命	八・二五	高知縣一宮村
西寒多神社	西寒多神	四・一五	大分縣東稙田村
田島神社	多紀理毘賣命 市杵島比賣命 多岐都比賣命	九・一六	佐賀縣呼子町
住吉神社	上筒之男命・中筒之男命・底筒之男命	二・九	長崎縣那賀村
海神神社	豐玉姫命	八・五	長崎縣峰村
金刀比羅宮	大物主命 崇德天皇	一〇・一〇	香川縣琴平町
大洗磯前神社	大己貴命	九・九	茨城縣磯濱町
酒列磯前神社	少彥名命	一〇・一五	茨城縣平磯町
美保神社	事代主命	四・七	島根縣美保關町
新田神社	邇邇杵命	九・一五	鹿兒島縣川內町
都々古別神社	味鉏高彥根命	二・一	福島縣近津村
函館八幡宮	品陀和氣命	八・一五	函館市
牛島足島神社	生島神・足島神	九・一九	長野縣東鹽田村
伊和神社	大己貴神	一〇・一五	兵庫縣神戶村
眞清田神社	火明命	四・三	一宮市
白山比咩神社	菊理媛神・伊弉諾尊・伊弉冊尊	五・六	石川縣河內村
玉祖神社	玉祖命	九・二五	山口縣右田村
諏訪神社	建御名方大神 八坂刀賣大神	一〇・八	長崎市
大縣神社	大縣神	一〇・二	愛知縣樂田村
速谷神社	速谷神(飽速玉男命)	一〇・一三	廣島縣平良村

國幣小社

社名	祭神	祭日	鎭座地
砥鹿神社	大己貴神	五・四	愛知縣一宮村
小國神社	小國神	四・一八	靜岡縣一宮村
水無神社	水無神	九・二五	岐阜縣宮村
駒形神社	駒形神	九・一九	岩手縣水澤町
岩木山神社	宇都志國玉命 多度比毘賣命 宇賀能賣命	八・一	青森縣岩木村
出羽神社	伊氐波神	七・一五	山形縣手向村
湯殿山神社	大山祇命	七・一五	山形縣東村
古四王神社	武甕槌命 大彥命	五・七	秋田縣寺內村
度津神社	五十猛神	四・二三	新潟縣羽茂村
大神山神社	大穴牟遲神	一〇・九	鳥取縣大高村
日御碕神社	素戔嗚尊	七・七	島根縣日御碕村
物部神社	宇麻志摩遲命	一〇・九	島根縣川合村
沼名前神社	綿津見神	五・二	廣島縣鞆町
都農神社	大己貴命	二・五	宮崎縣都農町
枚聞神社	枚聞神	一〇・一五	鹿兒島縣頴娃村
神部神社 淺間神社 大歲御祖神社	大己貴命 木之花開耶姫命 大歲御祖神	四・三	靜岡市
戶隱神社	天手力雄命	八・一五	長野縣戶隱村
菅生石部神社	菅生石部神	二・一〇	石川縣福田村
須佐神社	須佐之男命	四・一八	島根縣東須佐村
藤崎八幡宮	應神天皇	九・一五	熊本市
忌宮神社	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	三・一五	山口縣長府町
柞原八幡宮	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	三・一五	大分縣八幡村
高瀨神社	高瀨神	九・二	富山縣高瀨村
津島神社	建速須佐之男命	六・一五	愛知縣津島町
箱根神社	箱根神	八・一	神奈川縣元箱根
秩父神社	八意思金命 知知夫彥命	三・三	埼玉縣秩父町
伊豆山神社	伊豆山神	四・一五	靜岡縣熱海町
劍神社	素戔嗚尊	一〇・九	福井縣織田村
佐太神社	佐太神	九・二五	島根縣佐太村
吉備津彥神社	大吉備津彥命	一〇・二三	岡山縣一宮村
吉備津神社	大吉備津彥命	二・二八	廣島縣網引村

著名寺院

（寺名）	（宗派）	（所在地）
延暦寺	天台宗總本山	滋賀縣坂本村（比叡山）
圓城寺	天台宗寺門派總本山	大津市別所
圓滿寺	天台宗寺門派大本山	大津市別所
聖護院	天台宗寺門派大本山	京都市聖護院町
實相院	天台宗寺門派大本山	京都府岩倉村
西教寺	眞台宗眞盛派大本山	滋賀縣坂本村
金剛峰寺	眞言宗古義總本山	和歌山縣高野
仁和寺	眞言宗古義大本山	京都市花園
大覺寺	眞言宗古義大本山	京都市嵯峨
醍醐寺	眞言宗醍醐派總本山	京都市醍醐
三寶院	眞言宗醍醐派大本山	京都市醍醐
東寺	眞言宗東寺派總本山	京都市九條町
泉涌寺	眞言宗泉涌寺派大本山	京都市泉涌寺
勸修寺	眞言宗山階派大本山	京都市山科
善通寺	眞言宗善通寺派	香川縣善通寺町
智積院	眞言宗新義智山派	京都市東大路
長谷寺	眞言宗新義豐山派	奈良縣初瀨町
西大寺	眞言宗眞言律宗	奈良縣伏見村
唐提寺	眞言宗律宗	奈良縣都跡村
智恩院	淨土宗總本山	京都市林下町
金戒光明寺	淨土宗大本山	京都市岡崎町
智恩寺	淨土宗大本山	京都市田中町
清淨華院	淨土宗大本山	京都市寺町
增上寺	淨土宗大本山	東京市芝公園
禪林寺	淨土宗西山派禪林寺派	京都市永觀堂
光明寺	淨土宗西山派光明寺派	京都府栗山村
誓願寺	淨土宗西山派深草派	京都市新京
圓福寺	淨土宗西山派深草派	愛知縣岩津村
天龍寺	臨濟宗天龍寺派	京都市嵯峨
相國寺	臨濟宗相國寺派	京都御所北
建仁寺	臨濟宗建仁寺派	京都大和大路
南禪寺	臨濟宗南禪寺派	京都市南禪寺町
妙心寺	臨濟宗妙心寺派	京都市花園
建長寺	臨濟宗建長寺派	神奈川縣小坂村
東福寺	臨濟宗東福寺派	京都市本町
大德寺	臨濟宗大德寺派	京都市上大宮
圓覺寺	臨濟宗圓覺寺派	神奈川縣小坂村
永源寺	臨濟宗永源寺派	滋賀縣高野村
方廣寺	臨濟宗方廣寺派	靜岡縣奧山村
佛通寺	臨濟宗佛通寺派	廣島縣高坂村
國泰寺	臨濟宗國泰寺派	富山縣太田村
向嶽寺	臨濟宗向嶽寺派	山梨縣鹽山町

寺名	宗派	所在地
永平寺	曹洞宗大本山	福井縣志比谷村
總持寺	曹洞宗大本山	横濱市鶴見
萬福寺	黄檗宗大本山	京都府宇治村
本願寺	眞宗本願寺派	京都市堀川
本願寺	眞宗大谷派	京都市烏丸正面
專修寺	眞宗高田派	三重縣一身田町
興正寺	眞宗興正寺派	京都市堀川三條上
佛光寺	眞宗佛光寺派	京都市佛光寺
錦織寺	眞宗木邊派	滋賀縣中里村
毫攝寺	眞宗出雲路派	福井縣味眞野村
證誠寺	眞宗山元派	福井縣横江村
誠照寺	眞宗誠照寺派	福井縣鯖江町
專照寺	眞宗三門徒派	福井市豐町
清淨光寺	時宗總本山	神奈川縣藤澤町
蓮華寺	時宗總本山	滋賀縣息鄕村
無量光寺	時宗大本山	神奈川縣摩溝村
金蓮寺	時宗大本山	京都市鷹ヶ峰
正法寺	時宗大本山	京都市清閑寺町
大念佛寺	融通念佛宗	大阪市平野
興福寺	法相宗大本山	奈良市登大路町
法隆寺	法相宗大本山	奈良縣法隆寺村
藥師寺	法相宗大本山	奈良縣都跡村
東大寺	華嚴宗大本山	奈良市雜司町
久遠寺	日蓮宗總本山	山梨縣身延山
本門寺	日蓮宗大本山	東京市池上町
妙顧寺	日蓮宗大本山	京都市小川頭
本圀寺	日蓮宗大本山	京都市猪熊花屋町
法華經寺	日蓮宗大本山	千葉縣中山町
妙滿寺	日蓮宗顯本法華宗	京都市寺町
本門寺	日蓮宗本門宗	靜岡縣北山村
要法寺	日蓮宗本門宗	京都市三條
實成寺	日蓮宗本門宗	靜岡縣大見村
妙蓮寺	日蓮宗本門宗	靜岡縣上野村
久遠寺	日蓮宗本門宗	靜岡縣富士根村
妙本寺	日蓮宗本門宗	千葉縣保田町
本門寺	日蓮宗本門宗	靜岡縣芝富村
光長寺	日蓮宗本門法華宗	靜岡縣金岡村
鷲山寺	日蓮宗本門法華宗	千葉縣茂原町
妙蓮寺	日蓮宗本門法華宗	京都市寺ノ内
本興寺	日蓮宗本門法華宗	尼崎市別所
本能寺	日蓮宗本門法華宗	京都市寺町
本妙寺	日蓮宗法華宗	東京市西巣鴨
本隆寺	日蓮宗本妙法華宗	京都市智惠光院
大石寺	日蓮宗日蓮正宗	靜岡縣上野村
妙覺寺	日蓮宗（日蓮宗不受不施派）	岡山縣金川町
本覺寺	日蓮宗（日蓮宗不受不施講門派）	岡山縣金川町

歴代内閣一覧

昭和十年十一月まで

・……兼任　△……臨時

成立年月日	明治一八・一二・二二	明治二一・四・三〇	明治二二・一二・二四	明治二四・五・六
内閣総理大臣	伊藤博文	黒田清隆 三條實美△	山縣有朋	松方正義
外務大臣	井上馨 伊藤博文・	大隈重信	青木周藏	榎本武揚
内務大臣	山縣有朋	山縣有朋 松方正義・ 山縣有朋	山縣有朋・ 西郷從道	西郷從道 品川彌二郎 副島種臣 松方正義・ 河野敏鎌
大藏大臣	松方正義	松方正義	松方正義	松方正義・
陸軍大臣	大山巖	大山巖	大山巖	大山巖 高島鞆之助
海軍大臣	西郷從道 大山巖・ 西郷從道・	西郷從道	西郷從道 樺山資紀	樺山資紀
司法大臣	山田顯義	山田顯義	山田顯義 大木喬任△	山田顯義 田中不二麿 河野敏鎌・
文部大臣	森有禮	森有禮 大山巖・ 榎本武揚	芳川顯正	芳川顯正 大木喬任
農林大臣 （大正十三年まで農商務大臣）	谷干城 西郷從道・ 山縣有朋・ 谷干城 土方久元 黒田清隆	榎本武揚・ 井上馨	岩村通俊 陸奥宗光	陸奥宗光 河野敏鎌 佐野常民
商工大臣				
逓信大臣	榎本武揚	榎本武揚 後藤象二郎	後藤象二郎	後藤象二郎
鐵道大臣				
拓務大臣				
内閣書記官長	土方久元 田中光顯	小牧昌業	周布公平	平山成信

成立年月日	明治二五・八・八	明治二九・九・一八	明治三一・一・一二	明治三一・六・三〇	明治三一・一一・八	明治三三・一〇・一九
内閣総理大臣	伊藤博文 黒田清隆△	松方正義	伊藤博文	大隈重信	山縣有朋	伊藤博文 西園寺公望△
外務大臣	陸奥宗光 西園寺公望△ 陸奥宗光 西園寺公望△	大隈重信 西徳二郎	西徳二郎	大隈重信・	青木周藏	加藤高明
内務大臣	井上馨 野村靖 芳川顯正・ 板垣退助	樺山資紀	芳川顯正	板垣退助	西郷從道	末松謙澄
大藏大臣	渡邊國武 松方正義 渡邊國武・ 渡邊國武	松方正義・	井上馨	松田正久	松方正義	渡邊國武 西園寺公望△
陸軍大臣	大山巖 西郷從道△ 山縣有朋△ 大山巖	高島鞆之助・ 高島鞆之助	桂太郎	桂太郎	桂太郎	桂太郎 兒玉源太郎
海軍大臣	仁禮景範 西郷從道	西郷從道	西郷從道	西郷從道	山本權兵衛	山本權兵衛
司法大臣	山縣有朋 芳川顯正	清浦奎吾	曾禰荒助	大東義徹	清浦奎吾	金子堅太郎
文部大臣	河野敏鎌 井上馨 芳川顯正・ 西園寺公望	蜂須賀茂韶 濱尾新	西園寺公望 外山正一	尾崎行雄 犬養毅	樺山資紀	松田正久
農林大臣	後藤象二郎 榎本武揚	榎本武揚 大隈重信・ 山田信道	伊東巳代治 金子堅太郎	大石正巳	曾禰荒助	林有造
商工大臣						
逓信大臣	黒田清隆 渡邊國武 白根專一	野村靖	末松謙澄	林有造	芳川顯正	星亨 原敬
鐵道大臣						
拓務大臣	（拓殖務大臣） 高島鞆之助	（拓殖務大臣） 高島鞆之助				
内閣書記官長	伊東巳代治	高橋健三 平山成信	鮫島武之助	武富時敏	安廣伴一郎	鮫島武之助

成立	明治三四 六・二	明治三九 一・七	明治四一 七・一四	明治四四 八・三〇	大正元 一二・二一	大正二 二・二〇
總理	桂太郎	西園寺公望	桂太郎	西園寺公望	桂太郎	山本權兵衞
外務	•曾禰荒助 小村壽太郎 •桂太郎 小村壽太郎	加藤高明 •西園寺公望 林董	•寺內正毅 小村壽太郎	•林董 內田康哉	•桂太郎 加藤高明	牧野伸顯
內務	內海忠勝 •兒玉源太郎 •桂太郎 芳川顯正 •清浦奎吾	原敬	平田東助	原敬	大浦兼武	原敬
大藏	曾禰荒助	坂谷芳郎 •松田正久 松田正久	•桂太郎	山本達雄	若槻禮次郎	高橋是清
陸軍	•兒玉源太郎 寺內正毅	寺內正毅	寺內正毅	石本新六 上原勇作	木越安綱	木越安綱 楠瀨幸彥
海軍	山本權兵衞	齋藤實	齋藤實	齋藤實	齋藤實	齋藤實
司法	清浦奎吾 波多野敬直	松田正久 千家尊福	岡部長職	松田正久	松室致	松田正久 奧田義人
文部	菊池大麓 •兒玉源太郎 久保田讓 •桂太郎	•西園寺公望 牧野伸顯	小松原英太郎	長谷場純孝 •牧野伸顯	柴田家門	奧田義人 大岡育造
農林	平田東助 •清浦奎吾 清浦奎吾	松岡康毅	大浦兼武 •小松原英太郎 大浦兼武	牧野伸顯	仲小路廉	山本達雄
商工						
遞信	芳川顯正 •曾禰荒助 大浦兼武	山縣伊三郎 •原敬 堀田正養	後藤新平	林董	後藤新平	元田肇
鐵道						
拓務						
官長	柴田家門	石渡敏一 南弘	柴田家門 安廣伴一郎	南弘	江木翼	山內一次

成立	大正三 四・一六	大正五 一〇・九	大正七 五・二九	大正一〇 一一・一三	大正一一 六・一二	大正一二 九・二
總理	大隈重信	寺內正毅	原敬 ▵內田康哉	高橋是清	加藤友三郎 ▵內田康哉	山本權兵衞
外務	加藤高明 •大隈重信 石井菊次郎	•寺內正毅 本野一郎 後藤新平	內田康哉	內田康哉	內田康哉	•山本權兵衞 伊集院彥吉
內務	•大隈重信 大浦兼武 一木喜德郎	後藤新平 水野錬太郎	床次竹二郎	床次竹二郎	水野錬太郎	後藤新平
大藏	若槻禮次郎 武富時敏	•寺內正毅 勝田主計	高橋是清	•高橋是清	市來乙彥	井上準之助
陸軍	岡市之助 大島健一	大島健一	田中義一 山梨半造	山梨半造	山梨半造	田中義一
海軍	八代六郎 加藤友三郎	加藤友三郎	加藤友三郎	加藤友三郎	•加藤友三郎 財部彪	財部彪
司法	尾崎行雄	松室致	原敬 大木遠吉	大木遠吉	岡野敬次郎	•田健治郎 平沼騏一郎
文部	一木喜德郎 高田早苗	岡田良平	中橋德五郎	中橋德五郎	鎌田榮吉	•犬養毅 岡野敬次郎
農林	大浦兼武 河野廣中	仲小路廉	山本達雄	山本達雄	荒井賢太郎	田健治郎 •岡野敬次郎
商工						
遞信	武富時敏 箕浦勝人	田健治郎	野田卯太郎	野田卯太郎	前田利定	犬養毅
鐵道			元田肇	元田肇	大木遠吉	山之內一次
拓務						
官長	江木翼	兒玉秀雄	高橋光威	三土忠造	宮田光雄	樺山資英

成立	大正一三・一・七	大正一三・六・一一	大正一四・八・二	大正一五・一・三〇	昭和二・四・二〇	昭和四・七・二
總理	清浦奎吾	加藤高明	加藤高明 若槻禮次郎△	若槻禮次郎	田中義一	濱口雄幸 幣原喜重郎△
外務	松井慶四郎	幣原喜重郎	幣原喜重郎	幣原喜重郎	田中義一•	幣原喜重郎
內務	水野錬太郎	若槻禮次郎	若槻禮次郎	若槻禮次郎• 濱口雄幸	鈴木喜三郎 田中義一• 望月圭介	安達謙藏
大藏	勝田主計	濱口雄幸	濱口雄幸	濱口雄幸 早速整爾 片岡直溫	高橋是清 三土忠造	井上準之助
陸軍	宇垣一成	宇垣一成	宇垣一成	宇垣一成	白川義則	宇垣一成 阿部信行△
海軍	村上格一	財部彪	財部彪	財部彪	岡田啓介	財部彪 安保清種
司法	鈴木喜三郎	橫田千之助 高橋是清• 小川平吉	江木翼	江木翼	原嘉道	渡邊千冬
文部	江木千之	岡田良平	岡田良平	岡田良平	三土忠造 水野錬太郎 勝田主計	小橋一太 田中隆三
農林	前田利定	高橋是清 (農林大臣) 岡崎邦輔	早速整爾	早速整爾 町田忠治	山本悌二郎	町田忠治
商工		野田卯太郎	片岡直溫	片岡直溫 藤澤幾之輔	中橋德五郎	俵孫一
遞信	藤村義朗	犬養毅 安達謙藏	安達謙藏	安達謙藏	望月圭介 久原房之助	小泉又次郎
鐵道	小松謙次郎	仙石貢	仙石貢	仙石貢 井上匡四郎	小川平吉	江木翼
拓務					田中義一•	松田源治
官長	小橋一太	江木翼	塚本清治	塚本清治	鳩山一郎	鈴木富士彌

[成立]	昭和六・四・一四	昭和六・一二・一三	昭和七・五・二六	昭和九・七・八
[總理]	若槻禮次郎	犬養毅 高橋是清△	齋藤實	岡田啓介
[外務]	幣原喜重郎	犬養毅• 芳澤謙吉	齋藤實• 內田康哉 廣田弘毅	廣田弘毅
[內務]	安達謙藏	中橋德五郎 犬養毅 鈴木喜三郎	山本達雄	後藤文夫
[大藏]	井上準之助	高橋是清	高橋是清	藤井眞信 高橋是清
[陸軍]	南次郎	荒木貞夫	荒木貞夫 林銑十郎	林銑十郎 川島義之
[海軍]	安保清種	大角岑生	岡田啓介 大角岑生	大角岑生
[司法]	渡邊千冬	鈴木喜三郎 川村竹治	小山松吉	小原直
[文部]	田中隆三	鳩山一郎	鳩山一郎 齋藤實•	松田源治
[農林]	町田忠治	山本悌二郎	後藤文夫	山崎達之輔
[商工]	櫻內幸雄	前田米藏	中島久萬吉 松本烝治	町田忠治
[遞信]	小泉又次郎	三土忠造	南弘	床次竹二郎 岡田啓介• 望月圭介
[鐵道]	江木翼	床次竹二郎	三土忠造	內田信也
[拓務]	原脩次郎	秦豐助	永井柳太郎	岡田啓介• 兒玉秀雄
[官長]	川崎卓吉	森恪	柴田善三郎 堀切善次郎	河田烈・吉田茂 白根竹介

歴代内閣總理大臣

伊藤博文（山口）
黑田清隆（鹿兒島）
山縣有朋（山口）
松方正義（鹿兒島）
伊藤博文（山口）
松方正義（鹿兒島）
伊藤博文（山口）
大隈重信（佐賀）
山縣有朋（山口）
伊藤博文（山口）
桂太郎（山口）
西園寺公望（京都）
桂太郎（山口）
西園寺公望（京都）
桂太郎（山口）
山本權兵衞（鹿兒島）
大隈重信（佐賀）
寺內正毅（山口）
原敬（岩手）
高橋是清（宮城）
加藤友三郎（廣島）
山本權兵衞（鹿兒島）
清浦奎吾（熊本）
加藤高明（愛知）
加藤高明（愛知）
若槻禮次郎（島根）
田中義一（山口）
濱口雄幸（高知）
若槻禮次郎（島根）
犬養毅（岡山）
齋藤實（岩手）
岡田啓介（福井）

元帥

彰仁親王
山縣有朋（山口）
大山巖（鹿兒島）
威仁親王
長谷川好道（山口）
貞愛親王
川村景明（鹿兒島）
西鄉從道（鹿兒島）
野津道貫（鹿兒島）
伊東祐亨（鹿兒島）
寺內正毅（山口）
伊集院五郎（鹿兒島）
載仁親王
上原勇作（宮崎）
奧保鞏（福岡）
井上良馨（鹿兒島）
東鄉平八郎（鹿兒島）
島村速雄（高知）
加藤友三郎（廣島）
邦彥王
博恭王
守正王
武藤信義（佐賀）

陸軍大將

西鄉隆盛（鹿兒島）
熾仁親王
山縣有朋（山口）
彰仁親王
大山巖（鹿兒島）
野津道貫（鹿兒島）
能久親王
佐久間左馬太（山口）
川上操六（鹿兒島）
桂太郎（山口）
黑木爲楨（鹿兒島）
奧保鞏（福岡）
山口素臣（山口）
岡澤精（山口）
長谷川好道（山口）
西寬二郎（鹿兒島）
兒玉源太郎（山口）
乃木希典（山口）
貞愛親王
小川又次（福岡）
川村景明（鹿兒島）
大島義昌（山口）
大島久直（秋田）
大迫尙敏（鹿兒島）
立見尙文（三重）
寺內正毅（山口）
井上光（山口）
大久保春野（靜岡）
土屋光春（愛知）
鮫島重雄（鹿兒島）
上田有澤（德島）
淺田信興（埼玉）
載仁親王
福島安正（長野）
安東貞美（長野）
中村覺（滋賀）
上原勇作（宮崎）
一戶兵衞（青森）
內山小次郎（鳥取）
大迫尙道（鹿兒島）
神尾光臣（長野）
井口省吾（靜岡）
大谷喜久藏（福井）
秋山好古（愛媛）
松川敏胤（宮城）
仁田原重行（福岡）
本鄉房太郎（兵庫）
明石元二郎（福島）
柴五郎（福島）
島川文八郎（三重）
宇都宮太郎（佐賀）
大井成元（山口）
由比光衞（高知）
立花小一郎（福岡）
大庭二郎（山口）
河合操（大分）
田中義一（山口）
福田雅太郎（長崎）
山梨半造（神奈川）
尾野實信（福岡）
町田經宇（鹿兒島）
邦彥王
守正王
菊地愼之助（茨城）
田中弘太郎（京都）
鈴木莊六（新潟）
奈良武次（栃木）
白川義則（愛媛）
宇垣一成（岡山）
菅野尙一（山口）
森岡守成（山口）
武藤信義（佐賀）
井上幾太郎（山口）
鈴木孝雄（千葉）
磯村年（石川）
金谷範三（大分）
田中國重（鹿兒島）
菱刈隆（鹿兒島）
岸本鹿太郎（岡山）
吉田豐彥（鹿兒島）
南次郎（大分）
畑英太郎（北海道）
渡邊錠太郎（愛知）
緒方勝一（佐賀）
林銑十郎（石川）
本庄繁（兵庫）
阿部信行（石川）
眞崎甚三郎（佐賀）
荒木貞夫（東京）
松井石根（愛知）
松木直亮（山口）
川島義之（愛媛）
林仙之（熊本）
西義一（福島）
植田謙吉（大阪）
寺內壽一（山口）

海軍大將

西鄉從道（鹿兒島）
樺山資紀（鹿兒島）
伊東祐亨（鹿兒島）
井上良馨（鹿兒島）
東鄉平八郎（鹿兒島）
山本權兵衞（鹿兒島）
威仁親王
川村純義（鹿兒島）
柴山矢八（鹿兒島）
鮫島員規（鹿兒島）
日高壯之丞（鹿兒島）
片岡七郎（鹿兒島）
上村彥之丞（鹿兒島）
伊集院五郎（鹿兒島）
出羽重遠（福島）
齋藤實（岩手）
瓜生外吉（石川）
三須宗太郎（滋賀）
島村速雄（高知）
加藤友三郎（廣島）
吉松茂太郎（高知）
藤井較一（岡山）

八代六郎（愛知）
加藤定吉（東京）
山下源太郎（山形）
名和又八郎（福井）
村上格一（佐賀）
依仁親王
有馬良橘（和歌山）
山屋他人（岩手）
財部彪（宮崎）
黒井悌次郎（山形）
野間口兼雄（鹿兒島）
栃内曾次郎（岩手）
博恭王
鈴木貫太郎（千葉）
竹下勇（鹿兒島）
岡田啓介（福井）
小栗孝三郎（石川）
井出謙治（東京）
百武三郎（佐賀）
安保清種（佐賀）
加藤寛治（福井）
谷口尚眞（廣島）
山本英輔（鹿兒島）
大角岑生（愛知）
山梨勝之進（宮城）
野村吉三郎（和歌山）
小林躋造（廣島）
中村良三（青森）
末次信正（山口）
永野修身（高知）

歴代樞密院議長

伊藤博文（山口）
大木喬任（佐賀）
伊藤博文（山口）
大木喬任（佐賀）
山縣有朋（山口）
黒田清隆（鹿兒島）
西園寺公望（京都）
伊藤博文（山口）
山縣有朋（山口）
伊藤博文（山口）
山縣有朋（山口）
清浦奎吾（熊本）
濱尾新（兵庫）
穗積陳重（愛媛）
倉富勇三郎（福岡）
一木喜德郎（靜岡）

歴代內大臣

三條實美（京都）
德大寺實則（京都）
桂太郎（山口）
貞愛親王
大山巖（鹿兒島）
松方正義（鹿兒島）
平田東助（山形）
牧野伸顯（東京）

歴代宮內大臣

伊藤博文（山口）
土方久元（東京）
田中光顯（高知）
岩倉具定（京都）
渡邊千秋（長野）
波多野敬直（佐賀）
中村雄次郎（三重）
牧野伸顯（東京）
一木喜德郎（靜岡）
湯淺倉平（東京）

土地・人口

日本の位置（極點）

	位置		
極東	千島國占守郡占守島東端	東經	一五六、三二
極西	臺灣高雄州澎湖島花嶼西端	東經	一一九、一八
極南	南洋グリニヂ島南端	北緯	一、〇三
極北	北海道千島國阿頼度島北端	北緯	五〇、五五

面積と人口

昭和十年國勢調査

	面積（方粁）	人口（人）	密度（一方粁につき人）
帝國總計	六八一、〇二〇	九九、四五三、六二九	一四六
內地	三八二、三一四	六九、二五一、二六五	一八一
朝鮮	二二〇、七四一	二二、八九八、六九五	一三七
臺灣	三五、九七四	五、二一二、七一九	一四五
樺太	三六、〇九〇	三三一、九四九	九
關東州	三、四六二	一、一三四、〇七四	三二八
滿鐵附屬地	二九〇	五三三、六八九	一、八〇三
南洋群島	二、一四九	一〇二、五三八	四八

府縣別人口

昭和十年國勢調査

	面積（方粁）	人口（千人）	人口密度
北海道	八八、七七五	三、〇六八	三五
青森	九、六三一	九六七	一〇〇
岩手	一五、二三五	一、〇四六	六九
宮城	七、二七四	一、二三五	一七〇
秋田	一一、六六四	一、〇三八	八九
山形	九、三二六	一、一一七	一二〇
福島	一三、七八二	一、五八一	一一五
茨城	六、〇九一	一、五四九	二五四
栃木	六、四三七	一、一九五	一八六
群馬	六、三三六	一、二四二	一九六
埼玉	三、八〇三	一、五二九	四〇二
千葉	五、〇七九	一、五四六	三〇五
東京	二、一四五	六、三六九	二、九七〇
神奈川	二、三五三	一、八三九	七八二
新潟	一二、五七八	一、九九六	一五九
富山	四、二五七	七九九	一八八
石川	四、一九八	七六八	一八三
福井	四、〇一八	六四七	一五二
山梨	四、四六六	六四七	一四五
長野	一三、六二六	一、七一四	一二六
岐阜	一〇、四九五	一、二二六	一一七
静岡	七、七七〇	一、九四〇	二五〇
愛知	五、〇八一	二、八六三	五六三
三重	五、七六五	一、一七四	二〇四
滋賀	四、〇五一	七一一	一七六
京都	四、六二一	一、七〇三	三六八
大阪	一、八一四	四、二九七	二、三六九
兵庫	八、三三三	二、九二三	三五一
奈良	三、六八九	六二〇	一六八

和歌山	四、七三三	八六四	一八三
鳥取	三、四八九	四九〇	一四一
島根	六、六一八	七四七	一一三
岡山	七、〇四六	一、三三三	一八九
廣島	八、四三七	一、八〇五	二二四
山口	六、〇八二	一、一九〇	一九六
徳島	四、一四三	七二九	一七六
香川	一、八五九	七四九	四〇三
愛媛	五、六六七	一、一六五	二〇六
高知	七、一〇四	七一五	一〇一
福岡	四、九四〇	二、七五四	五五七
佐賀	二、四四九	六八六	二八〇
長崎	四、〇七六	一、二九七	三一八
熊本	七、四〇八	一、三八七	一八六
大分	六、三三四	九八〇	一五五
宮崎	七、七三九	八二四	一〇七
鹿兒島	九、一〇四	一、五九一	一七五
沖繩	二、三八六	五九二	二四八
計	三八二、三一四	六九、二五一	一八一

朝鮮地方道別人口（昭和八年末）

京畿	一二、八一七	二、一二四	一六九
忠清北	七、四一九	八六六	一一七
忠清南	八、〇九七	一、三七五	一七〇
全羅北	八、五二九	一、四四五	一七〇
全羅南	一三、八八一	二、二八二	一六四
慶尚北	一八、九九六	二、三四九	一二四
慶尚南	一二、三〇八	二、一〇三	一七一
黄海	一六、七三四	一、四九五	八六
平安南	一四、九三〇	一、三一五	八八
平安北	二八、四四一	一、五四三	五四
江原	二六、二六六	一、四二四	五五
咸鏡南	三一、九八八	一、五三九	四八
咸鏡北	二〇、三四四	七三〇	三七
計	二二〇、七四一	二〇、七九一	九三

地方別人口（昭和九年）

地方	千人	地方	千人
關東地方	一四、九三三	北海道	三、〇六二
奥羽地方	六、九〇四	朝鮮地方	二〇、七九一
中部地方	一三、五二八	臺灣地方	五、〇六一
近畿地方	一一、七七三	樺太	二九三
中國地方	五、四九五	關東州	一、〇〇四
四國地方	三、四二〇	南洋	七三八
九州地方	一〇、〇九五	計	九五、〇〇〇

民族別人口（昭和七年概數）

民族	萬人	民族	萬人
大和民族	六、六八五	南洋島人	五
朝鮮民族	二、〇五〇	アイヌ族	一・七
漢民族	四二〇	其の他	約五百人
高砂族	一四		

都市の人口（昭和十年國勢調査）内地以外は昭和九年

都市	昭和十年	昭和五年
東京（東京）	五、八七五	二、〇七一
大阪（大阪）	二、九八九	二、四五四
名古屋（愛知）	一、〇八二	九〇七
京都（京都）	一、〇八〇	七六五
神戸（兵庫）	九一三	七八八
横濱（神奈川）	七〇四	六二〇
京城（朝鮮）	三七四	三五四
廣島（廣島）	三一〇	二七〇
福岡（福岡）	二九一	二二八
大連（關東州）	二九〇	二二三
臺北（臺灣）	二八六	二四九
呉（廣島）	二三一	一九〇
仙臺（宮城）	二二〇	一九〇
長崎（長崎）	二一一	二〇三
八幡（福岡）	二〇九	一六八
函館（北海道）	二〇七	一九七
靜岡（靜岡）	二〇一	一七五
札幌（北海道）	一九七	一六八
熊本（熊本）	一八七	一六四
横須賀（神奈川）	一八二	一一〇
鹿兒島（鹿兒島）	一八二	一三七
和歌山（和歌山）	一八〇	一一七
佐世保（長崎）	一七三	一三三
岡山（岡山）	一六六	一三九
金澤（石川）	一六四	一五七
川崎（神奈川）	一五五	一〇四
小樽（北海道）	一五四	一四五
釜山（朝鮮）	一四八	一四六
平壤（朝鮮）	一四四	一四一
堺（大阪）	一四一	一二〇
豊橋（愛知）	一四一	九九
新潟（新潟）	一三五	一二五
濱松（靜岡）	一三三	一〇九
下關（山口）	一三三	九九
岐阜（岐阜）	一二九	九〇
門司（福岡）	一二二	一〇八
小倉（福岡）	一一〇	八八
大牟田（福岡）	一〇五	九七
大邱（朝鮮）	一〇四	九三
高知（高知）	一〇三	九七
臺南（臺灣）	一〇〇	一〇一
徳島（徳島）	九七	九一
青森（青森）	九三	七七
久留米（福岡）	九二	八三
姫路（兵庫）	九一	六三
旭川（北海道）	九一	八三
西宮（兵庫）	九〇	三九
前橋（群馬）	八七	八五
宇都宮（栃木）	八七	八一
高松（香川）	八七	八〇
富山（富山）	八三	七五
甲府（山梨）	八三	七九
松山（愛媛）	八二	八二
基隆（臺灣）	八〇	七四
長野（長野）	七七	七四
岡崎（愛知）	七七	六六
宇部（山口）	七七	六一
桐生（群馬）	七六	五三
福井（福井）	七五	六四
若松（福岡）	七三	五七
松本（長野）	七三	七二
高雄（臺灣）	七三	六五
尼崎（兵庫）	七一	五〇
大津（滋賀）	七一	三四
山形（山形）	七〇	六三
盛岡（岩手）	六九	六二

仁川(朝鮮)	六九	六六
戸畑(福岡)	六九	五三
津(三重)	六六	五六
那覇(沖縄)	六五	六一
室蘭(北海道)	六五	五六
宮崎(宮崎)	六五	五五
高崎(群馬)	六四	六〇
水戸(茨城)	六四	五〇
臺中(臺灣)	六三	五九
別府(大分)	六三	四三
八戸(青森)	六二	五三
長岡(新潟)	六二	五八
大分(大分)	六二	五七
清水(靜岡)	六二	五六
嘉義(臺灣)	六二	六二
秋田(秋田)	六二	五二
八王子(東京)	六〇	五三
四日市(三重)	五八	五三
福山(廣島)	五八	三八
千葉(千葉)	五七	五〇
高岡(富山)	五七	五三
馬公(臺灣)	五七	五七
延岡(宮崎)	五六	三一
釧路(北海道)	五六	五一
奈良(奈良)	五六	五三

郡山(福島)	五五	五一
川口(埼玉)	五四	四一
一宮(愛知)	五三	四三
木浦(朝鮮)	五三	三五
宇治山田(三重)	五二	五一
松江(島根)	五二	四五
開城(朝鮮)	五二	四九
今治(愛媛)	五二	四四
宇和島(愛媛)	五一	四四
新竹(臺灣)	五一	四八
米澤(山形)	五〇	四五
佐賀(佐賀)	五〇	四六
沼津(靜岡)	五〇	四四
大垣(岐阜)	四九	三九
新義州(朝鮮)	四九	四九
足利(栃木)	四九	四四
福島(福島)	四八	四六
銚子(千葉)	四八	四三
瀬戸(愛知)	四七	三七
市川(千葉)	四七	四〇
若松(福島)	四六	四四
弘前(青森)	四六	四三
鳥取(鳥取)	四五	三七
浦和(埼玉)	四四	二五
咸興(朝鮮)	四四	四四

直方(福岡)	四四	四〇
明石(兵庫)	四三	三九
鎭南浦(朝鮮)	四二	三八
飯塚(福岡)	四〇	四〇
濟州(朝鮮)	四〇	三九
全州(朝鮮)	四〇	三九
岸和田(大阪)	三九	三五
平塚(神奈川)	三八	三四
鹿港(臺灣)	三八	三八
熊谷(埼玉)	三八	三三
鶴岡(山形)	三七	三四
屏東(臺灣)	三七	三六
米子(鳥取)	三七	三四
都城(宮崎)	三六	三六
清津(朝鮮)	三六	三六
津山(岡山)	三六	三四
帯廣(北海道)	三六	二八
松阪(三重)	三六	三三
上田(長野)	三五	三五
川越(埼玉)	三五	三四
山口(山口)	三五	三三
倉敷(岡山)	三五	三〇
三條(新潟)	三五	三一
石巻(宮城)	三四	三一
光州(朝鮮)	三四	三三

斗六(臺灣)	三四	三三
萩(山口)	三三	三三
豐原(樺太)	三三	三三
新宮(和歌山)	三二	二九
酒田(山形)	三二	三〇
德山(山口)	三二	—
高田(新潟)	三一	三一
唐津(佐賀)	三一	三一
尾道(廣島)	三一	二九
大泊(樺太)	三一	三二
旅順(關東州)	三一	三一
八幡濱(愛媛)	三〇	—
中津(大分)	三〇	二九
海南(和歌山)	三〇	二九
丸龜(香川)	三〇	二九
首里(沖縄)	一九	二〇

人口二萬五千人以上の町村

(單位千人)

平野村(長野)	五四	四九
夕張町(北海道)	五三	四八
小田村(兵庫)	四〇	三一
美唄町(北海道)	三七	三三
穗波村(福岡)	三七	三八
宮田町(福岡)	三三	二八
川内町(鹿兒島)	三三	二九
清水街(臺灣)	三三	—
潁娃村(鹿兒島)	三二	二八
員林街(臺灣)	三二	—
豐原街(臺灣)	三〇	—
岩見澤町(北海道)	二九	二四
栃木町(栃木)	二九	二七
大宮町(埼玉)	二九	二五
大溪街(臺灣)	二九	—
埔里街(臺灣)	二九	—
麻豆街(臺灣)	二九	—
野付牛町(北海道)	二八	二三
精道村(兵庫)	二八	一九
小林町(宮崎)	二八	二五
谷山町(鹿兒島)	二八	二七
日立町(茨城)	二八	二三
內鄉村(福島)	二七	二三
枕崎町(鹿兒島)	二七	二四
馬山府(朝鮮)	二七	—
尙州面(朝鮮)	二七	—
南投街(臺灣)	二七	—
網走町(北海道)	二七	二四
田浦町(神奈川)	二七	二〇
鎌倉町(神奈川)	二七	二一
小田原町(神奈川)	二六	二五
稻築村(福岡)	二六	二〇
水俣町(熊本)	二六	二四
中壢街(臺灣)	二六	—
平町(福島)	二六	—
宜蘭街(臺灣)	二五	二一
平良町(沖縄)	二五	—
北港街(臺灣)	二五	—
防府町(山口)	二五	二二
雄基邑(朝鮮)	二五	—
後藤寺町(福岡)	二五	二六
柏崎町(新潟)	二五	二一

百五十年前の人口

東京(江戸)は世界一

	萬人
江戸(皇紀二四五八年)	一〇三
大阪(皇紀二四三九年)	四〇
ロンドン(皇紀二四六一年)	八六
パリー(皇紀二四六一年)	五五
ニューヨーク(皇紀二四五〇年)	三

日本人口の增加

內地

年	人口
明治五年	三三、一一一千人
同十年	三四、六二八千人
同二十年	三九、〇六九千人
同三十年	四三、二二八千人
同四十年	四八、八一九千人
大正五年	五六、三三五千人
同九年	五七、九一八、六六四人（最初の國勢調査人口）
同十四年	五九、七三六、八二二人（簡易國勢調査人口）
昭和五年	六四、四五〇、〇〇五人（第二回國勢調査人口）
昭和七年	六六、二九六千人
昭和八年	六七、二四〇千人
昭和九年	六八、一九五千人
昭和十年	六九、二五一、二六五人（第三回國勢調査人口）

朝鮮

年	人口
明治四十一年	九、九一九千人
大正六年	一三、三一二千人
大正十四年	一九、五二三千人
昭和五年	二一、〇五七、三〇五人
昭和八年	二〇、七九一千人
昭和十年	二二、八九八、六九五人

臺灣

年	人口
明治三十一年	二、五八八千人
大正六年	三、六四七千人
大正十四年	三、九九三千人
昭和五年	四、五九二、五三七人
昭和十年	五、二一二、七一九人

樺太

年	人口
明治三十九年	一二千人
大正六年	七四千人
大正十四年	二〇三千人
昭和五年	二九五、一九六人
昭和十年	三三一、九四九人

關東州及滿鐵附屬地

年	人口
明治三十八年	三七五千人
大正六年	七〇八千人
大正十四年	一、〇五四千人
昭和五年	一、三二八、〇一一人
昭和十年	一、六五六、七六三人

南洋諸島

年	人口
大正九年	五二千人
大正十四年	五六千人
昭和五年	六九、六二六人
昭和八年	七八千人
昭和十年	一〇二、二三八人

內地人口の增加

8千萬人
7千萬人
6千萬人
5千萬人
4千萬人
3千萬人
2千萬人
明治十年
同二十年
同三十年
同四十年
大正九年
大正十四年
昭和三年
昭和五年
昭和十年

世界大都市の人口

番號	都市	人口（千人）
1	ニューヨーク（アメリカ）	六、九三〇
2	東京（日本）	五、八六三
3	ロンドン（イギリス）	四、三九七
4	ベルリン（ドイツ）	四、二四三
5	シカゴ（アメリカ）	三、三七六
6	モスコー（ソヴィエト）	三、三四二
7	パリー（フランス）	三、八九一
8	大阪（日本）	二、七二三
9	レニングラード（ソヴィエト）	二、七一五
10	上海（中華民國）	二、六七四
11	ヴエノスアイレス（アルゼンチン）	二、二一五
12	フイラデルフイア（アメリカ）	一、九五一
13	ウヰーン（オーストリア）	一、八六二
14	リオデヂヤネイロ（ブラジル）	一、五八五
15	デトロイト（アメリカ）	一、五六九
16	天津（中華民國）	一、三八九
17	シドニー（濠洲）	一、二四一
18	ロスアンゼルス（アメリカ）	一、二三八
19	カルカツタ（印度）	一、一九七
20	ワルソー（ポーランド）	一、二〇〇
21	ボンベイ（印度）	一、一六一
22	カイロ（埃及）	一、一六一
23	ハンブルグ（ドイツ）	一、一二九
24	グラスゴー（イギリス）	一、一一三
25	京都（日本）	一、〇八〇
26	バルセロナ（イスパニヤ）	一、〇四二
27	ブタペスト（ハンガリー）	一、〇二〇
28	名古屋（日本）	一、〇一八
29	ローマ（イタリー）	一、〇〇八
30	サンポーロ（ブラジル）	一、〇〇六
31	バーミンガム（イギリス）	一、〇〇二
32	メルボルン（濠洲）	九九六
33	マドリツド（イスパニヤ）	九九四
34	ミラノ（イタリー）	九九二
35	メキシコ（メキシコ）	九六八
36	クリーヴランド（アメリカ）	九〇〇
37	リヴアプール（イギリス）	八五六
38	神戸（日本）	八五四
39	プラーグ（チエツコ）	八四八
40	ナポリ（イタリー）	八三九
41	ブリユツセル（ベルギー）	八二六
42	セントルイス（アメリカ）	八二三
43	モントリオール（カナダ）	八一九
44	廣東（中華民國）	八一三
45	北平（中華民國）	八一一
46	ボルチモア（アメリカ）	八〇五
47	マルセイユ（フランス）	八〇一
48	成都（中華民國）	八〇〇
49	ボストン（アメリカ）	七八一
50	アムステルダム（オランダ）	七七八
51	漢口（中華民國）	七七八
52	コペンハーゲン（デンマーク）	七七一
53	マンチエスター（イギリス）	七六六
54	ケルン（ドイツ）	七五七
55	ミユンヘン（ドイツ）	七三五
56	ライプチツヒ（ドイツ）	七一三
57	橫濱（日本）	七〇四
58	サンチヤゴ（チリー）	七〇二
59	ピツツバーグ（アメリカ）	七〇〇
60	溫州（中華民國）	六七八
61	モンテヴイデオ（ウルグワイ）	六五六
62	エツセン・アム・ルール（ドイツ）	六五四
63	マドラス（印度）	六四七
64	ドレスデン（ドイツ）	六四二
65	重慶（中華民國）	六三五
66	サンフランシスコ（アメリカ）	六三五

67	ブカレスト(ルーマニア)	六三三
68	トロント(カナダ)	六二一
69	アレキサンドリア(埃及)	六二〇
70	ブレスラウ(ドイツ)	六一五
71	ゼノア(イタリー)	六〇八
72	長沙(中華民國)	六〇七
73	武昌(中華民國)	六〇〇
74	トリノ(イタリー)	五九七
75	リスボン(ポルトガル)	五九四
76	ロッヅ(ポーランド)	五九一
77	ハヴアナ(キューバ)	五八九
78	ロッテルダム(オランダ)	五八八
79	リヨン(フランス)	五八〇
80	ミルウオーキー(アメリカ)	五七八
81	バクー(ソヴイエト)	五七五
82	バッファロー(アメリカ)	五七三
83	フランクフルト・アム・マイン(ドイツ)	五五六
84	ドルムンド(ドイツ)	五四一
85	キエフ(ソヴイエト)	五三九
86	南京(中華民國)	五三三
87	ストツクホルム(スエーデン)	五三三
88	ハルコフ(ソヴイエト)	五三三
89	シエフイールド(イギリス)	五二二
90	蘭州(中華民國)	五〇〇
91	ヂユツセルドルフ(ドイツ)	四九九
92	ワシントン(アメリカ)	四八七
93	ロザリオ(アルゼンチン)	四八五
94	リーズ(イギリス)	四八三
95	バンコック(シヤム)	四七七
96	オデッサ(ソヴイエト)	四七五
97	ヘーグ(オランダ)	四六九
98	ハイダラバード(印度)	四六七
99	ミネアポリス(アメリカ)	四六四
100	アテネ(ギリシア)	四五九
101	ニューオルレアンス(アメリカ)	四五九
102	エヂンバラ(イギリス)	四五二
103	シンシチナ(アメリカ)	四五一
104	デーリー(印度)	四四七
105	シンガポール(海峽)	四四六
106	ハノーバー(ドイツ)	四四四
107	ニューアーク(アメリカ)	四四二
108	ヂユイスボルグ・ハンボルン(ドイツ)	四四〇
109	バタヴイア(蘭印)	四三七
110	ラホール(印度)	四三〇
111	杭州(中華民國)	四二七
112	ロストフ(ソヴイエト)	四二五
113	ペナンブコ(ブラジル)	四二三
114	タシケント(ソヴイエト)	四二三
115	ダブリン(愛蘭)	四二〇
116	ベルファアスト(イギリス)	四一五
117	シユツツトガルト(ドイツ)	四一五
118	ニユルンベルヒ(ドイツ)	四一〇
119	ウツペルタール(ドイツ)	四〇九
120	哈爾賓(滿洲國)	四〇五
121	ヨハネスブルグ(南阿)	四〇〇
122	蘭貢(佛印)	四〇〇
123	カンサスシチー(アメリカ)	四〇〇
124	ブリストル(イギリス)	三九九
125	京城(日本)	三九四
126	パレルモ(イタリー)	三九〇
127	福州(中華民國)	三八八
128	リガ(ラトヴイア)	三七九
129	シアトル(アメリカ)	三七六
130	インデイアナポリス(アメリカ)	三六四
131	ヴイクトリア(香港)	三五八
132	ケムニッツ(ドイツ)	三五一
133	青島(中華民國)	三五〇
134	チフリス(ソヴイエト)	三四八
135	バヒヤ(ブラジル)	三四六
136	マニラ(フイリツピン)	三四一
137	奉天(滿洲國)	三三九
138	スラバヤ(蘭印)	三三七

列國の面積・人口

	面積 千方粁	人口 千人	密度 人
六大洲			
世界總數	一三九、九〇〇	二、〇〇九、〇〇〇	一五
アジア洲	四三、〇〇〇	一、一三四、四〇〇	二七
ヨーロッパ洲	九、五〇〇	四八四、八〇〇	五一
北アメリカ洲	二一、八〇〇	一六七、二〇〇	八
南アメリカ洲	一八、〇〇〇	八一、〇〇〇	四
アフリカ洲	二八、八〇〇	一四三、一〇〇	五
大洋洲	九、〇〇〇	九、五〇〇	一
アジア洲			
日本(全版圖)	**六八一**	**九五、〇〇〇**	**一三九**
滿洲國	一、四一六	二九、六〇六	二一
中華民國	九、六八六	四四五、一八一	四六
シャム	五一八	一一、九四〇	二三
トルコ	七六二	一三、六六〇	一八
イラン	一、六二七	九、一九〇	六
アフガニスタン	六五〇	一二、〇〇〇	一八
ネパール	一四〇	五、六〇〇	四〇
イラク	三〇二	三、三〇〇	一一
エーメン	一九五	一、〇〇〇	五
オーマン	二一二	一、五〇〇	二
ブーダン	五一	二五〇	五
サウヂ・アラビア	一、三三〇	四、五〇〇	三
ヨーロッパ洲			
ソヴィエト聯邦	二一、三五二	一六三、一六六	八
ヨーロッパの部	四、二三六	一〇九、二五四	二六
アジアの部	一七、一一五	三七、七五九	二
ドイツ	四七〇	六六、〇四四	一四〇
イギリス	三一、八一四	四三八、三〇〇	一四
本國	二四五	四六、五三八	一九〇
屬領	三一、六二七	三九一、二〇〇	一二
フランス	一二、四九三	一〇五、三七四	九
本國	五五一	四一、八八〇	七五
屬領	一一、九四二	六三、五三九	五
イタリヤ	二、四一九	四三、三六八	一八
本國	三一〇	四一、六〇五	一三四
屬領	二、一〇九	二、二三三	一
ポーランド	三八八	三一、九二八	八二
イスパニア	八三九	二二、二七三	二七
本國	五〇四	二三、五六四	四七
屬領	三三四	九三四	三
ルーマニヤ	二九五	一八、〇五七	六一
チエッコスロバキヤ	一四〇	一四、七二九	一〇五
ユーゴースラビヤ	二四七	一三、九三四	五六

ハンガリー	九三	八、六八八	九三
ベルギー	二、四一五	一六、五三四	七
本國	三〇	八、一五九	二六八
屬領	二、三八五	八、四四二	四
オランダ	二、〇七四	六八、八七〇	三三
本國	三三	八、二九〇	二五四
屬領	二、〇四二	六〇、九五〇	三〇
オーストリヤ	八三	六、七五九	八一
ポルトガル	二、一七一	一三、九七八	六
本國	九一	六、八二六	七四
屬領	二、〇七九	七、三一七	四
スエーデン	四四八	六、二一一	一四
ギリシヤ	一三〇	六、四八三	五〇
ブルガリヤ	一〇三	六、〇六七	五九
スイス	四一	四、一二五	一〇〇
デンマーク	一三三	三、五九〇	二七
本國	四三	三、六二三	八四
屬領	八九	三九	｜
フインランド	三八八	三、六六七	二
ノルウエイ	三二二	二、八四四	九
リスアニア	五五	二、三九三	四三
ラトビア	六五	一、九三九	二九
エストニア	四七	一、一二六	二四
アルバニア	四五	一、〇〇六	三
ダンチヒ自由市（一八、九四方粁）		四〇七	二一五
ルクセンブルグ（二、五八六方粁）		二九九	一一六
アイスランド	一〇三	一〇八	一
モナコ（二一方粁）		二四	一、一八七
サンマリノ（六一方粁）		一三	二一三
リヒテンシユタイン（一五九方粁）		一〇	六四
アンドラ（四五二方粁）		六	一三

北アメリカ洲

北米合衆國	九、六八三	一三六、九六九	一四
本國	七、八四一	一二五、六九三	一六
屬領	一、八四一	一四、一九四	八
メキシコ	一、九六九	一六、四〇四	八
キユーバ	一一四	三、九六二	三五
グアテマラ	一一三	二、四五四	二二
ハイチ	二六	二、三〇〇	八七
サルヴアドル	三四	一、四三七	四二
サント・ドミンコ	五〇	一、二〇〇	二四
ニカラグア	一二七	七五〇	六
ホンヂユラス	一一四	八五四	七
コスタ・リカ	五九	五一六	九
パナマ	八三	四六七	六

南アメリカ洲

	面積	人口	密度
ブラジル	八、五二四	四〇、二七三	五
アルゼンチン	二、七九七	一一、六五八	四
コロンビア	一、一八三	七、八五一	六
ペルー	一、三八二	六、二〇〇	四
チリー	七四一	四、三五一	六
ボリビア	一、三三二	二、九七七	二
ヴエネズエラ	一、〇二〇	三、一五二	三
エクアドル	四五一	一、九四一	六
ウルグアイ	一八七	一、九七五	一〇
パラグアイ	四一八	八四四	二

アフリカ洲

	面積	人口	密度
エジプト	九八九	一四、八二三	一五
エチオピア	八〇〇	一一、五〇〇	一四
リベリア	九五	二、〇〇〇	二

在外本邦人

昭和八年十月一日

	人
總數	一、四一五、三七一
アジア洲	九三五、〇三三
ヨーロッパ洲	三、九二四
北アメリカ洲	二八一、一七一
南アメリカ洲	一九二、四一二
アフリカ洲	一五五
太洋洲	二、六七七
滿洲國	八二二、五〇二
ブラジル	一五七、四七六
ハワイ	一四九、二〇七
アメリカ	一〇三、七六五
中華民國	五五、〇六四
ペルー	二一、二八一
カナダ	二〇、三九三
フイリツピン	二〇、〇四九
蘭領印度	六、九四九
馬來聯邦	五、七二九
アルゼンチン	五、三三四
メキシコ	五、二九七
濠洲及新西蘭	二、六七七
ソヴイエト聯邦	二、二八五
イギリス	一、六〇四
英領印度	一、四七三
香港	一、四〇八
ドイツ	一、一一一
キユーバ	七六一
フランス	六五六
チリー	六三五
ボリビア	六二七

本邦の移民

昭和八年度

	人
總數	二九、二六八
中華民國	一九、九三三
アメリカ	二、〇三九
イギリス	一、九四四
ソヴイエト聯邦	一、四七九
ドイツ	一、一一八
フランス	四九一
英領印度	三一七
カナダ	三〇四
スイス	二〇三
ポルトガル	一五八
オランダ	一三九
イタリヤ	一一三
滿洲國	一二八

本邦在留外國人

昭和八年度

	人
ブラジル	三三、二九九
ソヴイエト	一、〇九五
フイリツピン	九四一
蘭領東印度	四八一
ペルー	四六八
海峽植民地	三三三
アルゼンチン	一三五
ボルネオ・サラワク	一三三
カナダ	九一
メキシコ	八五

高山及び名山

△印は火山
理科年表による

名稱	所在地	高さ(米)
新高山	臺中、臺南、高雄	三九五〇
次高山	新竹、臺中	三九三二
秀巒山(マボラス山)	臺中 花蓮港	三八三三
ウラモン山	臺中、花蓮港	三八〇六
南湖大山	臺北、臺中、花蓮港	三七九七
富士山△	靜岡、山梨	三七七六
中央尖山	臺中、花蓮港	三七一五
關山	臺東、高雄	三六六七
大水窟山	花蓮港、高雄	三六四五
奇萊主山北峯	花蓮港、臺中	三五〇五
東郡大山	臺中	三六〇五
大雪山	新竹、臺中	三六〇〇
大覇尖山	新竹	三五七三
雲峰	花蓮港、高雄	三五六九
東巒大山	臺中	三四六五
北合歡山	臺中、花蓮港	三三九四
桃山	臺北、新竹、臺中	三三九〇
シンカン山	花蓮港	三三八一
畢祿山	臺中、花蓮港	三三七九
丹大山	臺中、花蓮港	三三五六
能高山南峰	臺中、花蓮港	三三四九
南双頭山	花蓮港、高雄	三三三三
卑南主山	臺東、高雄	三三〇五
白根山		
北嶽	山梨	三一九二
間ノ嶽	山梨、靜岡	三一八九
農島嶽	山梨、靜岡	三一八〇
槍ヶ嶽	長野、	三一八〇
悪澤嶽	靜岡	三一四六
赤石嶽	長野	三一二〇
穂高嶽		
奥穂高嶽	長野、岐阜	三一九〇
唐澤嶽	長野、岐阜	三一〇三
前穂高嶽	長野	三〇九〇
南嶽	長野、岐阜	三〇三三
西穂高嶽	同、同	二九〇九
荒川嶽(中嶽)	靜岡	三〇八三
御嶽(劍ヶ峰)△	岐阜	三〇六三
鹽見嶽	長野、靜岡	三〇四七
仙丈ヶ嶽	長野、山梨	三〇三三
乘鞍嶽△	長野、岐阜	三〇二六
立山△	富山	三〇一五
聖嶽	長野、靜岡	三〇一一
劍嶽	富山、	三〇〇三
黑嶽(水晶山)	富山	二九九〇
駒ヶ嶽(甲斐)	長野、山梨	二九六六
駒ヶ嶽(木曾)	長野	二九五六
白馬嶽	長野、富山	二九三三
藥師ヶ嶽	富山	二九二六
野口五郎嶽	長野、富山	二九二四
鷲羽嶽	長野、富山	二九二四
大天井嶽	長野	二九二二
白馬鑓ヶ嶽	長野、富山	二九〇三
八ヶ嶽		
赤嶽△	長野、山梨	二八九九
横嶽	長野、山梨	二八三〇
阿彌陀嶽	長野、山梨	二八〇七
笠ヶ嶽(肩ヶ嶽)	岐阜	二八九八
鹿島鎗嶽	長野、富山	二八九〇
立山別山	富山	二八八五
蝙蝠山	靜岡	二八六五
前駒ヶ嶽(空木嶽)	長野	二八六四
赤牛嶽(富山)		二八六二
双六嶽	長野、岐阜	二八六〇
常念嶽	長野	二八五七
三ツ嶽	長野、富山	二八四五
南駒ヶ嶽	長野	二八四二
三俣蓮華嶽	長野、岐阜、富山	二八四一

名稱	所在地	高さ(米)
鳳凰山	山梨	二八四一
黑部五郎嶽(中ノ俣嶽)	富山、岐阜	二八四〇
惠比須嶽	岐阜	二八三三
針ノ木嶽	長野、富山	二八二一
祖父嶽	富山	二八二一
杓子嶽	長野、富山	二八二〇
大澤嶽	長野、靜岡	二八一九
拔戸嶽	岐阜	二八一三
東天井嶽	長野	二八一一
上河内嶽	長野、靜岡	二八〇三
小河内嶽	長野、靜岡	二八〇三
白頭山△	咸鏡、南北	二七四四
白山△	石川、岐阜	二七〇二
白根山(日光)△	栃木	二五七八
淺間山△	長野、群馬	二五四二
冠帽峰	咸鏡北道	二五四〇
蓼科山△	長野	二五三〇
二荒山(男體山)△	栃木	二四八四
硫黄ヶ嶽(燒嶽)△	長野、岐阜	二四五八
妙高山△	新潟	二四四六
燒山	新潟	二四〇〇
燧嶽△	福島	二三六〇
四阿山△	群馬、長野	二三三三
大雪山(旭嶽)△	北海道	二二九〇
鳥海山△	秋田、山形	二二三〇
惠那山	長野 岐阜	二一九〇
十勝嶽	北海道	二〇七七
狼林山	平安南北	二〇一四
幌尻嶽	北海道	二〇五二
岩手山	岩手	二〇四一
石槌山	愛媛	一九八一
石狩嶽	北海道	一九八〇
月山△	山形	一九八〇
吾妻山△	福島	一九七五
劍山	德島	一九五五
那須嶽△	栃木	一九一七
智異山	慶尚南	一九一五
戸隱山△	長野	一九一一
妙高山	平安北	一九〇九
羊蹄山(蝦夷富士)	北海道	一八九三
赤城山△	群馬	一八二九
磐梯山△	福島	一八一九
九重山△	大分	一七六四
大山(伯耆富士)	鳥取	一七一三
霧島山△	宮崎、鹿兒島	一七〇〇
金剛山△	江原道	一六三八
駒ヶ嶽△	秋田	一六三七
岩木山△	青森	一六二五
阿蘇山	熊本	一五九二
八甲田山△	青森	一五八五
大白山	慶尚北、江原	一五六一
新知嶽△	千島	一五二八
氷山	鳥取	一五一〇
榛名山	群馬	一四四八
箱根山	神奈川、靜岡	一四三九
伊吹山	滋賀	一三七七
敷香嶽	樺太	一三七五
鶴見嶽△	大分	一三七五
溫泉嶽△	長崎	一三六〇
由良山	滋賀	一一七四
櫻島△	鹿兒島	一一一八
背振山	福岡、佐賀	一〇五五
金剛山	奈良	一一一二
高野山	和歌山	九〇一
筑波山	茨城	八七六
比叡山	京都	八四八
大江山	京都	八三三
恐山△	青森	八〇四
三原山△	大島	七五五
三笠山	奈良	三四二

主なる河川

名稱	流末地方	長さ(粁)	流域面積(平方粁)
鴨綠江	(平安北)	七九〇	三一、七三九
洛東江	(全羅北)	五二五	二三、八六〇
豆滿江	(咸鏡北)	五二一	一〇、五一三
漢江	(京畿)	五一四	二六、二七九
大同江	(黃海)	四三九	一六、六七三
錦江	(京畿)	四〇一	九、八八六
信濃川	(新潟)	三六九	一二、三六〇
石狩川	(北海道)	三六五	一四、三五〇
利根川	(茨城、千葉)	三二二	一五、七六〇
天鹽川	(北海道)	三〇六	五、八三〇
臨津江	(京畿)	二五四	八、一一八
北上川	(宮城)	二四三	一〇、七二〇
吉野川	(德島)	二三六	三、七〇〇
木曾川	(三重)	二三三	九、〇〇
最上川	(山形)	二一六	七、四〇〇
天龍川	(靜岡)	二一六	四、八〇
蟾津江	(慶尙南)	二一二	四、八九七
江ノ川	(島根)	二〇〇	三、八二〇
淸川江	(平安南)	一九九	五、八三二
十勝川	(北海道)	一九六	八、七八〇
阿武隈川	(宮城)	一九六	五、四八〇
荒川	(東京)	一七七	三、三一〇
渡川	(高知)	一七七	二、二七〇
禮成江	(江原)	一七四	四、〇四八
阿賀野川	(新潟)	一六九	八、三四〇
濁水溪	(臺中)	一六五	—
富士川	(靜岡)	一六一	四、五三〇
新宮川	(和歌山)	一六一	二、四四〇
南大川	(咸鏡南)	一六一	二、四〇五
下淡水溪	(高雄)	一五六	—
大寧江	(平安北)	一五〇	三、六三五
雄物川	(秋田)	一四九	四、一八〇
常呂川	(北海道)	一四五	二、六六〇
庄川	(富山)	一四五	一、八〇〇
筑後川	(福岡)	一四一	二、八五〇
相模川	(神奈川)	一四一	一、六一九
能代川	(秋田)	一三七	四、一〇〇
古井川	(岡山)	一三七	二、〇七〇
龍興江	(咸興南)	一三五	三、三九七
紀ノ川	(和歌山)	一三四	一、九一〇
仁淀川	(高知)	一三〇	一、二九六
曾文溪	(高雄)	一三二	—
淡水河	(新竹)	一三〇	—
載寧江	(黃海)	一二九	三、六七一
神通川	(富山)	一二六	二、七八〇
那珂川	(茨城)	一二六	三、二七〇
多摩川	(東京)	一二六	一、〇六四
矢作川	(愛知)	一二三	一、九一〇
大甲溪	(臺中)	一一八	—
榮山江	(全羅南)	一一六	二、七九八
球磨川	(熊本)	一一四	一、九七〇
烏溪	(臺中)	一一三	—
八獎溪	(臺南)	一一一	—
九頭龍川	(福井)	一一〇	二、五八〇
高梁川	(岡山)	一一〇	二、四八〇
馬淵川	(青森)	一〇六	二、六七〇
大淀川	(宮崎)	一〇六	二、一三〇
五箇瀨川	(宮崎)	一〇三	一、九四〇
城川江	(咸鏡南)	九九	二、三三八
岩木川	(青森)	九〇	二、六七〇
加古川	(兵庫)	九〇	一、八五〇
秀姑巒溪	(花蓮港、臺東)	八九	—
卑南溪	(臺東)	八四	—
大安溪	(新竹、臺中)	八〇	—
淀川	(大阪)	七九	八、二四〇

主な湖沼

×印は鹹湖

名稱	所在地	面積(平方粁)	最深(米)
琵琶湖	滋賀	六七四	九五
八郎潟×	秋田	二二三	四
霞ヶ浦	茨城	一八九	七
多來加湖×	樺太、敷香	一八〇	一
富內湖×	樺太、大泊	一六八	二四
猿澗湖×	(北海道)北見	一五〇	一九
猪苗代湖	福島	一〇四	一〇二
中海×	鳥取、島根	一〇一	一四
宍道湖×	島根	八三	六
屈斜路湖	(北海道)釧路	七九	一二五
支笏湖	同 膽振	七六	三六三
濱名湖(猪鼻湖を含む)×	靜岡	七二	一五
洞爺湖	(北海道)膽振	六九	一八三
小田原沼×	青森	六二	二七
十和田湖	秋田、青森	五九	三七八
能取湖×	(北海道)北見	五八	二三
風蓮湖×	同 根室	五二	一一
遠淵湖×	(樺太)大泊	四〇	六
北浦(鰐川を含む)	茨城	三九	一〇
來知志湖×	(樺太)泊居	二四	三
和愛湖×	(樺太)大泊	二四	六
網走湖×	北海道北見	二三	一七
厚岸鹹湖×	同 釧路	三一	七
印播沼	千葉	二五	一
田澤湖	秋田	二五	四二五
幽仙湖	千島	二四	—
河北潟	石川	二三	二
高雄鹹湖	臺灣、高雄	二二	一
十三湖×	青森	二〇	三
摩周湖	北海道釧路	一九	二一二
伊庭內湖	滋賀	一五	三
武魯頓灣×	千島新知島	一五	二四三
頓別湖×	北海道北見	一四	三
諏訪湖	長野	一四	七
廣浦×	朝鮮咸鏡南	一三	一〇八
阿寒湖	北海道釧路	一三	三六
涸沼×	茨城	一三	三
幸ノ湖(中禪寺湖)	栃木	一二	一七〇
手賀沼	千葉	一二	二
池邊讃湖	樺太大泊	一二	七
池田湖	鹿兒島	一〇	二三三
檜原湖	福島	一〇	三二
湖山池×	鳥取	七	八
芦ノ湖	神奈川	六	四三
山中湖	山梨	六	一五
巨椋池	京都	六	一
河口湖	山梨	六	一五
大沼	北海道渡島	五	一三
日月潭	臺灣臺中	四	五
邑知潟	石川	四	二
長沼	宮城	四	二
鎧潟	新潟	四	一

主な長橋

所在地	(架設河川)	長さ(米)
潮州線、九曲堂—六塊厝	(下淡水溪)	
羽越線、新津—水原	(阿賀野川)	
東海道線、中泉	(天龍川)	一、二〇九
吉野川橋、德島縣	(吉野川)	一、〇一八
東海道線、島田—金谷	(大井川)	一、〇一八
關西線、長島—桑名	(揖斐川)	九九二
大利根橋	(利根川)	九八三
常磐線、我孫子—取手	(利根川)	九四六
新義州—安東縣	(鴨綠江)	九四〇
東北線、赤羽—川口市	(荒川)	九二五

世界の高山・名山

名称	所在地	高さ(米)
アジア洲		
エヴェレスト山	ヒマラヤ山脈	八八八二
ゴドウイン・オーステン	カラコルム山脈	八六一一
カンチエンジュンガ	ヒマラヤ山脈	八六〇三
マカル	ヒマラヤ山脈	八四八九
ドーラギリ	ヒマラヤ山脈	八一六七
チヨ・ウヨウ	ヒマラヤ山脈	八一五三
ナンガ・バルバット	ヒマラヤ山脈	八一二四
ガシアーブラム	カラコルム山脈	八〇六八
ガサイン・タン	ヒマラヤ山脈	八〇一四
ヂアチユンカン	ヒマラヤ山脈	七八九七
ダスト・ギル	カラコルム山脈	七八八五
ムスタークアタ山	パミール高原	七八六〇
ナンダ・デビ	ヒマラヤ山脈	七八一七
ハンテグリ山	天山山脈	六九九〇
デマベント山	イラン	五六七〇
エルブルーズ山	コーカサス	五六三〇
アララト山	アルメニヤ	五一六〇
クリユーチエフ山	カムチヤツカ	四九二〇
ヨーロッパ洲		
モンブラン山	アルプス山脈	四八一〇
モンテローザ山	アルプス山脈	四六三八
マッターホーン	アルプス山脈	四五〇五
ユングフラウ	アルプス山脈	四一六六
アフリカ洲		
キリマ・ヌジヤロ山	東アフリカ	五九六九
ケニヤ山	東アフリカ	五一九四
マルゲリータ山		五一〇三
アレクサンドラ山		五〇八一
北アメリカ洲		
マッキンレー山	アラスカ	六一八七
ローガン山	アラスカ	六〇五〇
オリザバ山	メキシコ	五六五八
セント・エリアス山	アラスカ	五四九四
ポポカテペトル山	メキシコ	五四二四
ルカニヤ山	カナダ	五三二七
キング	カ・ナダ	五三二一
南アメリカ洲		
ホイットニー	カスケード山脈	四四二〇
エルバート山	ロッキー山脈	四三九五
レニアー山	カスケード山脈	四三九二
アコンカグワ山	アンデス山脈	七〇三五
メルセダリオ山	アンデス山脈	六八〇三
ツプンガト山	アンデス山脈	六五六八
イラムプ山	アンデス山脈	六五五三
イリマニ山	アンデス山脈	六四五九
チムボラゾ山	アンデス山脈	六二四八
コンカル山	アンデス山脈	六一五一
コトパクシ山	アンデス山脈	五九七八
太洋洲		
チヤールス・ルイス山	ニユー・ギニア	五〇〇〇
ジユリヤナ山	ニユー・ギニア	四七五〇
ウイルヘルム山	ニユー・ギニア	四七二〇
マウナ・ケア山	ハワイ	四二一〇
クック山	新西蘭	三七六八
南極地方		
マルカム山		四六〇〇

世界の主な河川

(理科年表)

名称	長さ(粁)	流域面積(平方粁)
アジア		
オブ(オビ)	五二〇〇	二九四、七九〇〇
イエニセイ	五二〇〇	二五九、一五〇〇
揚子江	五三〇〇	一七七、五〇〇〇
レナ	四六〇〇	二三八、三七〇〇
黒龍江	四四八〇	二〇五、一五〇〇
黄河	四一〇〇	九八、〇〇〇〇
インダス	三一八〇	九六、〇〇〇〇
ガンガ・プラマプトラ	三〇〇〇	一七三、〇〇〇〇
シル	二八六〇	六四、九〇〇〇
アム	二五〇〇	四六、五〇〇〇
ウラル	二三九七	二一、九九〇〇
エウフラテス	二〇〇〇	七六、五〇〇〇
イラワヂ	二〇〇〇	四三、〇〇〇〇
ヨーロッパ		
ヴォルガ	三五七〇	一四二、〇〇〇〇
ドナウ(ダニユーブ)	二八五〇	八一、七〇〇〇
ドニエプル	二一五〇	五一、〇五〇〇
ドン	一八六〇	四二、九八〇〇
ドヴィナ	一七八〇	三六、二三〇〇
ペチョラ	一五八〇	三二、〇三〇〇
ドニエストル	一三七〇	七、六九〇〇
ライン	一三二六	二二、四四〇〇
エルベ	一一二四	一四、七七四四
ヴィスツラ	一一二五	一九、八二八五
ロアール	一〇三〇	一二、一〇〇〇
タホ	一〇一〇	八、二六〇〇
ヂウムナ	九三〇	八、五四〇〇
グアデヤナ	八三〇	七、二二〇〇
メーメル	七八八	一〇、〇九〇〇
ロース	七五九	九、八九〇〇
ウエーゼル	七二二	四、五五〇〇
セーヌ	七〇〇	七、七八〇〇
ポー	六八〇	六、九四〇〇
テームズ	四〇五	一、二五五〇
チベル	三九三	一、七〇〇〇
アフリカ		
ナイル	五七六〇	三〇〇、七〇〇〇
コンゴー	四二〇〇	二六九、〇〇〇〇
ニジエル	四一六〇	二〇九、二〇〇〇
ザンベジ	二六六〇	一三三、〇〇〇〇
オレンヂ	一八六〇	一〇二、〇〇〇〇
クバンゴ	一八〇〇	七八、五〇〇〇
リンポボ	一六〇〇	四四、〇〇〇〇
ジユバ	一五〇〇	一九、六〇〇〇
セネガル	一四三〇	四四、〇五〇〇
シヤーリー	一四〇〇	八八、〇〇〇〇
ロヴマ	一一〇〇	一四、五〇〇〇
オゴブエ	八五〇	一七、五〇〇〇
クネネ	八三〇	一三、七〇〇〇
クワンザ	六三〇	一四、九〇〇〇
北アメリカ		
ミシシッピ	六五三〇	三二四、八〇〇〇
セントローレンス	三八〇〇	一二四、八〇〇〇
マッケンジー	三七八〇	一六六、〇〇〇〇
ユーコン	三六〇〇	九〇、〇〇〇〇
リオグランデルノルテ	二八〇〇	五七、〇〇〇〇
ウイニペッグ	二四〇〇	一〇八、〇〇〇〇
コロンビヤ	二〇〇〇	六五、五〇〇〇
コロラド	二〇〇〇	五九、〇〇〇〇
南アメリカ		
アマゾン	六二〇〇	七〇五、〇〇〇〇
ラプラタ	四七〇〇	三一〇、四〇〇〇
オリノコ	二二二〇	九四、四〇〇〇
大洋洲		
マレーダーリング	二一〇〇 九九四	一〇八、〇六四二

世界の主な湖沼

名稱	所在地	面積平方粁	最深(米)
カスピ海(鹹湖)	アジア、ヨーロッパ	四三八、〇〇〇	九四六
スペリオル	北アメリカ	八三、三〇〇	三〇七
ヴィクトリア	東アフリカ	六八、八〇〇	七九
アラル(鹹湖)	中央アジア	六三、〇〇〇	六八
ヒューロン(ジョルジャ灣を含む)	北アメリカ	五九、五一〇	二二三
ミシガン	北アメリカ	五七、八五〇	二六五
バイカル	シベリア	三三、〇〇〇	一五二三

世界の主な長橋

名稱	所在地(架設河海)	長さ(米)
ヘル・ゲート	(ニューヨーク イースト河)	五、五二六
ツエルナブオダ	(ドナヴ河)	三、九〇一
テキサス	(ガルヴエストン灣)	三、三九〇
カイロ	(北米オハイオ河)	三、二二九
ダンヂー	(イギリステー河)	三、二二四
ニューヨーク	(ハドソン河)	三、一八〇
鄭州の北	(京漢線、黄河)	三、〇三〇

内外の主なトンネル

名稱	所在地	長さ(米)
ハンチントン湖	(北米加州)	二一、七六〇
シンプロン	(アルプス)	二〇、〇四四
サン・ゴタルド	(同)	一四、九九〇
レッチペルグ	(同)	一四、六〇六
ニューカスケード	(北米)	一三、一七〇
アブリ水道	(アベニン)	一二、七三〇
モン・スニ	(西アルプス)	一二、二三三
アールベルグ	(オーストリア)	一〇、二七〇
モフアット	(北米)	九、九八〇
清水	(上越線)	九、七〇二
ガニソン	(北米コロラド)	九、六六〇
リッケン	(スイス)	八、六〇四
ミュンスター	(同)	八、五六五
タウエルン	(東アルプス)	八、五五〇
アーサー峠	(ニュージーランド)	八、四五〇
ギオビ	(イタリー)	八、二七〇
ハウエンスタインバシス	(スイス)	八、一三五
コル・ヂ・テンダ	(イタリー)	八、一〇〇
コノート	(カナダ)	八、〇五〇
カラワンケン	(東アルプス)	八、〇一六
丹那	(東海道線)	七、八〇七

世界の主な運河

名稱(所在地)	長(粁)	幅(米)	深(米)
スエズ(エヂプト)	一六八	(八〇―一二〇)	一〇、五
キール(ドイツ)	九九	(一二〇)	一一
パナマ(中央アメリカ)	九三	(六七)	一三、七
エルベ及トラープ(獨)	六四	(三三)	三
マンチエスター(英)	五七	(三三、六)	七、九
ウエランド(カナダ)	四三	(三〇)	四
スクル(印度)	三三	(―)	―
北海(オランダ)	二六、五	(二六)	七
クロンスタットーレニングラード(露)	二五、七	(六七)	六、三
白海バルチック運河(露)	二三、七	(―)	―

世界の主な深海

名稱	所在地	最深(米)
エムデン海淵	ミンダナ島沖	一〇、七九三
マリヤナ海溝	太平洋中	九、八一四
日本海溝	太平洋中	九、四三五
ケルマデック海溝	(太平洋中)	九、四二七
パラオ海溝	(同)	八、一三八

列國の鐵道(一九三二年)

	總延長	面積百方粁に付	人口一萬人に付
帝國	三〇、四二一粁	五・八粁	三・四粁
内地	二三、五一〇	五・九	三・二
朝鮮	四、二八二	一・九	二・〇
臺灣	三、二八六	九・二	六・七
樺太	三四三	一・〇	二一・九
關東州	二六二	七・〇	二・一
アメリカ	四三一、三五一	五・四	三四・〇
ソヴィエト	八一、五八〇	〇・四	四・八
印度(英領)	六九、一三八	一・五	二・〇
カナダ	六八、二九五	〇・七	六五・〇
ドイツ	五三、九三一	一二・四	八・二
濠洲	四三、五一六	〇・六	六七・一
フランス	四二、〇五八	七・六	一〇・一
アルゼンチン	四〇、〇〇五	一・四	三五・一
ブラジル	三五、八五四	〇・四	八・九
イギリス	三三、八〇三	一三・四	七・一
メキシコ	三〇、一八〇	一・五	一七・八
イタリー	二三、八一八	七・三	五・五
南阿聯邦	二二、七三九	一・八	二七・一
中華民國	一九、六九〇	〇・二	〇・四

ポーランド	一七、六三四	四・五	五・五
スエーデン	一六、七三三	四・一	二七・三
チエッコスロバキヤ	一三、四八三	九・九	九・一
ルーマニヤ	一一、三一三	三・八	六・二
イスパニヤ	九、四一六	一・九	四・〇
ユーゴースラビア	九、三九六	三・七	六・六
チリー	八、九三七	一・二	二〇・八
ハンガリー	七、八二〇	八・四	九・〇
滿洲國	六、一六八	〇・五	一・九
オーストリヤ	五、八〇三	六・九	八・六
フインランド	五、四七八	一・六	一四・九
エジプト	五、四三〇	〇・六	四・五

列國の自動車(一九三四年)

	總數	乗用車	一萬人に付
帝國	一〇九、二三四	六八、七四六	一六・〇
アメリカ	二三、八二七、二九〇	二〇、六二六、〇四三	一、八九五・七
フランス	一、八九〇、一七四	一、四三三、〇五三	四五一・八
イギリス	一、七三五、〇二五	一、三三三、八五〇	三八五・一
カナダ	一、〇五一、二三一	九〇〇、四九一	一、〇〇〇・六
ドイツ	八六六、二三八	六七四、五二三	一三一・二
濠洲	五六一、一〇九	四三三、九一三	八四六・二
イタリー	三四七、二六四	二五七、四八九	八三・五
アルゼンチン	二六七、〇五五	一九九、四六一	二二九・一

ベルギー	一八九、七二五	一二一、二二五	二三、五
イスパニヤ	一七二、六五〇	一三〇、三〇〇	五一、四
南阿聯邦	一七二、三六二	一五四、五九六	二〇三、一
新西蘭	一六五、九六四	一三九、〇三三	一、〇九九、八
スエーデン	一四一、二〇八	一〇二、三九三	二三七、三
オランダ	一三八、三〇〇	九〇、五五〇	一六六、八
ブラジル	一三七、四五〇	八五、三〇〇	二四、一
印度(英領)	一三三、七七九	一二三、七七八	三、五
デンマーク	一一九、五四八	八五、二七五	三三〇、〇
チエッコスロバキヤ	一一一、九一八	八三、九八五	八〇、三
スイス	九八、七三〇	七六、一二五	二三九、三
メキシコ	八一、四三一	五九、九三八	四九、六

列國の航空(一九三三年末)

	飛行機	操縦士	飛行場
帝國	一五二	五八九	一八
アメリカ	九、二八四	一三、六六〇	二、〇七一
フランス	一、六五四	一、四七五	一〇二
ドイツ	一、〇七一	二、五〇〇	一二二
イギリス	一、〇五五	三、一五八	三九七
イタリー	三九三	七〇八	六五
カナダ	三四五	八九	七七
濠洲	二〇九	六三七	—
ベルギー	一七三	—	三三
スイス	八五	—	三八
印度(英領)	八二	二六七	—
南阿聯邦	七〇	一〇〇	—
新西蘭	六八	三二四	—
オランダ	六七	八七	二四

列國の船舶(一九三四年六月)

	汽船隻數	噸數
帝國	一、七四三	四、〇一四、九三五
イギリス	九、二八〇	二〇、六〇七、四六八
アメリカ	三、三一八	一二、三六一、九一九
ノルウエイ	一、九〇四	三、九八〇、一〇一
ドイツ	二、〇三三	三、六八〇、三五三
フランス	一、四五九	三、三五九、五九四
イタリー	一、〇三一	二、八七五、一八三
オランダ	一、四〇七	二、六二一、三七七
スイス	一、三〇九	一、五九七、三一四
ギリシヤ	五五〇	一、五〇七、二六〇
イスパニア	七八二	一、一六四、四八九
デンマーク	六八六	一、一〇〇、七七八
ソヴィエト	四八九	九三九、三〇八
ブラジル	二九三	四九四、五一四
ベルギー	一九二	四一三、二三三
アルゼンチン	三〇四	三一六、一五三
フィンランド	二九五	四〇二、八〇一
中華民國	二五二	三九七、七一二

帝國の財政

昭和十年度の豫算(單位百萬圓)

歲出省別

皇室費	四・五
外務省	二九・七
内務省	一六一・四
大藏省	四七三・三
陸軍省	四九三・〇
海軍省	五二九・七
司法省	三八・二
文部省	一四八・二
農林省	九一・五
商工省	一三・五
遞信省	一八九・九
拓務省	二〇・六
合計	二、一九三・四

歲入

經常部	
租稅	八二八・七
印紙收入	八二・二
官業及官有財產收入	二七六・四
其の他	—
小計	一、三三五・六
臨時部	
普通歲入	一〇一・〇
公債金	七五〇・〇
前年度繰越	七〇
小計	八五〇・八
合計	二、一九三・四

最近の國債(單位千圓)

4月1日	現在高
昭和5年	5.959.457
6年	5.955.816
7年	6.187.657
8年	7.054.195
9年	8.139.035

列國の財政（一九三三年・單位百萬圓）

	歲出	歲入
日本	二、二五五	一、五五九
米國	六、五三三	五、六〇一
英國	八、三九〇	八、〇七四
獨逸	二、九〇四	二、五五八
佛國	三、九六八	三、五八八
伊國	二、三一三	一、八九七

（平價換算）

列國の國債（一九三三年・單位百萬圓）

	總額	人口一人當り
日本	七、八二二	一二六圓
米國	四五、三一七	三六〇圓
英國	七六、七三九	一六六一圓
獨逸	五、八九三	九〇圓
佛國	三六、一三六	八三六圓
伊國	九、九二二	二三五圓

列國の國富（單位百萬圓）

	調査年次	總額	人口一人當り
米國	一九三三	八八〇、三六八	七、〇五三圓
英國	一九二五	二八九、〇八一	六、三八〇圓
佛國	一九二五	一二六、六二六	三、一〇五圓
露國	一九二四	一三三、七三四	八九九圓
日本	一九三〇	一一〇、一八八	一、七三一圓
獨逸	一九二四	八六、七〇〇	一、三八〇圓
印度（英領）	一九三三	七一、六一〇	二八三圓
カナダ	一九二八	六二、一九二	六、四三八圓
伊國	一九二八	五三、六七五	一、三一七圓
中華民國	一九三三	三九、四五三	九〇圓
ポーランド	一九三三	三五、一三九	一、二四八圓
アルゼンチン	一九三三	二七、二三九	三、一一三圓
ブラジル	一九三三	二六、九一二	三、五一七圓
ベルギー	一九三〇	二四、六九六	三、〇五三圓
濠洲	一九三三	一八、四一四	三、六八三圓
瑞西	一九三三	一七、七二六	四、五四三圓
オランダ	一九三三	一七、〇七三	二、四〇九圓
キューバ	一九三三	一六、五三六	五、二六一圓
メキシコ	一九三三	一六、三三九	一、一四七圓
ペルー	一九三三	八、二六八	一、四九〇圓
フィンランド	一九三三	七、四四一	二、三三六圓
チリー	一九三三	六、三三三	一、六七〇圓
滿洲國	一九三〇	四、五〇九	一五三圓
新西蘭	一九三三	四、一三四	四、一三四圓
ラトヴィア	一九二八	二、五三一	一、二四五圓

○外國貨幣の邦貨換算は當該年平均爲替相場に依る
○滿洲國の地域範圍は舊來三省に限る

列國の國民所得（單位百萬圓）

	調査年次	總額	人口一人當り
米國	一九三三	一五七、六〇八	一、二五一圓
露國	一九三三	八二、九九二	五〇九圓
英國	一九三四	六五、七〇〇	一、四二二圓
獨逸	一九三三	三九、〇三九	六〇一圓
佛國	一九三三	二八、八四〇	六八八圓
カナダ	一九二七	一九、五八〇	二、〇六一圓
日本	一九三〇	一〇、六三六	一六五圓
伊國	一九二七	九、六九四	二三九圓
濠洲	一九三三	四、〇四七	七〇四圓
ベルギー	一九三〇	二、六七八	三三一圓
印度（英領）	一九三三	二、四一九	七圓
ルーマニア	一九三三	二、〇六七	一一二圓
南阿聯邦	一九三三	一、八六〇	二六七圓
滿洲國	一九三〇	九三二	三一圓
トルコ	一九三三	八二七	一〇三圓
新西蘭	一九三三	七四四	七四四圓
ギリシャ	一九三三	六二〇	一二四圓
ブルガリヤ	一九三三	五一七	一〇三圓
ポルトガル	一九三三	四九六	八三圓

各國貨幣の邦貨換算は當該年平均爲替相場による
滿洲國の地域範圍は舊東三省に限る

帝國の國民所得（昭和五年・單位千圓）

	總額	割合（總額千に付）
農業	一、八八三、一九五	一七七
水產業	一九九、五四八	一八
鑛業	二四九、五五四	二三
工業	三、四八三、〇二一	三二八
商業	二、七〇六、〇七九	二五四
交通業	八四一、三一六	七九
公務・自由業	一、一五〇、四一三	一〇八
家事	一九六、二八九	一九
合計	一〇、六三五、七八五	一人當り一六五圓

帝國の國富（昭和五年・單位千圓）

	總額	割合（總額千に付）
土地	四一、〇九一、三四八	三七三
建物	二二、八四三、三〇〇	二〇七
家具・家財	一二、四七三、一〇一	一一三
樹木	六、七〇六、八一五	六一
鑛山	六、四九九、六五一	五九
鐵道・軌道	三、五九八、一三八	三三
船舶	二、〇六〇、二三六	一九
機械・器具	一、八〇九、三八一	一七
その他	…………	……
合計	一千百一億八千八百萬圓	一人當り一・七三一圓

列國の郵便貯金（一九三三年・單位千圓）

國	預入金額	預入人數	預入一人當り金額(圓單位)
帝國	二、九一九、三四五	四一、六二五、三〇六	七〇
內地	二、八〇九、一九二	三七、七〇三、二八七	七五
朝鮮	四四、八〇七	二、八四〇、六五六	一六
臺灣	一九、三〇七	五二一、四八二	三八
樺太	九、三六一	一五五、七八五	五九
關東州	二四、九八六	三九五、七七〇	六八
南洋	一、八九二	一八、三三六	一〇三
英國	四、八二一、二〇四	九、四八三、〇〇〇	五〇七
佛國	四、八〇一、九六七	九、八二七、六〇一	四八九
伊國	四、一二八、八九四	九、八三三、八一四	四二〇
米國	三、九三八、八〇八	二、四九三、二〇四	一、五八〇
濠洲	一、六〇三、四三四	一、八三九、七一四	八七一
ベルギー	一、四〇六、六六八	五、三五一、五五四	二六三
オランダ	一、〇七七、六九〇	二、二六七、六七六	四七五
新西蘭	七四三、六八二	七九八、二六二	五二一
印度(英領)	五一九、〇五四	二、七三六、六四五	一九〇
瑞典	三七六、六三三	一、七〇一、七六一	二二一
ポーランド	二九〇、三五一	一、一五四、六六六	二五三
南阿聯邦	一八九、一〇四	五四一、三〇九	三四九
アルゼンチン	一〇三、四三一	一、五五一、五三三	六七

列國の貨幣

國名	單位名	邦價との平價比	國名	單位名	邦價との平價比
日本	圓	一・〇〇〇〇〇	フインランド	マルカ	〇・〇五〇五三
滿洲國	國幣圓	一・一二〇〇〇	瑞西	フラン	〇・三八七一〇
中華民國	國幣弗	一・二〇〇〇〇	チェッコ	コルナ	〇・〇四九五三
印度(英領)	ルピー	〇・七三三二四	墺地利	シルリング	〇・二八三二九
シャム	バート	〇・八八七五六	ハンガリー	ペンゲ	〇・三五〇三八
蘭領印度	グルデン	〇・八〇六四〇	ギリシャ	ドラクマ	〇・〇二六〇四
イラン	リヤル	〇・〇九七六三	埃及	埃及磅	九・九一六六七
トルコ	ポンド	八・八二〇二四	米國	ドル(弗)	一・一八四七四
英國	磅(ポンド)	九・七六三二八	カナダ	ドル	二・〇〇六一七
佛國	フラン	〇・〇七八六〇	メキシコ	ペソ	一・〇〇〇〇〇
獨逸	マルク(ライヒス)	〇・四七七九〇	キューバ	ペソ	二・〇〇六一七
伊國	リラ(利)	〇・一〇五五九	コスタ・リカ	コロン	〇・五〇一五四
ベルギー	ベルガ	〇・二七八九五	グアテマラ	ケツアル	二・〇〇六一七
オランダ	グルデン	〇・八〇六四〇	ニカラガ	コルトバ	〃
デンマーク	クローン	〇・五三七六三	パナマ	バルボア	〃
瑞典	〃	〃	コロンビア	ペソ	一・九五三六三
ノルウエイ	〃	〃	ボリビア	ボリビアノ	〇・七三三二四
イスパニア	ペセタ	〇・三三七一〇	ペルー	ソール	〇・五六二九七
ポルトガル	エスクド	〇・〇八八七六	チリー	ペソ	〇・二四〇四八
露國	ルーブル(留)	一・〇三三三一	ブラジル	ミルレイス	〇・二四〇〇〇
ポーランド	ヅロテイ	〇・二二五〇六	アルゼンチン	ペソ	一・九三五四八

帝國の貿易（單位百萬圓）

	大正二年	大正九年	大正十四年	大正十五年	昭和八年	昭和九年
總額	一、三六二	四、二八四	四、八七八	四、三六五	三、七七八	四、四五四
輸出	六三三	一、九四八	二、三〇五	二、〇四九	一、八六一	二、一七二
輸入	七二九	二、三三六	二、五七三	二、三一六	一、九一七	二、二八二
差額(入超)	九七	三八八	二六七	六七	五六	一一〇
一人當りの貿易額	二六圓	七七圓	八二圓	六九圓	五六圓	六五圓

重要輸出品（單位千圓）

	大正十三年	昭和八年	昭和九年
綿織物	三二六、五八七	三八三、二一五	四九二、三五一
生絲	六八五、三六六	三九〇、九〇一	二八六、七九四
人絹織物	—	七七、三八二	一二二、四八四
絹織物	一二五、八四〇	六三、五四五	七七、四九八
機械同部分品	九、六三三	二五、八五七	三七、七七七
鐵	六、五四六	三四、六六六	三三、〇二九
罐壜詰食料品	七、九九八	四六、九八四	四九、一三五
メリヤス製品	三二、〇二〇	四三、〇四七	四七、六一八
陶磁器	一五、四三七	三五、六三四	四一、八七七
鐵製品	一二、八〇五	二六、八九七	三五、二七七
玩具	八、三〇〇	二六、三三五	三〇、三六六
毛織物	二、三八七	一二、三七七	二九、八四九
小麥粉	一、八八四	二四、九三五	二八、四五二
木材	一三、六七六	一八、六三八	二三、九二五
綿織絲	一〇九、六二一	一五、七一二	二三、四八五
人絹絲	—	九、四八三	三二、四〇〇
履物	一、九三二	二九、六三〇	三一、五四五
紙類	一五、五七七	一七、六八七	二〇、六三〇
硝子及同製品	一二、七三六	一五、三三七	一九、四五四
自轉車	七五五	一二、一一四	一八、九〇四
水產物	二二、四八九	一〇、三〇二	一八、二九六
帽子	四、八一八	一三、九二七	一七、八六〇
其の他	—	—	—
總計	一、八〇七、〇三五	一、八六一、〇四六	二、一七一、九二五

重要輸入品（單位千圓）

	大正十三年	昭和八年	昭和九年
棉花	六〇五、二七五	六〇四、八四七	七三一、四三五
羊毛	八八、〇四一	一六四、一九二	一八六、四三五
鐵(銑鐵を除く)	一七六、八七一	一一一、〇四三	一四五、〇三五
鑛油	六〇、六二二	一〇八、八五九	一二四、〇二七
機械同部分品	一二八、五三三	七三、六五八	九六、〇二三
生ゴム	二三、三四二	二九、六八五	三七、三三八
豆類	六〇、八九〇	五〇、三四五	五一、九六八
石炭	二九、一六七	三六、六五七	四七、一九二
製紙用パルプ	一〇、六二四	二七、〇六六	四四、二三六
油糟	一〇三、六四六	四一、一八一	四二、〇四一
小麥	七三、八九七	四四、三八四	四〇、七四九

	大正十三年	昭和八年	昭和九年
木材	一三九、〇七三	四〇、五八四	四〇、一八三
自動車及同部分品	三二、一八六	一三、八七一	三三、三〇二
飼料	—	二〇、七六一	三一、〇八四
鑛	一一、五六〇	二三、一七三	二七、八〇六
銑鐵	二三、〇八七	二五、二五二	二六、五三九
銅	四、八四〇	七、四七六	二六、一七一
麻	二五、三八七	一九、七六一	二四、三〇九
採油用種子	一八、九九九	二三、〇九六	三二、八〇三
水產物	—	一五、七四八	二〇、二八〇
鉛	一四、五七七	一一、九〇三	一七、九〇三
其の他	—	—	—
總計	二、四五三、四〇二	一、九一七、二二〇	二、二八二、五三一

本邦重要輸出入品圖解

輸出：生絲　綿織物　人絹織物　絹織物　機械類　罐詰及食料品　其の他
輸入：棉花　羊毛　鐵　機械類　鑛油　其の他

生絲・綿織物輸出價額累年比較

（億円　0　4　8；大正13　昭和4　6　8　9；生絲　綿織物）

帝國の相手國別貿易（單位千圓）

輸出	大正十三年	昭和八年	昭和九年
亞細亞洲	七五七、〇六一	九三〇、六三七	一、一六九、五〇三
北アメリカ洲	七六〇、三三七	四九八、八一八	四〇七、六一四
ヨーロッパ洲	一七五、〇五一	一八二、〇七八	二二七、七三一
アフリカ洲	四一、二〇二	一三七、三三九	一八二、三〇七
太洋洲	五〇、八三九	六五、三八〇	七九、八〇五
南アメリカ洲	一八、〇五六	三〇、三七九	六一、四〇七
中央アメリカ洲	四、四五〇	一六、五一四	四三、二〇五
アメリカ	七四四、九二六	四九二、二二八	三九八、九二八
關東洲	七三、六〇一	二二一、〇六八	二五五、八六八
英領印度	一三五、三七三	二〇五、一一五	二三八、三一三
蘭領印度	五九、三三一	一五七、四八八	一五八、四二一
中華民國	三四八、三九九	一〇八、二五三	一一七、〇五三
イギリス	六一、四一四	八七、八四九	一〇九、二七〇
滿洲國	—	八三、〇七一	一〇七、一三一
エジプト	二七、〇八〇	五五、六〇八	七三、九八八
濠洲	四一、九〇七	五一、四一六	六四、四六三
海峽植民地	三二、七四二	四六、一一三	六三、三一〇
フランス	八五、七九〇	三八、七三六	二六、三一八
フイリツピン	二三、五〇八	二四、〇五一	二六、四六一
香港	七九、〇一一	二三、四一九	二三、四九七

輸入	大正十三年	昭和八年	昭和九年
北アメリカ洲	七二一、〇二八	六六七、七〇三	八二三、四七六
亞細亞洲	九九八、六〇三	六六八、五五七	八三〇、〇三〇
ヨーロッパ洲	五八二、〇九一	二八二、八二二	二五三、六二三
大洋洲	一三七、七六五	二二一、三九一	二二四、二九六
アフリカ洲	三二、〇七三	四八、四〇七	七九、五四四
南アメリカ洲	八、五三五	一三、八七三	三三、九六三
中央アメリカ洲	一、七七一	四三八	八〇七
アメリカ	六七〇、九九三	六二〇、七七九	七六九、三五九
英領印度	三八七、七九二	二〇四、七三八	二六九、六〇五
濠洲	一一九、九七一	二〇四、五八六	一九七、一七六
滿洲國		一四七、八九八	一四〇、二〇九
中華民國	二三七、五四四	一一三、三五七	一一九、五六二
獨逸	一四四、六四三	九五、七六八	一〇九、五六四
イギリス	三三二、七五一	八二、五五九	七〇、〇〇七
蘭領印度	九二、四〇一	五五、七一〇	六五、四四四
海峽植民地	三一、三四〇	三八、七七三	六三、三一〇
カナダ	四〇、〇二五	四六、八九一	五四、〇八四
エジプト	一七、〇一四	二六、四五六	四六、二六九
露領アジア	一五、一八五	三一、〇四三	三二、一五三
關東洲	一七五、七四四	二〇、一六一	二七、三二三
瑞典	一六、三七一	一六、〇八六	二二、一四〇
フイリツピン	一七、八四三	一四、一八五	一八、八九一

昭和九年度輸出入國別

輸出：關東洲　英印　蘭印　中華　滿洲國　米國　其他
輸入：米國　英印　濠洲　滿洲國　中華　独逸　其他

米國との貿易（昭和九年・單位千圓）

輸出		輸入	
生絲	三三九、五六八	棉花	四〇〇、九一九
鑵壜詰食料品	五〇、三〇四	鑛油	六一、九三三
陶磁器	一四、三一四	鐵（銑鐵を除く）	六七、八二九
玩具	九、六〇四	機械	三五、五三五
植物性脂肪油	八、八六〇	自動車	三一、五五三
除蟲菊	六、七九一	銅	二六、一一四
絹織物	五、二五八	木材	二〇、九六七
製帽用眞田その他	四、六二九	製紙用パルプ	一六、三三一
茶	四、六二九	鉛	六、八二三
計	三九八、九二八	計	七六九、三五九

英領印度との貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
綿織物	七四、一三三	棉花	二五二、四五五
人絹織物	三、四三三	銑鐵	七、二九二
綿絲	二〇、〇八七	麻及其の他植物纖維	四、八八四
絹織物	二、二二二		
メリヤス製品	八、三五〇	其の他	—
その他	—		
計	二三八、三三一	計	二八九、六七二

滿洲國及關東州との貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
綿織物	五九、四七一	豆類	四七、七三五
機械同部分品	四三、七六六	油粕	三四、五六三
鐵類	四〇、六九五	石炭	三〇、五八五
小麥粉	二七、六四一	銑鐵	一八、九八〇
鐵製品	二、九九〇	採油用種子	一〇、四八三
其の他	—	其の他	—
計	四〇三、〇一九	計	一九、四三三

中華民國との貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
綿織物	一三、〇三〇	棉花	一五、六九三
機械同部分品	九、六九一	採油用種子	一一、二二五
精糖	六、九九〇	麻及植物纖維	一〇、一七〇
紙類	六、一五三	鰊	八、七一二
鐵	四、九五七	石炭	六、八一八
その他	—		—
計	一一七、〇六三	計	一一九、五六二

蘭領印度との貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
綿織物	八二、八二八	鑛油	三五、六四六
人絹織物	一三、〇六八	生ゴム	一四、三八四
鐵製品	五、〇五五	砂糖	九、六五八
メリヤス製品	四、三三九	木材	二、一五三
その他	—		—
計	一五八、四五一	計	六三、四六四

濠洲との貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
人絹織物	一六、九三七	羊毛	一五九、二四一
綿織物	一四、七六四	小麥	二三、〇三三
絹織物	八、八四〇	牛脂	三、五八八
生絲	四、〇一七		
その他	—		—
計	六四、四六二	計	一九七、七五八

英國との貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
罐壜詰食料品	二四、七二二	機械類	一五、九〇五
生絲	一四、三三七	鐵（銑鐵を除く）	二、四九七
絹織物	一〇、五八八	毛織物	五、〇四二
メリヤス製品	七、六七二		
豆類	六、三三三	計	七〇、〇三七
その他	—		
計	一〇九、二二七		

獨逸との貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
魚油及鯨油	一、四四五	機械類	二四、八五八
その他	—	鐵	一三、五九三
		硫安	二、六八〇
計	一九、六七七	計	一〇九、五八四

エジプトとの貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
綿織物	四六、八三四	棉花	三九、七八七
人絹織物	八、〇七六	燐鑛石	四、七八七
メリヤス製品	三、〇三〇		
その他	—		
計	七三、九八八	計	四六、二五九

フランスとの貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
生絲	二〇、三三四	機械類	三、三三三
絹織物	二、三七三		
その他	—		—
計	三八、三二八	計	一八、三〇〇

カナダとの貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
陶磁器	一、五〇八	木材	九、四七〇
米及籾	一、一九五	小麥	八、一一〇
その他	—	鉛	七、四〇六
		パルプ	七、二四五
計	八、六六六	計	五四、〇九四

海峽植民地との貿易（昭和九年）

輸出	千圓	輸入	千圓
綿織物	一七、三九四	生ゴム	三七、八一八
人絹織物	三、五四二	錫	一〇、六一三
絹織物	三、三九六	鑛	八、七四三
石炭	二、五〇三		
その他	—		
計	六三、三三〇	計	六三、三三〇

帝國の港別貿易（昭和九年・單位千圓）

	總額	輸出	輸入
神戸	一、五八二、一四五	七九〇、六〇一	七九一、五四四
大阪	一、一〇九、四七〇	五八六、一八〇	五二三、二九〇
横濱	一、〇二七、五一七	四九〇、二〇一	五三七、三一六
名古屋	三〇四、〇四一	二一五、五一五	八八、五二六
門司	一三五、八七九	五一、九四五	八三、九三四
若松	七一、七三四	二三、三四七	四八、三八七
四日市	六四、〇八二	六、三八三	五七、六九九
函館	四一、五三三	二五、七七六	一五、七五七
清水	三〇、九一九	一四、〇六五	一六、八五四
徳山	三〇、二七六	一四一	三〇、一三五
小樽	二八、九五四	二四、七一四	四、二四〇
長崎	二二、一〇一	五、八五六	一六、二四五
武豊	一三、五七六	二二〇	一三、三五六
青森	一一、七三三	六、三三三	五、四〇〇
新潟	一一、二五〇	一、五七四	九、六七六
三池	九、六二八	六、四二九	三、一九九
尾道絲崎	八、五七八	五九三	七、九八五
室蘭	七、九一三	二、六一六	五、二九七
釜石	六、〇三四	九七八	五、〇五六
伏木	五、八五八	一、〇〇三	四、八五五
博多	五、八一三	二、一八六	三、六二七
敦賀	五、六七七	二、七二七	二、九五〇
鹿兒島	五、二〇四	七六七	四、四三七
下關	四、一一一	二、九六五	一、一四六
釧路	三、三六五	三、二八一	八四
今治	三、一四四	六〇四	二、五四〇
宇野	二、五二五	六二八	一、八九七
三角	二、二二二	三三二	一、八九〇
鹽釜	一、四一〇	五六七	八四三
根室	一、二五六	一、二五六	—
境	九九五	二九八	六九七
船川	九九二	六一七	三七五
那覇	九〇四	二四	八八〇
唐津	七七一	二一四	五五七
夷港	六八一	—	六八一
七尾	四五六	一三九	三一七
萩	四二六	四二六	—
住ノ江	三七六	二一八	一五八
大泊	二三〇	三	二二七
眞岡	二〇一	一九	一八二
口ノ津	一四六	九	一三七
宮津	一三三	六〇	七三
嚴原	九六	九一	五
濱田	九一	三	八八
總額	四、四五四、四五六	二、一七一、九二五	二、二八二、五三一

神戸港の貿易（昭和九年・單位千圓）

輸出		輸入	
綿織物	一六八、五八四	棉花	四三六、二八八
絹及人絹織物	一三、五七七	生ゴム	三七、八四六
生絲	八三、一五三	機械類	三四、二五五
メリヤス製品	三三、四六八	羊毛	三〇、四五〇
帽子	一三、五八〇	製紙用パルプ	二八、七〇八
ゴム靴・地下足袋	一一、一〇一	豆類	二一、八八八
水產物	八、三五三	原油・鑛油	二一、三九五
綿タオル	七、四五〇	麻類	一〇、六一四
鐵製品	一二、四九五	計	七九一、五四四
その他	—		
計	七九〇・六〇一		

主要港別貿易

神戸 / 大阪 / 横浜 / 名古屋 / 其他

神戸港の貿易

輸出：生絲 / 絹及人絹織物 / 綿織物 / 其の他

輸入：棉花 / 生ゴム / 機械類 / 羊毛 / 其他

横濱港の貿易（昭和九年・單位千圓）

輸出		輸入	
生絲	二〇四・六四一	鑛油	五七・四八四
絹・人絹織物	四四、二五四	棉花	四八、六〇一
小麥粉	一九、八〇五	羊毛	四三、七六三
玩具	一七、四九八	鐵（銑鐵を除く）	四三、一四六
機械類	一四、七六〇	小麥	二五、〇四〇
其の他	—		三
計	四九〇・二〇一	計	五三七、三一六

横浜港の貿易

輸出：生絲 / 絹及人絹織物 / 小麥粉 / 玩具 / 其他

輸入：鑛油 / 棉花 / 羊毛 / 鐵 / 機械類 / 小麥 / 其他

大阪港の貿易

輸出：綿織物 / 人絹織物 / 其の他

輸入：棉花 / 鐵 / 羊毛 / 其他

大阪港の貿易（昭和九年・單位千圓）

輸出		輸入	
綿織物	二六九、五七九	棉花	二〇八、七七九
人絹織物	三三、六六六	鐵	五一、三六四
機械類	二一、九一四	羊毛	四〇、〇七四
鐵製品	一八、三八一	木材	二〇、〇九五
人造絹絲	一七、三五九	銅	一三、一八三
その他	—		
計	五八六、一八〇	計	五二三、二九〇

列國の貿易（一九三三年度 世界十五位迄 單位百萬圓）

	總額	輸出	輸入	差額（▲輸入超過）
イギリス	一六、四三六	六、〇六二	一〇、三七四	▲四、三一二
アメリカ	一二、一六五	六、五二四	五、六四一	▲八八三
獨逸	一〇、六七五	五、七三〇	四、九四五	七八五
フランス	九、二四三	三、六三六	五、六〇七	▲一、九七一
オランダ	三、八六一	一、四四八	二、四一三	▲九六五
ベルギー	三、八四六	一、八〇四	二、〇四二	▲二三八
日本	三、七七八	一、八六一	一、九一七	▲五六
カナダ	三、三九一	一、九三二	一、四五九	▲四七三
印度（英領）	三、二五五	一、八一四	一、四四一	三七三
伊太利	三、一七八	一、二六四	一、九一四	▲六五〇
濠洲	二、七〇四	一、八二九	八七五	九五四
瑞西	二、三四二	八一六	一、五二六	▲七一〇
南亞聯邦	二、一五五	一、三六八	七八七	五八一
中華民國	二、一五一	六七二	一、四七九	▲八〇七
瑞典	一、八六二	九二七	九三五	▲八

列國の主要貿易港（單位百萬圓）

	年次	總額	輸出	輸入
ハンブルグ（獨）	一九三三	五、四五一	二、六五二	二、七九九
ロンドン（英）	一九三三	五、一一七	一、四四〇	三、六七七
ニューヨーク（米）	一九三三	四、〇八八	一、七五三	二、三三六
リヴァプール（英）	一九三二	二、三三九	一、一〇六	一、二三三
シンガポール（海峽）	一九三三	一、九五八	九三六	一、〇二二
神戸（日本）	一九三四	一、五八二	七九一	七九一
マルセイユ（佛）	一九三二	一、三三九	七三六	六〇三
上海（中華）	一九三三	一、一五六	三四七	八〇九
大阪（日本）	一九三四	一、一〇九	五八六	五二三
横濱（日本）	一九三四	一、〇二八	四九〇	五三七
モントリオール（加）	一九三二	九〇九	四一六	四九三
ハル（英）	一九三二	八一〇	二六九	五四〇
ルアーヴル（佛）	一九三二	七〇四	二二〇	四八五
大連（日本）	一九三三	七〇一	三二七	三七四
ニューオルレアンス（米）	一九三二	六九三	四五六	二三七
サザンプトン（英）	一九三二	六二六	三九六	二三七
カルカッタ（印）	一九三二	六二六	三九六	二三〇
マンチェスター（英）	一九三二	六〇七	一六五	四四二
アレキサンドリア（埃）	一九三二	五七六	三〇三	二七四
ボンベイ（印）	一九三二	五七一	二三三	三三八
シドニー（濠）	一九三二	五一〇	三二九	一八二
サントス（伯）	一九三三	五〇一	三二九	一七二
グラスゴー（英）	一九三二	四八五	二七一	二一四
トロント（加）	一九三三	四六九	一	四六七
ダンケルク（佛）	一九三二	四六三	一三三	三三〇
ガルベストン（米）	一九三三	四二五	四〇七	一七
フイラデルフイア（米）	一九三二	四二三	一四三	二八二

日本地理一覽

人口は昭和九年十月一日現在
單位（面積—方粁・人口—千人・人口密度—人）

關東地方

府縣	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	産業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其の他
東京府	面積 二一四五 人口 六一四二 密度 二八六三	東京市（首府・府廳） 五六六三 八王子市 五七 養蠶・機業の中心 立川町 一三	關東平野・東京灣 江戸川・荒川（下流隅田川）多摩川 東京市は東海道・中央・東北・高崎・常磐・總武・房總・信越線等の起點	工業 綿絲・毛織・麥酒・精糖・機械・洋紙 肥料・雜貨・藥品・兵器・造船 農業 蔬菜 水産業 淺草海苔 椿油（大島・八丈島） 八丈絹（八丈島）	宮城・明治神宮・多摩御陵・靖國神社 泉岳寺・淺草觀音 上野・芝・日比谷 向島・飛鳥山・小金井・高尾山・三原山	近衞師團・近衞步兵第一・第二・第三 第四聯隊・第一師團（步兵第一・第三聯隊） 其の他 東部防衞司令部 東京警備司令部
神奈川縣	面積 二三五三 人口 一七八一 密度 七五七	横濱市（縣廳） 七〇四 横須賀市 一六〇 川崎市 一三九 平塚市 三四 鎌倉町 二七 小田原町 二六	三浦半島・相模灣 大山・箱根山・相模川・馬入川・酒勾川 横濱港 東海道線・横濱線 京濱電車	工業 綿絲・洋紙・麥粉・機械・雜貨・麥酒 造船・煙草（秦野） 養豚・養鷄 横濱港の貿易 輸出四九〇百萬圓（生絲人絹玩具） 輸入五三七百萬圓（礦油 棉花 羊毛 鐵）（昭和九年）	鎌倉・江の島・浦賀 箱根・小田原・葉山 逗子・石垣山・石橋山・金澤八景・記念艦三笠（横須賀）	横須賀軍港 東京灣要塞地帶・海軍水雷學校・砲術學校（田浦） 横須賀重砲兵聯隊 横須賀海軍航空隊 富岡海軍航空隊
千葉縣	面積 五〇七八 人口 一五二六 密度 三〇〇	千葉市（縣廳） 五五 銚子市 四六 市川市 四一 船橋町 二二 野田町 一九	房總半島・九十九里濱・利根川・印旛沼 總武線・房總線・常磐線・成田線 銚子港・館山港	米・麥・甘藷・養豚 養鷄 漁業 鰯・鮪・鰹 醤油（野田・銚子） 味醂（流山）	香取神宮・成田山不動尊・清澄山・鋸山 三里塚・犬吠燈臺 小湊・國府臺・鹿野山	騎兵第一・第二旅團 鐵道第一・第二聯隊 野戰重砲兵第三旅團 氣球隊・戰車第二聯隊・步兵第五十七聯隊（佐倉）

縣	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	產業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其の他
埼玉縣	面積 三八〇二 人口 一五一一 密度 三九七	浦和市(縣廳) 四四 川口市 四七 熊谷市 三八 川越市 三六 大宮町 二九 秩父町 一九	關東平野・秩父山脈 秩父盆地・荒川 東北線・高崎線の分岐點(大宮) 八高線・秩父鐵道 其の他	米・麥・大豆・甘藷 (川越市附近) 蔬菜 養蠶(熊谷市・秩父) 生絲・絹織物(川越市・所澤・熊谷市 秩父・飯能)	氷川神社(大宮) 吉見百穴(川越市附近) 秩父連山・長瀞 影森	所澤陸軍飛行學校 熊谷陸軍飛行學校
群馬縣	面積 六三三六 人口 一二四〇 密度 一九六	前橋市(縣廳) 九四 桐生市 六七 高崎市 六四 伊勢崎町 二二 館林町 一七	三國山脈・那須火山脈・赤城山・榛名山 妙義山・碓氷峠・清水峠 上越線・信越線・兩毛線の三線の集中點 (高崎)	養蠶・麥 機業 銘仙(伊勢崎) 輸出向の絹織・御召 羽二重(桐生市) モスリン製織(館林)	伊香保・草津・四萬を始め温泉多し 上州三山(赤城・榛名・妙義) 碓氷峠 利根川の上流	歩兵第十五聯隊(高崎) 清水トンネル(上越線) 長さ日本一、九七〇二米、通過所要時間約一五分
栃木縣	面積 六四三七 人口 一一八三 密度 一八四	宇都宮市(縣廳) 八七 足利市 四八 栃木町 三〇 足尾町 二四 鹿沼町 二二 日光町 二〇	那須火山脈 那須山・男體山 鬼怒川 東北本線・兩毛線 水戸線の會點(小山) 日光線	煙草(茂木・烏山 太田原) 大麻(鹿沼) 鑛業 足尾銅山 絹織物・絹綿交織(足利市) 養蠶 中心地は栃木 宇都宮市附近には干瓢の產あり	日光・中禪寺湖・華嚴の瀧・奧日光スキー場 鹽原温泉・湯本温泉 鬼怒川温泉 唐澤山神社(佐野附近)	第十四師團司令部 歩兵第二十七旅團司令部 歩兵第五十聯隊 騎兵第十八聯隊 野砲兵第二十聯隊
茨城縣	面積 六〇九一 人口 一五四九 密度 二五四	水戸市(縣廳) 六六 日立町 二八 古河町 一八 土浦町 一八	阿武隈山脈・筑波山 霞ヶ浦・鬼怒川 那珂川・久慈川・鹿島灘 常磐線・水戸線 水郡線(水戸・郡山間)	米・麥・大豆・煙草 日立 銅・金・銀(太田) 本邦第二の製錬所 常磐炭田 漁業 醬油(土浦・石岡) 織物 結城紬	鹿島神宮・水戸城址 偕樂園・常磐神社 磯濱・大洗 弘道館公園 西山莊(光圀隱栖の地)	歩兵第二聯隊(水戸) 霞ヶ浦海軍航空隊

奥羽地方

縣	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	產業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其の他
福島縣	面積 一・三七八二 人口 一五六四 密度 一一三	福島市(縣廳) 四九 郡山市 五八 若松市 四五 平町 二五	那須火山脈(安達太郎山・磐梯山) 阿武隈山脈・猪苗代湖 會津盆地 磐越線・水郡線・東北線・奧羽線	煙草(須賀川) 養蠶 櫻桃、馬鈴薯、牧馬(三春・白河) 常磐炭田(平) 生絲 (郡山・二本松) 羽二重(川俣) 相馬燒 (中村) 會津燒・會津塗(若松市)	靈山・白河關址・勿來關址・飯盛山・磐梯山(會津富士) 飯坂温泉・東山温泉	歩兵第二十九聯隊(若松) 原町(送信) 富岡(受信)には規模宏大の無線電信局がある 軍馬育成所(白河)
宮城縣	面積 七二七四 人口 一二二一 密度 一六七	仙臺市(縣廳) 二一七 石巻市 三五 鹽釜町 二三	北上平野・仙臺灣 北上川・阿武隈川 牡鹿半島・奧羽山脈 東北線・陸羽東線 石巻線・石巻港	米・漁業(金華山) 牧馬(鬼首) 養蠶・生絲 八橋織・仙臺平(仙臺)	松島(日本三景の一) 青葉城址・鹽釜神社 多賀城址・鬼首(間歇温泉・鳴子温泉	第二師團司令部 歩兵第三旅團司令部、歩兵第四聯隊 騎兵第二聯隊、野砲兵第二聯隊
岩手縣	面積 一・五二三五 人口 一〇三五 密度 六八	盛岡市(縣廳) 六九 釜石町 三一	北上山脈・奧羽山脈 北上川・岩手山 東北線・山田線・大船渡線・横黑線・花輪線	大豆・稗・林檎 牧馬(小岩井農場) 鐵 釜石鑛山 漁業 宮古 南部鐵瓶・南部釜(盛岡)	中尊寺・衣川の柵址 膽澤城址・厨川柵址 花巻温泉	騎兵第三旅團司令部 騎兵第二十三聯隊 騎兵第二十四聯隊 緯度觀測所(水澤)
青森縣	面積 九六三一 人口 九三三 密度 九七	青森市(縣廳) 九一 八戸市 五八 弘前市 四六 三本木町 一一	津輕半島・下北半島 陸奧灣・津輕平野 岩木川・馬淵川 岩木山・八甲田山 恐山・東北線・奧羽線・五所川原線 青森港	牧馬(三本木・七戸) 馬鈴薯・大豆 林檎(日本一位) 全國の七割	大鰐温泉・淺蟲温泉 十和田湖(秋田・青森兩縣の境) 第八師團司令部 歩兵第四旅團司令部(弘前)	歩兵第五聯隊(青森) 第三十一聯隊・騎兵第八聯隊・野砲兵第八聯隊(弘前) 大湊要港部 大湊航空隊

府縣	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	產業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其の他
新潟縣	面積 一・二五七八 人口 二〇〇〇 密度 一五九	新潟市(縣廳) 一三八 長岡市 六二 高田市 三一 三條市 三三 柏崎町 二四 新發田町 二一	越後山脈・三國山脈 妙高山・越後平野 信濃川 信越本線・磐越線 羽越線(會點新津) 越後線・北陸線・新潟港・直江津港・兩津港(佐渡)	米 日本一位・漁業(佐渡近海) 石油 日本一位(東山・西山・新津) 製油所(新潟・柏崎) 金・銀 相川・(佐渡) 絹織物(五泉—五泉平・栃尾—紬・小千谷—越後上布・十日町—透綾・紋羽二重)	彌彥神社・春日山城址・(上杉謙信)高田・親不知・妙高山 眞野神社	步兵第十五旅團司令部(高田) 步兵第十六聯隊(新發田) 步兵第三十聯隊 獨立山砲兵第一聯隊(高田)
富山縣	面積 四二五七 人口 八〇三 密度 一八九	富山市(縣廳) 七八 高岡市 五七 新湊町 二二	富山灣・富山平野 白山火山脈・神通川 黑部川 北陸本線・高山線 中越線 魚津港・伏木港	米・漁業(富山灣 螢烏賊—滑川) 絹織物(富山・城端) 銅器・鐵器・漆器(高岡) 賣藥(富山)	魚津の蜃氣樓 立山(國立公園)	步兵第三十五聯隊(富山)
石川縣	面積 四一九八 人口 七六二 密度 一八二	金澤市(縣廳) 一六五 小松町 一七 輪島町 一四 七尾町 一二	能登半島・七尾灣 白山 北陸本線・七尾線 七尾港	絹織物 羽二重(輪出向金澤・小松・大聖寺) 陶磁器(九谷燒・金澤・小松・大聖寺山代)漆器(輪島塗—輪島・山中) 人絹織物(日本二位) 二千九百萬圓(昭和八年)	俱利迦羅峠・兼六公園(日本三公園)安宅の關址・山代溫泉 山中溫泉・粟津溫泉 和倉溫泉	第九師團司令部 步兵第六旅團司令部(金澤) 步兵第七聯隊 騎兵第九聯隊 山砲兵第九聯隊(金澤)
福井縣	面積 四〇一八 人口 六三四 密度 一五七	福井市(縣廳) 七一 敦賀町 二三 武夫町 二一	若狹灣・敦賀灣・小濱灣・九頭龍川 北陸本線 敦賀港・三國港	絹織物(羽二重・福井 勝山・大野) 人絹織物(日本一位) 一〇〇五四萬圓(昭和九年) 漁業(若狹灣—鯛・鰈) 奉書紙(福井・武生) 蚊帳(鯖江・福井)	藤島神社・曹洞宗の本山永平寺・氣比神社・金ヶ崎城址・金ヶ崎宮・東尋坊 平泉寺村・大楠公の墓	步兵第十八旅團司令部 步兵第十九聯隊(敦賀) 步兵第三十六聯隊(鯖江)

近畿地方

府縣	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	產業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其の他
滋賀縣	面積 四〇五一 人口 七一五 密度 一七六	大津市(縣廳) 六七 彥根町 三二 長濱町 一六	琵琶湖・伊吹山 (鈴鹿山脈)比叡山 比良山・近江線 東海道線・北陸本線 近江線	米・菜種・養蠶 絹織物(長濱) 麻織物(大津・八幡 日野・八日市) 漁業 琵琶湖	近江八景・比叡山 竹生島・逢坂・鈴鹿 不破等の關址・姉川 賤ヶ嶽・安土城址 藤樹書院・彥根城址	飛行第三聯隊(八日市) 高射砲第三聯隊(大津)
京都府	面積 四六二二 人口 一六六九 密度 三六一	京都市(縣廳) 一〇八八 福知山町 二二 新舞鶴町 一五	京都盆地・丹波高地 與謝半島・宮津灣 舞鶴灣・中國山脈 東海道線・山陰本線 奈良線・京阪電車等 宮津港・舞鶴港 東海道・中仙道・北陸道・山陰道・中國街道等の起點	茶(宇治)清酒(伏見)養蠶(丹波地方) 絹織物(京都—西陣織—峰山)(日本一位) 人絹織物 陶磁器(清水燒・粟田燒・樂燒—京都) 漆器(京都) 京人形	京都御所・嵐山・東山・東山・二條離宮 平安神宮・北野神社 知恩院・東西兩本願寺・桃山城址・山崎 笠置山・天の橋立 平等院・萬福寺・金閣寺・銀閣寺等名勝舊蹟頗る多し	第十六師團司令部 步兵第十九旅團司令部・步兵第九聯隊・騎兵第二十聯隊・野砲兵第二十聯隊(京都) 步兵第二十聯隊(福知山) 新舞鶴要港 舞鶴要塞地帶
大阪府	面積 一八一四 人口 三九二三 密度 二一六二	大阪市(縣廳) 二七二三 堺市 一二九 岸和田市 三八 吹田町 二四 布施町 二四	大阪灣・大阪平野 淀川・金剛山脈・和泉山脈・東海道線・關西本線・湊町線等を主線とし京阪・阪神・大阪軌道・高野・南海等電車線網甚だ密なり。	農業 米 工業 綿絲(日本一位)綿織物(大阪・堺・岸和田)・モスリン・セメント・燐寸 硝子・肥料・機械 兵器・造船・清酒(池田・堺) 大阪港の貿易(日本二位) 輸出 綿織物 二七〇百萬圓 輸入 棉花 三三・三百萬圓(昭和九年)	大阪城・千早城址 櫻井・四條畷・阿部野・茶臼山・四天王寺・高津神社・中之島公園・住吉公園 天王寺公園・濱寺	第四師團司令部 步兵第七旅團司令部 步兵第八聯隊・步兵第三十七聯隊・騎兵第四聯隊(大阪) 野砲兵第四聯隊(信太山) 由良要塞地帶

兵庫縣	奈良縣	和歌山縣	三重縣
面積 八三二三 人口 二七九九 密度 三三六	面積 三六八九 人口 六〇六 密度 一六四	面積 四七二三 人口 八六五 密度 一八三	面積 五七六五 人口 一一九七 密度 二〇七
神戸市(縣廳) 八五四 姫路市 七七 尼崎市 五五 西宮市 八三 明石市 四〇	奈良市(縣廳) 五六 郡山町 一七 高田町 一五	和歌山市(縣廳) 一七一 新宮市 三〇 海南市 三一 田邊町 二四	津市(縣廳) 六七 宇治山田市 五六 四日市市 五五 松坂市 三五 桑名町 二三
大阪灣・播磨平野・中國山脈・明石海峽・山陽本線・東海道線の接合點・福知山線・播但線・播丹鐵道・山陰本線等・神戸港・洲本港(淡路島)	笠置山脈・紀伊山脈・奈良盆地・關西本線・和歌山線・奈良線・大和鐵道・吉野線	紀伊山脈・和泉山脈・紀伊水道・日高川・紀ノ川・紀伊半島・和歌山線・紀勢西線・阪和電氣・海南鐵道	鈴鹿山脈・紀伊山脈・伊勢平野・伊勢海・志摩半島・關西本線・紀勢東線・參宮線・津港・鳥羽港・四日市港・尾鷲港
米(日本三位)麥・牧牛・綿絲(神戸・尼ヶ崎・神崎)・毛織(神戸・加古川)・造船・燐寸・製粉・樟腦(神戸)・清酒(灘地方—伊丹・御影・魚崎・西ノ宮・今津・鳴尾)醬油(龍野)・鹽(赤穗)・神戸港の貿易 輸出七九〇百萬圓 綿織物 絹人絹織物・生絲 輸入七九一・五百萬圓 棉花 昭和九年	茶・西瓜・漬物・木材(吉野)筆・墨・人形(奈良)・大和綿絲(郡山)・絣(高田)・根來塗(奈良)	蜜柑(日本一位)茶・木材(高野・熊野—杉・檜・槇)・綿織物(和歌山)・漆器(黒江—黒江塗)・漁業(鯨—串本)	米・菜種・漁業(志摩半島—鰮・濱島—眞珠)・綿絲・綿織物(桑名・四日市・津・松坂—松坂縞)・萬古燒(四日市)・伊賀燒(上野)
湊川神社・鵯越・一谷・福原ノ都址・須磨・舞子・明石・姫路城・赤穗・生野・玄武洞・高砂神社・有馬溫泉・城ノ崎溫泉・寶塚	正倉院・東大寺の大佛殿・興福寺の五重塔・春日神社・若草山・三笠山・法隆寺・橿原神宮・吉野神宮・如意輪寺・春日山・猿澤池・月ノ瀬	和歌浦・那智瀧・高野山・和歌山城址・熊野三社・瀞八丁	皇大神宮・豐受大神宮・朝熊山・二見ヶ浦・能褒野
第十師團司令部 歩兵第八旅團司令部 歩兵第三十九聯隊 騎兵第十聯隊 野砲兵第十聯隊(姫路) 歩兵第七十聯隊(篠山)	金剛山等名所・舊蹟頗る多し。 歩兵第三十八聯隊(奈良)	歩兵第二十六旅團司令部 歩兵第六十一聯隊(和歌山) 深山重砲兵聯隊(深山)	歩兵第三十三聯隊(津) 明野陸軍飛行學校

中國地方

縣	岡山縣	廣島縣	山口縣	鳥取縣
面積・人口・密度	面積 七〇四六 人口 一三二〇 密度 一八七	面積 八四三六 人口 一七五一 密度 二〇七	面積 六〇三二 人口 一一六八 密度 一九二	面積三四八九 人口五〇三 密度一四四
都邑	岡山市(縣廳) 一六〇 津山市 三六 倉敷市 三二 玉島町 二一	廣島市(縣廳) 二九六 呉市 二〇七 福島市 五八 尾道市 三〇	山口市(縣廳) 三三 下關市 一二六 宇部市 七六 萩市 三一 德山市 三一 防府町 二五	鳥取市(縣廳) 四四 米子市 三六 倉吉町 一六
地勢・交通	中國山脈・岡山平野・兒島灣・水島灘・川邊川・山陽本線・宇野線・中國線・因備線・伯備線・下津井港・宇野港	中國山脈・福山平野・廣島平野・廣島灣・山陽本線・呉線・福鹽南線・藝備鐵道・宇品港・絲崎港	下關海峽・周防灘・岩國川・山陽本線・山陰本線・山口線・美禰線・德山港・下關港(門司・釜山との連絡)	中國山脈・大山・千代川・日野川・山陰本線・伯備線・境線・境港
産業・名物	米・麥・藺草・煙草(高粱)果實・牧牛・金・銀・銅(帶江)・綿絲(倉敷・玉島・笠岡)・疊表・花莚(集散地・倉敷)耐火煉瓦(三石)・備前燒(伊部)・薄荷・除蟲菊、製鹽業(味野)	米・麥・煙草・藺草・蜜柑業・大麻(三次盆地)牧牛・製鹽業・牡蠣(廣島)綿絲綿織物(福山—備後絣)疊表・花莚(福山・尾ノ道・鞆はその市場)罐詰・洋紙(廣島)釀造業・兵器(呉)造船(呉・因島)	米(防長米)漁業・製鹽業・織物(岩國・柳井)人絹織物(岩國)萩燒・石炭(宇部)セメント・硫酸(小野田)半紙(岩國)	綿織物(倉吉)絹織物(米子)半紙(因州半紙)牛・馬(大山北麓)養蠶
名勝・舊蹟	後樂園・岡山城址・院の庄・吉備津神社・豪溪	嚴島神社(日本の三景の一)・帝釋 呉軍港・呉海軍航空隊・呉海軍鎭守府・廣島灣要塞地帶	錦帶橋・豐榮神社・秋吉臺・壇の浦 德山には海軍燃料廠及重油貯藏所がある	夜見濱・船上山・大山・三朝溫泉
軍隊・其の他	歩兵第三十三旅團司令部 歩兵第十聯隊(岡山)	第五師團司令部 歩兵第九旅團司令部 歩兵第十一聯隊 騎兵第五聯隊 野砲兵第五聯隊 電信第二聯隊(以上廣島) 歩兵第四十一聯隊(福山)	歩兵第二十一旅團司令部・歩兵第四十二聯隊(山口)・下關重砲兵聯隊(下關) 下關要塞地帶	歩兵第四十聯隊(鳥取)

縣	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	産業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其の他
島根縣	面積 六六一八 人口 七五三 密度 一一三	松江市 四七 濱田町 一五 今市町 一二	中國山脈・島根半島 中海・宍道湖・杵築 平野・江川 山陰本線・三江線 大社線	大麻・牛・漁業 半紙(石見半紙―濱 田) 出雲燒・八重塗	出雲大社・美保ノ關 宍道湖・隠岐・簸ノ川	歩兵第六十三聯隊(松江) 歩兵第二十一聯隊(濱田)

四國地方

縣	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	産業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其の他
徳島縣	面積 四一四三 人口 七三九 密度 一七八	徳島市(縣廳) 九五 撫養町 一八 小松島町 一八	四國山脈・讃岐山脈 劍山・鳴門海峡・吉 野川・徳島平野 徳島線・撫養線 徳島港	米・麥・煙草・藍 製鹽業(撫養) 杉 阿波縮(徳島)	鳴門海峡・劍山・祖谷 村(平家の遺蹟)	歩兵第二十二旅團司 令部・歩兵第四十三 聯隊(徳島)
香川縣	面積 一八五九 人口 七九五 密度 四〇八	高松市(縣廳) 八六 丸龜市 三六 坂出町 二〇	讃岐山脈・讃岐平野 宇野線・豫讃線・高 徳線・高松港(宇野 港と連絡)	米・麥・甘蔗・漁業 製鹽業(坂出―日本 一位) 製帽眞田(丸 龜・坂出)	栗林公園・屋島・金刀 比羅宮・善通寺 第十一師團司令部 歩兵第十旅團司令部	騎兵第十一聯隊 山砲兵第十一聯隊 (以上善通寺) 歩兵第十二聯隊 丸龜
愛媛縣	面積 五六六七 人口 一一七九 密度 二〇八	松山市(縣廳) 八八 今治市 五二 宇和島市 五五 八幡濱市 三六	四國山脈・石槌山 高縄半島・佐田岬 松山平野・豊豫海峡 豫讃線・愛媛線・新 居濱港・今治港・八 幡濱港・宇和島港	綿織物(伊豫絣―松 山・西條・今治・宇 和島) 肥料(新居濱) 銅(別子鑛山) 果實 漁業・製鹽業(波止 濱) 製紙業・礪部燒	道後温泉・石槌山・松 山城址 今治城址・宇和島城	歩兵第二十二聯隊 (松山)
高知縣	面積 七一〇三 人口 七四三 密度 一〇四	高知市(縣廳) 一〇七 清水町 一〇	四國山脈・室戸崎 土佐灣・仁淀川・四 萬十川・高知線・高 知鐵道・高知港・須 崎港・清水港	漁業(土佐節―清水) 紅珊瑚・製紙業(土 佐半紙―伊野)	室戸岬・内山神社 高知城址	歩兵第四十四聯隊 (高知)

九州地方

縣	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	産業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其の他
福岡縣	面積 四九四〇 人口 二七〇六 密度 五四七	福岡市(縣廳) 二八三 八幡市 二〇〇 門司市 一一五 大牟田市 一〇五 小倉市 一〇一 久留米市 九一 若松市 七二 戸畑市 六二 直方市 三六 飯塚市 四六	筑紫山脈・博多灣 遠賀川・筑紫平野 筑後川 鹿兒島線・日豊本線 久大線・筑豊本線 伊萬里線・博多灣鐵 道・九州電鐵・小倉 鐵道・門司港・若松 港・三池港・	製鐵業 八幡・戸畑 石炭 三池(日本一 位) 直方・飯塚・香 春 製糖業(大里) セメ ント・製粉麥酒・石 灰窒素(大牟田) 綿 絲・綿織物(久留米 大牟田・博多) 製陶・(福岡―高取 燒) 硝子・米・麥 菜種・木蠟 和紙・清酒 門司若松の貿易總額 は全國五・六位 (昭和八年)	箱崎宮・香椎宮・大 宰府神社・芥屋ノ大 門 博多海岸(文永・弘 安兩役の戰蹟) 多々 良濱・千代ノ松原 志賀島・殘島 八幡製鐵所 本邦鋼 鐵需要の四割強を 充足する東洋一の 製鐵所 戰車第一聯隊 (久留米) 飛行第四聯隊(太刀洗)	第十二師團司令部 歩兵第二十四旅團司 令部・騎兵第十二聯 隊・歩兵第四十八聯隊 野砲兵第二十四聯隊 獨立山砲兵第三聯隊 (以上久留米) 歩兵第十二旅團司令 部・歩兵第二十四聯 隊(福岡) 野戰重砲兵第二旅團 司令部・野戰重砲兵 第五聯隊・歩兵第十 四聯隊(以上小倉)
佐賀縣	面積 二四四九 人口 六七九 密度 二八四	佐賀市(縣廳) 四九 唐津市 三〇 鳥栖町 交通の要點	筑紫山脈・筑紫平野 東松浦半島・有明海 唐津灣 長崎線・佐世保線 伊萬里線	石炭(唐津炭田) 米(集散市場―佐賀) 牡蠣・眞珠貝 有田燒(有田) 伊萬里は積出港	名護屋・虹ノ松原 領布振山(唐津) 武雄温泉・黒髪山	高射砲第四聯隊
長崎縣	面積 四〇七六 人口 一二八九 密度 三一六	長崎市(縣廳) 二一七 佐世保市 一五一 島原町 二二	島原半島・西彼杵半 島・大村灣・温泉岳 長崎本線・大村線 口ノ津鐵道・長崎港	漁業 五島鯨・鯖 海鼠・鰹・紅珊瑚 造船業(長崎・佐世 保) 三河内燒 石炭(肥前炭田)	島原温泉 雲仙嶽(國立公園) 佐世保鎮守府	佐世保要塞地帶・對 島要塞地帶・壹岐要 塞帶・長崎要塞地帶 佐世保航空隊・大村 航空隊・歩兵第四十 六聯隊(大村)

縣	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	産業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其他
熊本縣	面積 七四三八 人口 一四〇〇 密度 一八八	熊本市(縣廳) 一八六 水俣町 二六 荒尾町 二〇	九州山脈・阿蘇火山脈(阿蘇山)熊本平野 宇土半島・八代海 島原灣・綠川・球磨川・白川・鹿兒島線 肥薩線・豐肥本線 高森線・三角港	米・栗・玉蜀黍・茶 馬・木線織(熊本) 製材・洋紙・セメント(八代) 燒酎(人吉)	熊本城・本妙寺(清正の墓) 植木・田原坂・木葉 阿蘇山・菊池神社 山鹿溫泉・五家ノ荘	第六師團司令部 步兵第十一旅團司令部 步兵第十三聯隊 騎兵第六聯隊 野砲兵第六聯隊
鹿兒島縣	面積 九一〇四 人口 一六二四 密度 一七八	鹿兒島市(縣廳) 一七七 川内町 三二 谷山町 二八	薩摩半島・鹿兒島灣 大隅半島・霧島火山脈(霧島山・櫻島)川内川・鹿兒島線・日豐本線・志布志線・指宿線・吉都線・宮城線 鹿兒島港	煙草(國分)甘藷 牛・豚・漁業(鰹節) 大島・尾久島・吐噶喇島山川) 薩摩燒(鹿兒島・伊集院)薩摩絣・大島紬(大島)錫(谷山) 金(串木野・芹ヶ野・山ヶ野・牛尾)	城山・照國神社・鹿兒島神宮・霧島神社 櫻島	步兵第三十六旅團司令部(鹿兒島) 奄美大島要塞地帶
大分縣	面積 六三三四 人口 九七〇 密度 一五三	大分市(縣廳) 六〇 別府市 四七 中津市 三〇 臼杵町 二〇	國東半島・別府灣 佐賀半島・大野川 阿蘇火山脈(九重山) 日豐本線・久大線 豐肥本線・別府港 大分港	疊表・花莚(集散市場大分・杵築・日出) 木材・漁業(鯛・鰮) 牛・綿絲(中津・大分) 佐賀ノ關大製錬所(金・銀・銅)	宇佐神宮・耶馬溪 別府溫泉	步兵第四十七聯隊(大分) 佐伯航空隊(佐伯) 豐豫要塞地帶
宮崎縣	面積 七七三九 人口 八一六 密度 一〇五	宮崎市(縣廳) 六八 都城市 三九 延岡市 三六 小林町 二八	九州山脈・大淀川 一ノ瀨川・五箇瀨川 日豐本線	馬・牛 木材(副産物として木炭・椎茸・樟腦等を産する) 漁業(鰹・鮪・鰮(油津) 銅(槇峰)養蠶(都城)	宮崎神宮 青島(南國の情緒)	步兵第二十三聯隊(都城)
沖繩縣	面積 二三八六 人口 五九三 密度 二四八	那覇市(縣廳) 六五 首里市 三〇 平良町 二四	島内何れも山地多く沿岸には珊瑚礁が發達して船舶の出入が不自由である	砂糖・甘藷・バナナ パインアップル・泡盛酒・琉球絣・豚 パナマ帽 養豚(日本一位)	首里舊王城	もと琉球王の統治した小國で言語・風俗自ら内地と異なつてゐたが教育の普及によつて今や全く内地風に改まつた

北海道地方

面積・人口・密度	面積 八八七七五 人口 三〇六二 密度 三四	半島地方 渡島國・後志國 膽振國 中部地方 石狩國・天鹽國 日高國 東部地方 十勝國・釧路國 根室國・北見國	千島は世界一周飛行の着水場として將來航空交通上重要な位置を占めんとしてゐる

地方別	半島地方	中部地方	東部地方	千島
都邑	函館市 二二四 小樽市 一五三 室蘭市 六〇 苫小牧町 二一 倶知安町(農産物の集散地) 一四	札幌市 一九三 旭川市 九一 夕張町 五二 美唄町 三七 岩見澤町 三〇	釧路市 五九 帶廣市 三四 稚内町(本島北部端に位し樺太渡航の要津) 根室町(千島渡航の要津)	
地勢・交通	渡島半島・津輕海峽 内浦灣・那須火山脈 洞爺湖・積丹半島・小樽灣 函館本線・室蘭線 函館港・小樽港 室蘭港	石狩平野・上川盆地 石狩川・天鹽山脈・夕張山脈・日高山脈・(ピバイロ嶽)支笏湖・函館本線・宗谷線・室蘭線・留萌線・根室本線等	北見山脈・千島火山脈(旭嶽・本島最高峰) 釧路平野・十勝平野 知床半島・花咲半島 屈斜呂湖 根室本線・網走本線 釧網線・北見線・名寄本線	三十有餘の火山島から成り活火山も少くない
産業・名物	米・麥・大豆・木材・製紙(苫小牧)製材(小樽) 製鋼(室蘭)・セメント 硫黄(幌別・奥尻・岩雄登・古武井) 鰊・鱈(中心地・江差・壽都・岩内)	石炭(日本二位・夕張・萬字・幌内・幾春別・空知・歌志内・美唄) 米・麥・豆・其他工業原料・馬・牛・羊(新冠・月寒)麥酒・製麻・製材(札幌)酒精・製粉・燐寸軸(旭川)製紙(江別)鰊 (留萌・增毛)鮭・鱒	鮭・鱒 石狩川 漁業・昆布・牡蠣・鱈 鰊・燐寸軸木(釧路・網走) 製紙(池田・網走)薄荷・製材(釧路)・罐詰(根室) 甜菜糖(帶廣)	硫黄・鱈・鮭 養狐
名勝・舊蹟	五稜廓・大沼公園・松前城址(福山)登別溫泉・白老(アイヌ部落) マツカリ岳(蝦夷富士)	神居古潭・札幌神社・定山溪・層雲溪 三角山スキー場 大雪山國立公園 步兵第二十五聯隊(札幌)	春採湖・阿寒湖 摩周湖 阿寒岳國立公園	
軍隊・其他	津輕要塞地帶 函館重砲兵大隊	第七師團司令部 步兵第十三旅團司令部 步兵第十四旅團司令部 步兵第二十六聯隊 步兵第二十七聯隊 步兵第二十八聯隊 騎兵第七聯隊 野砲兵第七聯隊(旭川)	白糠及本別には軍馬育成所あり 大樂毛—馬市	幌莚島には無線電信局がある。

樺太地方

人口は昭和八年末

項目	內容
面積・人口・密度	面積 三〇六九〇 人口 二九三 密度 八
都邑	豐原（樺太廳）三三 大泊 三一 惠須取 二一 知取 一九 敷香 一八 眞岡 一六
地勢	樺太山脈（敷香山・留多加山）能登呂半島・東北山脈・北知床半島・幌內川・多來加灣・鈴谷山脈・中知床半島・亞庭灣
交通	大泊港―豐原―榮濱・本斗―眞岡―泊居・豐原―眞岡・落合―南新問（樺太廳鐵道）
産業	漁業 鰊（西海岸）鱒・鮭・蟹・昆布 石炭（泊居）・石油・木材・パルプ（豐原・大泊・眞岡・落合）製紙（榮濱）罐詰（眞岡）
名所	樺太神社 海豹島
沿革	明治八年、千島と交換露領となる。日露戰爭中全島を占領。ポーツマス條約により北緯五十度以南を割讓さる。

臺灣地方

人口は昭和七年末

項目	內容
面積・人口・密度	面積 三五九七四 人口 五〇六一 密度 一四六 廳所在地 臺北州（臺北） 新竹州（新竹） 臺中州（臺中） 臺南州（臺南） 高雄州（高雄） 澎湖廳（馬公） 臺東廳（臺東） 花蓮港廳（花蓮港）
都邑	臺北市（總督府）二六六 臺南市 一〇三 基隆市 八〇 高雄市 七二 嘉義市 六三 臺中市 六二 新竹市 五一 彰化街 四八 鹿港街 三八 屏東街 三七
地勢	臺灣山脈（新高山・次高山・阿里山） 臺東山脈・大屯火山脈（大屯山） 淡水河・濁水溪・下淡水溪（臺灣海峽） 平野は西海岸 澎湖諸島
交通	縱貫線・臺中線・臺東線・宜蘭線・淡水線・集集線・潮州線 糖業の盛な西部地方には數多の私設鐵道があつて交通甚だ便利である 基隆・淡水・高雄等の諸港は長崎・門司・神戸・福州・厦門の諸港と定期航路を開いて居る。
産業	米（臺中・彰化は中心地）年二回の收穫 茶（臺北州・新竹州） 甘蔗（中部・南部は一面の甘蔗畑） 甘藷・バナナ（以上臺灣五大農産） 豚（日本一位）水牛 黃牛 檜（阿里山・八仙山）樟 食鹽・鰹節 製糖（嘉義・臺灣・鹽水港・屏東は中心地） 樟腦・樟腦油・製麻 バナマ帽（大甲・大甲筵） 金（金爪石・瑞芳）
名所	臺灣神社・北投溫泉・日月潭・赤嵌樓・開山神社・臺南神社・牡丹社 臺灣の三大産物（移出額） 砂糖 二一四八九三千圓 昭和七年 米 一〇一八一六千圓 昭和九年 バナナ 八一三八千圓 昭和九年
軍隊	臺灣軍司令部（臺北） 基隆要塞地帶 澎湖島要塞地帶 馬港要港部 飛行第八聯隊（屏東）

朝鮮地方

道	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	産業・名物	名勝・舊蹟	軍隊・其の他
慶尙南道	面積 一二三〇七 人口 二二〇三 密度 一七一	釜山府（道廳）一五六 馬山府 二七 鎭海邑 一七 蔚山邑 一四	朝鮮海峽・洛東江・大白山脈・小白山脈・鎭海灣・京釜線・慶全南部線・鎭海線・蔚山飛行場・釜山港（下關へ八時間）	米・麥・楮・大麻・筵・貳棉・絹布・綿布・清酒・朝鮮紙・皮革製品・五倍子・漁業・鱈・鯖・鯛	東萊溫泉・泗川・蔚山・智異山 釜山港の輸移出入 出 八二八九七千圓 米・大豆・乾魚	鎭海要港 鎭海要塞地帶 入 一〇二一六四千圓 綿織物・洋服・菓子（昭和七年）
慶尙北道	面積 一八九八六 人口 二三四九 密度 一二四	大邱府（道廳）一〇六 慶州邑 一九	日本海・大白山脈・小白山脈・洛東江・迎日灣・京釜線・東海中部線・慶北線	米・大豆・麥・煙草・柿・絹布・絹織物・生絲・鉛・朝鮮紙・清酒・醬油・牛・筵・漁業（鰊・鮑）皮革製品・藥草・寒天	古都慶州・佛國寺	步兵第八十聯隊（大邱）
全羅南道	面積 一三八八一 人口 二二八二 密度 一六四	光州邑（道廳）三三 木浦府 五三 濟州邑（濟州島）四〇	朝鮮海峽・黃海・蟾津江・榮山江・盧嶺山脈・湖南線・南朝鮮鐵道	米・麥・梨・實棉・綿布・昆布・海苔・鰕・製鹽業	恩津彌勒・百濟古蹟	木浦港（昭和七年） 輸移出 一八四六萬圓 輸移入 一〇〇六萬圓
全羅北道	面積 八五二九 人口 一四四五 密度 一七〇	全州邑（道廳）三八 群山府 三六	黃海・盧嶺山脈・慶全北部線・湖南線・群山線	楮・苔紙・煙草・鯛・木炭	多佳山・慶基殿（全州）・金山寺	群山港（昭和七年） 輸移出 三七五九萬圓 輸移入 一三八〇萬圓
忠淸南道	面積 八〇九七 人口 一三七五 密度 一七〇	太田邑（道廳）三四	淺水灣・錦江・湖南線・京釜線・忠北線・京南鐵道	生絲・漆液・杞柳製品・藥草・栗・蛤・金（稷山）	百濟舊都（扶餘邑）・儒城溫泉・溫陽溫泉	
忠淸北道	面積 七四一八 人口 八六六 密度 一一七	忠州邑（道廳）二三	海に面せざる唯一の道・小白山脈・車嶺山脈・京釜線・忠北線	葉煙草・黑鉛・叺	秋風嶺・法住寺・上黨山城址	

	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	産業・名物	名所・舊蹟	軍隊・其の他
京畿道	面積 一二八一六 人口 一四九五 密度 一六九	京城府（總督府・道廳）三七四 仁川府 七三 開城府 五三 水原邑 一三 永登浦（皮革を産す）	江華灣・漢江・臨津江 南陽灣 京釜線・京義線・京東線・黄海線 京城飛行場	大豆・小麥粉・煙草 紅蔘（開城） 清酒・濁酒・醬油・柿 栗・漆器・藥劑・油脂 護謨製品・金屬品・絹布・綿布・製鹽・鰕・鯔	朝鮮神宮・景福宮・昌德宮・碧蹄館・豐島沖 八達門（水原） 南大門（開城） 朝鮮軍司令部（京城）	第二十師團司令部 步兵第四十旅團司令部 步兵第七十八聯隊 步兵第七十九聯隊 騎兵第二十八聯隊 野砲兵第二十六聯隊（龍山）
黄海道	面積 一六七三四 人口 一四九五 密度 八六	海州邑（道廳）二四 兼二浦（製鐵所あり）一二	馬息嶺山脈 京義線・黄海線	大豆・栗・林檎・梨 煙草・鐵鑛・銑鐵・金 硅砂・製鹽業・大刀魚 海鼠	長壽山・信川溫泉	
江原道	面積 二六二六六 人口 一四三四 密度 五五	春川邑（道廳）一二 江陵邑 一五 鐵原邑 一六	日本海・大白山脈（金剛山）東海北部線・京元線・金剛山電鐵	大麻・麻布・繭・生絲 牛・木製品 鮐・蜂蜜	內金剛・外金剛・海金剛	
平安南道	面積 一四九二九 人口 一三一五 密度 八八	平壤府（道廳）一五一 鎮南浦府 四四 安州邑 一七	西朝鮮灣・大同江・妙高山脈・京義線・平元線・平壤飛行場・鎮南浦港	石炭（寺洞）・金（順安） 黒鉛・鐵鑛・銅 栗・林檎・柿・實棉 煙草・砂糖・製鹽（廣梁鹽田）・石首魚・窯業製品（平壤）	牡丹臺・玄武門・大同門・百祥樓（安州）	步兵第三九旅團司令部 步兵第七十七聯隊 野砲兵高射砲隊 飛行第六聯隊（平壤） 高射砲第六大隊（平壤）
平安北道	面積 二三四四〇 人口 一五四三 密度 五四	新義州府（道廳）五〇 宣川邑 一四	鴨綠江・狼林山脈・京義線・新義州港 新義州飛行場	金・木材 牛（朝鮮一位） 火魚・鰕	東林鎮城址	新義州 輸移出 四八一萬圓 輸移入 四一五萬圓 昭和七年
咸鏡南道	面積 三一九八八 人口 一五三九 密度 四八	咸興府（道廳）四二 元山府 五三 興南邑 二五 北青邑 一七	蓋馬高臺・麻天嶺山脈 永興灣・咸鏡線 元山港	明太魚 鐵鑛・硫安 大麻・麻布・絹布 元山港（昭和七年） 輸移出 八九八萬圓 輸移入 一五四七萬圓	釋王寺・三防峽 永興灣要塞地帶	步兵第三十七旅團司令部 步兵第七十四聯隊（咸興）
咸鏡北道	面積 二〇三四三 人口 七三〇 密度 三七	羅南邑（道廳）一五 清津府 三七 雄基邑 二四 城津邑 一二 會寧邑 一八	豆滿江・蓋馬高臺・長白山脈・咸鏡線・滿鐵北鮮鐵道・惠山線・雄基港・城津港・清津港	鰮・鱈・鮭・鰊・烏賊 魚肥料 馬鈴署・石炭・硫安 清津港 輸移出 九七六萬圓 輸移入 一五八三萬圓 （昭和七年）	朱乙溫泉・五國城址 玄武巖の洞 第二飛行團（會寧） 飛行第九聯隊（會寧） 高射砲第五大隊（羅津）	第十九師團司令部 步兵第三八旅團司令部 步兵第七十三聯隊 步兵第七十六聯隊 騎兵第二十七聯隊 山砲兵第二十五聯隊（羅南）
朝鮮概觀	面積 二二〇七四〇 人口 二〇七九一 密度 九三	京城府（總督府）三七四 釜山府 一五六 平壤府 一五〇 大邱府 一〇一 仁川府 七三	日本海・朝鮮海峽・黄海・大白山脈・小白山脈・鴨綠江・豆滿江・京釜線・咸鏡線・京義線・京元線・釜山・仁川・木浦・鎮南浦・新義州の各港	農業 米・大豆・麥 煙草・綿・朝鮮人參 牧畜 牛・牛皮 林業 朝鮮松・もみ 鑛業 金・鐵・石炭 水産 鰮・めんたい 鯛・製鹽業（天日製鹽）	蔚山・慶州・仁川・平壤・大邱・京城・金剛山・鴨綠江	朝鮮軍司令部（京城） 第十九師團（羅南） 第二十師團（龍山） 飛行第六聯隊（平壤） 飛行第九聯隊（會寧） 鎮海灣 要塞地帶

關東洲及南洋群島

	面積・人口・密度	都邑	地勢・交通	産業・名物	名所・舊蹟	軍隊・其の他
關東州	面積 三四六二 人口 一〇〇四 密度 二八九	大連市 二九〇 旅順市 一三九 金州 一三	黄海・渤海灣・南滿洲鐵道・金福鐵道・大連港	高粱・玉蜀黍・大豆 石首魚・鯛・鰆 製鹽業（貔子窩）	二〇三高地・旅順・南山 大連は豆粕・豆油・製粉・煉瓦等の工業盛	旅順要塞地帶 旅順要港
南洋群島	面積 二一四九 人口 七八 密度 六三	コロール島（南洋廳） ヤップ島 海底電線の集合地 トラック島 好錨地 ポナペ島・サイパン島 ヤルート島	諸島は何れも珊瑚島か火山島から成立して居る 横濱から定期航路が開かれて居る。	コプラ・バナナ・椰子實・甘蔗・タロー芋 燐鑛	此の島はもとドイツ領であつたが大正三年日獨戦争で我が海軍が占領しヴエルサイユ講和會議の結果我が國の委任統治に歸した。	最近我が聯盟脱退により南洋の返還が問題視されて居るが、返還すべき理由は全然ない。

各地の平均氣温

×は零下
太字は最高及最低氣温

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均	從來の最高	從來の最低
敷香	×一八・一	×一五・二	×八・七	×〇・七	三・九	八・七	一三・三	一五・八	一二・〇	五・一	×四・九	×一三・六	×〇・二	三六・二	×三九・八
大泊	×一一・四	×一〇・五	×五・六	一・〇	五・五	一〇・一	一四・七	一七・三	一三・六	七・五	×〇・三	×六・八	×二・九	三〇・四	×三三・七
札幌	×六・三	×五・四	×一・六	五・三	一〇・四	一四・八	一九・二	二〇・九	一六・三	九・八	三・二	×三・一	七・〇	三五・五	×二八・五
函館	×三・〇	×二・四	〇・八	六・四	一〇・四	一四・三	一九・〇	二二・六	一七・九	一一・八	五・七	×〇・一	八・五	三三・五	×二一・七
青森	×二・六	×二・三	〇・六	七・〇	一一・八	一六・二	二〇・八	二三・九	一八・五	一二・一	五・九	〇・一	九・三	三六・〇	×二四・七
仙臺	〇・〇	×〇・二	三・五	八・九	一三・六	一七・一	二一・九	二三・九	一九・五	一三・八	八・二	二・九	一一・一		
父島	一七・七	一七・四	一八・三	二〇・五	二二・八	二五・五	二七・二	二七・三	二六・八	二五・五	二二・七	一九・四	二二・六	三四・九	七・〇
八丈島	一〇・二	一〇・一	一一・九	一五・八	一八・七	二一・七	二五・一	二六・一	二四・六	二〇・七	一六・八	一二・五	一七・九	三二・八	
水戸	二・〇	二・六	五・五	一一・一	一五・三	一九・〇	二三・〇	二四・四	二一・〇	一五・二	九・五	四・二	一三・七	三六・一	×一二・〇
東京	三・一	三・七	六・九	一三・七	一六・六	二〇・五	二四・三	二五・六	二三・〇	一六・〇	一〇・六	五・四	一四・〇	三六・六	×八・六
横濱	四・〇	四・四	七・三	一三・九	一六・九	二〇・五	二四・四	二五・七	二三・二	一六・五	一一・三	六・三	一四・四		
宇都宮	〇・八	一・七	五・〇	一二・一	一五・五	一九・七	二三・四	二四・五	二〇・八	一四・六	八・四	二・九	一二・四		
名古屋	三・一	三・八	七・〇	一三・〇	一七・四	二一・五	二五・七	二六・六	二三・八	一六・四	一〇・六	五・四	一四・四	三八・二	×一〇・三
甲府	一・三	二・七	六・五	一二・七	一六・六	二〇・九	二四・八	二五・五	二一・六	一五・二	九・一	三・六	一三・四		
長野	×一・七	×一・一	二・七	九・六	一四・五	一九・〇	二三・一	二四・二	一九・八	一三・〇	六・八	一・三	一〇・九		
新潟	一・五	一・四	四・四	一〇・二	一四・九	一九・四	二三・八	二五・七	二二・四	一五・三	九・六	四・二	一二・七	三九・一	×九・七
金澤	二・五	二・三	五・三	一一・〇	一五・六	二〇・〇	二四・二	二五・六	二二・五	一五・四	一〇・一	五・二	一三・二	三八・五	×九・七
京都	二・七	三・一	六・三	一二・三	一六・七	二一・一	二五・三	二六・三	二二・二	一五・七	九・八	四・七	一三・九	三七・六	×一一・九
大阪	四・三	四・四	七・五	一三・三	一七・六	二一・八	二六・一	二七・三	二三・四	一七・二	一一・六	六・七	一五・一	三七・六	×七・一
和歌山	四・九	五・〇	八・一	一三・七	一七・七	二一・八	二五・九	二六・九	二三・三	一七・二	一二・〇	七・三	一五・三		
岡山	三・六	三・九	七・〇	一二・八	一七・三	二一・六	二五・九	二七・〇	二二・九	一六・四	一〇・七	五・六	一四・六	三六・五	×八・一

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均	從來の最高	從來の最低
廣島	四・〇	四・三	七・四	一二・九	一七・二	二一・四	二五・六	二六・九	二三・〇	一六・八	一一・一	六・一	一四・七	三八・一	×八・六
福岡	五・〇	五・一	八・一	一三・一	一七・一	二一・四	二五・七	二六・四	二三・二	一六・三	一一・五	七・〇	一四・九	三七・四	×八・二
鹿兒島	七・一	七・五	一〇・八	一五・五	一八・九	二三・三	二六・一	二六・八	二四・二	一八・九	一三・七	八・九	一六・七	三六・二	×六・七
松山	四・七	四・八	七・八	一三・〇	一七・〇	二一・四	二五・六	二六・四	二三・八	一六・七	一一・六	七・〇	一四・九	三七・〇	×八・三
高知	五・四	六・一	九・五	一四・七	一八・二	二一・六	二五・二	二六・二	二三・二	一七・七	一二・四	七・四	一五・六	三七・一	×七・〇
那覇	一六・一	一六・〇	一七・八	二〇・八	二三・二	二六・二	二七・九	二七・八	二六・六	二三・九	二〇・七	一七・六	二二・一	三五・五	四・九
釜山	二・一	三・〇	七・一	一二・三	一六・四	二〇・〇	二三・九	二五・六	二一・七	一六・三	一〇・二	四・四	一三・六	三五・三	×一四・〇
京城	×四・四	×一・九	三・四	一〇・七	一六・二	二一・三	二四・七	二五・六	二〇・一	一三・一	五・二	×二・〇	一一・〇		
城津	×五・九	×四・五	〇・六	六・六	一〇・九	一五・三	二〇・一	二三・〇	一七・八	一一・六	三・二	×三・二	七・九	三七・五	×二四・六
臺北	一五・三	一四・七	一七・〇	二〇・六	二四・一	二六・六	二八・二	二七・九	二六・二	二二・九	一九・三	一六・八	二一・六	三八・六	×〇・二
恒春	二〇・四	二〇・三	二二・二	二四・五	二六・四	二七・三	二七・五	二七・二	二六・七	二五・二	二三・三	二一・三	二四・四	三五・五	九・五
大連	×五・〇	×三・七	一・八	九・二	一五・三	二〇・三	二三・五	二四・五	一九・九	一三・六	五・二	×二・〇	一〇・二	三五・七	×一九・九
新京	×一六・九	×一二・九	×四・一	六・五	一四・四	二〇・一	二三・五	二一・九	一四・九	六・五	×四・三	×一三・九	四・七	三九・五	×三六・〇
ロンドン	三・九	四・四	五・七	八・四	一一・五	一四・九	一六・九	一六・三	一三・八	九・八	六・六	四・四	九・七	三四・四	×九・六
パリー	三・三	四・三	六・五	九・三	一四・三	一六・二	一七・七	一七・六	一四・七	一〇・二	五・八	四・九	一〇・四	三七・七	×一五・四
ベルリン	〇・二	×〇・七	四・二	八・一	一三・四	一五・六	一八・五	一六・九	一四・一	九・〇	五・五	〇・五	八・七	三三・八	×二六・〇
ローマ	六・六	八・〇	一一・三	一二・七	一七・八	二一・八	二四・七	二四・二	二一・一	一六・五	一一・三	七・八	一五・三	四〇・一	×九・二
アヂス・アベバ	一五・四	一六・〇	一六・四	一六・五	一七・四	一六・〇	一四・二	一四・四	一五・〇	一五・八	一五・〇	一四・七	一五・六	二七・八	二・六
ニユー・ヨーク	×〇・二	×〇・九	四・二	九・七	一五・九	二〇・四	二三・六	二二・五	一九・四	一三・七	七・二	一・四	一一・四	三八・九	×二五・〇
マニラ	二四・八	二五・三	二六・五	二八・一	二八・四	二七・八	二七・〇	二六・九	二六・八	二六・六	二五・八	二五・〇	二六・六	三八・六	一四・五
リオ・デ・ジヤネイロ	二五・二	二五・三	二四・八	二三・四	二一・八	二〇・七	二〇・一	二〇・五	二〇・八	二一・四	二二・九	二四・四	二二・六	三八・〇	一一・二
ブエノス・アイレス	二三・六	二三・三	二〇・九	一六・九	一二・六	九・〇	八・七	一〇・八	一三・三	一五・五	一八・九	二二・三	一六・三	三九・七	×五・四
モスコー	×一〇・三	×八・三	×四・一	三・七	一一・八	一六・七	一七・七	一五・九	九・七	四・〇	×二・四	×九・三	三・七	三三・七	×三七・四
北平	×四・三	×三・一	四・三	一二・七	二〇・〇	二五・三	二六・四	二五・一	一九・八	一二・一	二・三	×二・四	一一・五	三八・六	

主要鐵道一覽

東海道線 東京—神戸間

山手線（東京市循環電車）橫濱線（櫻木町—八王子）橫須賀線（大船—橫須賀）御殿場線（國府津—沼津）武豐線（大府—武豐）高山本線（岐阜—富山）草津線（草津—拓植）福地山線（大阪—福知山）

中央本線 新宿（東京）—鹽尻—長野—名古屋

太田線（多治見—美濃太田）小海北線（小諸—信濃川上）篠ノ井線（鹽尻—篠ノ井）

山陽本線 神戸—下關

播但線（姫路—和田山○姫路—飾磨港）姫津東線（姫路—三日月）宇野線（岡山—宇野）**宇野—高松連絡船** 伯備線（岡山—倉敷・伯耆大山—米子）作備線（新見—津山—津山口）因美線（津山—鳥取）姫津西線（津山—美作江見）三神線（備中神代—小奴可）福鹽南線（備中福山—府中町）三呉線（三原—三津內海）呉線（海田市—廣）福鹽北線（備後十日市—鹽町—吉舍）柳井線（麻里布—日原）山口線（小郡—石見益田）美禰線（正明市—厚狹）

下關—門司連絡線 ○ **下關—釜山連絡船**

關西本線 名古屋—湊町（大阪）

參宮線（龜山—鳥羽）紀勢東線（相可口—尾鷲）奈良線（奈良—京都）和歌山線（王寺—和歌山）紀勢西線（和歌山—椿）紀勢中線（新宮—紀伊勝浦）西成線（大阪—櫻島）

北陸本線 米原—直江津

小濱線（敦賀—新舞鶴）七尾線（津幡—穴水）中越線（伏木—高岡—城端）

山陰本線 京都—鳥取—下關

舞鶴線（綾部—新舞鶴—中舞鶴）宮津線（豐岡—舞鶴）境線（米子—境）木次線（宍道—八川）

信越本線 上野—新潟

八高線（高崎—八王子）兩毛線（高崎—小山）足尾線（桐生—藤間）高崎線（上野—高崎）上越線（高崎—長岡）越後線（柏崎—白山）彌彦線（彌彦—越後長澤）十日町線（越後川口—十日町）

羽越線 新潟—新津—秋田

陸羽西線（酒田—余目—新庄）米坂西線（坂町—越後金丸）赤谷線（新發田—赤谷）

總武本線 兩國—千葉—銚子

房總東線（千葉—蘇我—安房鴨川）成田線（佐倉—成田—松岸）東金線（成東—大網）房總西線（蘇我—木更津—安房鴨川）久留里線（木更津—久留里）木原線（大原—上總中野）

常盤線 上野—仙臺

成田線（安孫子—成田）水戶線（水戶—友部—小山）眞岡線（下館—茂木）水郡線（水戶—郡山）磐越東線（平—郡山）

東北本線 上野—青森

日光線（宇都宮—日光）磐越西線（郡山—新津—新潟）會津線（會津若松—會津柳津・會津若松—會津田島）仙山東線（仙臺—作並）鹽釜線（長町—仙臺—鹽釜）石卷線（小牛田—石卷）陸羽東線（小牛田—新庄）大船渡線（一ノ關—大船渡）橫黑線（黑澤尻—橫手）山田線（盛岡—宮古）花輪線（好摩—大館）八戶線（尻內—久慈）大湊線（野邊地—大湊）

青森—函館連絡船

奧羽本線 福島—青森

米坂東線（米澤—今泉—羽前沼澤）長井線（赤湯—荒砥）仙山西線（山形—山寺）左澤線（山形—左澤）生保內線（大曲—生保內）船川線（秋田—追分—船川）能代線（[illegible]—陸奧岩崎）五所川原線（川部—深浦）

豫讃本線 高松—阿波池田・高松—下灘

高德線（高松—德島）德島本線（河波池田—德島）

小松島線（德島—小松島）撫養線（池谷—撫養）愛媛線（伊豫長濱—內子）宇和島線（宇和島—吉野生）

高知線 豐永—高知—須崎

鹿兒島線 門司—鹿兒島

築豐本線（若松—折尾—飯塚—原田—鳥栖）伊田線（直方—伊田）田川線（添田—伊田—行橋）久大線（鳥栖—大分）豐肥本線（熊本—大分）高森線（立野—高森）肥薩線（八代—吉松—鹿兒島）宮之城線（川內町—薩摩氷野）西宿線（西鹿兒島—指宿）古江線（古江—串良）三角線（宇土—三角）

長崎本線 鳥栖—長崎港

唐津線（佐賀—久保田—西唐津）佐世保線（肥前山口—佐世保）伊萬里線（有田—志佐）大村線（早岐—諫早）佐賀線（佐倉—矢部川）

日豐本線 門司—大分—鹿兒島

妻線（廣瀬—杉安）吉都線（吉松—都城）志布志線（都城—榎原）

函館本線 函館—旭川

上磯線（函館—五稜郭—木古內）瀨棚線（國縫—瀨棚）京極線（倶知安—脇方）岩內線（小澤—岩內）手宮線（手宮—小樽—札幌）幌加內線（深川—朱鞠內）札沼北線（石狩沼田—浦臼）留萠線（深川—留萠—増毛）羽幌線（留萠—羽幌）

室蘭本線 長萬部—岩見澤・長萬部—室蘭

日高線（苫小牧—日高三石）夕張線（追分—夕張）萬字線（岩見澤—志文—萬字炭山）幌內線（岩見澤—幾春別・幌內太—幌內）歌志內線（砂川—歌志內）

根室本線 瀧川—根室

士幌線（帶廣—士幌）廣尾線（帶廣—廣尾）網走本線（池田—野付牛—網走—札鶴）相生線（美幌—北見相生）釧網線（東釧路—網走）標津線（厚床—中標津）

宗谷本線 旭川—稚內

富良野線（旭川—下富良野）石北線（旭川—野付牛）名寄本線（名寄—中湧別—遠輕）北見線（音威子府—濱頓別—稚內港）

稚內港—大泊連絡船

樺太廳鐵道（大泊港—榮濱）（豐原—北眞岡）（豐原—川上炭田）（本斗—泊居）

樺太鐵道（落合—南新問）

臺灣縱貫線（基隆—大甲—高雄）

宜蘭線（基隆—蘇澳）平溪線（三貂嶺—青桐坑）淡水線（臺北—淡水・北投—新北投）臺中線（竹南—臺中—彰化）集集線（二水—外車埕）潮州線（高雄—溪州）

臺東線 花蓮港—臺東

京釜本線 釜山棧橋 京城

東海南部線（釜山—佐川）慶全南部線（三浪津—晉州）鎭海線（昌原—鎭海）東海中部線（大邱—鶴山・西岳—蔚山）湖南本線（大田—木浦）慶全北部線（裡里—谷城）群山線（裡里—群山港）光州線（松汀里—潭陽）京仁線（京城—永登浦）龍山線（京城—龍山—唐人里）

京義本線 京城—安東

兼仁浦線（黄海黄州—兼仁浦）平壤炭鑛線（平壤—勝湖里）平南線（平壤—鎭南浦）平元西部線（平城—長林）滿浦本線（平壤—順川—熙川）价川線（新安州—价川）

京元線 京城—元山—清津

咸鏡本線 元山—清津

東海本部線（元山—高城）惠山線（吉州—白岩）

北鮮鐵道局線 清津—雄基

會寧炭礦線（會寧—新鷄林）

朝鮮鐵道

慶北線（金泉—慶北安東）中北線（鳥致院—忠州）海州線（土城—海州）黃海線（沙里院—水橋・花山—內土・新院—下聖・上海—龍塘浦）咸南線（咸興—上通—長豐—咸南新興）

南朝鮮鐵道 全南光州—麗水港

朝鮮京南鐵道 天安—長項・天安—長湖院

金剛山電鐵 鐵原—內金剛

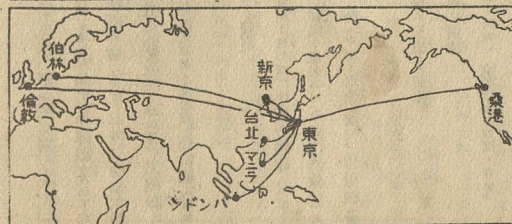
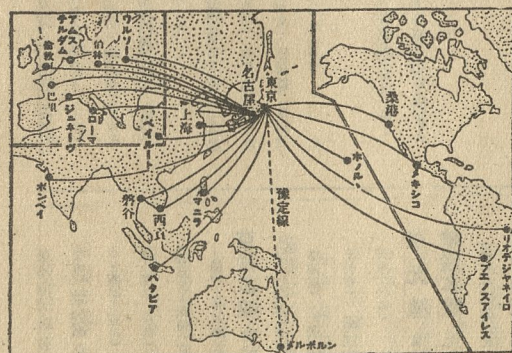
定期航空路一覧

航空路線	距離 粁	所要時間 時分
東京、大連線		
東京—名古屋	二九六	一・五〇
東京—大阪	四三五	二・五〇
大阪—福岡	五〇〇	三・〇〇
福岡—蔚山	二四〇	一・五〇
福岡—京城	五五〇	三・五〇
福岡—平壤	七五〇	五・〇〇
福岡—新義州	九一〇	六・三〇
福岡—大連	一、一八三	七・一〇
東京—富山	二八〇	二・二〇
東京—新潟	四一五	二・三〇
大阪、新潟線		
大阪—富山	三〇〇	二・〇〇
富山—新潟	二二〇	一・四〇
東京—下田	一五〇	一・二五
大阪—高松	一四〇	一・二〇
大阪—松山	二九〇	二・五〇
大阪—別府	四二〇	三・三〇
大阪—白濱	一二〇	〇・五〇
大阪—鳥取	二七〇	二・三〇
大阪—松江	三〇五	三・三〇
大阪—城崎	二〇〇	一・五〇
福岡—臺北		

飛行場一覽

東京飛行場、大阪飛行場、福岡飛行場、蔚山飛行場、京城飛行場、大連飛行場、新義州飛行場、新潟飛行場、松江飛行場、富山飛行場

本邦無線電信系路（昭和十年現在）

本邦國際無線電話（昭和十年）

列國國勢一覽

世界總面積 一億二千九百九十萬方粁
世界總人口 二十億九百萬人

・アジヤ洲

人口 十一億二千四百四十萬人
面積 四千二百萬方粁

國名	大日本帝國
政治・宗教・住民	萬世一系の君主國 明治二十二年憲法制定 今上天皇は國務大臣の輔弼により統治權を總攬し給ふ 首相 岡田啓介 宗教 佛教 神道 キリスト教 住民 大和民族 朝鮮民族
面積・人口・密度	面積 六八一 千方粁 人口 九三、九四四 千人 人口密度 一三四
都市と人口	千人 東京(首府) 五、六六三 大阪 二、七二三 京都 一、〇八八 名古屋 一、〇一八 神戸 八五四 横濱 七〇四 京城 三七四 廣島 二九六 大連 二九〇 福岡 二八〇 臺北 二六六
産業・貿易	産業＝略 貿易(一九三四) 總額(世界七位) 三十七億七千八百萬圓 輸出(同 六位) 二十一億七千二百萬圓 綿織物・生絲・人絹織物・絹織物 輸入(同 七位) 二十二億八千二百萬圓 棉花・羊毛・鐵・鑛油機械 主要相手國 米國・英領印度 中華民國、滿洲國
國防・交通	國防 國民皆兵の徵兵制 陸軍常備兵 二十三萬 海軍主力艦 九 隻 飛行機 一〇〇〇機 交通 鐵道延長 二二、九千粁 自動車 九七千臺 汽船(百噸以上) 一九四九隻(世界四位) 航空路 四・五千粁
其の他	滿洲國と防守同盟 皇軍は滿洲帝國軍と共に滿洲國防備の任にあたる

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	產業・貿易	國防・交通	日本との關係
滿洲帝國	立憲君主國。 一九三二年三月支那より獨立。一九三四年三月第一世康德皇帝即位。 國務總理大臣　張景惠 宗教　佛教、道教 住民　漢民族（三千八百萬） 滿洲民族 朝鮮民族	面積　一、二六五千方粁 人口　三〇、八八〇千人 人口密度（一方粁に就き）　二四人	（千人） 新京（首府）　二〇四 哈爾賓　四八二 奉天　四九四 吉林　一四一 安東　一九二 撫順　一一五 營口　一三七 錦州　八五 克山　八一 チ、ハル　七九 昭和九年十二月	產業 農業を基本とするが耕地面積一四〇千方粁で未だ全土の一三・五%に過ぎない。 大豆（世界一位）高粱 玉蜀黍・牛・馬・緬羊 鐵・石炭・棉花 貿易（一九三三年） 輸出　四四八百萬圓 大豆・豆粕・石炭 輸入　五一六百萬圓	國防 徵兵制 陸軍兵力約十萬、日本軍と協力して國防及治安にあたる。 陸海軍共に建設の途上にある 交通 鐵道延長　八三千粁 北滿鐵道を含む 自動車路線　七・八千粁 航空路　二・三千粁	日本大使館（新京） 關東軍司令部（新京） 在留日本人 一、〇四五、一九〇人 內地人三〇一、五〇五人 日本との貿易 輸出、一六四百萬圓 豆粕・大豆・石炭 輸入　一〇七百萬圓 絹織物・小麥粉・陶磁器 （一九三四年）
中華民國	共和國 一九一二年共和制を樹立せしも未だ完全なる國內的統一に達して居ない 國民政府主席 林　森 主腦　蔣介石 宗教　儒教・道教 住民　漢民族（九割）	面積　一〇、一三五千方粁 人口　四六五、二六八千人 人口密度　四六	（千人） 南京（首府）　六三三 上海　三、三五九 天津　一、三八九 杭州　八九〇 廣東　八六一 北平　八一一 成都　八〇〇 漢口　七七八 溫州　六七八 重慶　六三五 寧波　六三〇 成都　六〇〇 武昌　五〇〇 蘇州　五〇〇 長沙　五〇〇	產業 農業を基本とするが耕地面積は四九八千方粁で全土の四・八%に過ぎない。 米（世界三位）棉花（同三位）繭（同二位）小麥・茶・鐵・石炭・アンチモニー（同一位） 綿絲・綿織物・製粉 貿易（一九三三年） 輸出　六七二百萬圓 生絲・綿絲・油脂・茶 輸入　一、四七九百萬圓 米・棉花・金屬類	國民政府の兵力は一八七〇千人とあるが實數に就ては不明。 巡洋艦　九隻 飛行機　一九三六年迄軍用機七百の空軍編成計畫あり 交通 鐵道延長　一九・八千粁 航空路　九千粁 船舶　殆ど外國船	日本大使館（北平） 在留日本人　五萬六千人 日本との貿易 輸出　一二〇百萬圓 棉花・採油用種子 輸入　一一七百萬圓 （排日の爲大正十一年頃の三分の一に減少） 綿織物・砂糖・機械 （一九三四年） 青島　在留本邦人約二萬人を算し、紡積釀造・製鹽に從事して居る。
シヤム（暹羅）	立憲君主制國王 アナンダ・マヒドル 宗教 國民皆僧の佛教國 全國民はすべて佛教を厚く信奉し佛の道を守つて居る 住民　シヤム人（タイ族）	面積　五一八千方粁 人口　一二三五五千人	バンコック（首府）　四九三千人 チエンマイ・　五〇	產業 農業が主で全人口の八割從事してゐる。 米（世界四位）煙草・牛 錫（同五位） 貿易　一九三三年 輸出　一九二百萬圓 米・錫 輸入　一三四百萬圓 食料品、金屬類	國防 徵兵制 常備兵　二六千人 砲艦　三隻 交通 鐵道延長　三、一千粁 航空路　六二〇粁	德川時代の初期山田長政の功名をあげた所。最近兩國親密の度を加へ昭和六年シヤム皇帝の來訪により一層親善を厚くした。 日本公使館（バンコック） 在留日本人　九〇三人 日本との貿易（一九三四年） 輸出　一、五百萬圓 輸入　二、八百萬圓
フイリツピン（比律賓）	一九三五年八月共和國成立し十年乃至十二年後に米國より完全に獨立することになつてゐる。 宗教　キリスト教（舊教） 住民　インドネシヤ族とイスパニヤ人の混血種	面積　二九六 人口　一二六四七	マニラ（首府）　三四一 セブ　九〇	產業 コプラ（世界二位） 椰子油・甘蔗糖・麻 米・牛・水牛 貿易　一九三三年 輸出　砂糖・椰子油・コプラ 輸入　綿布・綿製品	國防 アメリカ正規兵　一、二萬 フイリツピン軍　七千 米國アジア艦隊 交通 鐵道延長　一、三千粁	在留日本人　二萬人 日本との貿易（一九三四年） 輸出　一八・九百萬圓 麻類 輸入　三六・五百萬圓 綿織物・メリヤス製品
印度	英領　英國國王は同時に印度皇帝。 宗教　インド人の一生は宗教を以て始まり宗教を以て終ると云はれる程の宗教的民族ヒンズー教 住民　ヒンヅー族	面積　四六七六 人口三五二八三八 人口密度　七五	デリー（首府）　四四七 カルカッタ　一四八六 ボムベー　一一六一 マドラス　六四七 ハイダラバード　四〇 シムラ 印度第一の避著地で夏季印度總督の駐在地となる	產業 米・甘蔗糖・棉花・茶 麻（何れも世界一、二位） 牛・水牛・緬羊 石炭・鑛油 貿易　一九三三年 輸出　一八一四百萬圓 棉花・麻・茶・米 輸入　一四四一百萬圓 綿絲・綿布・機械	國防 印度軍　一六六千人 英本國正規軍　五九千人 義勇軍　一三千人 交通 鐵道延長六八・七千粁	在留日本人　二千人 日本との貿易（一九三四年） 輸出　二九〇百萬圓 棉花（本邦輸入國中二位） 輸入　二三八百萬圓 絹織物・人絹織物 （本邦輸出國中三位）

國名	政體・宗教・住民	面積・人口	都市	産業・貿易	國防・交通	備考
佛領印度支那	總督(佛國大統領任命)ルネ・ロジ 宗教 儒教・佛教 自然崇拜の念强く殊に虎の崇拜盛 住民 タイ族 ヒンヅー族	面積 七四〇千方粁 人口 二三一五〇千人	ハノイ(首府) 一二七千人 サイゴン 一二四	産業 米(世界四位)玉蜀黍 甘蔗糖	國防 常備兵 二三千人	古の安南國。一八八四年よりフランスの植民地となる。
蘭領東印度	總督(和蘭政府任命)ヨンゲ 宗教 回教 キリスト教 住民 マライ族 一六一九年以來和蘭の植民地。和蘭の寶庫と呼ばれて居る	面積 一九〇〇千方粁 人口 六〇七三〇千人	バタヴイア(首府) 四三五千人 スラバヤ 三四二 サマラン 二一八	産業 甘蔗糖(世界三位) ゴム・米・錫(同三位) 鑛油・石油 貿易 輸出 砂糖・ゴム・石油 輸入 食料品・綿布	國防 常備兵 三五千人 水上機 六二機 交通 鐵道延長 七・四千粁 航空路 アムステルダム～バタヴイヤ間 世界最長線	日本との貿易 輸出 六三百萬圓 ゴム・砂糖(日本輸入國中第八位) 輸入 一五八百萬圓 綿織物(五割强) 人絹織物・鐵製品 日本輸出國中第四位(一九三四年)
イラン(ペルシヤ)	立憲王國 國王 リザ 宗教 回教 住民 イラン族のペルシヤ人 古王國の榮えし所古文明を有するも今は振はず	面積 一六四七千方粁 人口 一五〇五五千人	テヘラン(首府) 三六〇千人 デブリーズ 二二〇	産業 小麥・棉花・石油 貿易 輸出 鑛油・絨氈 輸入 綿布・砂糖	國防 徵兵制 常備兵 八八千人 飛行機 四五機 交通 鐵道延長 六九〇粁	日本公使館(テヘラン) 一九三五年五月二十一日より國號イランと改稱す。
トルコ(土耳古)	立憲共和國 大統領 ケマル パシヤ 宗教 回教 住民 トルコ人	面積 七六三千方粁 人口 一四・九二〇千人 人口密度 一八人	アンゴラ(首府) 七五千人 イスタンブール 六九一	産業 オリーブ油(世界五位) 小麥・煙草・緬羊・石炭 貿易 一九三三年 輸出 二二六百萬圓 葉煙草・乾葡萄 輸入 一七六百萬圓 綿布・鐵器類	國防 徵兵制 常備兵 一四〇千人 交通 鐵道延長 九・六千粁	日本大使館(アンゴラ)

國名	政體・宗教・住民	面積・人口	都市	産業・貿易	國防・交通	備考
アフガニスタン	立憲王國 國王 モハメッド ザヒール・シャー 宗教 回教 住民 アフガン人	面積 七三一千方粁 人口 一一・〇〇〇千人	ガブール(首府) 一四〇千人 カンダハル 六〇	産業 穀類・果實・羊毛 獸皮・銅 輸出 獸皮・羊毛・絨氈 輸入 織物・鐵器	志願制 常備兵 約七萬人 交通 鐵道の便なく未だに駱駝を使用	日本公使館 カブール
イラク	立憲王國 國王 ガーヂ 宗教 回教 住民 アラビヤ人	面積 三〇二千方粁 人口 三三〇〇千人	バクダッド(首府) 三〇〇千人	産業 石油(主要産物で石油の爲め一國を形成して居ると云ふも過言ではない) 其の他麥類・棗	イギリス派遣軍が主として國防にあたる 交通 鐵道延長一、二千粁	〔備考〕古代バビロン文明の榮えた所、トルコの專制の下にあつたが一九二七英國援助を受けて獨立
ブータン	專制君主國 宗教 ラマ教・佛教 住民 チベット族	面積 五二千方粁 人口 三二〇千人	プナカ(首府) 人口不詳	産業 米・ラック・用材に富む		〔備考〕内政は英國の干渉をうけざるも外交に就ては英國政府が發言權を有す
ネパール	專制君主國 宗教 ヒンヅー教 佛教 住民 グルカ族	面積 一四〇千方粁 人口 五六〇〇千人	カトマンヅ(首府) 人口一〇九千人 世界最高峰エヴエレスト山は此の國の北境に聳ゆる	貿易は古くより印度と行はれ牛・獸皮を輸出し鹽砂糖を輸入す。	グルカ族は短小頑健敏捷にして好戰の國民である。從つて强力な陸軍を有す。 正規軍 二萬人	〔備考〕歐洲大戰に英國軍を助けた功により一九二三年獨立を承認された。
アラビヤ諸國 サウディアラビヤ王國		人口 約五〇〇〇千人	メッカ(首府) 一三〇千人 メヂナ(マホメット墳墓の地)	馬・駱駝の輸出盛なり。		〔備考〕何れも未だ十分の國家としての形態を具へず、實質上は英國の保護國である。
アラビヤ諸國 イエーメン王國		人口 約二五〇〇千人	サナ(首府) 二萬人	穀類・良質のモカ珈琲を産す		
アラビヤ諸國 オーマン王國		人口 約五〇〇千人	ムスカット(首府) 四千人	優良なる駱駝を産す。		
海峽植民地(英領)	イギリス皇帝任命の總督統治す。 住民 支那人(六割) マレー人 印度人 宗教 主に佛教	面積 四・一千方粁 人口 一〇四一千人	シンガポール(首府) 四三三千人	ゴム(世界一位)コプラ。錫・米・パイナップル 煙草・果實 輸出 ゴム・錫 輸入 揮發油・綿製品	シンガポールは英國海軍の極東に於ける根據地。セレターに空軍の根據地がある ブラカン・マツチ島 駐屯砲兵隊司令部 規模宏大の要塞地帶	日本への輸出(六三百萬圓) 生ゴム・錫……第九位 輸入(六三百萬)綿織物 絹織物……第十位 (一九三四年)

ヨーロッパ洲（歐羅巴）

面積 九百五十萬方粁
人口 四億八千四百八十萬人

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	產業・貿易	國防・交通	日本との關係
イギリス（英吉利）	立憲王國 皇帝 ジョージ五世 首相 ボールドウイン 宗教 キリスト教（新教） 住民 アングロ・サクソン族	面積 千粁 本國 三四五 屬領 三一八七三 人口 千人 本國 四六五三八 屬領三九四一七二 人口密度 人 本國 一九〇 屬領 一二	ロンドン（首府） 四三九七 千人 グラスゴー 一〇八八 バーミンガム一〇〇九 リバープル 八六〇 マンチエスター 七六三 ブリストル 三九九 シエフイールド 五一二	農業 小麥・大麥等を產するも自國の產額では不足し年々輸入 石炭（世界二位） 鋼鐵（同 三位） 自動車（同二位） 人絹（同三位） 漁業（同四位） 貿易總額（世界一位） 輸出 六〇八二百萬圓 綿絲・綿布・石炭 輸入 一〇三七四百萬圓 食料品・羊毛・棉花 （一九三三年	國防・志願制 常備軍 三四〇千人 自治領・植民地軍を除く 戰艦 一五隻 飛行機 一五〇〇機 交通 鐵道延長 三二・六千粁（本國） 自動車 一七三三千臺 航空路 二九千粁 民間飛行機 九八機 船舶（百噸以上）世界一位 七一〇七隻	日本大使館（ロンドン） 在留日本人 一、五三三人 日本との貿易 輸出 七〇百萬圓 機械・鐵・毛織物 輸入 一〇九百萬圓 生絲・絹織物 一九三四萬圓 一九〇二年迄日英同盟締結されたが一九二一年廢止された
イタリヤ（伊太利）	立憲君主國 國王 ヴイツトリオエマニユエレ三世 首相 ムツソリーニ 宗教 キリスト教（舊教） 住民 ラテン族	面積 千粁 本國 三一〇 屬領 二二五九 人口 千人 本國 四二二一七 屬領 二四六四 人口密度一三五人	ローマ（首府） 一〇四五 千人 ミラノ 一〇一三 ナポリ 八五三 ゼノア 六二〇 フロレンス 美術の都 ヴエニス 水の都 ピサ 斜塔	小麥（世界五位）生絲（三位） 葡萄酒（二位）オリーブ油（二位）人絹・硫黃（一位） 貿易總額（世界十位） 輸出 一二六四百萬圓 綿織物・果實・車輛 輸入 一九一四百萬圓 棉花・石炭・羊毛 （一九三三年）	國防 徵兵制 常備軍 三五萬人 飛行機 一五〇〇機 戰艦 四隻 交通 鐵道延長 二三千粁 航空路 二〇千粁 船舶（百噸以上） 一〇三一隻 自動車 三三二千臺	日本大使館（ローマ） 在留日本人 八三人 日本との貿易 輸出 六百萬圓 水銀・鐵 輸入 六・二百萬圓 生絲・硬化油・玩具 （一九三四年）
フランス（佛蘭西）	立憲共和國 大統領 アルベール・ルブラン 首相 ラヴアール 宗教 キリスト教（舊教） 民族 ラテン族	面積 千方粁 本國 五五一 屬領 一一、八一九 人口 千人 本國 四一、八八〇 屬領 六三、五四〇 密度 本國 七五人 屬領 五人	パリー（首府） 二、八九一 千人 マルセーユ 八〇一 リヨン 五八〇	小麥（世界三位）燕麥 馬鈴薯（三位）葡萄酒（一位）鐵・石炭・加里 貿易 總額（世界四位） 輸出 三六四〇百萬圓 化學製品 輸入 五六〇七百萬圓 葡萄酒・石炭 （一九三三年）	國防 徵兵制 本國軍 三五萬人 植民地軍 二〇萬人 戰艦 九隻 飛行機 三〇〇〇機 交通 鐵道延長 四一・八 千粁 汽船（百噸以上） 一六三七隻 航空路 三六四千粁	日本大使館パリー 在留日本人 九六二人 日本との貿易 輸出 一八百萬圓 機械類 輸入 三八百萬圓 生絲・絹織物・人絹織物（一九三四年）
ドイツ（獨逸）	立憲共和國 總統兼首相 ヒツトラー 宗教 キリスト教（新教） 住民 ゲルマン族のドイツ人	面積 四六九 千方粁 人口 六六、〇四四 千人 密度 一四〇人	ベルリン（首府） 四、二四三 千人 ハンブルグ 一、一三〇 ケルン 七五七 ミユンヘン 七三五 ライプチツヒ 七一三	大麥（世界二位）ライ麥（二位）褐炭・加里（共に一位）銑鐵・鋼鐵 輸出五、七三〇百萬圓 銑鐵、銅鐵、化學製品 輸入 四九四五百萬圓 棉花・羊毛・珈琲・果實 輸出（世界三位） 輸入（四位） （一九三三年）	國防 ヴエルサイユ條約により常備兵十萬人に制限され空軍、潛水艦の建造禁止さる。外に 警察隊 一五萬人 戰艦 六隻 然し一九三五年三月同條約を廢棄し再軍備を宣言海陸共に强大な軍備を形成せんとしつゝある。 飛行機 二五〇〇機 交通鐵道延長 五六・四千粁 船舶（百噸以上） 二〇三三隻	日本大使館ベルリン 在留日本人 一一一八人 日本との貿易 輸出 一〇九百萬圓 日本への輸出國中六位 機械類・鐵・硫安 輸入 一九、六百萬圓 魚油・鯨油・絹織物 人絹織物 （一九三四年）
オランダ（和蘭）	立憲君主國 君主ウイルヘルミナマリア女皇 首相 ベーレンブルツク 宗教 キリスト教（新教） 住民 ゲルマン族	面積 千方粁 本國 三三、六 屬領 二〇四二 人口 千人 本國 八二九〇 屬領 六〇九五〇 密度（本國）二五四人	ハーグ（首府） 四六〇 千人 アムステルダム 七八〇 ロツテルダム 五九〇	小麥・馬鈴薯・牛・石炭 造船・釀造業 貿易總額（世界五位） 輸出 一四四八百萬圓 紡績製品・石炭 輸入 二四一三百萬圓 金屬製品 （一九三三年）	國防 徵兵及志願制 常備軍 一八千人 飛行機 二〇〇機 國防艦 三隻 交通 鐵道延長 三・六千粁 汽船（百噸以上） 一四〇七隻 航空路 三、四千粁	日本公使館（ハーグ） 貿易は殆ど蘭領印度間に行はるるを主とす。 我が鎖國中は獨り長崎に來つて交易を許され、我が國文化發展の上に大いに貢献する所があつた。

ソビエート聯邦（ロシヤ）	イスパニヤ（西班牙）	ポルトガル（葡萄牙）	ベルギー（白耳義）
社會主義共和國 聯邦中央執行委員會議長カリーニン 人民委員會議長モロトフ 宗教 無神論の色彩強し 住民 スラブ族	立憲共和國 大統領 アルカラ ザモラ 宗教 キリスト教（舊教） 住民 ラテン族	立憲共和國 大統領 オスカドル・カルモナ將軍 宗教 キリスト（舊教） 住民 ラテン族	立憲君主國 君主 レオポルド三世 宗教 キリスト教（舊教） 住民 ラテン族とゲルマン族の混血
面積 二一三五三千方粁 人口 一六五七八千人 人口密度 七人	面積 八四四千方粁 人口 二四・九〇三一千人 人口密度 二七人 （屬領とも）	面積 二七一千方粁 人口 一三九七八千人 人口密度 六人 （屬領とも）	面積 本國 三〇千方粁 コンゴ 三三八五 人口 本國 八一五九千人 コンゴ 一〇〇〇〇 人口密度（本國） 八二六 （世界一）
モスコー（首府） 三五七二千人 レニングラード 二七一五 バクー 五七五 キエフ 五三九 ハルコフ 五二二 オデッサ 四七五	マドリッド（首府） 九九四千人 バルセロナ 一〇四二 ヴアレンシア 三三四	リスボン（首府） 五九四千人 オポルト 二三二	ブルッセル（首府） 八八八千人 アントワープ 二八五
大麥（世界一位）小麥・ライ麥・燕麥 銑鐵世界（二位）鋼鐵（四位） 石炭（四位）原油（二位） 貿易 八七一百萬圓 輸出 木材・石油 輸入 機械類・金屬類	麥類・羊・オリーブ油（世界一位） 鐵鑛 貿易總額 六二一百萬圓 輸出 生果・オリーヴ油 輸入 棉花 （一九三三年）	オリーヴ油（世界三位）コルク（一位）葡萄酒・紡績 罐詰・鰯 貿易總額 四六六百萬圓 輸出 葡萄酒・罐詰 輸入 綿織物・鐵・石炭 （一九三三年）	亞麻（世界四位）石炭・鐵 貿易總額（世界六位） 輸出 化學製品・藥品 一八〇四百萬圓 輸入 機械器具・木材 二〇四二百萬圓 （一九三三年）
國防 徴兵制 正規軍 五〇萬人 民兵軍 六〇萬人 戰艦 四隻 飛行機 三〇〇〇機 交通 鐵道延長 八三・四千 自動車 一〇五千臺 航空路 五〇千粁	國防 徴兵制 常備兵 一三六千人 植民地軍 三八千人 戰艦 二隻 飛行機 五〇〇機 交通 鐵道延長 一三・八千粁	國防 徴兵制 常備兵 三一千人 海外駐屯兵 一一千人 飛行機 二一機 交通 鐵道延長 三・四千粁 船舶（百噸以上） 一二三隻	國防 徴兵及志願制 常備兵 九四千人 飛行機 三〇〇機 海軍 廢止 交通 鐵道延長 九・八千粁 航空路 六・四千粁
日本大使館（モスコー） 在留日本人 二一〇一 日本との貿易 輸出 鑛油・木材 四千萬圓 輸入 機械類・砂糖 一三百萬圓 主として露領アジヤ間に行なはれる。 （一九三四年）	日本公使館（マドリード） 歐米諸國中最も早く我が國に來航した事は有名である。キリスト教を始めて傳へたのも此の國人である。	日本公使館（リスボン） イスパニヤ人と同樣早くより來航し天文十二年には鐵砲を傳へた。	日本大使館（ブルッセル） 日本との貿易 輸出 一七百萬圓 主として鐵 輸入 九・六百萬圓 （一九三四年）

デンマーク（丁抹）	スエーデン（瑞典）	ノルウエー（諾威）	フインランド（芬蘭）	スイス（瑞西）
立憲君主國 國王 クリスチャン十世 宗教 キリスト教（新教） 住民 ゲルマン族	立憲君主國 國王 グスタフ五世 宗教 キリスト教（新教） 住民 ゲルマン族	立憲君主國 國王 ハアコン七世 宗教 キリスト教（新教） 住民 ゲルマン族	立憲共和國 大統領 スヴインフウヴド 宗教 キリスト教（新教） 住民 フイン族（アジヤ人種）	立憲共和國 一八一五年パリー條約により永久局外中立國 大統領 ピレ・ゴラ 宗教 キリスト教（新教） 住民 ドイツ人（七割）
面積 本國 四二・九千方粁 グリーンランド 二一七五・六 人口 本國 三六二三千人 グリーンランド 一七 人口密度 八四人	面積 四四九千方粁 人口 六一九〇千人 人口密度 一四人	面積 三二三千方粁 人口 二八四五千人 人口密度 九人	面積 三八八千方粁 人口 三六六七千人 人口密度 一一人	面積 四一千方粁 人口 四一一五千人 人口密度 一〇〇人
コペンハーゲン（首府） 七七一千人	ストックホルム（首府） 五二〇千人 ゲテボルグ 二五一 マルメー 一三一	オスロ（首府） 三五二千人	ヘルシンキ（首府） 二六五千人	ベルン（首府） 一四四千人
歐洲有數の農業國 麥類・馬鈴薯・豚 漁業食料品製造・バタ 貿易總額 一七六八百萬圓 輸出 豚肉・バタ 輸入 穀類・石炭 （一九三三年）	麥類・木材・パルプ・製材 製紙 貿易總額 一八六二百萬圓 輸出 パルプ・紙・木材 輸入・鑛物・織物 （一九三三年）	木材・パルプ漁業 製紙・罐詰 貿易總額 一〇〇二百萬圓 輸出 パルプ・紙類 輸入 船車・機械・織物 （一九三三年）	木材・製紙 貿易總額 六七〇百萬圓 輸出 木材・パルプ・紙 輸入 金屬類・穀類 （一九三三年）	チーズ・バター・煉乳 時計製造業 貿易總額 二三四二百萬圓 輸出 綿製品・絹製品 時計 輸入 穀類・鑛物 （一九三三年）
國防 民兵制 常備兵 一萬四千人 飛行機 一〇〇機 海防艦 三隻 交通 鐵道延長 五・三千粁 航空路 八六粁 船舶（百噸以上） 六八六粁	國防 徴兵制 常備兵 二八千人 飛行機 一六七機 戰艦 三隻 交通 鐵道延長 一六・八千粁	國防 民兵制 常備兵 五・四千人 交通 鐵道延長 三・九千粁	國防 徴兵制 常備軍 三萬人 飛行機 七〇機 交通 鐵道延長 五・四千粁	國防 民兵制 常備兵 四六千人 飛行機 二〇五機 交通 鐵道延長 三・八千粁 航空路 三・七千粁
	日本公使館 兼諾威・丁抹・芬蘭 日本との貿易 輸出 二一・一百萬圓 輸入 六・一百萬圓 主としてパルプ （一九三四年）	日本との貿易 輸出 一四百萬圓 輸入 パルプ 二・八百萬圓 （一九三四年）		日本公使館（ベルン） 日本との貿易 輸出 一一百萬圓 機械類 （一九三四年）

ポーランド （波　蘭）	立憲共和國 大統領 モスチツキー 宗教 キリスト教 （舊教） 住民 スラブ族	面積 三八八千方粁 人口 三二六三八千人 人口密度 八三人	ワルソー（首府） 一二七九千人	ライ麥（世界三位）亞麻 （二位）木材・石炭 貿易總額 九九二百萬圓 輸出 石炭・木材 輸入 棉花・化學製品 （一九三三年）	國防 徴兵制 常備兵力 二八五千人 飛行機 一〇〇〇機 砲艦 二隻 交通 鐵道延長 一九・九千粁 航空路 四・二千粁	日本公使館（ワルソー） 歐洲列強の間にはさまり國力不相應の軍備を擴張してゐる
オーストリヤ （墺地利）	立憲共和國 大統領 ミクラス 宗教 キリスト教 （舊教） 住民 ゲルマン族	面積 八四千方粁 人口 六七五九千人 人口密度 八一人	ウイーン（首府）一八八六千人 グラーツ 一五三 リンツ 一〇二	牛・木材 貿易總額 一〇八四百萬圓 輸出 紙・木材 輸入 穀類・石炭 （一九三三年）	國防、條約により陸軍兵力三萬を越へ得ない。又航空機の製造も禁止されてゐる。海軍なし。 交通 鐵道延長 六・八千粁	日本公使館（ウイーン） 兼ハンガリー
ハンガリー （洪牙利）	立憲君主國 攝政 ホルテイ 宗教 キリスト教 （舊教） 住民 マジャール族（東洋人種）	面積 九三千方粁 人口 八七八四千人 人口密度 九三人	ブタペスト（首府） 一〇二〇千人	地味肥沃野にして農業盛。麥類・甜菜・石炭・ボーキサイト 貿易總額 六一一百萬圓 輸出 小麥・家畜 輸入 棉花・紙・木材 （一九三三年）	國防・條約により徴兵制を禁じられ・常備兵力は三萬五千を越へ得ない。 交通 鐵道延長 九・一千粁 航空路 一・二千粁	
チエツコスロバキヤ	立憲共和國 大統領 トーマス マサリツク 宗教 キリスト教 （舊教） 住民 スラヴ族 建國の功勞者マサリツク博士を信頼すること厚く、終身大統領とす。	面積 一四〇千方粁 人口 一四九二五千人 人口密度 一〇五人	プラーグ（首府）八四八千人 ブルノ 二六四 オストラワ 一二五	歐洲屈指の農業國 ライ麥（世界四位）馬鈴薯 石炭・褐炭・硝子製造 甜菜糖（四位）紡績 貿易總額 一七一二百萬圓 輸出 綿織 硝子 輸入 棉花 主要相手國 獨逸、墺地利、米國 （一九三三年）	國防 徴兵制 常備兵力 一二三千人 飛行機 五四六機 交通 鐵道延長 一三・九千粁 航空路 二・七千粁	日本公使館（プラーグ） 日本との貿易 輸出 一・七百萬圓 主として鋼材 （一九三四年） 一九一八年、墺地利・ハンガリー分裂と共に同版圖より獨立。
エストニヤ	立憲共和國 大統領 ペーツ 宗教 キリスト教 （新教） 住民 フイン族 （東洋人種）	面積 四八千方粁 人口 一一二六千人 人口密度 二四人	タリン（首府） （レヴアルとも云ふ） 一三四千人	牧畜・林業 輸出 乳肉製品 輸入 織物 （一九三三年）	國防 徴兵制 常備兵力 一四千人 飛行機 七四機 鐵道延長 一・四千粁	條約中に滿洲國と明記し事實上滿洲國を承認した事は歐洲諸國に大きな衝動を與へた。 一九一八年露國より獨立

ラトビヤ	立憲共和國 大統領 クビージス 宗教 キリスト教 （新教） 住民 ギリシヤ族 ヒンヅー族 の混血	面積 六六千方粁 人口 一九三九千人 人口密度 二九人	リガ（首府） 三七八千人	亞麻（世界五世）木材 輸出 木材・バター 輸入 飯食料 （一九三三年）	國防 徴兵制 常備兵力 二五千人 飛行機 八〇機 鐵道延長 二・八千粁	〔備考〕世界大戰の結果、ロシヤ領の一部より獨立せる新興國 日本公使館 リガ
リトワニヤ	立憲共和國 大統領 アシタナス・ストメナ 宗教 キリスト教 （舊教） 住民 スラヴ族	面積 五五千方粁 人口 二三九三千人 人口密度 四三人	カウナス（首府） 一一三千人 （然し同國は波蘭領ヴイルナ地方を領有せんとしヴイルナ（二一四千人）を同國の首府と主張して居る	麥類・木材・牛 輸出 獸肉・バター 輸入 綿製品 （一九三三年）	國防 徴兵制 常備兵力 二〇千人 飛行機 八〇機 鐵道延長 一・八千粁	〔備考〕 一九一八年ロシヤより獨立
アイルランド自由國	一九二一年英自治領となる。 宗教 キリスト教 （舊教） 住民 ケルト族	面積 六八・九千方粁 人口 二六八三千人	ダブリン（首府） 四五〇千人	馬鈴薯・牛・緬羊 貿易總額八九九百萬圓 輸出 牛・豚 輸入 石炭 （一九三三年）	國防 志願制 常備兵力 六千人 海軍、英國海軍があたる 鐵道延長 四・八千粁	
アイスランド	立憲君主國 國王、丁抹王 クリスチヤン十世	面積 一〇三千方粁 人口 一〇九千人	ライキセヴイック（首府） 二八千人	世界三大漁業地を控へて居る爲め漁業盛、魚類の輸出多し	永久中立國として軍備なし 鐵道なく自動車之に代る	〔備考〕一九一八年丁抹より獨立、宗教・住民丁抹に同じ
ルクセンブルグ	立憲君主國 太公女シヤーロット姫 永久中立國	面積 二・六千方粁 人口 三〇〇千人 人口密度 一一六人	ルクセンブルグ（首府） 五四千人	鑛業盛、鐵の輸出多し	軍備なし 交通よく發達す	〔備考〕住民はドイツ人なるもキリスト舊教を奉ず。
ユーゴースラビヤ	立憲君主國 國王 ピーター二世 宗教 キリスト教 （舊教） 住民 スラヴ族	面積 二四九千方粁 人口 一三九三四千人 人口密度 五六人	ベルグラード（首府） 二三九千人 ザクレツプ 一八六千人	大麻（世界二位）木材 炭・クローム鑛 貿易總額 三七〇百萬圓 （一九三三年）	國防 徴兵制 常備兵力 一一二千人 飛行機 五六八機 鐵道延長 九・三千粁	一九一八年、オーストリヤハンガリーの分列により同版圖內より獨立
ルーマニヤ （羅馬尼）	立憲君主國 國王 カロル二世 宗教 キリスト教 （ギリシヤ族） 住民 ラテン族	面積 二九五千方粁 人口 一八五四〇千人 人口密度 六一人	ブカレスト（首府） 六三一千人 キシネフ 一一七	原油（世界四位）天然ガス 葡萄酒（二位）木材・玉蜀黍 貿易總額 七五三百萬圓 （一九三三年）	國防 徴兵制 常備兵力 二四六千人 飛行機 七七三機 鐵道延長 一一・三千粁	日本公使館（ブカレスト） 兼ユーゴースラビヤ

ブルガリヤ	立憲君主國 國王 ボリス三世 宗教 キリスト教（ギリシヤ族） 住民 スラヴ族	面積 一〇三千方粁 人口 六二〇五千人 人口密度 六〇人	ソフイヤ（首府） 二一三千人	麥類・玉蜀黍・煙草 貿易 輸出 煙草 輸入 織物	條約により兵力は二萬を越へ得ず志願制に依る事と制限さる。空軍、戰艦の建造禁止さる。	〔備考〕一九〇八年土耳古より獨立
ギリシヤ	立憲共和國 大統領 ザイミス 宗教 キリスト教（ギリシヤ族） 住民 ギリシヤ族	面積 一三〇千方粁 人口 六四八三千人 人口密度 五〇人	アテネ（首府） 四五九千人 サロニカ 二三七	オリーヴ油、養蠶業は伊太利に繼ぎ歐洲二位 貿易總額三九二百萬圓（一九三三年）	國防 徵兵制 常備兵力 五三千人 飛行機 一七四機 鐵道延長 二・七千粁	日本公使館（兼アルバニヤ） 〔備考〕古代文明の發祥地で夙に學藝・美術の中心であつたが今は國勢振はず昔日の觀がない。
アルバニヤ	立憲君主國 國王 ツォーグ一世 宗教 回教・キリスト教（舊教） 住民 アルバニヤ族	面積 四五千方粁 人口 一〇〇五千人 人口密度 二二人	チラナ（首府） 三〇千人	產業上殆ど未開地	國防 徵兵制 常備兵力 一五千人 交通 未開	〔備考〕一九一二年土耳古より獨立
サンマリノ	伊太利內の小共和國 宗教・民族伊太利に同じ	面積 六一方粁 人口 一三・九千人		石材の產あり		
アンドラ	立憲共和國 住民 ラテン族	面積 四五三方粁 人口 六千人		牧羊を主とす		
モナコ	立憲君主國	面積 二一方粁 人口 二五千人	一國の財政を賭博稅で賄ふ國家であつて風光明媚、氣候溫和にして歐洲最上の健康地、觀光客跡をたたず。			
リーヒテンシュタイン	立憲君主國 住民は主としてドイツ人	面積 一五九千方粁 人口 一〇千人		住民の大部は農業に從事し穀物、果實を產する		風光明媚なる國として知られて居る。
ダンチッヒ自由市	一九二〇年國際聯盟保護の下に建設さる住民は主としてドイツ人	面積 一、九千方粁 人口 四一〇千人	ダンチッヒ（首府） 二六三千人	英國に挽材を輸出す		國際聯盟の保護の下にある自由市。
ヴァチカン聖城	ローマ法王廳の所在地、法王が絕對の權力を有す。	面積〇、四四方粁 人口 一〇二五人	列國から一國並の待遇を受け、公使を交換す ローマ市中の一部			法主は宗教上、一獨立國として滿洲國を承認した。

北アメリカ洲（北亞米利加）

面積 二千百八十萬方粁
人口 一億六千七百二十萬人

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	產業・貿易	國防・交通	日本との關係
アメリカ 北米合衆國	立憲共和國 大統領 フランクリン・ルーズヴェルト 國務長官 ハル 宗教 キリスト教（新教） 住民 殆ど英人系	面積 千方粁 本國 七八四一 屬領 一八四一 人口 千人 本國 一二五六九三 屬領 一四一九四 人口密度（一方粁に付） 本國 一六人 屬領 八人	ワシントン（首府） 千人 四七八 ニューヨーク 六九三〇 シカゴ 三三七六 フイラデルフイア 一九五一 デトロイド 一五六九 ロサンゼルス 一二三八 ボストン 七八一 サンフランシスコ 六三四	棉花・煙草・甜菜糖（何れも世界一位）麥類・羊毛（二位） 石炭・銅・鉛・石油銑鐵 鋼鐵（何れも世界一位） 紡績・食料品・機械・人絹・自動車（一位） 貿易總額（世界二位） 輸出 六五二四百萬圓（世界一位） 棉花・鑛油・煙草・自動車 輸入 五六四一百萬圓（世界二位） 珈琲・砂糖・生絲・紙（一九三三年）	國防・志願制 正規軍 一三五千人 護國軍 一八六千人 戰艦 一五隻 飛行機 （陸軍） 一二三四機 （海軍） 九二二機 鐵道延長 四一六・七千粁 自動車 二三三二七千臺（世界一位） 船舶（百噸以上）三一〇九隻（英國に繼ぎ世界二位） 航空路 八七・二千粁 民間飛行機 七三二〇機（世界一位）	日本大使館（ワシントン） 在留日本人 十三萬人（他にハワイに約十四萬） 日本との貿易 輸出 七六九百萬圓（本邦への輸出國中第一位） 棉花・鑛油・鐵 輸入 三九八・九百萬圓（本邦輸出國中第一位） 生絲・罐壜詰食料品 陶磁器・玩具・絹織物（一九三四年）
メキシコ（墨西哥）	立憲共和國 大統領 カルデナス 宗教 キリスト教（舊教） 住民 土人四・六百萬 白人二・四 混血九・〇	面積 千方粁 一九六九 人口 千人 一六四〇四 人口密度 八人	メキシコ（首府） 一〇三〇千人	銀（世界一位）鉛（三位） 金・石油・シザル麻 貿易總額 六九五百萬圓 輸出 銀・石油 輸入 鑛物・機械類（相手國大半アメリカ）（一九三三年）	國防・徵兵制 常備兵力 五八千人 飛行機 四五機 鐵道延長 二九・九千粁 航空路 五・千粁	日本公使館（メキシコ） 在留日本人 五・二九七人

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	產業・貿易	國防・交通	日本との關係
カナダ(加奈陀)	英自治領(一七六三年佛國より英國に讓渡され一八六七年自治領となる) 首相 ベネット 宗教 キリスト教(新教) 住民 英人の子孫 佛人の子孫 土人 エスキモー	面積 九五四二千方粁 人口 一〇五〇六千人 人口密度 一人	オッタワ(首府) 一二七千人 モントリオル 八一九 トロント 六三一 ヴアンクーヴア 二四七	小麥(世界三位)燕麥・パルプ・木材(建築用) 漁業 金(世界二位)銀(三位)銅(二位) ニッケル・製紙 罐詰 貿易總額(世界八位) 輸出 小麥・新聞用紙 一・九三二百萬圓 輸入 石炭・鑛油 一四五九百萬圓 (一九三三年)	國防 民兵制 常備軍 三・六千人 鐵道延長 六八・二千粁 航空路 九・一千粁 船舶(百噸以上) 一四六三隻	日本公使館(オッタワ) 在留日本人 二萬三千人 日本との貿易 輸出 パルプ・小麥 五四百萬圓 輸入 陶磁器 八・六百萬圓 (一九三四年)
サルバドル	立憲共和國 大統領 マルチネズ	面積 三四千方粁 人口 一四八〇千人	サンサルバドル(首府) 九八千人	珈琲(世界五位)	常備兵力 三千人	一九〇四年五月滿洲帝國を正式に承認し滿洲帝國承認の日本以外の最初の國家として日滿兩國は多大の敬意を表してゐる。
キューバ	立憲共和國	面積 一一四千方粁 人口 四〇一一千人	ハヴアナ(首府) 五四四千人 サンチャゴ 一〇三千人	甘蔗(世界二位)煙草・砂糖・煙草を輸出す	常備兵力 一四千人	
ハイチ	立憲共和國	面積 二六千方粁 人口 二六〇〇千人	ポルト・オー・プリンス(首府) 八〇千人	珈琲	常備兵力 三千人	一八〇四年フランスより獨立
サント・ドミンゴ	立憲共和國	面積 四九千方粁 人口 一二七五千人	サント・ドミンゴ(首府) 八〇千人	甘蔗・ココア	常備兵力 二千人	
ニカラグア	立憲共和國	面積 一二八千方粁 人口 八〇〇千人	マナグア(首府) 四五千人	バナナ・珈琲	常備兵力 二・五千人	米國は太平洋の防備を強化せんと此の國にニカラグラ運河を開鑿せんとして世界の注目を引いて居る。
グアテマラ	立憲共和國	面積 一一〇千方粁 人口 二二一三千人	グアテマラ(首府) 一六六千人	珈琲(世界四位)	常備兵力 六・六千人 鐵道延長 一・二千粁	
パナマ	立憲共和國	面積 八四千方粁 人口 四七五千人	パナマ(首府) 七四千人	バナナ・獸皮	軍備 無シ	パナマ運河 全長 八一・一粁 通過時間 七－八時間
コスタリカ	立憲共和國	面積 五八千方粁 人口 五四〇千人	サン・ホセ(首府) 五七千人	珈琲・バナナ		
ホンジュラス	立憲共和國	面積 一五四千方粁 人口 九〇〇千人	テグシガルパ(首府) 四七千人	バナナ・珈琲	常備兵力 二・七千人	

南アメリカ洲

面積 千八百八十萬方粁
人口 八千百萬人

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	產業・貿易	國防・交通	日本との關係
ブラジル(白剌西爾)	立憲共和國 一八一五年ポルトガル植民地より獨立 大統領 ヴアルガス 宗教 キリスト教(舊教) 住民 ポルトガル人系	面積 八五二四千方粁 人口 四〇二七三千人 人口密度 五人 言語はポルトガル語、南部はドイツ語、イタリヤ語	リオ・デ・ジャネイロ(首府) 一五八五千人 サンパウロ 一〇〇六 ペルナンブコ 四二一 サントス 一〇五	珈琲(世界一位)ココア(二位)砂糖(四位)煙草(三位)木材、絹織物 輸出 七八四百萬圓 珈琲・ココア・獸皮 輸入 六〇二百萬圓 小麥・機械類 (一九三三年)	國防 徵兵制 常備兵力 四七・七千人 飛行機 四一機 戰艦 二隻 鐵道延長 三三・八千粁 航空路 七千粁	日本大使館 リオ・デ・ジャネイロ 在留日本人 一七萬 日本との貿易(一九三四) 輸出 珈琲・棉花 輸入 電球・陶磁器 日伯關係は近年親密を加へつゝあつたが一九三四年日本人移民制限法が可決され日本人移民は年に二七五五人に制限さるる事となつた。
アルゼンチン(亞爾然丁)	立憲共和國 一八一六年イスパニヤ植民地より獨立 大統領 ユスト 宗教 キリスト教(舊教) 住民 イスパニヤ人 イタリヤ人の子孫	面積 二七九七千方粁 人口 一一六五八千人 人口密度 五人 (言語はイスパニヤ語、中流以上の人は佛語)	ヴエノス・アイレス(首府) 一五八五千人 ロザリオ 一〇〇六 コルドバ 二五三	亞麻(世界一位) 小麥・玉蜀黍(二位)牛・羊毛(三位) 貿易(南米第一位) 輸出 九五四百萬圓 小麥・玉蜀黍・亞麻 輸入 七六四百萬圓 織物・燃料・食料品 (一九三三年)	國防 徵兵制 常備兵力 三七千人 飛行機 八六機 戰艦 二隻 鐵道延長 三九・八千粁	日本公使館 ヴエノス・アイレス 兼パラグワイ・ウルグアイ 在留日本人 五千人 日本との貿易 輸出 一二百萬圓 羊毛・牛皮 輸入 二〇萬百圓 絹織物・綿織物 (一九三四年)
チリー(智利)	立憲共和國 一八一一年イスパニヤ植民地より獨立 大統領 アレッサンドリ 宗教 キリスト教(舊教) 住民 イスパニヤの子孫	面積 七四二千方粁 人口 四三五一千人 人口密度 六人	サンチヤゴ(首府) 七〇二千人 ヴアルパライソ 一九三	硝石(世界一位)銅(一位) 木材・沃度 輸出 一〇六百萬圓 銅・硝石 輸入 五四百萬圓 織物・化學製品 主要相手國 イギリス 米國、獨逸 (一九三三年)	國防・民兵制 常備兵力 八千人 飛行機 一〇五機 戰艦 一隻 鐵道延長 八・九千粁 航空路 一・七千粁	日本公使館 サンチアゴ 兼ボリヴィア 日本との貿易 輸出 三四百萬圓 硝石・羊毛 輸入 七・四百萬圓 綿絲・人絹 (一九三四年)

ペルー（秘露）	立憲共和國 宗教　キリスト教（舊教） 住民　イスパニヤ人の子孫	面積　一三八二千方粁 人口　六六〇〇千人 人口密度　五人	リマ（首府）　二八一千人	銀（世界四位）銅・原油 甘蔗糖・棉花 輸出　石油・棉花・砂糖	常備兵力　九千人 鐵道延長　四・五千粁	日本公使館　リマ 日本との貿易 輸入　六・八百萬圓 （一九三四年）
ボリビヤ	立憲共和國 宗教　キリスト教（舊教） 住民　土人	面積　一三三二千方粁 人口　三〇六七千人 人口密度　二人	ラ・パス（政廳所在地） 一五〇千人 スクレ（法律上の首府） 二六千人	アンチモニー（世界二位） 錫（二位） 輸出　銀・錫	常備兵力　八千人	
コロンビヤ	立憲共和國 宗教　キリスト教（舊教） 住民　イスパニヤ人の子孫	面積　一二八三千方粁 人口　八八二八千人 人口密度　六人	ボゴダ（首府）　二三五千人	良質の珈琲（世界二位） 木材・金・石油 輸出　珈琲・石油	常備兵力　八・五千人 鐵道延長　二・三千粁 航空路　三・〇千粁	日本公使館　ボゴタ 日本との貿易 輸入　九百萬圓 （一九三四年）
ヴエネズエラ	立憲共和國 宗教　キリスト教（舊教） 住民　イスパニヤ人・土人の混血種	面積　一〇二〇千方粁 人口　三一五七千人 人口密度　三人	カラカス（首府）　三四一千人	珈琲（世界三位） 眞珠 輸出　石油・珈琲 輸入　食料品	常備兵力　一〇千人	
エクアドル	立憲共和國 宗教　キリスト教（舊教） 住民　土人・イスパニヤ人と土人の混血種族	面積四五一千方粁 人口一九四一千人 人口密度　一〇人	キトー（首府）　一〇六千人	ココア（世界五位）珈琲 金・原油・パナマ帽 輸出　石油・ココア	常備兵力　五・六千人 鐵道延長　一・一千粁	
パラグアイ	立憲共和國 宗教　キリスト教（舊教） 住民　イスパニヤ人土人の混血種族	面積四一八千方粁 人口　八四四千人 人口密度　二人	アスシオン（首府）　九四千人	マテ茶・煙草・牛・木材 レース製造 輸出　木材・マテ茶 輸入　綿織物	常備兵力　二・九千人 鐵道延長　一・一千粁	
ウルグアイ	立憲共和國 宗教　キリスト教（舊教） 住民　土人・イスパニヤ人・ブラジル人等	面積一八六千方粁 人口　一八三六千人 人口密度　一〇人	モンテビデオ（首府） 六六二千人 パイサンズ　二六千人	羊毛（世界六位）亞麻（四位） 輸出　羊毛・冷凍肉 輸入　鑛油・砂糖	常備兵力　五・七千人 鐵道延長　二・七千粁	日本との貿易（一九三四年） 輸入　六・九百萬圓 日・ウ商業會議所を設立し兩國間の貿易の促進に資して居る。

アフリカ洲（亞弗利加）

面積　二千百八十萬方粁
人口　一億六千七百二十萬人

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	產業・貿易	國防・交通	日本との關係
エチオピア	立憲君主國 國王　セラシー一世 宗教　キリスト教（コプト教） 住民　アビシニヤ族	面積　八〇〇千方粁 人口　一一五〇〇千人 人口密度　一四人	アヂスアベバ（首府） 七〇千人 ハラール　四〇千人	良質の珈琲・棉花・獸皮 輸出　珈琲・獸皮 輸入　綿絲・人絹	常備兵備　一〇千人 民兵　三〇千人 近代的訓練に乏しく新式武器を備へず	本邦綿布は殆ど同國市場を獨占して居る。 日本公使館 昭和十一年設立
エジプト	立憲君主國 國王　ファード一世 宗教　回教 住民　エジプト族・アラヴ族・トルコ族	面積　九八九千方粁 人口　一四八一二千人 人口密度　一五人	カイロ（首府）　一〇六五千人 アレクサンドリヤ　五七三千人	棉花（世界四位）玉蜀黍 燐・鑛石・石油 輸出　四七四百萬圓 棉花・石油 輸入　四四〇百萬圓 綿織物・鐵・石炭 （一九三三年）	軍隊は英國の管理下にある、常備兵力　一二千人 鐵道延長　四・八千粁 スエズ運河 全長　一六五粁 通過時間　一六時間	日本との貿易 輸出　四六百萬圓 大部分棉花 輸入　七二・九百萬圓 （本邦よりの輸入國中八位） 綿織物・人絹・メリヤス （一九三四年）
南亞聯邦	英自治領 宗教　キリスト教（新教） 住民　オランダ人の子孫のボーア人・英人	面積　一二二二千方粁 人口　八四八八千人 人口密度　七人	プレトリア（政廳所在地）　九一千人 ケープタウン　二七一 ヨハネスブルグ　三四〇	金剛石（世界一位）金 羊毛（四位） 輸出　一三六八百萬圓 金剛石・金・羊毛 輸入　七八七百萬圓 食料品（一九三三年）	常備兵力　一・七千人 鐵道延長　一二・四千粁 航空路　英國間に定期航空あり	日本との貿易 輸出　八・二百萬圓 羊毛 輸入　八二・三百萬圓 綿織物・人絹・メリヤス （一九三四年）
モロッコ	政教一致の專制君主國 大部は佛の保護地	面積五七〇千方粁 人口六二〇〇千人	ラバット（首府）　五三千人	山羊革（モロッコ革） 燐鑛石（世界二位）	常備兵力　約六〇千人	
リベリヤ	立憲共和國 主としてアメリカの解放奴隷の建設せる國家 宗教　キリスト教（新教）	面積　九五千方粁 人口二〇〇〇千人 人口密度　二一人	モンロヴイア（首府）　一一千人	珈琲・ゴム 輸出　珈琲・ココア 輸入　綿布	常備兵力　四千人 交通　鐵道なく自動車を主とする	

大洋洲（オセアニア）

面積　九百萬方粁
人口　九百五十萬人

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	產業・貿易	國防・交通	日本との關係
オーストラリヤ（濠洲）	英自治領 總督 アルフレッド イサック 首相 ライオンス 宗教 キリスト教（新教） 住民 イギリス人	面積 七七〇四千方粁 人口 六六三〇千人 人口密度 一人	カンベラ（首府）七千人 シドニー 一二六二 メルボルン 一〇二八 アデレード 三一三 ブリスベーン 三〇一	麥類・羊毛（世界一位）金（三位）石炭・眞珠 貿易總額（世界十一位） 輸出 一八二九百萬圓 羊毛・金 輸入 八七五百萬圓 綿織物・人絹・絹織物（一九三三年）	國防・志願制 常備兵力 一・五千人 鐵道延長 三四・一千粁 航空路 九・八千粁	在留日本人 三千人 日本との貿易 輸出 一九七・七百萬圓 羊毛（一五九百萬圓） 本邦への輸出國中三位 輸入 六四・四百萬圓 綿織物・人絹・絹織物（一九三四年）
ニュージーランド（新西蘭）	英自治領 宗教 キリスト教（新教） 住民 イギリス人	面積二六七千方粁 人口一五三六千人 人口密度 六人	ウエリントン（首府） 一四六千人 オークランド 二二〇	羊毛（世界五位）金・石炭 輸出 六六九百萬圓 バター・冷凍肉・羊毛 輸入 四一四百萬圓 織物類（一九三三年）	常備兵力 九千人 飛行機 二〇機 鐵道延長 五・六千粁	日本との貿易 輸出 一一・五百萬圓 輸入 八・五百萬圓（一九三四年）
ハワイ（布哇）	米領 宗教 キリスト教（新教） 住民 日本人（全人口の三九%） 比島人・歐洲人 支那人	面積 一六千方粁 人口 三八二千人 人口密度 二三人	ホノルル（首府） 一三七・六千人	甘糖（世界五位）パイナップル 貿易は殆ど米國間にのみ行はれる。	アメリカ正規軍一四千人 アメリカ海軍の太平洋作戰の中心地點 眞珠灣 アメリカ海軍根據地	在留日本人 一四〇千人
南洋諸島	日本委任統治地 日本人 三〇・七千人 島民 五〇千人	面積二・一千方粁（島嶼六二三の總面積） 人口八〇・九千人	南洋廳所在地 コロール島（パラオ群島）	甘蔗・コプラ・バナナ 產業未だ未開		貿易（內地間一九三三年） 移出（砂糖七割）一三・八百萬圓 移入六・三百萬圓

主要物產生產高

米（單位・千石）

	昭和九年	昭和四八年平均
新潟	二、七七九	三、五八〇
福岡	二、一二二	二、三九七
兵庫	二、〇九三	二、三三九
茨城	一、九二五	一、九九七
千葉	一、九一〇	二、〇一六
北海道	一、七七五	二、〇九四
岡山	一、六六二	一、八二二
愛知	一、六〇七	二、一四一
熊本	一、五八〇	一、七五一
秋田	一、五二三	二、〇四六
廣島	一、四四九	一、三五一
富山	一、四三六	一、六一六
滋賀	一、三五四	一、四九五
山口	一、三四一	一、三五四
山形	一、一二九	二、〇三八
內地計	五一、八四〇	六二、五七七
朝鮮	一六、七一七	一九、一八一
臺灣	九、〇八九	七、三七一

昭和七年

米の産額
中部地方
奥羽地方
九州地方
關東地方
近畿地方
その他の地方
朝鮮地方
台湾地方

大麥（單位・千石）

	昭和九年	昭和八年
茨城	八〇〇	七六六
埼玉	七八一	七五四
栃木	五四〇	五四八
千葉	五三七	五〇〇
群馬	三九四	四〇四
宮城	三三四	四四八
內地計	六、七九六	六、七九六
朝鮮	七、九九四	七、五八五

小麥（單位・千石）

	昭和九年	昭和八年
茨城	七七七	七二二
福岡	六四九	四六三
埼玉	六一六	五〇四
群馬	五七七	四七四
栃木	五三六	五〇三
岡山	五三四	四五六
內地計	九、四五一	八、〇〇六
朝鮮	一、八三八	一、七六二

大豆（單位・千石）

	昭和八年	昭和七年
北海道	六九七	二一六
岩手	二六三	三五三
青森	一三八	一一四
鹿兒島	一二〇	一一一
宮城	一一三	一一三
新潟	一〇一	—
內地計	二、八〇七	二、四一三
朝鮮	四、五五五	四、一一三

甘藷（單位・百萬貫）

	昭和八年	昭和七年
鹿兒島	一四七	一三六
沖縄	一三三	一三九
長崎	七八	七七
千葉	六七	六四
熊本	三三	三三
内地計	九三六	九二五
臺灣	三七七	三八五

馬鈴薯（單位・百萬貫）

	昭和八年	昭和七年
北海道	一七四	八一
青森	一六	一六
内地計	三六七	三六八
朝鮮	・	一八四

梅（單位・千石）

	昭和八年	昭和七年
和歌山	三三	三五
靜岡	二一	一八
千葉	二〇	一六
埼玉	一九	一九
内地計	三五三	三四二

桃（單位・千貫）

	昭和八年	昭和七年
神奈川	一、五〇三	一、一一二
岡山	一、一三三	一、一三一
大阪	八四三	九四七
廣島	八〇一	八〇〇
内地計	一三、八四〇	一三、五一三

日本梨（單位・千貫）

	昭和八年	昭和七年
靜岡	七、〇三九	七、三七三
茨城	四、九三五	二、三三六
新潟	三、二一九	三、二四〇
愛媛	二、八一六	二、六五一
福島	二、〇三九	一、七三〇
計	四四、五八四	四三、五九七

葡萄（單位・千貫）

	昭和八年	昭和七年
大阪	三、二六六	二、七四三
山梨	三、一六三	三、二〇三
岡山	一、四三五	一、三八一
廣島	九〇四	八八七
内地計	一七、七三一	一六、三三〇

林檎（單位・千貫）

	昭和八年	昭和七年
青森	一五、三八八	一九、〇八八
北海道	七、一〇一	四、〇九八
内地計	二四、六三〇	二五、九八七
朝鮮	一一、八九七	一二、〇三七

蜜柑（單位・千貫）

	昭和八年	昭和七年
和歌山	二一、八五七	一九、八五三
靜岡	一九、九三五	一三、六九四
内地計	九〇、九七二	八〇、三〇八

柿（單位・千貫）

	昭和八年	昭和七年
福島	四、六九六	四、七七七
新潟	三、一五〇	三、四九四
長野	三、〇〇三	三、六一〇
岡山	二、四六五	—
宮城	二、五五六	—
内地計	六三、〇一四	七三、二八九

甘蔗（單位・百萬斤）

	昭和八年	昭和七年
沖縄	一、五三〇	一、五二一
鹿兒島	二三	二九
内地計	一、八〇五	一、七七三
臺灣		三三、四二五

葉煙草（單位・千貫）

	昭和八年	昭和七年
栃木	二、九〇三	二、七四七
福島	二、三四七	一、八六六
鹿兒島	二、一一一	一、六四一
茨城	二、〇三七	二、〇八一
内地計	一七、七四四	一六、一六三

茶（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
靜岡	九、七八四	七、七七六
京都	一、五三〇	一、三三九
鹿兒島	一、一一七	一、一五〇
埼玉	九五七	八六四
三重	八二八	七五九
宮崎	六九〇	六八二
内地計	二一、三〇九	一八、五〇六
臺灣	三、八六七	三、二三九

繭（單位・千貫）

	昭和九年	昭和八年
長野	九、四三一	一〇、九八四
群馬	六、四〇四	七、〇六七
埼玉	五、四五八	五、八三九
愛知	五、三三二	六、〇二五
山梨	四、一〇〇	四、三二〇
茨城	三、九八七	四、一四〇
岐阜	三、五〇六	四、一〇三
福島	三、三六二	三、九九八
内地計	八七、三〇〇	一〇一、二四七

生絲（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七和
長野	九七、九七七	九三、七四七
愛知	四八、九三七	四四、〇九一
群馬	三六、〇八六	四七、九八八
埼玉	二二、七一二	一七、八四〇
山梨	二一、六七八	二二、六六二
京都	一八、五三〇	一五、二三八
内地計	四九七、七四一	四六九、四七四

絹織物（單位・千圓）

	昭和九年	昭和八年
京都	七七、九六四	八〇、六九四
福井	三五、一四六	一〇三、三八七
石川	三四、一六五	四九、七八八
群馬	三一、五〇一	五五、〇四四
東京	二五、七三五	二七、九〇三
新潟	一七、七二八	
栃木	一七、四九〇	
埼玉	一五、九八二	
内地計	三四一、一〇一	昭和八年度は人絹織物をも含む

昭和九年

生絲の産額

長野
愛知
群馬
埼玉
山梨
京都
其の他

人絹織物（總額の五割）（單位・千圓）

福井	一〇〇、五四二
群馬	二五、四四七
京都	一四、六〇八
岐阜	一三、二四五
石川	九、九八二
內地計	二〇〇、九七三

綿織物（單位・千圓）

	昭和九年	昭和八年
愛知	三二一、六〇四	一八五、五九三
大阪	二一六、三〇九	一八一、五三五
靜岡	八三、五八九	四三、八一七
兵庫	六四、八一六	五三、八三一
愛媛	三九、四八八	三六、六三二
岡山	三八、四三六	三八、九六三
和歌山	三七、二七八	一六、五四三
三重	二八、一四二	二〇、〇八三
東京	一六、五五三	一三、七一八
德島	一六、五一〇	一三、九六八
富山	一三、七二四	八、九六一
岐阜	一三、八四五	一一、七四六
內地計	八七四、七二〇	七〇四、八九三

毛織物（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
愛知	一〇四、四一六	八四、二二〇
兵庫	三九、二九三	二九、九六六
東京	二一、三三三	一六、一六五
大阪	一一、三三七	一一、三三八
內地計	二〇一、一二七	一六七、〇一〇

メリヤス製品（單位・千圓）

	昭和八年	昭和六年
大阪	二七、六三三	二四、一三五
東京	二一、七六五	一六、七九四
愛知	八、五二四	七、五〇九
內地計	七三、四七六	五九、五五六

陶磁器（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
愛知	四六、七二〇	三五、〇五七
岐阜	一三、二〇三	八、五七九
京都	六、〇五七	五、四七六
三重	四、八九六	三、三三八
佐賀	二、七六二	二、二五一
內地計	八五、二四六	六五、二六三

漆器（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
愛知	四、〇三一	四、二一一
京都	三、八九八	三、七〇七
和歌山	二、七〇三	二、〇五一
石川	二、六四三	二、五六二
內地計	二九、五七一	二六、六三三

肥料（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
兵庫	二六、七九八	一八、二九三
東京	二六、四七七	一九、七〇五
神奈川	一七、七五四	九、六〇六
大阪	一七、一九五	一五、〇〇一
新潟	一六、〇四五	一二、七一二
內地計	二〇一、九三六	

清酒（單位・百萬圓）

	昭和七年	昭和六年
兵庫	六三、〇	六二、二
京都	一六、〇	一三、九
福岡	一三、〇	一四、〇
廣島	一二、三	
內地計	二三七、八	二三三、九

麥酒（單位・百萬圓）

	昭和七年	昭和六年
兵庫	一三、七	一二、二
東京	一二、五	一一、六
大阪	一一、一	一三、二
內地計	六八、二	六七、八

醬油（單位・百萬圓）

	昭和七年	昭和六年
千葉	三三、一	二五、七
兵庫	七、二	五、二
香川	六、四	六、〇
內地計	六九、五	六九、二

紙（單位・千圓）

	昭和七年	昭和六年
東京	二六、三五七	二五、二六一
北海道	二一、三六八	二一、九八九
靜岡	一七、一〇八	一六、〇七六
內地計	一三三、一七〇	一二四、〇九五
樺太	四一、九二三	三六、二一八

麥粉（單位・千圓）

	昭和七年	昭和六年
神奈川	一九、〇四四	一八、二八八
兵庫	一七、九六二	一三、八二八
愛知	一四、三五三	一〇、三六五
福岡	一三、一〇八	七、一八九
內地計	一二七、八二三	八七、七七三

砂糖（單位・千瓩）

	昭和七年	昭和六年
沖繩	八六、六二〇	六六、四三七
北海道	二四、三四九	二一、六三八

	昭和八年	昭和七年
鹿兒島	一〇、四九六	八、〇六〇
內地計	一三三、五一八	九八、一五三
臺灣	一四三、一九四	一三〇、七三〇

木製品（指物、箱類、履物、桶、樽 單位千圓）

	昭和八年	昭和七年
愛知	一四、八六八	一二、四九四
大阪	一三、四四七	一〇、六六四
東京	一三、九一四	一〇、五〇五
和歌山	一〇、五一七	九、六八五
內地計	一六六、二四七	一五三、一八七

植物油（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
兵庫	一〇、四三八	六、六二八
大阪	八、四五三	五、三四四
靜岡	六、〇三三	四、六一四
內地計	四四、三五八	三一、九四五

工業薬品（單位・千圓）

	昭和七年	昭和六年
宮崎	二六、九〇四	二五、九六〇
福岡	一八、四三四	一〇、九一四
大阪	一八、一五一	一八、九六一
東京	一七、九三七	一六、二五三
山口	一〇、九二四	六、九四七
新潟	一〇、八五〇	六、二〇〇
內地計	一四〇、九一六	一二三、五四八

自動車（單位・百萬圓）

	昭和七年	昭和六年
大阪	一五、三	一五、六
神奈川	一四、二	一九、五
東京	九、〇	五、一
內地計	三九、七	四一、二

船舶（單位・百萬圓）

	昭和七年	昭和六年
長崎	一七、七	一四、五
神奈川	一四、二	一〇、九
兵庫	六、一	一〇、七
內地計	四六、一	三八、二

金（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
大分	一〇、一七六	八、一二七
茨城	七、三五七	五、四〇三
北海道	三、八三六	三、〇七八
香川	三、一六九	二、三六五
鹿兒島	三、〇三一	二、四三三
秋田	二、七七三	一、九〇三
內地計	三三、八四六	二五、九七三
朝鮮		一九、六三三
臺灣		二、八一八

昭和七年

金の産額

朝鮮地方 / 大分 / 茨城 / その他

銀（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
秋田	一、二九三	九二六
大分	一、一八三	六五五
北海道	一、一六五	四九一
茨城	九四五	六九五
香川	九三〇	七二七
內地計	八、〇三七	五、三八六

銅（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
秋田	一三、一八二	一〇、四九三
栃木	九、一三九	七、五八一
愛媛	八、〇二六	五、八七一
茨城	六、七七七	四、二五七
大分	六、三六六	五、一六五
內地計	五〇、一四二	三八、五九〇

鐵（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
岩手	一六、二八二	六、七六七
北海道	四、三二八	一、九三九
內地計	二〇、五一〇	九、四四六
朝鮮	—	四、八六三

石炭（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
福岡	一〇八、二四五	七七、六一八
北海道	三八、三三六	二七、八九五
長崎	一七、六九二	一三、三一三
山口	一二、四〇一	八、四八六
福島	一〇、六三七	八、四九六
內地計	一九五、四六七	一四一、九七六
（關東州及滿鐵附屬地）		三五、一二四
臺灣		六、五七一
朝鮮		五、九七〇
樺太		五、三〇一

昭和七年

石炭の産額

福岡 / 關東州 / 北海道 / 長崎 / その他

石油（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
新潟	五、六一八	四、七九六
秋田	二、八二〇	二、三〇五
北海道	五一七	四〇六
內地計	九、八八〇	七、五一〇
臺灣	—	二四六
新潟（瓦斯）	七二	八一七
臺灣（揮發油）		九九四

昭和八年

石油の産額

秋田 / 北海道 / その他 / 新潟

用材（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
北海道	一五、三七二	八、六八一

長野	四、九七六	三、四八一
三重	三、七一六	二、四四七
靜岡	三、六八六	三、三七六
奈良	三、五〇七	二、八四四
內地計	八八、六八七	六七、三八八
樺太	二、二一六	七、二〇六
臺灣		三、八九三
朝鮮		七、四三二

薪炭（單位・千圓）

	昭和八年	昭和七年
北海道	三、三三〇	二、六四四
福島	二、〇七二	一、七四二
新潟	一、八七一	一、七七〇
內地計	四七、三九四	四三、四七四

漁獲高（單位・千圓）

	昭和七年	昭和六年
北海道	二六、七九一	二八、三四二
靜岡	六、八四六	六、七〇七
長崎	六、八〇〇	六、七二一
山口	五、八六七	六、〇三〇
三重	五、八一八	六、三一一
愛知	五、三九六	五、二九六

內地計	一四五、七三六	一四七、八〇六
朝鮮	四六、二六四	四六、五七八

製鹽業（單位・千瓲）

	昭和八年	昭和七年
香川	一八七	一七七
兵庫	九六	八六
山口	八九	八四
岡山	五九	五一
內地計	六三一	五七三
關東州	三三〇	（昭和六年）一七六
朝鮮	二四二	一四六
臺灣	一九二	一〇一

牛（單位・千頭）

	昭和八年	昭和七年
鹿兒島	一〇三	一〇一
兵庫	一〇〇	九九
廣島	九七	九六
岡山	九二	九一
大分	七二	七一
內地計	一、五六〇	一、五二九
朝鮮	一、六六三	一、六六四
臺灣	三八六	三八三

馬（單位・千頭）

	昭和八年	昭和七年
北海道	二九六	三〇三
岩手	八七	九〇
福島	八二	八四
鹿兒島	七五	七八
內地計	一、五〇一	一、五四一

豚（單位・千頭）

	昭和八年	昭和七年
沖繩	一二四	一三〇
鹿兒島	五九	五九
朝鮮	一、四二五	一、三三九
臺灣	一、八〇六	一、七二九

鷄（單位・百萬羽）

	昭和八年	昭和七年
愛知	五、六	五、四
鹿兒島	二、五	二、七
千葉	二、二	二、五
靜岡	二、一	二、四
北海道	二、一	二、一
內地計	五〇、九	五四、三

列國の主要產物

米（一九三四年・單位千瓲）

總額	八六、〇〇〇
印度（英領）	四五、五〇九
日本	一四、三六八
シャム	五、一八四
印度支那（一九三三年）	五、八二五
蘭領印度	五、〇七〇
ブラジル	一、五〇〇
滿洲國	三一三

小麥（一九三四年・單位千瓲）

總額	一三四、一五〇
ソヴィエト	三〇、四一〇
アメリカ	一三、五三三
印度（英領）	九、五〇八
フランス	九、〇〇〇
カナダ	七、五〇八
アルゼンチン	六、四八六
伊太利	六、三三三
西班牙	四、七二五
日本（第十七位）	一、五五一

甘蔗糖（一九三三年・單位瓲）

總額	一七、〇七八、四四四
印度（英領）	四、七二五、六〇〇
キューバ	二、〇二七、〇九四
蘭領東印度	一、三九六、〇六六
日本	一、一四九、四六九
フイリッピン	一、一三〇、〇〇九
ブラジル	九七〇、〇〇〇
ハワイ	九一五、五〇〇

甜菜糖（一九三三年・單位瓲）

總額	七、七四〇、〇〇〇
アメリカ	一、三一六、九〇〇
ドイツ	一、〇八八、四四五
フランス	一、〇〇一、五〇〇
ソヴィエト	八二八、〇〇〇
チエツコスロヴアキア	六三〇、六三七

棉花（一九三三年・單位瓲）

總額	五、二〇六、三三〇
アメリカ	二、八一八、九四八
印度（英領）	八一九、三七〇
中華民國	四九〇、〇〇〇
ソヴィエト	三九〇、〇〇〇
エジプト	二三二、六六五
日本（朝鮮）	一二七、〇八一
ブラジル	七五、三六七

羊毛（一九三三年・單位瓲）

總額	一、六七九・九二〇
濠洲	四六六・三〇〇

羊毛(續)	
アメリカ	一九七・三〇〇
アルゼンチン	一六二・八〇〇
南阿聯邦	一四六・一〇〇
新西蘭	一三〇・八〇〇

繭（一九三三年・單位瓲）

總額	五一四・二五四
日本	四〇一・九八二
中華民國	四七・三二四
伊太利	三四・四五四
ソヴイエト	二〇・二〇〇

金（一九三三年・單位瓩）

總額	七九〇・三六〇
南阿聯邦	三四二・五六五
カナダ	九一・六八一
ソヴイエト	八七・五三五
アメリカ	七八・九〇七
濠洲	二五・四九一
日本	二三・九七七
ロデシヤ	二〇・〇六四
メキシコ	一九・八三六
コロンビア	一一・六九五
印度(英領)	一〇・五七五

金の産額
1933
南阿 カナダ 露國 米國 其の他

銀（一九三三年・單位瓩）

總額	五・二〇七・五一〇
メキシコ	二・一一八・四二八
アメリカ	六五一・七七四
カナダ	四七二・八一三
濠洲	三〇二・六三九
印度(英領)	二二六・四三三
ペルー	二一七・七二五
ドイツ	一八九・九九六
日本	一八二・五八五
ボリヴイア	一六三・二九三

銅（一九三三年・單位瓲）

總額	一・〇三九・一一三
アメリカ	二一一・九六六
チリー	一六三・三二二
カナダ	一三四・七一九
ロデシヤ	一〇五・五九八
日本	六九・七三六
コンゴー(白領)	六五・三一八
メキシコ	四〇・五九〇
ユーゴスラビヤ	四〇・〇五六

銑鐵の産額
1932
アメリカ 露國 佛國 ドイツ 英國 其の他

銑鐵（一九三三年・單位千瓲）

總額	五〇・九三三
アメリカ	一八・七二三
ソヴイエト	六・二〇〇
フランス	五・五三七
ドイツ	三・九三三
イギリス	三・六三〇
ベルギー	二・七八四
ルクセンブルグ	一・九五九
印度(英領)	九二八
滿洲國(第十二位)	三四三
日本(第十三位)	三三一

石炭（一九三三年・單位千瓲）

總額	一・一八九・五六八
アメリカ	三七一・四三三
ドイツ	二三六・七一六
イギリス	二一〇・三〇〇
ソヴイエト	七三・二四〇
フランス	四七・九四三
日本	三二・一八九
ポーランド	二七・三八〇
中華民國	二六・〇〇〇
チエツコスロヴアキア	二五・七六二

石炭の産額
1932
アメリカ 独逸 英國 露國 其の他

石油（一九三三年・單位千瓲）

總額	一九五・〇五六
アメリカ	一三一・六二六
ソヴイエト	二一・四四〇
ヴエネズエラ	一六・六〇六
ルーマニア	七・七三三
イラン(ペルシヤ)	六・五六四
日本(第十五位)	二五四

石油の産額
1932
アメリカ 露國 其の他

鹽（一九三三年・單位千瓲）

總額	二九・一四九
アメリカ	五・八四九
イギリス	三・七七二
ドイツ	三・二三五
ソヴイエト	二・八四九
中華民國	二・二七一
印度(英領)	一・六三七
フランス	一・六〇一
日本(第九位)	九三三

水産物（一九三二年・單位百萬圓）

總額	二・一八五
日本	三三九
中華民國	二〇〇
ソヴイエト	一七〇
イギリス	一五八
アメリカ	一五五
イスパニア	一〇三

水産物の産額
1932
日本 中華 露國 英國 米國 其の他

生絲（一九三四年・單位瓲）

總額	四三・九七〇
日本	三六・二六九
中華民國	三・〇〇〇
イタリヤ	二・六二五
フランス	七七
イスパニア	二五

生絲の産額
1934
日本 中華 伊國 其の他

人絹の産額
1933
アメリカ 日本 英國 伊國 其の他

人造絹絲（一九三三年・單位瓲）

總額	三〇三・五〇〇
アメリカ	九四・一五七
日本	四一・〇一八
イギリス	三八・一四〇
イタリヤ	三七・一五四
ドイツ	三〇・〇〇〇

茶（一九三三年・單位千瓲）

總額	四八八
印度(英領)	一九六
セイロン	一一四
蘭領印度	八二
日本	四七
中華民國	三九

葉煙草（一九三二年・單位千瓲）

總額	二・二〇〇
印度(英領)	六二九
アメリカ	四六三
ソヴイエト	一一九
日本	一一三
ブラジル	八五
蘭領印度	七六
イタリヤ	四六
フイリツピン	四五

陸軍管區表

師管	聯隊區	府縣	管轄區域
第一	麻布	東京府	麴町區　神田區　日本橋區　京橋區　芝區　麻布區　赤坂區　四谷區　牛込區　小石川區　品川區　目黑區　大森區　荏原區　蒲田區　世田谷區　澁谷區　淀橋區　中野區　杉並區　八王子市　西多摩郡　南多摩郡　北多摩郡　大島　八丈島　小笠原島
	甲府	埼玉縣	川越市　入間郡　比企郡　秩父郡
		山梨縣	
		神奈川縣	
	本鄉	東京府	本鄉區　下谷區　淺草區　本所區　深川區　豐島區　瀧野川區　荒川區　王子區　板橋區　足立區　向島區　城東區　葛飾區　江戸川區
		埼玉縣	浦和市　北足立郡　南埼玉郡　北埼玉郡　川口市　北葛飾郡　大里郡　兒玉郡　熊谷市
	千葉	千葉縣	
第二	仙臺	宮城縣	
	福島	福島縣	
	新發田	新潟縣	新潟市　長岡市　三條市　岩船郡　北蒲原郡　中蒲原郡　西蒲原郡　南蒲原郡　東蒲原郡　古志郡　佐渡郡
	高田	新潟縣	高田市　三島郡　刈羽郡　北魚沼郡　南魚沼郡　中魚沼郡　中頸城郡　東頸城郡　西頸城郡
第三	名古屋	愛知縣	名古屋市　一宮市　瀬戸市　愛知郡　東春日井郡　西春日井郡　丹羽郡　加茂郡　中島郡　海部郡　知多郡
	岐阜	岐阜縣	岐阜市　稻葉郡　本巣郡　山縣郡　武儀郡　羽島郡　那上郡　加茂郡　可兒郡　土岐郡　惠那郡
	豐橋	愛知縣	豐橋市　岡崎市　渥美郡　寶飾郡　八名郡　北設樂郡　南設樂郡　東加茂郡　西加茂郡　額田郡　碧海郡　幡豆郡
		靜岡縣	濱松市　濱名郡　引佐郡　磐田郡　榛原郡　小笠郡　周智郡
	靜岡	靜岡縣	靜岡市　沼津市　淸水市　安倍郡　庵原郡　富士郡　駿東郡　田方郡　賀茂郡　志太郡

師管	聯隊區	府縣	管轄區域
第四	大阪	大阪府	西區　北區　此花區　港區　大正區　東成區　旭區　東淀川區　西淀川區　三島郡　豐能郡
		兵庫縣	津名郡　三原郡
	神戸	兵庫縣	神戸市　尼崎市　西宮市　武庫郡　川邊郡　有馬郡　多紀郡　氷上郡
	堺	大阪府	東區　南區　天王寺區　浪速區　西成區　住吉區　堺市　岸和田市　北河内郡　南河内郡　中河内郡　泉北郡　泉南郡
	和歌山	和歌山縣	
第五	廣島	廣島縣	廣島市　吳市　安藝郡　安佐郡　佐伯郡　高田郡　雙三郡　山縣郡
	福山	廣島縣	福山市　尾道市　深安郡　神石郡　比婆郡　甲奴郡　蘆品郡　沼隈郡　世羅郡　御調郡　豐田郡　賀茂郡
	濱田	島根縣	鹿足郡　美濃郡　那賀郡　邑智郡　邇摩郡　安濃郡　飯石郡　簸川郡
	山口	山口縣	山口市　宇部市　萩市　德山市　厚狹郡　美禰郡　大津郡　吉敷郡　阿武郡　佐波郡　都濃郡　熊毛郡　玖珂郡　大島郡
第六	熊本	熊本縣	
	大分	大分縣	大分市　別府市　中津市　大分郡　北海部郡　南海部郡　大野郡　直入郡　下毛郡　宇佐郡　西國東郡　東國東郡　速見郡　玖珠郡
	都城	宮崎縣	
	鹿兒島	鹿兒島縣	
	沖繩	沖繩縣	
第七	札幌	北海道廳	札幌市　室蘭市　石狩支廳　膽振支廳　日高支廳　空知支廳
	函館	北海道廳	函館市　小樽市　渡島支廳　檜山支廳　後志支廳
	釧路	北海道廳	釧路市　帶廣市　十勝支廳　網走支廳　釧路國支廳　根室支廳
	旭川	北海道廳	旭川市　上川支廳　宗谷支廳　留萌支廳
		樺太	
第八	青森	青森縣	
	盛岡	岩手縣	
	秋田	秋田縣	
	山形	山形縣	

師團	聯隊區	府縣	市郡
第九	金澤	石川縣	
	富山	富山縣	
		岐阜縣	吉城郡 大野郡 益田郡
	敦賀	福井縣	敦賀郡 三方郡 大飯郡 遠敷郡
		滋賀縣	高島郡 伊香郡 犬上郡 愛知郡 東淺井郡 坂田郡
		岐阜縣	大垣市 安八郡 海津郡 揖斐郡 不破郡 養老郡
	福井	福井縣	福井市 坂井郡 丹生郡 大野郡 吉田郡 足羽郡 今立郡 南條郡
第十	姫路	兵庫縣	明石市 姫路市 明石郡 加古郡 印南郡 加東郡 美嚢郡 飾磨郡 揖保郡 佐用郡 赤穂郡 多可郡 加西郡
	鳥取	鳥取縣	鳥取市 岩美郡 八頭郡
		兵庫縣	美方郡 城崎郡 養父郡 出石郡 朝來郡 宍粟郡 神崎郡
	岡山	岡山縣	
	松江	島根縣	松江市 八束郡 能義郡 大原郡 仁多郡 隱岐島
		鳥取縣	米子市 氣高郡 東伯郡 西伯郡 日野郡
第十一	松山	香川縣	
	丸龜	愛媛縣	
	德島	德島縣	
	高知	高知縣	
第十二	小倉	福岡縣	門司市 小倉市 八幡市 若松市 戸畑市 企救郡 京都郡 築上郡 田川郡 遠賀郡
		山口縣	下關市 豐浦郡
	福岡	福岡縣	福岡市 直方市 飯塚市 筑紫郡 早良郡 糸島郡 糟屋郡 嘉穂郡 鞍手郡 宗像郡 朝倉郡
	大村	長崎縣	
	久留米	福岡縣	久留米市 大牟田市 三池郡 山門郡 八女郡 三潴郡 三井郡 浮羽郡
		佐賀縣	
		大分縣	日田郡
第十四	水戸	茨城縣	
	宇都宮	栃木縣	
	高崎	群馬縣	
	松本	長野縣	
第十六	京都	京都府	京都市 愛宕郡 久世郡 宇治郡 綴喜郡 相樂郡
		滋賀縣	大津市 滋賀郡 栗太郡 野洲郡 甲賀郡 蒲生郡 神崎郡
	福知山	京都府	乙訓郡 葛野郡 南桑田郡 船井郡 何鹿郡 北桑田郡 天田郡 加佐郡 興謝郡 中郡 竹野郡 熊野郡
	津	三重縣	
	奈良	奈良縣	

陸軍常備團隊

昭和十年十月現在

近衛師團

師團司令部（東京）
近衛歩兵第一旅團司令部（同）
近衛歩兵第一聯隊（同）
近衛歩兵第二聯隊（同）
近衛歩兵第二旅團司令部（同）
近衛歩兵第三聯隊（同）
近衛歩兵第四聯隊（同）
騎兵第一旅團司令部（習志野）
近衛騎兵聯隊（東京）
騎兵第十三聯隊（習志野）
騎兵第十四聯隊（同）
野戰重砲兵第四旅團司令部（東京）
近衛野砲兵聯隊（同）
野戰重砲兵第四聯隊（下志津）
野戰重砲兵第八聯隊（東京）
高射砲第二聯隊（國府臺）
近衛工兵大隊（東京）
鐵道第一聯隊（千葉）
鐵道第二聯隊（習志野）
電信第一聯隊（東京）
飛行第五聯隊（立川）
氣球隊（千葉）
近衛輜重兵大隊（東京）

第一師團

師團司令部（東京）
歩兵第一旅團司令部（同）
歩兵第一聯隊（同）
歩兵第四十九聯隊（甲府）
歩兵第二旅團司令部（東京）
歩兵第三聯隊（同）
歩兵第五十七聯隊（佐倉）
戰車第二聯隊（習志野）
騎兵第二旅團司令部（同）
騎兵第一聯隊（東京）
騎兵第十五聯隊（同）
騎兵第十六聯隊（同）
騎砲兵大隊（國府臺）
騎砲兵隊（習志野）
野戰重砲兵第三旅團司令部（國府臺）
野砲兵第一聯隊（東京）
野戰重砲兵第一聯隊（國府臺）
野戰重砲兵第七聯隊（同）
横須賀重砲兵聯隊（横須賀）
工兵第一大隊（東京）
輜重兵第一大隊（同）

第二師團

師團司令部（仙臺）
歩兵第三旅團司令部（同）
歩兵第四聯隊（同）
歩兵第二十九聯隊（若松）
歩兵第十五旅團司令部（高田）
歩兵第十六聯隊（新發田）
同第三大隊（村松）
歩兵第三十聯隊（高田）
騎兵第二聯隊（仙臺）
野砲兵第二聯隊（同）
獨立山砲兵第一聯隊（高田）
工兵第二大隊（仙臺）
輜重兵第二大隊（同）

第三師團

師團司令部（名古屋）
步兵第五旅團司令部（同）
步兵第六聯隊（同）
步兵第六十八聯隊（岐阜）
步兵第二十九旅團司令部（靜岡）
步兵第十八聯隊（豐橋）
步兵第三十四聯隊（靜岡）
騎兵第四旅團司令部（豐橋）
騎兵第三聯隊（名古屋）
騎兵第二十五聯隊（豐橋）
騎兵第二十六聯隊（同）
野戰重砲兵第一旅團司令部（三島）
野砲兵第三聯隊（名古屋）
野戰重砲兵第二聯隊（三島）
野戰重砲兵第三聯隊（同）
高射砲第一聯隊（濱松）
工兵第三大隊（豐橋）
第一飛行團司令部（各務原）
飛行第一聯隊（同）
飛行第二聯隊（同）
飛行第七聯隊（濱松）
輕重兵第三大隊（名古屋）

第四師團

師團司令部（大阪）
步兵第七旅團司令部（同）
步兵第八聯隊（同）
步兵第七十聯隊（篠山）
步兵三十二旅團司令部（和歌山）
步兵第三十七聯隊（大阪）
步兵第六十一聯隊（和歌山）
騎兵第四聯隊（大阪）
野砲兵第四聯隊（信太山）
深山重砲兵聯隊（深山）
工兵第四大隊（高槻）
輜重兵第四大隊（堺）

第五師團

師團司令部（廣島）
步兵第九旅團司令部（同）
步兵第十一聯隊（同）
步兵第四十一聯隊（福山）
步兵第二十一旅團司令部（山口）
步兵第二十一聯隊（濱田）
步兵第四十二聯隊（山口）
騎兵第五聯隊（廣島）
野砲兵第五聯隊（同）
工兵第五大隊（同）
電信第二聯隊（同）
輜重兵第五大隊（同）

第六師團

師團司令部（熊本）
步兵第十一旅團司令部（同）
步兵第十三聯隊（同）
步兵第四十七聯隊（大分）
步兵第三十六旅團司令部（鹿兒島）
步兵第二十三聯隊（都城）
步兵第四十五聯隊（鹿兒島）
騎兵第六聯隊（熊本）
野砲兵第六聯隊（同）
工兵第六大隊（同）
輜重兵第六大隊（同）

第七師團

師團司令部（旭川）
步兵第十三旅團司令部（同）
步兵第二十五聯隊（札幌）
步兵第二十六聯隊（旭川）
步兵第十四旅團司令部（旭川）
步兵第二十七聯隊（同）
步兵第二十八聯隊（同）
騎兵第七聯隊（同）
野砲兵第七聯隊（同）
函館重砲兵大隊（函館）
工兵第七大隊（旭川）
輜重兵第七大隊（同）

第八師團

師團司令部（弘前）
步兵第四旅團司令部（同）
步兵第五聯隊（青森）
步兵第三十一聯隊（弘前）
步兵第十六旅團司令部（秋田）
步兵第十七聯隊（同）
步兵第三十二聯隊（山形）
騎兵第三旅團司令部（盛岡）
騎兵第八聯隊（弘前）
騎兵第二十三聯隊（盛岡）
騎兵第二十四聯隊（同）
野砲兵第八聯隊（弘前）
工兵第八大隊（盛岡）
輜重兵第八大隊（弘前）

第九師團

師團司令部（金澤）
步兵第六旅團司令部（同）
步兵第七聯隊（同）
步兵第三十五聯隊（富山）
步兵第十八旅團司令部（敦賀）
步兵第十九聯隊（同）
步兵第三十六聯隊（鯖江）
騎兵第九聯隊（金澤）
山砲兵第九聯隊（同）
工兵第九大隊（同）
輜重兵第九大隊（同）

第十師團

師團司令部（姬路）
步兵第八旅團司令部（同）
步兵第三十九聯隊（同）
步兵第四十聯隊（鳥取）
步兵第三十三旅團司令部（岡山）
步兵第十聯隊（同）
步兵第六十三聯隊（松江）
騎兵第十聯隊（姬路）
野砲兵第十聯隊（同）
工兵第十大隊（岡山）
輜重兵第十大隊（姬路）

第十一師團

師團司令部（善通寺）
步兵第十旅團司令部（同）
步兵第十二聯隊（同）
步兵第二十二聯隊（松山）
步兵第二十二旅團司令部（德島）
步兵第四十三聯隊（同）
步兵第四十四聯隊（高知）
騎兵第十一聯隊（善通寺）
山砲兵第十一聯隊（同）
工兵第十一大隊（同）

輜重兵第十一大隊（善通寺）

第十二師團

師團司令部（久留米）
步兵第十二旅團司令部（福岡）
步兵第十四聯隊（小倉）
步兵第二十四聯隊（福岡）
步兵第二十四旅團司令部（久留米）
步兵第四十六聯隊（大村）
步兵第四十八聯隊（久留米）
同　第三大隊（佐賀）
戰車第一聯隊（久留米）
騎兵第十二聯隊（同）
野戰重砲兵第二旅團司令部（小倉）
野砲兵第二十四聯隊（久留米）
獨立山砲兵第三聯隊（同）
野戰重砲兵第五聯隊（小倉）
野戰重砲兵第六聯隊（同）
下關重砲兵聯隊（下關）
佐世保重砲兵大隊（佐世保）
鷄知重砲兵大隊（鷄知）
高射砲第四聯隊（佐賀）
工兵第十八大隊（久留米）
飛行第四聯隊（太刀洗）
輜重兵第十八大隊（久留米）

第十四師團

師團司令部（宇都宮）
步兵第二十七旅團司令部（同）
步兵第二聯隊（水戶）
步兵第五十九聯隊（宇都宮）
步兵第二十八旅團司令部（高崎）
步兵第十五聯隊（同）
步兵第五十聯隊（松本）
騎兵第十八聯隊（宇都宮）
野砲兵第二十聯隊（同）
工兵第十四大隊（水戶）
輜重兵第十四大隊（宇都宮）

第十六師團

師團司令部（京都）
步兵第十九旅團司令部（同）
步兵第九聯隊（同）
同　第三大隊（大津）
步兵第二十聯隊（福知山）
步兵第三十旅團司令部（津）
步兵第三十三聯隊（同）
步兵第三十八聯隊（奈良）
騎兵第二十聯隊（京都）
野砲兵第二十二聯隊（同）
舞鶴重砲兵大隊（舞鶴）
工兵第十六大隊（京都）
高射砲第三聯隊（大津）
飛行第三聯隊（八日市）
輜重兵第十六大隊（京都）

第十九師團

師團司令部（羅南）
步兵第三十七旅團司令部（咸興）
步兵第七十三聯隊（羅南）
步兵第七十四聯隊（咸興）
步兵第三十八旅團司令部（羅南）
步兵第七十五聯隊（會寧）
步兵第七十六聯隊（羅南）
騎兵第二十七聯隊（同）
山砲兵第二十五聯隊（同）
高射砲第五大隊（羅津）
工兵第十九大隊（會寧）

飛行第九聯隊（會寧）

第二十師團

師團司令部（龍山）
步兵第三十九旅團司令部（平壤）
步兵第七十七聯隊（同）
步兵第七十八聯隊（龍山）
步兵第四十旅團司令部（龍山）
步兵第七十九聯隊（同）
步兵第八十聯隊（大邱）
同　第三大隊（大田）
騎兵第二十八聯隊（龍山）
野砲兵第二十六聯隊（同）
馬山重砲兵大隊（馬山）
高射砲第六大隊（平壤）
工兵第二十大隊（龍山）
第二飛行團（會寧）
飛行第六聯隊（平壤）

○東京警備司令部（東京）
○東部防衛司令部（同）
○朝鮮軍司令部（京城）

臺灣軍

軍司令部（臺北）
臺灣守備隊司令部（同）
臺灣步兵第一聯隊（同）
臺灣步兵第二聯隊（臺南）
臺灣山砲兵大隊（臺北）
基隆重砲兵大隊（基隆）
馬公重砲兵大隊（馬公）
飛行第八聯隊（屛東）

關東軍

軍司令部（新京）
獨立守備隊司令部（公主嶺）

支那駐屯軍

軍司令部（天津）
天津駐屯步兵隊（同）
北平駐屯步兵隊（北平）

要塞

（所屬師團）	（司令部所在地）
東京灣（一）	橫須賀市
父島（一）	東京府小笠原父島
由良（四）	兵庫縣津名郡由良町
奄美大島（六）	鹿兒島縣東方村
豐豫（六）	大分縣佐賀關町
津輕（十二）	函館市
下關（十二）	下關市
對馬（十二）	長崎縣下縣郡鷄知村
佐世保（十二）	佐世保市
長崎（十二）	長崎市
壹岐（十二）	長崎縣武生水町
舞鶴（十六）	京都府加佐郡餘內村
鎭海灣（朝鮮軍）	慶尙南道鎭海邑
永興灣（朝鮮軍）	咸鏡南道元山府
基隆（臺灣軍）	基隆市
澎湖島（臺灣軍）	澎湖島馬公街
旅順（關東軍）	旅順市

陸軍各學校

陸軍大學　東京市赤坂區青山北町
士官學校　同牛込區市ヶ谷本村町
東京幼年學校　同　牛込區戶山町

學校名	所在地
仙臺教導學校	仙臺市
豐橋教導學校	豐橋市
熊本教導學校	熊本市
所澤飛行學校	埼玉縣入間郡所澤町
航空技術學校	同
下志津飛行學校	千葉縣千葉郡都賀村
明野飛行學校	三重縣度會郡北濱村
濱松飛行學校	濱松市
熊谷飛行學校	熊谷市
工科學校	東京市小石川區
經理學校	同 牛込區若松町
軍醫學校	同 牛込區戶山町
獸醫學校	同世田谷區下代田町
砲工學校	同 牛込區若松町
步兵學校	千葉縣千葉郡都賀村
騎兵學校	同縣千葉郡二宮町
野戰砲兵學校	同縣印旛郡千代田村
重砲兵學校	神奈川縣浦賀町
工兵學校	千葉縣東葛飾郡明村
通信學校	東京市杉並區馬橋
自動車學校	同世田谷區世田谷四
戶山學校	同 牛込區戶山町
陸軍習志野學校	千葉縣習志野

陸軍特別大演習

年	場所	參加師團
明治二五年	宇都宮地方	近衞、第一、二
三一年	大阪地方	第三、四、九、十
三四年	仙臺地方	第二、八
三五年	熊本地方	第六、十二
三六年	姬路地方	第五、十、十一
四〇年	結城地方	近衞、第一、三、十五
四一年	奈良附近	第四、九、十、十六
四二年	宇都宮附近	第二、七、八、十三、十四
四三年	岡山附近	第五、十、十七
四四年	久留米附近	第六、十二、十八
大正元年	川越附近	近衞、第一、十三、十四
二年	名古屋地方	第三、九、十五、十六
三年	大阪地方	第四、十、十一、十七
四年	弘前地方	第二、七、八
五年	福岡地方	第五、六、十一、十八
六年	彥根附近	第三、四、九、十六
七年	關東平地	近、第一、二、八、十三、十四、十五
八年	攝播地方	第四、十、十一、十七
九年	中津地方	第六、十二、十八
十年	武相平野	近、第二、三、十三、十四
十一年	西部讃岐地方	第五、十一
十三年	加越地方	第九、十三、十六
十四年	仙臺地方	第二、七、八
十五年	佐賀平地	第六、十二
昭和二年	中京地方	第一、三、四
三年	盛岡地方	第二、八
四年	水戶附近	近衞、第一、十四
五年	岡山地方	第五、十
六年	熊本附近	第六、十二
七年	近畿地方	第三、四、五、十六
八年	福井地方	第九、十一
九年	前橋地方	近衞、第一、二、十四
十年	南九州地方	第六、十二

防衞司令部の新設

陸軍では防空の萬全を期する爲めに東京、大阪、小倉の三ケ所に防衞司令部を新設すべく防衞司令部令を公布した。

東部防衞司令部（東京）は十年八月一日から新設されたが中部防衞司令部（大阪）及び西部防衞司令部（小倉）は昭和十二年八月一日より開設される筈である。

帝國海軍の艦艇

戰艦（軍艦）　九隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
金剛	一九九・二	二八・〇四	二九、三三〇トン	二六・〇ノット	三六糎	四基	大正二
霧島	〃	二八・九六	〃	〃	〃	〃	四
榛名	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四
扶桑	一九二・〇三	二八・六八	〃	二二・五	〃	二	四
山城	〃	二八・六五	〃	〃	〃	〃	六
伊勢	一九五・〇七	〃	二九、九九〇	二三・〇	〃	四	六
日向	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七
長門	二〇一・三五	二八・九六	三二、七二〇	〃	四〇	六	九
陸奥	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇

練習戰艦（軍艦）　一隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
比叡	一九九・一九	二八・〇四	一九、五〇〇トン	一八・〇ノット	三六糎	一基	大正三

一等巡洋艦（軍艦）　一二隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
加古	一七六・七八	一五・四七	七、一〇〇トン	三三・〇ノット	二〇糎	一二基	大正一五
古鷹	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一五
衣笠	〃	〃	〃	〃	〃	〃	昭和二
青葉	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二
妙高	一九二・〇七	一九・〇〇	一〇、〇〇〇	〃	〃	〃	四
那智	一九二・〇七	一九・〇〇	一〇、〇〇〇	三三・〇	二〇糎	一二基	昭和三
足柄	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四
羽黒	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四
高雄	一九八・〇〇	一九・〇〇	九、八五〇	三三・〇	二〇	八	七
愛宕	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七
鳥海	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七
摩耶	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七

二等巡洋艦（軍艦）　二三隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
平戶	一三四・一一	一四・一五	四、四〇〇トン	二六・〇ノット	一五糎	三基	明治四五
矢矧	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四五
天龍	〃	一二・四二	三、二三〇	三三・〇	一四	六	大正八
龍田	〃	〃	〃	〃	〃	〃	八
球磨	一五二・四〇	一四・二〇	五、一〇〇	三三・〇	〃	八	九
多摩	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇
北上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇
大井	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇
木曾	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇
長良	〃	〃	五、一七〇	〃	〃	〃	一一
五十鈴	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一二
名取	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一一
由良	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一二
鬼怒	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一一
阿武隈	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一四
那珂	〃	〃	五、一九五	〃	〃	〃	一四

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
川内	一五二・四〇	一四・四〇	五、一九五	三三	一四	八	一三
神通	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一四
夕張	一三二・五九	〃	二、八九〇	〃	〃	四	一二
最上	一九〇・五〇	一八・二〇	八、五〇〇	〃	一五・五	一二	昭和一〇
三隈	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇
鈴谷	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇
熊野							未成

航空母艦（軍艦）　四隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
鳳翔	一五五・四五	一四・六七	七、四七〇トン	二五・〇ノット	一四糎	—基	大正一一
加賀	二一七・九三	三一・二四	二六、九〇〇	二三・〇	二〇	—	昭和三
赤城	二三二・五六	二八・〇四	〃	二八・五	〃	—	二
龍驤	一六七・二〇	一八・五〇	七、一〇〇	二五・〇	一二・七	—	八

水上機母艦（軍艦）　二隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
能登呂	一三八・六八	一七・六八	一四、〇五〇トン	一二・〇ノット	一二糎	—基	大正九
神威	一五一・一八	二〇・四三	一七、〇〇〇	一五・〇	一四	—	一一

潜水母艦（軍艦）　五隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
韓崎	一二七・一七	一五・一六	九、五七〇トン	一二・六ノット	八・〇糎	—基	—
駒橋	六四・〇一	一〇・六七	一、一二五	一三・九	〃	—	大正三
迅鯨	一二五・八二	一六・一五	五、一六〇	一六・〇	一四・〇	—	一二
長鯨	〃	〃	〃	〃	〃	—	一三
大鯨	一九七・三〇	一八・〇四	一〇、〇〇〇	二〇・〇	一二・七	—	昭和九

敷設艦（軍艦）　六隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
常磐	一二四・三六	二〇・四五	九、二四〇トン	二一・二五ノット	二〇・〇糎	—基	明治三二
勝力	七三・一五	一一・八九	一、五四〇	一三・〇	八・〇	—	大正六
白鷹	七九・二〇	一一・五〇	一、三四五	一六・〇	一二・〇	—	昭和四
嚴島	一〇〇・〇〇	一二・七五	一、九七〇	一六・〇	一四・〇	—	四
八重山	八五・五〇	一〇・五六	一、一三五	二〇・〇	一二・〇	—	七
沖島							未成

海防艦（軍艦）　八隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
淺間	一二四・三六	二〇・四五	九、二四〇トン	二一・二五ノット	二〇・〇糎	四基	明治三二
八雲	一二四・六六	一九・五八	九、〇一〇	一六・〇〇	〃	二	三三
吾妻	一三五・八九	一八・一四	八、六四〇	〃	〃	四	三三
出雲	一二一・九二	二〇・九三	九、一八〇	二〇・七五	〃	二	三三
磐手	〃	〃	〃	一六・〇〇	〃	四	三四
春日	一〇四・八八	一八・九〇	七、〇八〇	二〇・〇	二五・〇	四	三七

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
日進	一〇四・八八	一八・七三	七、〇八〇	二〇・四	二〇・〇	四	三七
對馬	一〇二・〇一	一二・四四	三、一二〇	二〇・〇	一五・〇	—	三七

砲艦（軍艦）　一三隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
淀	八五・四四	九・七八	一、三二〇トン	二二・〇ノット	八・〇糎	二基	明治四一
安宅	六七・六七	九・七五	七二五	一六・〇	一二・〇	—	大正一一
宇治	五五・九九	八・四一	五四〇	一三・〇	八・〇	—	明治三六
隅田	四四・二〇	七・三三	一〇五	〃	六・〇	—	三九
伏見	四八・七七	七・四七	一八〇	一四・〇	〃	—	三九
鳥羽	五五・八八	八・二二	二二五	一五・〇	八・〇	—	四四
嵯峨	六〇・〇〇	八・九九	六八五	〃	一二・〇	—	大正元
勢多	五四・八六	八・二二	三〇五	一六・〇	八・〇	—	一二
堅田	〃	〃	〃	〃	〃	—	一二
比良	〃	〃	〃	〃	〃	—	一二
保津	〃	〃	〃	〃	〃	—	一二
熱海	四五・三〇	六・三〇	一七〇	〃	〃	—	昭和四
二見	〃	〃	〃	〃	〃	—	五

一等驅逐艦　七四隻（內未成六隻）

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
浦風	八三・九〇	八・四一	八一〇トン	二八・〇ノット	一二・〇糎	四基	大正四
磯風	九四・四九	八・五三	一、一〇五	三四・〇	〃	六	六
濱風、天津風、時津風							
谷風	九七・五四	八・八四	一、一八〇	三四・〇	一二・〇	六	大正八
峯風	九七・五四	八・九二	一、二一五	三四・〇	一二・〇	六	大正九
澤風、沖風、島風、灘風、矢風、羽風、汐風、秋風、夕風、太刀風、帆風、野風、波風、沼風							
神風	九七・五四	九・一四	一、二七〇	三四・〇	一二・〇	六	大正一一
朝風、春風、松風、旗風、追風、疾風、朝凪、夕凪							
睦月	九七・五四	九・一四	一、三一五	三四・〇	一二・〇	六	大正一五
如月、彌生、卯月、皐月、水無月、文月、長月、菊月、三日月、望月、夕月							
吹雪	一一二・三〇	一〇・三〇	一、七〇〇	三四・〇	一二・七	九	昭和三
白雪、初雪、叢雲、東雲、薄雲、白雲、磯波、浦波、綾波、敷波、朝霧、夕霧、天霧、狹霧、朧、曙、漣、潮、響、曉、雷、電							
初春	一〇三・八六	九・九四	一、三六八	三四・〇	一二・七	六	昭和八
子日、若葉（未成）初霜、夕暮（未成）有明（未成）							
白露	一〇三・三四	九・六七	一、三六八	三四・〇	一二・七	八	未成
村雨、時雨							

二等驅逐艦　三一隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
桃	八三・八二	七・七三	七五五トン	三一・五ノット	一二・〇糎	六基	大正五
樫、檜、柳							
椿	八三・八二	七・七三	七七〇	三一・五	一二・〇	六	大正七
樅	八三・八二	七・九二	七七〇	三一・五	一二・〇	四	大正九
榆、栗、梨、竹、柿、栂、菊、葵、萩、薄、藤、蔦、葦、菱、蓮、菫、蓬、蓼							
若竹	八三・八二	八・〇八	八二〇	三一・五	一二・〇	四	大正一一
吳竹、早苗、朝顏、夕顏、芙蓉、刈萱							

一等潜水艦　三四隻（内未成七隻）

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
伊號第一	九七・五〇	九・二二	一、九七〇トン	一七ノット	一四・〇糎	六基	大正一五
伊號第二、第三、第四、第五（一二・〇糎砲）							
伊號第六	九四・三	九・〇五	一、九〇〇	一七	一二・〇	六	未成
伊號第七							
伊號第二一	八五・二〇	七・五〇	一、一四二	一四	一四・〇	四	昭和二
伊號第二二、第二三、第二四							
伊號第五一	九一・四四	八・八〇	一、三九〇	一七	一二・〇	八	大正一三
伊號第五二	一〇〇・八五	七・六四	〃	一九	〃	〃	大正一四
伊號第五三	〃	七・九六	一、六三五	〃	〃	〃	昭和二
伊號第五四、第五五							
伊號第五六	一〇一・〇〇	七・九〇	一、六三五	一九	一二・〇	八	昭和四
伊號第五七、第五八、第五九、第六〇							
伊號第六一	九七・七〇	七・八〇	一、六三五	一九	一二・〇	六	昭和四
伊號第六二							
伊號第六三	一〇一・〇〇	七・九〇	一、六三五	一九	一二・〇	八	昭和三
伊號第六四	九七・七〇	七・八〇	〃	〃	〃	六	五
伊號第六五	〃	八・二〇	一、六三八	〃	一〇・〇	〃	七
伊號第六六、第六七							
伊號第六八	一〇一・〇〇	八・二〇	一、四〇〇	二〇	一〇・〇	六	昭和九
伊號第六九、七〇、七一、七二、七三							

二等潜水艦　三二隻（内未成二隻）

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
呂號第一七	七〇・一〇	六・一二	七三五トン	一七・〇ノット	八・〇糎	六基	大正一〇
呂號第一八、第一九、第二三、第二四、第二五							
呂號第二六	七四・二二	六・一二	七四六	一六・〇	八・〇	四	大正一二
呂號第二七、第二八							
呂號第二九	七四・二二	六・一二	六六五	一三・〇	一二・〇	四	大正一二
呂號第三〇、呂第三一、第三二							
呂號第三三	七三・〇〇	六・七〇	七〇〇	一六	八・〇	四	未成
呂號第三四							
呂號第五一	七〇・五九	七・一六	八九三	一七・〇	八・〇	六	大正九
呂號第五三、第五四、第五五、第五六							
呂號第五七	七六・二〇	七・一六	八八九	一七	八・〇	四	大正一一
呂號第五八、第五九							
呂號第六〇	七六・二〇	七・三六	九八八	一六・〇	八・〇	六	大正一二
呂號第六一、第六二、第六三、第六四、第六五、第六六、第六七、第六八							

水雷艇　五隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
千鳥	七七・四〇	七・三六	五二七トン	二八・〇ノット	一二糎	二基	昭和八
眞鶴、友鶴、初雁、鵯							

掃海艇　一四隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	魚雷發射管	竣工年
第一號	七二・五〇	八・〇五	六二〇トン	二〇・〇ノット	一二・〇糎	一基	大正一二
第二、第三、第四、第五、第六							
第七號	八四・四九	八・五六	一、〇四〇	二〇・〇	一二・〇	—	明治四四
第八							
第九號	八五・八五	七・七二	七三〇	二〇・〇	一二・〇	—	大正七
第一〇							
第一三號	七〇・八〇	七・六七	四九二	二〇・〇	一二・〇	—	昭和八
第一四、第一五、第一六							

練習特務艦（特務艦）　三隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
朝日	一二三・一〇	二三・四四	一一、四四一トン	一八・二ノット	—糎	—基	明治三三
敷島	一二二・八〇	二三・〇一	一一、二七五	一八・六〇	—	—	三三
富士	一二四・〇〇	二二・二五	九、一七九	一八・二五	—	—	三〇

標的艦（特務艦）　一隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
攝津	一五二・四〇	二五・六〇	一六、一三〇トン	二一・〇ノット	—糎	—基	明治四五

測量艦（特務艦）　二隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
大和	六二・七七	一〇・六七	一、五〇〇トン	一四・〇ノット	八・〇糎	—基	明治二〇
膠州	七六・八六	一一・〇五	二、〇八〇	一〇・五	〃	—	—

運送艦（特務艦）　一四隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
青島	七三・六九	一五・〇六	七、五四三トン	一〇・〇ノット	八・〇糎	—基	—
洲埼	一二二・九三	一五・二四	八、八〇〇	一四・〇	一二・〇	—	大正七
室戸	一〇五・一六	〃	八、二二五	一二・五	〃	—	七
野島	〃	〃	〃	〃	〃	—	八
知床	一三八・六八	一七・六八	一四、〇五〇	一二・〇	一二・〇	—	九
襟裳、佐多、鶴見、尻矢、石廊、隠戸、早鞆、鳴戸							
間宮	一四四・七八	一八・五九	一五、八二〇	一四・〇	一四・〇	—	大正一三

碎氷艦（特務艦）　一隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
大泊	六〇・六五	一五・二四	二、三三〇トン	一三・〇ノット	八・〇糎	—基	大正一〇

代表軍艦の發達

艦名	排水量	時代
龍驤	約八〇〇噸	明治三年　海軍省設立當時
松島	四、二七八噸	明治二十七年　日清戰爭當時
三笠	一五、一四〇噸	明治三十七年　日露戰爭當時
金剛	二九、三三〇噸	大正三年　世界大戰當初
陸奧	三二、七二〇噸	現在

海軍志願兵徵募區

第一徵募區　横須賀
北海道、樺太、青森、岩手、秋田、山形
宮城、福島、東京、神奈川、千葉、茨城
埼玉、群馬、栃木、長野、山梨、新潟、
靜岡

第二徵募區　呉
愛知、岐阜、富山、石川、福井、京都、
大阪、滋賀、三重、奈良、和歌山、兵庫
岡山、廣島、鳥取、島根、山口

第三徵募區　佐世保
香川、愛媛、德島、高知、福岡、佐賀、
長崎、大分、宮崎、熊本、鹿兒島、沖繩

海軍區

第一海軍區（横須賀軍港）
東日本と北海道、樺太の海岸海面。

第二海軍區（呉軍港）
瀬戸内海から本州西部、四國、九州東部の海岸海面。

第三海軍區（佐世保軍港）
九州の西南から臺灣、朝鮮に及ぶ海岸海面。

關東州海軍區　滿洲國、關東州の海。

南洋海軍區　南洋群島一帶の海。

鎮守府・要港部

横須賀鎮守府	（神奈川縣）
呉鎮守府	（廣島縣）
佐世保鎮守府	（長崎縣）
舞鶴要港部	（京都府）
大湊要港部	（青森縣）
馬公要港部	（臺灣）
鎮海要港部	（朝鮮）
旅順要港部	（關東州）
駐滿海軍部	（滿洲國）

常備艦隊編制

（昭和十一年度）

聯合艦隊（第一艦隊及第二艦隊）

【第一艦隊】
（聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官に率ゐらる）

第一戰隊　長門、扶桑、山城、榛名
第八戰隊　神通、長良、川内
第一水雷戰隊　阿武隈、第九驅逐隊、第廿一驅逐隊、第卅驅逐隊
第一潜水戰隊　迅鯨、第十八潜水隊、第十九潜水隊、第廿八潜水隊
第一航空戰隊　鳳翔、龍驤、第五驅逐隊

【第二艦隊】
（第二艦隊司令長官に率ひらる）

第五戰隊　妙高、那智、羽黑
第七戰隊　衣笠、青葉
第二水雷戰隊　那珂、第六驅逐隊、第八驅逐隊、第十九驅逐隊、第廿驅逐隊
第二潜水戰隊　鬼怒、第十二潜水隊、第卅潜水隊
第二航空戰隊　加賀、第廿九驅逐隊
附屬　間宮、鳴門、鶴見

【第三艦隊】
（第三艦隊司令長官に率ゐられし上海を根據とす）

第十戰隊　出雲、球磨
第十一戰隊　安宅、鳥羽、勢多、堅田

比良、保津、熱海、二見、浦風、栗、栂、蓮、「小鷹」
第五水雷戰隊　夕張、第十三驅逐隊、第十六驅逐隊
附屬　嵯峨

練習艦隊　磐手、八雲

警備艦隊編制

（各鎮守府に屬す）

横須賀警備戰隊　戰艦、巡洋艦、驅逐隊、潜水隊等
呉警備隊　巡洋艦、驅逐隊、潜水隊
佐世保警備戰隊　巡洋艦、驅逐隊、潜水隊等

海軍航空隊

霞ヶ浦海軍航空隊	（茨城縣）
横須賀海軍航空隊	（神奈川縣）
館山海軍航空隊	（千葉縣）
呉海軍航空隊	（廣島縣）
佐世保海軍航空隊	（長崎縣）
大村海軍航空隊	（長崎縣）
大湊海軍航空隊	（青森縣）
佐伯海軍航空隊	（大分縣）
富岡海軍航空隊	（神奈川縣）
木更津海軍航空隊	（千葉縣）
鹿屋海軍航空隊	（鹿兒島縣）
舞鶴海軍航空隊	（京都府）

海軍の學校

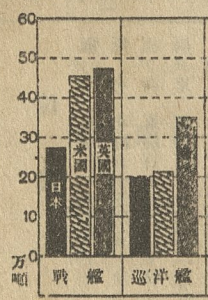
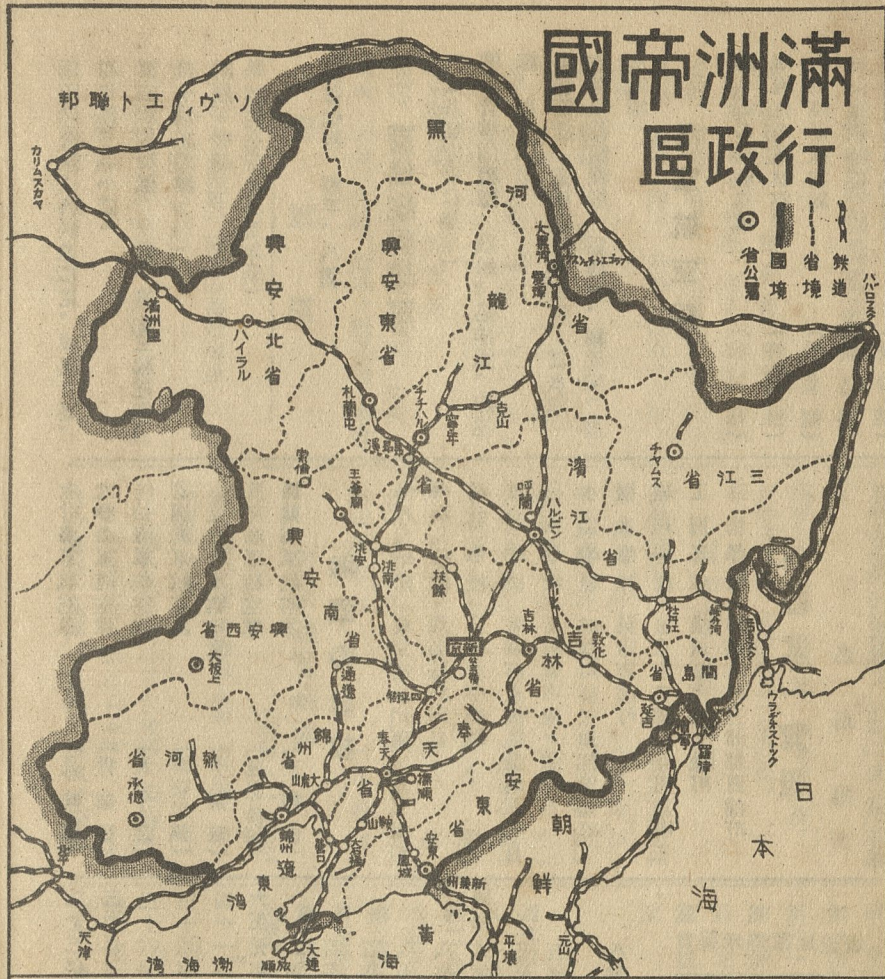
海軍大學校	東京市品川區大崎長者町
海軍兵學校	廣島縣江田島
機關學校	京都府中舞鶴
軍醫學校	東京市京橋區築地五丁目
砲術學校	横須賀市楠ヶ浦町
水雷學校	神奈川縣三浦郡田浦町
潜水學校	呉市吉浦町
經理學校	東京市京橋區小田原町三
工機學校	横須賀市楠ヶ浦町
通信學校	神奈川縣三浦郡田浦町

觀艦式一覽表

	名稱	場所
明治元年	觀艦式	天保山沖
二十三年	海軍觀艦式	神戸沖
三十三年	大演習觀艦式	神戸沖
三十六年	大演習觀艦式	神戸沖
三十八年	凱旋觀艦式	横濱沖
四十一年	大演習觀艦式	神戸沖
大正元年	大演習觀艦式	横濱沖
二年	恆例觀艦式	横須賀沖
四年	特別觀艦式	横濱沖
五年	恆例觀艦式	横濱沖
八年	御親閱式	横須賀沖
八年	大演習觀艦式	横濱沖
昭和二年	大演習觀艦式	横濱沖
三年	大禮特別觀艦式	横濱沖
五年	昭和五年特別大演習觀艦式	神戸沖
八年	大演習觀艦式	横濱沖

日英米海軍比較表

滿洲帝國行政區

鐵道　省境　國境　◎省公署

位置

極南　北緯三十八度四十分
極北　北緯五十三度五十分
極西　東經百十五度二十分
極東　東經百三十五度二十分

東はシベリア、東南は朝鮮と境し、西北は蒙古、南は渤海に臨み、南西は萬里の長城を隔てゝ支那に接してゐる。

行政區

省名	省公署
奉天省	奉天
吉林省	吉林
濱江省	ハルビン
龍江省	チチハル
黑河省	大黑河
三江省	佳木斯
間島省	延吉
安東省	安東
錦州省	錦州
熱河省	承德
興安東省	札蘭屯
興安西省	大板上
興安南省	齊々哈爾
興安北省	海拉爾

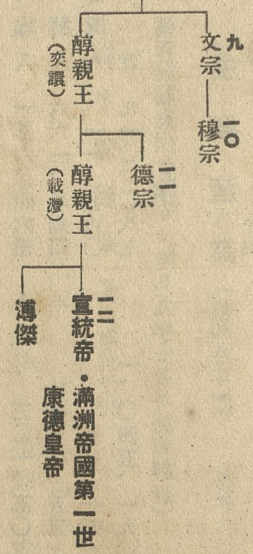
滿洲帝國皇室御系圖

一 清太祖 — 二 太宗 — 三 世祖 — 四 聖祖 — 五 世宗 — 六 高宗 — 七 仁宗 — 八 宣宗

宣宗 — 九 文宗 — 一〇 穆宗

宣宗 — 醇親王（奕譞）— 一一 德宗

醇親王（奕譞）— 醇親王（載灃）— 一二 宣統帝・滿洲帝國第一世 康德皇帝

醇親王（載灃）— 溥傑

滿洲帝國

皇室

康德皇帝　清朝第十二代宣統帝、中華民國の革命にて御退位、一九三二年滿洲國建設により執政に御就任一九三四年（康德元年）滿洲帝國第一世皇帝に御卽位。

宮內府大臣　熙洽　　尙書府大臣　袁金鎧
參儀府議長　臧式毅

國務院

國務總理大臣　張景惠　　總務廳長　長岡隆一郎
　　　　　　　　　　　　法政局長官　三宅福馬
民政部大臣　呂榮寰　　次長　葆康
外交部大臣　張燕卿　　次長　大橋忠一
軍政部大臣　于芷山　　次長　王靜修
蒙政部大臣　齊默特色木丕勒
財政部大臣　孫其昌　　次長　洪維國
實業部大臣　丁鑑修
交通部大臣　李紹庚

司法部大臣　馮涵淸
文教部大臣　阮振鐸　次長　許汝棻
監察院院長　羅振玉
最高法院院長　林棨
最高檢察廳長　李槃

面積・人口

	面積（方粁）	戸數（戸）	人口（千人）
奉天省	八六、五四六	一、四五四、一五五	九、三七九・三
吉林省	八九、九一〇	六八一、三七二	四、六五六・六
龍江省	一三五、五三六	三一九、四九一	一、九七四・四
濱江省	一四三、四三五	六七一、四三三	四、〇三三・〇
熱河省	九六、五八五	五五七、五〇〇	二、三〇〇・二
錦州省	三九、四六一	五六二、五六三	二、九三八・七
安東省	四八、二三五	三七七、三〇三	二、六四一・二
三江省	一〇七、五四四	一四八、〇四七	八三三・四
間島省	三九、三九四	八六、六八八	四八七・九
黑河省	一〇九、八二三	八、九二四	三八・五
興安西省	八〇、四一〇	五三、〇〇〇	三一五・八
興安南省	七九、〇三二	五七、〇二四	三四〇・三
興安東省	一〇六、一五二	一三、五三一	七五・一
興安北省	一六〇、三九六	七、一四〇	四三・九
計	一、三〇三、一四三		

主要都市人口（康德元年十二月）

奉天	四九四、五二五	克山	八一、〇一〇
哈爾賓	四八二、四五二	齊々哈爾	七九、四六六
新京	二〇四、八一四	扶餘	六四、八七一
安東	一九一、八一二	洮南	六〇、三一七
吉林	一四一、一七四	遼陽	五七、四〇二
營口	一三七、五五二	双城堡	五二、〇〇〇
撫順	一一四、八五九	鐵嶺	五一、五六八
錦州	八五、一一二		

滿洲國在留本邦人

	昭和八年	昭和九年
內地人	一三六、四六三	三〇一、五〇五
朝鮮人	六六一、八六四	七三〇、五三七
臺灣人	一、七六〇	一三、一四八
合計	九一〇、〇八七	一、〇四五、一九〇

備考　關東州を除く（昭和九年十月外務省調査）

主要産業（昭和八年）

大豆	四五五四（千瓲）	小麥	八六三
高粱	四〇二二	米	三〇九
粟	五一八四		
玉蜀黍	一七五九	牛	一六六〇（千頭）
馬	二四二三	石炭	七一〇八
豚	六四七九		
緬羊	二三四六	大豆油工業	三九（百萬圓）
鐵鑛	九九三（千瓲）	製粉業	一一
銑鐵	三六八	製鹽高	五三四、六〇〇（千斤）

滿洲國の鑛産地

世界大豆産額（昭和八年）

（單位千噸）

日本	九五五
滿洲	五二〇五
米國	三〇四
其他	三一一

貿易

相手國別貿易（單位千圓）

	一九三三年 輸出	一九三三年 輸入	一九三四年 輸出	一九三四年 輸入
日本	一七三、六六八	三三一、〇九九	一七三、六六二	三八三、二九五
中華民國	五四、三一〇	七六、八二二	六五、六九四	五七、五九四
獨逸	六六、三五七	一〇、四四五	五三、三一〇	一三、四八五
米國	七、四一四	二八、九九五	五、九六六	二五、三二七
ソヴィエト	一二、九一七	七、五六九	八、四三三	四八、一五五
英國	八、七九三	七、一四一	一六、三二八	九、三一五
印度	一、〇八〇	一四、七〇三	六四五	三三、九四五
香港	六、三三三	八、〇〇四	六、八四八	一三、五九六
蘭印	四、〇四四	一三、三三四	一、七〇九	六、六九四
和蘭	五、九一〇	四三五	八、〇七三	三八八
總額	四二三、七八九	五一五、六八七	四四八、四三七	五九三、五六三

備考　日本は關東州を含む

重要貿易品（一九三四年）

輸出	千円	輸入	
大豆	一六〇、三四九	綿織物	六八、〇五二
豆粕	五一、五〇九	鐵	五八、二二七
採油用種子	三二、〇四七	小麥粉	五七、〇五九
粟	一九、九四〇	車輛、船白	三〇、九四六
大豆油	一六、二六二	機械	二八、〇五七
銑鐵	一〇、三八〇	木材	一七、四九九
總額	四四八、四二七		五九三、四六六

滿洲國の貿易相手國別

日本　中華民國　ドイツ　アメリカ　イギリス　ドイツ　其の他　1934

滿洲國の貿易

輸出：大豆　豆粕　採油用種子　粟　大豆油　其の他

輸入：綿織物　鐵　小麥　船舶車輛　機械　其の他

康德二年度豫算（一九三五年　單位千圓）

歲出			
	一〇四、九九八		
帝室費	一、〇〇〇	軍政部	三二、一五〇
總務廳	二三、五九四	財政部	一〇、八二〇
民政部	二一、三三三	實業部	三、二五三
外交部	九七四	交通部	二、五八一
司法部	四、七〇九	官業收入	六、〇七二
文教部	三、〇五五	官有財產收入	三、四五二
蒙政部	四五四	臨時部	一六、三九三
歲入	一〇四、九九八	普通	四、五五七
經常部	八八、六〇五	特別會計	四二五
租稅	七五、六六四	公債	五、〇〇〇
印紙收入	三、四一七	剩餘金	六、四一〇

國有鐵道一覽

南滿洲鐵道

安奉線（安東—奉天）連京線（大連—新京）旅順線（大連—旅順）營口線（大石橋—營口）撫順線（奉天—渾河—撫順）

滿洲國鐵道線

京濱線（新京—哈爾賓）濱綏線（綏芬河—哈爾賓）濱洲線（哈爾賓—滿洲里）奉山線（奉天—山海關）大鄭線（大虎山—鄭家屯）河北線（溝幇子—河北）北票線（金嶺寺—北票）奉吉線（奉天—吉林）西安線（梅河江—西安）京圖線（新京—圖們）京大線（新京—前郭旗）朝開線（朝陽川—關山屯—上三峯）濱北線（濱江—北安）馬船口線（濱江—馬船口）齋北線（齋々哈爾—北安）拉濱線（濱江—拉法）壼盧島線（錦縣—壼盧北黑線（北安—辰淸）辰黑線（辰淸—黑河）訥河線（寧年—訥河）平齋線（四平街—齋々哈爾）楡樹線（東昻々溪—齋々哈爾）洮索線（洮南—索倫）錦承線（錦縣—凌源—平泉）圖佳線（圖們—牡丹江）寧佳線（牡丹江—林口）

滿洲定期航空路一覽

新義州—奉天線、大連—奉天—新京—ハルビン線、新京—ハルビン—チ、ハル線、新京—吉林—延吉—龍井村—淸津、新京—洮安—チ、ハル線、奉天—錦州—朝陽—凌源—承德線、奉天—錦州—山海關線、奉天—錦州—朝陽—赤峰線
奉天—通化線、ハルビン—依蘭—チャムス—富錦線、ハルビン—牡丹江—穆稜—東寧—綏芬河—八面通—平陽鎭—密山—虎林—富錦線、八面通—穆稜線、ハルビン—牡丹江—勃利—チャムス線、チ、ハル—嫩江—大黑河線
新京—ハルビン—チ、ハル—ハイラル—滿洲里線

教育

	學校數	教員數	生徒數
小學校	七、六二五	一四、三四六	四四〇、六三三
中學校	二一五	二、五一四	二七、八八二
師範學校	七八	七〇四	八、〇六八
實業學校	五三	四一二	五、〇六九
高等專門學校	八	一	二、一二一

宗教

佛教徒	七五六、四六九	ラマ教徒	三、四五八
道教徒	三七、一二四	天主教徒	六四、二六三
回教徒	一五一、一九七	キリスト教徒	三、一九二

列國の對滿洲國投資額

日本	二、二六〇、八六六
ソヴイエト	四六五、〇一五
イギリス	三九、五九〇
アメリカ	二六、四〇〇
フランス	二一、〇八六
スエーデン	八五〇
デンマーク	一五七
總額	二、八一三、九六四

國防

滿洲帝國の陸海軍は皇帝の統率するところである。

陸軍（步・騎・砲）　總兵力　十二萬人

海軍　江防艦隊、砲艦　五隻
和綏、江淸、江平、利濟、江通

獨立承認國

日本　昭和七年九月十五日　正式承認

サルバドル　昭和九年三月三日　承認

羅馬法王廳　昭和九年四月二十日、布教上中華民國より分離し獨立教區として親善關係の促進方を要望す

國際聯盟　昭和九年五月十六日　郵便協定を結ぶ

男子陸上競技記錄

昭和十年十月迄

日　日本最高記錄
世　世界最高記錄
オ　オリムピック記錄

百米競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三五	一〇秒三	吉岡隆德	東文理大
世	一九三五	一〇秒三	ピーコック	米國
オ	一九三二	一〇秒三	トーラン	米國

二百米競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三二	二一秒三	吉岡隆德	東文理大
世	一九三四	二〇秒三	メトカーフ	米國
オ	一九三二	二一秒二	トーラン	米國

四百米競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三二	四九秒〇	中島亥太郎	早大
世	一九三二	四六秒二	カー	米國
オ	一九三二	四六秒二	カー	米國

八百米競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三四	一分五四秒〇	青地球磨男	立大
世	一九三二	一分四九秒八	ハムプソン	英國
オ	一九三二	一分四九秒八	ハムプソン	英國

千五百米競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三五	三分五八秒〇	田中秀雄	中大
世	一九三五	三分四八秒八	ボンスロン	米國
オ	一九三二	三分五一秒二	ベツカリ	伊國

五千米競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三五	一四分五八秒	村社講平	中大
世	一九三二	一四分一七秒	レヒチネン	芬蘭
オ	一九三二	一四分三〇秒	レヒチネン	芬蘭

一萬米競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三五	三一分七秒八	村社講平	中大
世	一九二四	三〇分六秒二	ヌルミ	芬蘭
オ	一九三二	三〇分一一秒四	クソチンスキー	芬蘭

マラソン競走（四二一九五米）

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三五	二時間二六分四二秒	孫基禎	朝鮮
世	一九三五	二時間二六分四二秒	孫基禎	日本
オ	一九三二	二時間三一分三六秒	サバラ	アルゼンチン

高障碍競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三五	一四秒六	村上正	早大
世	一九三四	一四秒二	ベアード	米國
オ	一九三二	一四秒四	セーリング	米國

中障碍競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三三	五四秒六	福井行雄	東大理出
世	一九三四	五〇秒六	ハーディン	米國
オ	一九三二	五二秒〇	ハーディン	米國

三千米障碍競走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三五	九分三八秒八	今井哲夫	慶大
世	一九三三	九分九秒四	イソ・ホロ	芬蘭
オ	一九三二	九分一秒六	イソ・ホロ	芬蘭

四百米繼走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三四	四一秒五	谷口・吉岡・佐々木・鈴木	日本チーム
世	一九三二	四〇秒〇	キーゼル・トピノ・ダイヤー・ワイコフ	米國
オ	一九三二	四〇秒〇	キーゼル・トピノ・ダイヤー・ワイコフ	米國

千六百米繼走

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三二	三分一六秒八	中島・增田・大木・西	日本チーム
世	一九三二	三分八秒一	フクアー・アブロウヰッチ・ワーナー・カー	米國
オ	一九三二	三分八秒二	フクアー・アブロウヰッチ・ワーナー・カー	米國

一萬米競歩

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九二三	六二分四七秒	秋山初太郎	早大
世	一九一二	四六分二八秒四	ゴールディング	カナダ
オ	一九一二	四六分二八秒四	ゴールディング	カナダ

五萬米競歩

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三三	四時間五五分〇	和田英治	鶴見金港
世	一九三二	四時間五〇分一〇秒	グリーン	英國
オ	一九三二	四時間五〇分一〇秒	グリーン	英國

走幅跳

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三一	七米九八	南部忠平	早大
世	一九三五	八米一三	オウエン	米國
オ	一九二四	七米七六	レゼンダー	米國

走高跳

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三五	二米〇一	田中弘	早大
世	一九三四	二米〇六	コーテー	米國
オ	一九三二	一米九八	オスボーン	米國

三段跳

	年代	記錄	選手名	所屬
日	一九三四	一五米八二	大島鎌吉	關大出

世	一九三四	一五米八二	大島　鎌吉	日本
オ	一九三二	一五米七二	南部　忠平	日本

棒高跳

日	一九三二	四米三〇	西田　修平	早大
世	一九三二	四米四一	ブラウン	米國
オ	一九三二	四米三一	ミラー	米國

砲丸投

日	一九三四	一四米一三	高田　靜雄	廣島青
世	一九三四	一七米四〇	トランス	米國
オ	一九三二	一六米〇一	セクストン	米國

圓盤投

日	一九三五	四四米七六	菊本　耕作	東文理
世	一九三四	五二米四二	アンダーソン	瑞典
オ	一九三二	四九米四九	アンダーソン	米國

槍投

日	一九三四	六八米五九	長尾　三郎	關大
世	一九三四	七六米六六	ヤルヴィネン	芬蘭
オ	一九三二	七二米七一	ヤルヴィネン	芬蘭

鐵槌投

日	一九三五	五〇米二八	阿部　功	東文理
西	一九一三	五七米七七	ライアン	米國
オ	一九一二	五四米七四	マグラス	米國

十種競技

日	一九三二	七四六九點五九五	齋　辰雄	常盤生命
世	一九三四	八七九〇點四六〇	ジーヴェルト	獨逸
オ	一九三二	八四六二點二三五	バウシュ	米國

女子陸上競技記録

百米競走

日	一九二八	一二秒二	人見　絹枝	大毎
世	一九三三	一一秒八	ワラシエヴイツツ	波蘭
オ	一九三〇	一二秒五	ワラシエヴイツツ	波蘭

二百米競走

日	一九二九	二四秒七	人見　絹枝	大毎
世	一九三四	二三秒八	ワラシエヴイツツ	波蘭
オ	一九三〇	二五秒七	ワラシエヴイツツ	波蘭

八百米競走

日	一九三四	二分二八秒六	井戸田きよ子	愛知淑德
世	一九三四	二分一二秒四	コウコヴア	チエツコ
オ	一九三四	二分一二秒四	コウコヴア	チエツコ

八十米障碍

日	一九三二	一二秒二	中西　みち	京二條
世	一九三二	一一秒六	エンゲルハルト	獨逸
オ	一九三〇	一二秒四	ヤコブソン	瑞典

四百米繼走

日	一九三二	五〇秒二	村岡・柴田 土倉・渡邊	日本
世	一九三二	四七秒	カール・ファーチ ロヂャース・ブレーメン	米國
オ	一九三〇	四九秒九	カール・ファーチ ロヂャース・ブレーメン	米國

走幅跳

日	一九二八	五米九八	人見　絹枝	大毎
世	一九二八	五米九八	人見　絹枝	日本
オ	一九三〇	五米九〇	人見　絹枝	日本

走高跳

日	一九三五	一米五二	廣橋百合子	體專
世	一九三三	一米六五	シャイレイ	米國
オ	一九三〇	一米五七	ブラウミユーラー	獨逸

砲丸投

日	一九三四	一一米二八	兒島　文	横濱
世	一九三四	一四米三八	マウエルマイヤー	獨逸
オ	一九三四	一三米六七	マウエルマイヤー	獨逸

圓盤投

日	一九三五	三九米六四	石津　光惠	體專
世	一九三四	四三米七九	ワイソウナ	波蘭
オ	一九三四	四三米七九	ワイソウナ	波蘭

槍投

日	一九三四	四一米二八	山本　定子	中京高女
世	一九三二	四六米七四	チンデル	米國
オ	一九三四	四二米四三	ゲリウソ	獨逸

三段跳

日	一九三二	一一米四三	渡邊すみ子	名古屋高女

男子水上競技記録

百米自由型

日	一九三五	五七秒二	遊佐 正憲	日大
世	一九三四	五六秒八	ピーター・フイック	米國
オ	一九三二	五八秒〇	宮崎 康二	日本

二百米自由型

日	一九三三	二分一三秒〇	遊佐 正憲	日大
世	一九二七	二分〇八秒〇	ワイズミユラー	米國

四百米自由型

日	一九三五	四分四五秒二	根上 博	立大
世	一九三五	四分四五秒二	メディカ	米國
オ	一九三二	四分四八秒四	クラッブ	米國

八百米自由型

日	一九三五	九分五五秒八	牧野 正藏	早大
世	一九三五	九分五五秒八	牧野 正藏	日本

千五百米自由型

日	一九三三	一九分〇八秒	北村久壽雄	高知商業
世	一九二七	一九分〇七秒二	アルネ・ボルグ	瑞典
オ	一九三二	一九分一二秒四	北村久壽雄	日本

百米背泳

日	一九三二	一分〇八秒六	清川 正二	名高商
世	一九二八	一分〇七秒四	バンデ・ウェー	米國
オ	一九三二	一分〇六秒八	清川 正二	日本

二百米背泳

日	一九三五	二分三五秒二	吉田 喜一	佐伯中
世	一九三〇	二分三三秒二	コージャック	米國

百米平泳

日	一九三五	一分一三秒〇	小池 禮三	慶大
世	一九三三	一分一二秒四	カルトンネ	佛國（短水路）

二百米平泳

日	一九三五	二分四一秒二	小池 禮三	慶大
世	一九三五	二分四一秒二	小池 禮三	日本
オ	一九三二	二分四四秒九	小池 禮三	日本

八百米繼泳

日	一九三五	八分五二秒二	遊佐・石原田 牧野・根上	日本チーム
世	一九三五	八分五二秒二	遊佐・石原田 牧野・根上	日本チーム
オ	一九三二	八分五八秒四	宮崎・遊佐 豐田・横山	日本チーム

三百米混泳

日	一九三五	三分二〇秒八	吉田・小池 遊佐	日本チーム
世	一九三五	三分二〇秒二	ドライスデール カスレー・フイック	米國チーム

女子水上競技記録

百米自由型

日	一九三五	一分一三秒四	小島 一枝	椙山高女
世	一九三四	一分〇四秒八	デン・ウーデン	和蘭
オ	一九三二	一分〇六秒八	マヂソン	米國

四百米自由型

日	一九三二	五分四九秒六	小島 一枝	椙山高女
世	一九三四	五分一六秒	デン・ウーデン	和蘭
オ	一九三二	五分二八秒	マヂソン	米國

百米背泳

日	一九三二	一分二五秒一	横田 操	椙山高女
世	一九三二	一分一八秒三	ホルム	米國
オ	一九三二	一分一八秒三	ホルム	米國

二百米平泳

日	一九三二	三分〇秒四	前畑 秀子	椙山女專
世	一九三三	三分〇秒四	前畑 秀子	日本
オ	一九三二	三分〇六秒三	デニス	濠洲

四百米繼泳

日	一九三二	五分 六秒七	小島・森田 守岡・荒田	日本チーム
世	一九三四	四分三三秒三	セルバック・チンメルマンス マステンブレークデン・ウーデン	和蘭
オ	一九三二	四分三八秒〇	マッキム・ジョンズ サウイル・マヂソン	米國

ラヂオ體操第一圖解

	運動の方法と注意	回數
第一	第一動（呼稱一）踵をあげながら膝をまげる 第二動（呼稱二）膝をのばしながら踵を下ろす （注意）最後の動作で左足を横に開く	八
第二	第一動（呼稱一、二）頭を充分前へまげる 第二動（呼稱三、四）頭を充分後へまげる （注意）途中で運動をとめてはいけない	四
第三	第一動（呼稱一、二）頭を充分左へまはす 第二動（呼稱三、四）頭を充分右へまはす （注意）途中で運動をとめてはいけない、最後の動作で手を輕く握り腕を前で交叉する	四
第四	第一動（呼稱一）腕を横から斜上へふりあげる 第二動（呼稱二）あげた腕をふり下ろして元のやうに交叉する （注意）最後の動作で手の甲を前にして體の横に持つてくる	八
第五	第一動（呼稱一）腕を前から上にふりあげる 第二動（呼稱二）あげた腕を下ろす （注意）腕をあげるとき力を入れ、下ろすとき力をぬく	八

	運動の方法と注意	回數
第六	第一動（呼稱一、二）掌を上に向けながら腕を横から斜上に上げると共に胸を後へまげる 第二動（呼稱三、四）腕と胸とを元に復す （注意）胸を反すとき息を吸ひ、胸を起すとき息を吐く	四
第七	第一動（呼稱一、二）右腕を横から上にあげながら體を左にまげる 第二動（呼稱三、四）右腕を横から下ろしながら左腕を横から上にあげ、體を右にまげる （注意）最後の動作で手を腰にとる	四
第八	第一動（呼稱一、二）體を充分前下へまげる 第二動（呼稱三、四）體を後へまげる （注意）最後の動作で手を下ろす	四
第九	第一動（呼稱一、二）兩腕を左斜にふり上げながら體を充分左へまはす 第二動（呼稱三、四）兩腕を下ろし之を右斜上にふりあげながら體を充分右へまはす （注意）最後の動作で手を腰にとり左足を右足にひきつける	四
第十	第一動（呼稱一）踵をあげながら膝をまげる 第二動（呼稱二）膝をのばしながら踵をおろす （注意）最後の動作で手を下ろし、手の甲を前にむける	八
第十一	第一動（呼稱一、二）腕を靜かに前から上にあげる 第二動（呼稱三、四）あげた腕を靜かに前から下ろす （注意）腕をあげるとき息を吸ひ下ろすとき息を吐く	四

ラヂオ體操第二圖解

各運動の最後の動作で次の運動の始めの姿勢を取る

	第一	第二	第三	第四		第五		第六	第七	第八
始の姿勢										
第一動作	1 臂を前に擧げながら踵を擧げる	1 臂を前に擧げる	1 臂を横に擧げる	1 臂を前に擧げる	5 臂を前に擧げる	1 臂を側に擧げる	5 臂を側に擧げる	1 臂を側から斜上方に振り擧げ乍ら左膝を屈げて前に股を高く擧げる	1 臂を上へ振り擧げる	1 右拳で體側を腋下にすり擧げ乍ら體を左に屈げる
第二動作	2 臂を下ろしながら膝を屈げる	2 臂を平らに十分側に開く	2 臂を下ろし體前で交叉する	2 左臂を平に左方にまわしながら體を左へまはす	6 右の臂を平らに右方にまはしながら體を右へまはす	2 左臂を下ろし右臂を側から上に擧げながら體を左に屈げる	6 右臂を下ろし左臂を側から上に擧げながら體を右に屈げる	2 臂を下ろし元の位置に復しながら脚を下ろす	2 臂を振り下ろしながら體を深く前に屈げる	2 體を起し右手を下ろす
第三動作	3 臂を前に擧げながら膝を伸ばす	3 臂を前（第一動の終りの位置）にもつてくる	3 臂を側から斜上へ擧げながら胸を後へ屈げる	3 臂と體を元（第一動の終りの位置）に復す	7 臂と體を元に復す	3 體を起し右臂を側に下ろし左臂を側に擧げる	7 體を起し左臂を側に下ろし右臂を側に擧げる	3 臂を側から斜上方に振り擧げ乍ら右膝を屈げて股を高く前に擧げる	3 體を起し臂を前に擧げる	3 左拳で體側を腋下にすり擧げ乍ら體を右に屈げる
第四動作	4 臂を下ろしながら踵を下ろす	4 臂を下ろす	4 體を起しながら臂を下ろし元の位置に交叉する	4 臂を下ろす	8 臂を下ろす	4 臂を下ろす	8 臂を下ろす	4 臂を下ろし元の位置に復しながら脚を下ろす	4 臂を下ろす	4 體を起し左手を下ろす
回數	四	四	四	二		二		四	四	四

回數	第九		第十	第十一	
始の姿勢					
第一動作	1 左臂を側に振り擧げ乍ら體を十分左へまはす その際右手背を腰に當る	5 右臂を側に振り擧げ乍ら體を十分左へまはす その際左手背を腰に當る	1 臂を前に擧げながら踵を擧げる	1 臂を前に擧げる	5 臂を頭の高さより幾分高く擧げる
第二動作	2 體を前にまはし臂を振り戻す	6 體を前にまはし臂を振り戻す	2 臂を下ろし乍ら膝を屈げる	2 臂を下ろす	6 臂を下ろす
第三動作	3 左臂を側に振り擧げながら體を十分左へまはす	7 右臂を側に振り擧げ乍ら體を十分右へまはす	3 臂を前に擧げながら膝を伸ばす	3 臂を頭の高さに擧げる	7 臂を上へ擧げる
第四動作	4 體を前にまはし臂を體前で交叉する	8 體を前にまはし臂を體前で交叉する。	4 臂を下ろし乍ら踵を下ろす	4 臂を下ろす	8 臂を下ろす
回數	二		四	二	

列國經濟ブロック

主な經濟ブロック

近年列國は物資を成るべく自國の勢力範圍内に於て自給自足せんとする方針を取り、互に關税の障壁を高くし、外國貨物の輸入を抑壓するに至つた。即ち一度、戰爭が起つても各ブロック(團體)内で主要な物産の需要を滿す事が出來る。

	面積（千萬方粁）	人口（百萬人）
日滿ブロック	二、一一一	一二四・六
米國ブロック	一二、三七八	一七一・六
英國ブロック	三四、六五五	五二〇・八
佛國ブロック	一三、五六〇	一八八・〇
ソヴイエト	二一、一七六	一六五・七

主要人名簿

昭和十年十二月

內閣

天皇を輔弼し奉り國政の重責にあたる總理大臣以下各大臣を以て組織さる。

內閣總理大臣　海軍大將　岡田啓介
外務大臣　廣田弘毅
內務大臣　後藤文夫
大藏大臣　高橋是清
陸軍大臣　陸軍大將　川島義之
海軍大臣　海軍大將　大角岑生
司法大臣　小原直
文部大臣　松田源治
農林大臣　山崎達之輔
商工大臣　町田忠治
遞信大臣　望月圭介
鐵道大臣　內田信也
拓務大臣　伯爵　兒玉秀雄
內閣書記官長　白根竹介
法政局長官　金森德次郎

內閣審議會

內閣審議會は內閣總理大臣の諮問に應じて重要國策につき調査審議し、內閣調査局は內閣の重要政策を調査し內閣審議會の庶務を掌る。

內閣審議會々長　內閣總理大臣　海軍大將　岡田啓介
同　副會長　大藏大臣　高橋是清
內閣審議會委員　海軍大將　子爵　齋藤實
同　男爵　山本達雄
同　子爵　青木信光
同　馬場鍈一
同　男爵　黑田長和
同　伊澤多喜男
同　法博　水野錬太郎
同　賴母木桂吉
同　川崎卓吉
同　富田幸次郎
同　安達謙藏
同　秋田清
同　池田成彬
同　各務鎌吉
同　小倉正恒
內閣調査局長官　吉田茂

大勳位、前官禮遇

大勳位〔菊花勁飾〕　公爵　西園寺公望
總理大臣禮遇　公爵　西園寺公望
同　伯爵　清浦奎吾
同　男爵　若槻禮次郎
同　子爵　齋藤實
各大臣禮遇　法博　水野錬太郎
同　海軍大將　財部彪
同　男爵　幣原喜重郎
同　法博　鈴木喜三郎
同　伯爵　內田康哉
同　男爵　山本達雄
樞密院議長禮遇　法博、男　倉富勇三郎

樞密院

天皇に直隸し、重要國務に就き天皇の御諮詢に應へ奉る機關である。

議長　法博男　一木喜德郎
副議長　法博男　平沼騏一郎
親王　雍仁親王
親王　宣仁親王
親王　崇仁親王
親王　載仁親王
顧問官　伯爵　金子堅太郎
同　男爵　久保田讓
同　子爵　石黑忠悳
同　侯爵　黑田長成
同　理博　櫻井錠二
同　荒井賢太郎
同　陸軍大將　河合操
同　石原健三
同〔兼任〕　海軍大將　鈴木貫太郎
同　子爵　石井菊治郎
同　海軍大將　有馬良橘
同　法博　原嘉道
同　法博　窪田靜太郎
同　元田肇
顧問官　陸軍大將　鈴木莊六
同　石塚英藏
同　阪本釤之助
同　法博　石渡敏一
同　法博　清水澄
同　藤澤幾之助
同　男爵　林權助
同　子爵　粟野愼一郎
同　上山滿之進

內大臣府

天皇の常時輔弼機關、內大臣は總理大臣及び宮內大臣の任免に副書。

大臣　伯爵　牧野伸顯
秘書長官　侯爵　木戶幸一

宮內省

皇室及宮廷に關する一切の事務を掌るところ。

宮內大臣　湯淺倉平
侍從長　海軍大將　鈴木貫太郎
式部長官　子爵　松平慶民
掌典長　公爵　三條公輝
皇后宮大夫　侯爵　廣幡忠隆
皇太后宮大夫　子爵　入江爲守
李王職長官　法博　條田治策

外務省

外務大臣　廣田弘毅
政務次官　井阪豐光
次官　重光葵

○特命全權大使

英國　松平恒雄
佛蘭西國　佐藤尚武
獨逸國　子爵　武者小路公共
伊太利國　杉村陽太郎
白耳義國　有田八郎
ソヴィエト聯邦　大田爲吉
土耳古國　德川家正
米國　齋藤博
ブラジル　澤田節藏
滿洲國〔兼〕　陸軍大將　南次郎
中華民國　有吉明

○特命全權公使

瑞西國　堀田正昭
西班牙國　青木新
ポルトガル國　法博　笠間杲雄

和蘭國　武富敏彦
瑞典國〔兼諾威、丁抹、芬蘭〕　白鳥敏夫
ラトヴイヤ國〔兼〕　子爵　武者小路公共
ポーランド國　法博　伊東述史
チエツコ・スロヴアキア國　一等書記官　小川昇
墺國〔兼ハンガリー〕　松永直吉
羅馬尼國〔兼ユーゴスラヴイヤ〕　藤田榮介
希臘國〔兼アルバニア〕　一等書記官法博　三枝茂智
イラン國　岡本武三
暹羅國　矢田部保吉
加奈陀國　加藤外松
キューバ〔兼〕　齋藤博
メキシコ國　堀義貴
ペルー國　村上義溫
智利國〔兼ボリヴイア〕　矢野眞
亞爾然丁國〔兼パラグワイ ウルグワイ〕　山崎次郎
ルクセンブルグ國〔兼〕　有田八郎
コロンビヤ國　岩手嘉雄
アフガニスタン國　北田正元
エチオピヤ國

內務省

內務大臣　後藤文夫
政務次官　男爵　大森佳一
次官　赤木朝治

大藏省

大藏大臣　高橋是清
政務次官　男爵　矢吹省三
次官　津島壽一

元帥府

大元帥陛下の最高顧問

元帥　陸軍大將　載仁親王
元帥　海軍大將　博恭王
元帥　陸軍大將　守正王

軍事參議院

帷幄の下にあつて、重要軍務につき御諮詢をまつて參議會を開き意見を上奏する。

參議官　陸軍中將　鳩彥王
同　陸軍中將　稔彥王
同　海軍大將　山本英輔
同　陸軍大將　渡邊錠太郎
同　陸軍大將　眞崎甚三郎
同　陸軍大將　阿部信行
同　海軍大將　小林躋造
參議官　海軍大將　野村吉三郎
同　陸軍大將　荒木貞夫
同　海軍大將　中村良三
同　海軍大將　永野修身
同　陸軍大將　林銑十郎
同　海軍大將　末次、信正
同　陸軍大將　植田謙吉
同　陸軍大將　西義一
同　陸軍大將　寺內壽一

侍從武官府

侍從武官長　陸軍大將　本庄繁
武官　海軍少將　平田昇
武官　陸軍少將　中島鐵藏

陸軍省

陸軍大臣　陸軍大將　川島義之
政務次官　子爵　岡部長景
次官　中將　古莊幹郎
造兵廠長官　中將　植村東彥
兵器本廠長　中將　高橋貞夫
技術本部長　中將　岸本綾夫
憲兵司令官　中將　岩佐祿郎

軍馬補充部本部長　中將　原常成
築城部本部長　少將　松井命
運輸部長　中將　松田卷平

參謀本部

天皇に直隸して帷幄の機務に參畫し國防用兵のことを掌る。

參謀總長　元帥大將　載仁親王
次長　中將　杉山元
總務部長　少將　飯田貞固
第一部長　少將　鈴木重康
第二部長　少將　岡村寧次
第三部長
第四部長　少將侯　前田利爲
大學校長　少將　小畑敏四郎
陸地測量部長　少將　鈴木元長

敎育總監部

敎育總監　大將　渡邊錠太郎
本部長　中將　中村孝太郎
騎兵監　中將　蓮沼蕃
砲兵監　中將　伊藤政喜
工兵監　中將　佐村益雄
輕重兵監　少將　佐々木吉良

航空部隊

航空本部長　中將　畑俊六
總務部長　少將　牧野正迪
第一部長　航大佐　木下敏
第二部長　少將　中川泰輔
航空技術研究所長　少將　伊藤周次郎
航空本廠長　少將　長嶺龜助
飛行學校長　中將男　德川好敏
所澤　中將　大江亮一
下・志津　少將　春田隆四郎
明野　少將　佐野光信
濱松　少將　儀峨徹二
熊谷
第一飛行團長　少將　江橋英次郎

要塞司令部

東京灣　中將　弘岡好忠
父島　步大佐　西村勝美
由良　中將　森田宣
豐豫　少將　平野助九郎
奄美大島　步大佐　高橋省三郎
津輕　少將　安井榮三郎
下關　中將　林茂清
對馬　少將　大久保雄賢
佐世保　少將　長瀨武平
長崎　步大佐　秋山靜太郎
壹岐　步大佐　福島和吉郎
舞鶴　少將　菊池門也
鎭海灣　少將　石田保道
永興灣　步大佐　池田龍三郎
旅順　中將　中島三郎
基隆　少將　渡邊謙
澎湖島　少將　佐竹保治郎

衛戍部隊

東京警備司令官兼東部防衛司令官　中將　香椎浩平
近衛師團長　中將　橋本虎之助
近衛步兵第一旅團長　少將　篠塚義男
近衛步兵第二旅團長　少將　大島陸太郎
騎兵第一旅團長　少將　中山蕃
野重砲第四旅團長　少將　藤江惠輔
第一師團長　中將　堀丈夫
步兵第一旅團長　少將　佐藤正三郎
步兵第二旅團長　少將　工藤義雄
騎兵第二旅團長　少將　山岡潔
野重砲第三旅團長　少將　谷口元次郎
第二師團長　中將　梅津美治郎
步兵第三旅團長　少將　波田重一

職名	階級	氏名
歩兵第十五旅團長	少將	三宅 俊雄
第三師團長	中將	岩越 恒一
歩兵第五旅團長	少將	田中 靜壹
歩兵第廿九旅團長	少將	苫米地四樓
騎兵第四旅團長	少將	久納 誠一
野重砲第一旅團長	少將	廣野 太吉
第四師團長	中將	建川 美次
歩兵第七旅團長	少將	秦 雅尚
歩兵第卅二旅團長	少將	本間 雅晴
第五師團長	中將	林 桂
歩兵第九旅團長	少將	甘粕重太郎
歩兵第廿一旅團長	少將	岩松 義雄
第六師團長	中將	谷 壽夫
歩兵第十一旅團長	少將	重藤 千秋
歩兵第卅六旅團長	少將	河村 董
第七師團長	中將	宇佐美興屋
歩兵第十三旅團長	少將	常岡 寛治
歩兵第十四旅團長	少將	伊田常三郎
第八師團長	中將	下元 熊彌
歩兵第四旅團長	少將	飯野庄三郎
歩兵第十六旅團長	少將	中野 直三
騎兵第三旅團長	少將	鎌田 正信
第九師團長	中將	山岡 重厚
歩兵第六旅團長	少將	小見山恭造
歩兵第十八旅團長	少將	山口 正熈
第十師團長	中將	松浦淳六郎
歩兵第八旅團長	少將	小松原道太郎
歩兵第卅三旅團長	少將	田島榮次郎
第十一師團長	中將	田代皖一郎
歩兵第十旅團長	少將	小林角太郎
歩兵第廿二旅團長	少將	山口 三郎
第十二師團長	中將	香月 清司
歩兵第十二旅團長	少將	羽守清一郎
歩兵第廿四旅團長	少將	役山 久義
野重砲第二旅團長	少將	木本 益雄
第十四師團長	中將	末松 茂治
歩兵第廿七旅團長	少將	奥 保夫
歩兵第廿八旅團長	少將	齋藤彌平太
第十六師團長	中將	兒玉 友雄
歩兵第十九旅團長	少將	藤井 洋治
歩兵第三十旅團長	少將	安岡 正臣
第十九師團長	中將	鈴木 美通
歩兵第卅七旅團長	少將	加納 豐壽
歩兵第卅八旅團長	少將	田中 清一
第二十師團長	中將	三宅 光治
歩兵第卅九旅團長	少將	鷲津 鈆平
歩兵第四十旅團長	少將	今村 均
朝鮮軍司令官	中將	小磯 國昭
參謀長	少將	佐枝 義重
臺灣軍司令官	中將	柳川 平助
參謀長	少將	萩洲 立兵
守備隊司令官	中將	福田袈裟雄
關東軍司令官	大將	南 次郎
參謀長	中將	西尾 壽造
參謀副長	少將	板垣征四郎
支那駐屯軍司令官	少將	多田 駿
參謀長	歩大佐	永見 俊德

海軍省

職名	階級	氏名
海軍大臣	大將	大角 岑生
政務次官	伯爵	堀田 正恒
次官	中將	長谷川 清
艦政本部長〔兼〕	大將	中村 良三
航空本部長	中將	山本五十六
大學校長	中將	中村龜三郎

軍令部

天皇に直隷して帷幄の機務に參畫し國防用兵のことを掌る。

職名	階級	氏名
軍令部總長	元帥大將	博恭王
次長	中將	島田繁太郎
第一部長	少將	近藤 信竹
第二部長	少將	古賀 峰一
第三部長	少將	高須 四郎
第四部長	少將	前田 政一

衞戍部隊

職名	階級	氏名
横須賀鎭守府司令長官	中將	米内 光政
吳鎭守府司令長官	中將	藤田 尚德
佐世保鎭守府司令長官	中將	百武 源吾
舞鶴要港部司令官	中將	鹽澤 幸一
大湊要港部司令官	少將	眞崎 勝次
馬公要港部司令官	中將	和田 專三
鎭海要港部司令官	中將	小林省三郎
旅順要港部司令官	少將	和田 秀穂
駐滿海軍部司令官	中將	濱田吉次郎

海上部隊

職名	階級	氏名
聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官	中將	高橋 三吉
第二艦隊司令長官	中將子	加藤 隆義
第三艦隊司令長官	中將	及川古志郎
練習艦隊司令長官		

司法省

職名	階級	氏名
司法大臣		小原 直
政務次官		原 夫次郎
次官		長島 毅
大審院長	法博	林 頼三郎
檢事總長	法博	光行 次郎

文部省

職名	階級	氏名
文部大臣		松田 源治
政務次官		添田敬一郎
次官		三邊 長治
東京帝國大學總長	醫博	長與 又郎
京都帝國大學總長	理博	松井 元興
東北帝國大學總長	理博	本多光太郎
九州帝國大學總長		松浦鎭次郎
北海道帝國大學總長	法農博	高岡 熊雄
大阪帝國大學總長	醫博	楠本長三郎

農林省

職名	階級	氏名
農林大臣		山崎達之輔
政務次官		守屋 榮夫
次官		長瀬 貞一

商工省

職名	階級	氏名
商工大臣		町田 忠治
政務次官		勝 正憲
次官		吉野 信次
特許局長官		中松 眞郷

遞信省

職名	階級	氏名
遞信大臣		望月 圭介
政務次官		青木 精一
次官		大橋 八郎

鐵道省

職名	階級	氏名
鐵道大臣		内田 信也
政務次官		樋口 典常
次官		喜安健次郎

拓務省

職名	階級	氏名
拓務大臣	伯爵	兒玉 秀雄
政務次官		櫻井兵五郎
次官		入江 海平

職名	階級	氏名
貴族院議長	公爵	近衞 文麿
衆議院議長		濱田 國松
會計檢査院長		河野 秀男
行政裁判所長官	法博	二上 兵治

地方廳

職名	階級	氏名
警視總監		小栗 一雄
北海道長官		佐上 信一
東京府知事		横山 助成

京都府知事	鈴木信太郎
大阪府知事	安井　英二
神奈川縣知事	石田　馨
兵庫縣知事	湯澤三千男
長崎縣知事	田中廣太郎
新潟縣知事	宮脇　梅吉
埼玉縣知事	齋藤　樹
群馬縣知事	君島　清吉
千葉縣知事	石原雅二郎
茨城縣知事	安藤狂四郎
栃木縣知事	宣場　軍藏
奈良縣知事	一戸　二郎
三重縣知事	富田愛次郎
愛知縣知事	篠原英太郎
靜岡縣知事	阿部　嘉七
山梨縣知事	土屋　正三
滋賀縣知事	村地　信夫
岐阜縣知事	坂　千秋
長野縣知事	大村　清一
宮城縣知事	井野　次郎
福島縣知事	伊藤　武彥
岩手縣知事	石黑　英彥
青森縣知事	小林　光政
山形縣知事	金森　太郎
秋田縣知事	兒玉　政介

福井縣知事	近藤　駿介
石川縣知事	生駒　高常
富山縣知事	土岐銀次郎
鳥取縣知事	中谷　秀
島根縣知事	福邑　正樹
岡山縣知事	多久　安信
廣島縣知事	鈴木　敬一
山口縣知事	菊山　嘉男
和歌山縣知事	藤岡　長和
德島縣知事	戸塚九一郎
香川縣知事	藤野　惠
愛媛縣知事	大場鑑次郎
高知縣知事	泊　武治
福岡縣知事	畑山四男美
大分縣知事	田口　易之
佐賀縣知事	古川　靜夫
熊本縣知事	關屋延之助
宮崎縣知事	三島　誠也
鹿兒島縣知事	早川　三郎
沖縄縣知事	藏重　久
朝鮮總督	陸軍大將　宇垣　一成
政務總監	今井田清德
臺灣總督	中川　健藏
總務長官	平塚　廣義

樺太廳長官	今村　武志
南洋廳長官	林　壽夫
對滿事務局總裁〔兼〕	陸軍大臣 陸軍大將　川島　義之
關東局總長	大野綠一郎
關東州廳長官	竹下　豐次

六大都市市長

東京市長	牛塚虎太郎
大阪市長	加々美武男
京都市長	淺山富之助
名古屋市長	大岩　勇夫
神戸市長	勝田銀次郎
橫濱市長	青木　周三

特殊銀行會社

南滿洲鐵道株式會社總裁	松岡　洋右
同　副總裁	大村　卓一
日本銀行總裁	深井　英五
同　副總裁	清水賢一郎
日本勸業銀行總裁	馬場　鍈一
日本興業銀行總裁	結城豐太郎
北海道拓殖銀行頭取	松本　修
臺灣銀行頭取	保田　次郎
朝鮮銀行總裁	加藤敬三郎

昭和人名辭典

現存者を主とし、特に關係深き故人の一部を掲出した。（昭和十年十一月）

○**アインシュタイン**　獨逸の科學者。引力を發見したニュートン以來の大發見といはれる相對性原理の發見者。

○**朝倉文夫**　大分縣出身。彫刻の大家東京美術學校教授。

○**安達謙藏**　熊本縣出身。元遞信、內務大臣、代議士、國民同盟總裁。

○**安部磯雄**　福岡縣出身。苦學力行の人、野球界の恩人。代議士、社會大衆黨中央執行委員長。

○**阿部信行**　石川縣出身。陸軍大將、軍事參議官。

○**安保清種**（男爵）　佐賀縣出身。元海軍大臣。海軍大將。

○**荒木貞夫**　東京府出身。十四歳のとき銚子の醬油釀造業『廣庄』に奉公したが、主家沒落の爲め軍人に轉身したといふ立志傳中の人。昭和六年滿洲事變突發直後の犬養內閣に陸軍大臣となり、非常時日本の重大時局にあたる。昭和九年一月陸軍大臣を辭す。陸軍大將、軍事參議官。

○**荒木寅三郎**　群馬縣出身。醫博、學習院々長。

○**有吉　明**　東京府。特命全權大使中華民國駐在。

○**有馬良橘**　和歌山縣出身。日露役に旅順口閉塞隊總司令として勇名を轟かす。海軍大將、明治神宮々司。

○**安藤廣太郎**　兵庫縣出身。農博、農學の最高權威者。農林省農事試驗場長兼茶業試驗場長園藝試驗場長。

○**池田成彬**　東京府。三井合名、三井銀行の常務理事。日本一の大財團三井王國の支配人。內閣審議會議員。

○**石井菊次郎**（子爵）　千葉縣出身。特命全權大使として國際聯盟の權威者といはれた。元外務大臣。昭和八年ロンドンに於ける世界經濟會議に參列。貴族院議員、樞密顧問官。

○**石原莞爾**　山形縣出身。陸軍步兵大佐。滿洲事變當時策戰主任參謀として活躍。參謀本部第二課長。

○**一木喜德郎**（男爵）　靜岡縣出身。法博、樞密院議長。元文部、內務、宮內各大臣、報德社創立者岡田良一郎を父とし、元文部大臣岡田良平を兄とし兄弟同時に大臣たりしことあり。

○**稻畑勝太郎**　京都府。關西實業界の

重鎭、貿易界に活躍。大阪商工會議所會頭。貴族院議員。

○犬養　毅　岡山縣出身。日本の立憲政治發達のため多年苦鬪。政友會總裁として昭和六年十二月滿洲事變發生直後内閣總理大臣となる。同七年五月十五日、五・一五事件の貴き犧牲として兇彈に斃る。

○井上幾太郎　山口縣出身。陸軍大將偕行社々長。

○今井田清德　岡山縣出身。朝鮮總督府政務總監。

○今村嘉吉　軍人にして畫家。軍事畫の權威者。陸軍歩兵中佐。

○今村信次郎　東京府。海軍中將、元佐世保鎭守府司令長官。軍令部出仕。

○入江爲守（子爵）　京都府出身。皇太后宮大夫兼宮中御歌所々長。

○岩崎小彌太（男爵）　住友吉左衞門と共に日本一の金滿家、その資產は三億圓以上。三菱合資社長。岩崎彌太郎はその伯父で高知縣出身。

○岩崎彦彌太　男爵岩崎久彌の嗣子で岩崎彌太郎の孫にあたる。三菱合資副社長。

○ウオロシーロフ　現ソヴィエト聯邦陸海軍人民委員長。同赤衞軍の統率者。

○植田謙吉　大阪府出身。昭和七年上海事件に第九師團長として出征。爆彈にて隻脚を失ふ。元參謀次長。陸軍大將、軍事參議官。

○上原勇作（子爵）　宮崎縣出身。陸軍大將。參謀總長、陸軍大臣等に歷任大正十年元帥府に列せらる。昭和八年薨去。

○宇垣一成　岡山縣出身。元陸軍大臣。陸軍大將、朝鮮總督。

○牛塚虎太郎　富山縣出身。東京市長。

○于止山　滿洲國獨立の功勞者。軍政部大臣。

○内田康哉（伯爵）　熊本縣出身。外務大臣たること數度、昭和六年滿鐵總裁として滿洲事變に善處、七年五月齋藤内閣の外務大臣となつて滿洲國承認、國際聯盟脱退等の重大事局に當る。八年辭職、國務大臣禮遇。

○内田信也　茨城縣出身。代議士、鐵道大臣。

○エヂソン　米國人。世界人類に電氣の福音をもたらした大發明家。新聞賣子から身を起した立志物語の偉人で、白熱電燈、活動寫眞機、電信機、蓄音機等幾多の發明に人類文化の父と仰がる。一九三一年（昭和七年）逝去。

○エッケナー　獨逸人。一九二九年飛行船ツェッペリン號を指揮して世界一週、ベルリンから直行で東京訪問霞ヶ浦に着陸、太平洋を橫斷した。世界航空界の權威者。

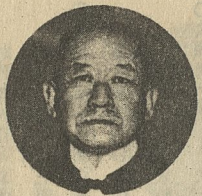
○袁金鎧　滿洲國尙書府大臣。

○閻錫山　山西軍を指揮してゐる中華民國舊軍閥の巨頭。

○大角岑生　愛知縣出身。一九三六年の重大時局を控え、我が海軍の軍政にあたる海軍の主腦者。海軍大將。海軍大臣。

○大谷光照（伯爵）　眞宗本願寺派管長。

○大谷光暢（伯爵）　眞宗大谷派管長。信子裏方は、皇后陛下の御妹。

○岡田啓介　福井縣出身。聯合艦隊司令長官、横須賀鎭守府司令長官等を經て昭和二年田中内閣、昭和七年齋藤内閣と二度海軍大臣となる。昭和九年七月内閣組織の大命を拜す。海軍大將、内閣總理大臣。

○小栗一雄　靜岡縣出身。警視總監。

○尾崎行雄　三重縣出身。國會開設以來每回代議士に當選（十八回）司法大臣、東京市長等に歷任。憲政功勞者として帝國議會より表彰さる。

○大田爲吉　鳥取縣出身。小學校卒業後、獨學を以て立身した外交界の人物。駐露特命全權大使。

○及川古志郎　岐阜縣出身。第三艦隊司令長官。海軍中將。

○小野塚喜平次　新潟縣出身。法博、貴族院議員、元東京帝國大學總長。

○小原　直　新潟縣出身。長く司法次官たり。司法大臣。

○汪兆銘（汪精衞）　中華民國國民政府の行政院長。日本を理解し東洋永遠の平和復興の理想を持つ。昭和十年十一月狙擊されて重傷を負ひ、行政院長を辭す。

○加藤寛治　福井縣出身。聯合艦隊司令長官、軍令部長に歷任、ロンドン會議の際統帥權問題から退職。海軍大將。

○加藤隆義（子爵）　廣島縣出身。海軍中將、元軍令部次長。第二艦隊司令長官。

○金子堅太郎（伯爵）　東京府。元司法大臣。維新史料編纂會總裁として明治天皇の御治蹟を謹編。

○川島義之　愛媛縣出身。元朝鮮軍司令官。陸軍大將、昭和十年九月林大將の後をうけて陸軍大臣に就任。

○ガンヂー　印度の聖雄。奪はれたる亞細亞の復興に燃える印度の革命獨立運動の總帥。無抵抗不服從の民族運動に、苦鬪をつづけてゐる。

○韓復榘　中華民國山東省政府主席。東洋平和に盡す名將。

○何應欽　蔣介石の部下。わが陸軍士官學校卒業、中華民國軍政部長。

○淸浦奎吾（伯爵）　熊本縣出身。司法

大臣、農商務大臣、內閣總理大臣等に歷任。總理大臣禮遇の重臣。

○熙　洽　滿洲帝國宮內府大臣。前財政部大臣。日本士官學校出身、昭和九年鄭首相と共に特使として來朝。

○工藤　忠　青森縣出身。滿洲帝國康德皇帝陛下の御親任厚き侍衞武官長、滿洲帝國陸軍大將。

○久原房之助　大阪府出身。元遞信大臣。代議士、政友會の巨頭。

○倉富勇三郎（男爵）　福岡縣出身。元樞密院議長。樞密院議長禮遇。

○ケーソン　年少よりフイリツピン獨立運動に身命を賭して苦鬪を續けた熱血の志士。多年の念願達成してフイリツピンも愈々獨立の緖についた。昭和十年九月十七日、大統領選擧に國民の壓倒的信望を擔つて初代大統領に當選。フイリツピン共和國初代大統領。

○ケマル・アタ・チュルク（パシヤ）　歐洲大戰に參加、自國の無力を慨して新政府を樹て、トルコ復興のために起つた英雄政治家。トルコ大統領。

○小磯國昭　山形縣出身。元關東軍參謀長。我が陸軍の中堅として將來を期待さる。陸軍中將、朝鮮軍司令官。

○鄕誠之助（男爵）　東京府。貴族院議員。日本商工會議所會頭、東京商工會議所會頭。實業界の大御所。

○胡　漢　民　支那政治家の元老、日本法政大學卒業。反蔣介石の頭目と目されて居る。

○辜　顯　榮　臺灣出身の貴族院議員。

○兒玉秀雄（伯爵）　山口縣出身。日露戰爭の滿洲軍參謀總長として有名な兒玉源太郎大將の長男。拓務大臣。

○胡　　適　支那文化運動の先驅者として文學及び思想界の大立物。

○後藤文夫　大分縣出身。貴族院議員。元農林大臣。昭和九年七月岡田內閣の柱石として立つ。內務大臣。

○近衛文麿（公爵）　五攝家の一に生れた貴公子。巴里平和會議には園公に隨行。昭和八年德川家達公の後をうけて貴族院議長に就任した。

○小林躋造　廣島縣出身。元聯合艦隊司令長官。海軍大將、軍事參議官。

○小林省三郎　新潟縣出身。元駐滿海軍部司令官。海軍中將、鎭海要港部司令官。

○駒井德三　滋賀縣出身。滿洲建國の初め、總務長官として活躍、國基を固めた滿洲帝國建設の功勞者。

○小室翠雲　群馬縣出身。日本畫の大家、帝國美術院會員。

○齊　　王　滿洲國蒙政部大臣。蒙古人。正式の名は齊默特色木勒。滿洲國獨立の功勞者。

○西園寺公望（公爵）　京都の公卿の家に生る現在唯一人の元老として內閣更迭の場合御下問に奉答する。元總理大臣、巴里講和會議には帝國首席

全權として渡佛した。從一位、大勳位公爵、現代に於ける榮爵の最高を賜つてゐる。

○齋藤　博　新潟縣出身。對米關係の重大時局にあたる我が外交界の中堅。北米合衆國駐在特命全權大使。

○齋藤　實（子爵）　岩手縣出身。縣廳の給仕から身を起して、明治十五年兵學寮を卒へて海軍少尉に任官。五度海軍大臣となる。元朝鮮總督、昭和七年內閣總理大臣に親任され、同九年七月辭職。海軍大將、內閣總理大臣禮遇。

○阪谷芳郎（男爵）　東京府。元東京市長。帝國發明協會各會長。貴族院議員。

○櫻井忠温　愛媛縣出身。陸軍少將。『肉彈』その他軍事著書多し。

○重光　葵　大分縣出身。支那公使として在任中昭和七年四月上海の爆彈事件に、故白川大將等と共に奇禍に遇ひ隻脚を失ふ。外務次官。

○幣原喜重郎（男爵）　大阪府出身。元外務大臣。貴族院議員。

○島田繁太郎　東京府出身。軍令部次長。海軍中將。

○勝田主計　愛媛縣出身。元大藏大臣文部大臣。貴族院議員。

○謝　介　石　臺灣に生れ、淸朝最後の宣統帝の許にあり、滿洲建國により外交部總長となる。駐日特命全權大使。元外交部大臣。

○蔣　介　石　中華民國を獨裁する國民黨の實權者。日本に留學せしことあり、孫文の後を承けて國民黨を率ゐ多くの軍團をもち支那の中心勢力となる。

○末次信正　山口縣出身。第二艦隊司令長官、聯合艦隊司令長官を歷任、太平洋上皇國興廢の運命を荷うて起つべく期待された名提督。元橫須賀鎭守府司令長官。海軍大將。軍事參議官。

○杉村陽太郎　東京府。法博、元國際聯盟事務局次長、駐伊特命全權大使。

○鈴木貫太郎　千葉縣出身。海軍大將侍從長。陸軍大將鈴木孝雄の兄。

○鈴木喜三郎　神奈川縣出身。法博、元司法大臣、內務大臣。立憲政友會總裁。國務大臣禮遇。

○鈴木莊六　新潟縣出身。陸軍大將、帝國在鄕軍人會々長、大日本武德會會長。

○スターリン　レーニン歿した後のソヴイエト聯邦の獨裁者。レーニンの

遺志をついで新經濟政策の遂行に努力してゐる。

○住友吉左衞門（男爵）　大阪府。住友合資社長。岩崎小彌太と共に日本一の金滿家、資產三億圓。

○曹　錕　元中華民國大總統、直隸派の元老。

○宋子文　支那の政治家、元財政部長。蔣介石夫人宋美齡の兄。

○宋哲元　袁錫山、韓復榘と共に北支那に大きな勢力を持つ武將。其の指揮する兵力は約十萬と稱せらる。

○孫　科　中華民國立法院長。

○高橋三吉　東京府出身。第二艦隊司令長官から、昭和九年十一月末次大將の後を襲ふて非常時海軍の聯合艦隊司令長官に親補さる。海軍中將、聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官。

○高橋是清　宮城縣出身。年少にし渡米、苦學を續けた立志傳中の人。日本銀行總裁、大藏大臣、內閣總理大臣等を歷任。昭和七年齋藤內閣の大藏大臣として入閣。昭和九年七月辭職。同年十一月大藏大臣親任。

○財部　彪　宮崎縣出身。元海軍大臣。海軍大將。

○田中光顯　土佐藩士。元宮內大臣。明治維新の功臣中唯一の生存者。

○建川義次　新潟縣出身。陸軍中將。第四師團長。

○筑紫熊七　東京府。陸軍中將。滿洲帝國參議府參議。

○津田靜枝　東京府出身。元駐滿海軍部司令官。海軍中將、軍令部出仕。

○趙欣伯　明治大學卒業、日本法學博士。元滿洲帝國立法院長、滿洲帝國憲法を起草す。滿洲建國の功勞者。

○張燕卿　滿洲國實業部大臣。政府部內の日本通として將來を囑目されて居る。

○張學良　滿洲事變迄、滿洲に君臨したが、事變後歐洲に亡命。現在勦匪團司令として漢口に駐屯す。

○張景惠　滿洲國總理大臣。參議府議長、軍政部大臣に就任し前鄭國務總理大臣と相共に滿洲帝國不動の地位確立に貢獻した。

○坪內逍遙　東京府。文博、劇作家、シエクスピア研究家。昭和十年三月逝去。

大同元年日本へ來朝。

○鄭孝胥　淸朝の遺臣。康德皇帝を援けて、遂に滿洲帝國を建設、淸朝最後の宣統帝は、滿洲帝國第一世皇帝として即位された。元滿洲帝國國務總理大臣。昭和九年四月來朝。昭和十年五月辭職。

○寺內壽一（伯爵）　山口縣出身。陸軍大將、軍事參議官。

○東鄕平八郎（侯爵）　鹿兒島縣出身。日本海々戰の聯合艦隊司令長官。海軍大將、元帥として世界海軍史上に不朽の名を殘す。昭和九年五月薨去、國葬を賜る。

○德川家達（公爵）　德川幕府の十六代將軍となるべき人。貴族院議長たること三十年、昭和八年辭して歐米漫遊、特に日米親善に盡す。日本赤十字社々長。

○德富猪一郞（蘇峰）　熊本縣出身。盡忠愛國の熱血文豪。『近世日本國民史』はその代表的大著述で、織田氏時代から、明治天皇御宇史まで、百卷に及ぶべく期待さる。現在までに五十卷を刊行なほ執筆途上にあり。

○床次竹二郞　鹿兒島縣出身。元內務大臣、鐵道大臣等に歷任。代議士、遞信大臣。昭和十年九月逝去。

○土肥原賢二　岡山縣出身。滿洲事變に特務機關長として活躍。陸軍少將關東軍司令部附。

○永井松三　愛知縣出身。昭和十年十二月ロンドンに於て開かるゝ海軍軍縮會議に帝國全權として派遣さる。

○永井柳太郞　石川縣出身。雄辯家をもつて知らる。元拓務大臣。代議士。

○長岡半太郞　長崎縣出身。理博、元大阪帝國大學總長。世界的理學者。

○中川健藏　新潟縣出身。臺灣總督。

○永野修身　高知縣出身。元橫須賀鎭守府司令長官。海軍大將、軍事參議官。ロンドン海軍軍縮會議に帝國國防上、堂々正論を主張すべく、永井大使と共に特命全權大使として派遣さる。

○中村良三　青森縣出身。海軍大將、艦政本部長兼軍事參議官。

○永田秀次郞　兵庫縣出身。元東京市長。貴族院議員。

○長與又郞　東京府出身。醫學博士。世界的醫學者。東京帝國大學總長。

○奈良武次（男爵）　栃木縣出身。元侍從武官長。陸軍大將。

○西　義一　福島縣出身。陸軍大將、軍事參議官。

○野口英世　福島縣出身。日本の生める世界的細菌學の權威者。ニューヨークロックフエラー研究所で幾多の貴重の發見をなす昭和二年黃熱病研究のためアフリカ探究旅行中貴き犧牲として殉職す。

○野村吉三郞　和歌山縣出身。昭和七年上海戰に第三艦隊を率ゐて出征し爆彈事件で隻眼を失ふ。海軍大將、軍事參議官。

○鳩山一郞　東京府。元文部大臣。代

議士、政友會幹部。

○**濱口雄幸**　高知縣出身。內閣總理大臣在職中昭和五年十一月遭難、六年八月薨去す。

○**濱田吉次郎**　東京府出身。海軍中將、駐滿海軍部司令官。

○**林　權助**（男爵）　福島縣出身。元全權大使。元式部長官。樞密院顧問官。

○**林　銑十郎**　石川縣出身。滿洲事變の際朝鮮軍司令官として善處、荒木大將の後をうけて陸軍大臣に就任。昭和十年九月辭職。陸軍大將、軍事參議官。

○**林　博太郎**（伯爵）　東京府。文博、貴族院議員、元滿鐵總裁。

○**原　嘉道**　長野縣出身。元司法大臣。法博、樞密顧問官。

○**菱刈　隆**　鹿兒島縣出身。陸軍大將、元關東軍司令官兼滿洲帝國駐劄特命全權大使。

○**百武源吾**　佐賀縣出身。佐世保鎭守府司令長官。海軍中將。

○**平沼騏一郎**（男爵）　岡山縣出身。法博、元司法大臣。樞密院副議長、國本社々長、修養團々長。

○**廣田弘毅**　福岡縣出身。元駐露特命全權大使。外務大臣。

○**ヒットラー**　獨逸總統兼首相。國民社會黨を率ゐて、世界大戰後荒廢した獨逸を救ふべく奮起した愛國者。獨逸精神の復興を期し獨裁的に各種の改革を强行し、國際聯盟脫退、軍備平等權の要求等歐洲を覆ふ風雲の中心たる觀あり。獨逸共和國の獨裁者。

○**深井英五**　東京府。日本銀行總裁。

○**二荒芳德**（伯爵）　東京府。貴族院議員。少年團日本聯盟理事長。

○**フォード**　アメリカのフォード自動車會社々長。自動車王といはれる。アメリカが自動車二千萬臺以上、人口五人に一臺といふ多數を持つに至つたのはフォードが大量生產によつて自動車の實用化を計つたためといはれてゐる。

○**朴　春琴**　朝鮮出身最初の代議士。

○**朴　泳孝**（侯爵）　朝鮮出身最初の貴族院議員。中樞院副議長。

○**ボールドウイン**　英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○**本庄　繁**　兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

要なる礎石をつくる。滿洲國の父と仰がれつゝ、昭和七年軍事參議官に轉補、次で侍從武官長に親補さる。

○**本多光太郎**　東京府。理博。東北帝國大學總長。世界的理學者。

○**牧野伸顯**（伯爵）　鹿兒島縣出身。元外務、文部、宮內各大臣に歷任。內大臣。

○**眞崎甚三郎**　佐賀縣出身。滿洲事變後の非常時局に當り、參謀次長として、閑院總長宮殿下を補佐し奉る。元教育總監。陸軍大將、軍事參議官。

○**マサリック**　チエッコ・スロバキヤ獨立の恩人として、今「國父」の名に於て國民の尊敬と信望を一身に集めてゐる終身大統領。

○**町田忠治**　秋田縣出身。元農林大臣。立憲民政黨總裁、代議士、商工大臣。

○**松岡洋右**　山口縣出身。滿洲事變から紛糾を重ねた國際聯盟が、滿洲國の獨立を無視する決議を强行せんとする際、帝國主席全權として歷史的活躍をなす。昭和十年八月南滿洲鐵道株式會社總裁就任。

○**松平恒雄**　東京府。英國駐劄特命全權大使。秩父宮妃勢津子殿下の實父にあたられる。

○**松田源治**　大分縣出身。元拓務大臣。代議士、文部大臣。

○**マクドナルド**　英吉利元首相。英國最初の勞働黨內閣を組織して以來三度首相に重任。英國政治界の重鎭。現樞府大臣。

○**マルコニー**　伊太利の電氣學者、無線電信の發明（一八九七年）で世界通信界に革命をもたらす。

○**南　次郎**　大分縣出身。參謀次長、朝鮮軍司令官、軍事參議官等に歷任滿洲事變突發當時陸軍大臣として難局に當る。陸軍大將、關東軍司令官兼駐滿特命全權大使。

○**武藤信義**（男爵）　佐賀縣出身。陸軍大將、元帥。昭和七年九月十五日帝國全權大使として滿洲國鄭國務總理と日滿議定書に調印。關東軍司令官として事變後の滿洲整備、國境保全等に盡す。昭和八年在職中新京に於て薨去。男爵を賜る。

○**ムッソリーニ**　伊太利の首相。鍛冶屋の子に生れ、小學校教員から社會主義運動家となり轉じて國粹主義運動を起す。三十九歲で伊太利の獨裁政治家となる。伊太利再興の偉傑として世界の一脅威。

○**メーテルリング**　ベルギーの詩人で劇作家。「靑い鳥」は代表作。

○**望月圭介**　廣島縣出身。元遞信、內務大臣。昭和十年九月又遞信大臣に

就任。

○元田肇　大分縣出身。元遞信、鐵道大臣。樞密顧問官。

○モロトフ　ソヴィエト聯邦人民委員會議長。即ち總理大臣。

○柳川平助　佐賀縣出身。臺灣軍司令官。陸軍中將。

○山崎達之輔　福岡縣出身。代議士、農林大臣。

○山室軍平　岡山縣出身。救世軍中將。苦學奮鬪、活版職工から身を起した人。

○山本五十六　新潟縣出身。海軍々縮會議の帝國代表として、昭和九年ロンドンに赴く。海軍中將、航空本部長。

○山本達雄（男爵）　大分縣出身。日本銀行總裁、大藏大臣、內務大臣等に歷任。國務大臣禮遇。

○山本英輔　鹿兒島縣出身。元聯合艦隊司令長官、横須賀鎭守府司令長官等に歷任。海軍大將、軍事參議官。

○湯淺倉平　東京府。宮內大臣。

○横山大觀　東京府。日本畫の大家。帝室技藝員、日本美術院代表者。

○吉岡彌生　靜岡縣出身。東京女子醫學專門學校長、至誠堂病院長。その門下に數名の女子醫學博士を出す。

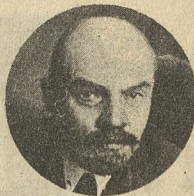
○芳澤謙吉　新潟縣出身。元外務大臣貴族院議員。

○米內光政　岩手縣出身。佐世保鎭守府司令長官、第二艦隊司令長官に歷任。海軍中將、末次大將の後をうけて昭和十年十一月横須賀鎭守府司令長官に親任さる。

○ライト　米國人。兄弟協力して飛行機を發明した。

○ラヴアール　フランスの總理大臣。歐洲外交界の花形。

○リトヴイノフ　ソヴィエト外務大臣。外交界の惑星。

○ルーズヴエルト　アメリカ合衆國第三十二代の大統領。一九三二年民主黨から出て當選、日露戰爭を仲裁したルーズベルトの血緣者。

○レーニン　世界唯一の社會主義國家ソヴィエト聯邦を建設した革命家。小學校長の子に生れ革命に志し、遂にソ聯邦の建國を實現した新露國の國祖、多くの革命的著書を遺す。一九二四年逝く。

○若槻禮次郎（男爵）　島根縣出身。元內閣總理大臣。貴族院議員。內閣總理大臣禮遇。元民政黨總裁。

○渡邊錠太郎　愛知縣出身。元陸軍航空本部長。陸軍大將、教育總監。

常識新語辭典

【ア】

アース　ラヂオ等の地下線。

アーチ　緑葉で飾つた門。

アート　藝術、技術。

アーベント　夕方

アーミー　陸軍、軍隊。

アームチエア　臂掛椅子。

アーメン　眞實の意、キリスト教の言葉。

アール　廣さの單位、十米平方の土地が一アール。

アイス　氷、轉じて高利貸。

アイスクリーム　氷菓子。

アイスホツケー　遊戲の一。

アイデアル　理想、理想の。

アイロニー　反語、ひにく

アヴエツク　同伴。

アウト　外に、野球では死、庭球では線外の球。

アウト・カーヴ　魔球の一（野球）

アウト・ドロップ　魔球の一

アウト・フイルド　外野。

アウト・ライン　外線、大意。

アクセント　發音の調子。

アクター　男優、男の役者。

アクトレス　女優、女の役者。

アグレマン　大使、公使を派する時儀禮的に求める相手國の承認。

アジ　煽動する。

アシスタント　助手。

アジト　秘密の集會所。

アスパラガス　西洋うど。

アスフアルト　塗料の一種で街路の舗裝等に用ゐる。

アスリート　運動家。

アスレテツク・ミーテング　運動會。陸上競技會。

アツパー・カツト　拳鬪語で下より掬ひあげるやうに顎や胴を打つ事。

アツピール　訴へる

アツプ・ツー・デート　最近の。

アド・バルーン　廣告用輕氣球。

アトリエ　畫室、仕事場。

アドレス　住所、宛名。

アナウンサー　ラヂオの放送係。

アパート　共同住宅、貸部屋。

アマチユア　素人、好事家。

アミーバ　單細胞の原始動物。

アラベスク　アラビヤ模樣。

ア・ラ・モード　最新流行。

アルコール　酒精、消毒に用ふ。

アルバム　寫眞帳、繪葉書帖。

アルピニスト　登山家。

アンコール　も一度、再演を望む拍手歡聲など。

アンダー・ライン　書物の要點の下へひく線、横にひく線は
サイド・ライン

アンテナ　無電の架空線。

アンパイア　競技等の審判者。

アンビシヨン　大望、野心。

アンペア　電流の單位。

【イ・ヰ】

イーア・ブツク　年鑑、年報。

イーヴニング　夜の、宵の。

イーヴニング・ペーパー　夕刊。

イースト　東、東洋。

イヴ　アダムと共に人類の祖といはれる。（基督教）

イエス　はい。さうです。

イコール　等しい、同等の意。

イズム　主義、説、教義。

イデー　觀念。

イデオロギー　觀念形態。

イニシヤル　姓名等の頭字。

イミテーシヨン　模造品、眞似。

イルミネーシヨン　電氣裝飾。

インヴエンシヨン　發明。

インカーヴ　打者の方へ曲る球

インキ　洋墨、インク。

インタービユー　面會、會見。

インターナシヨナル　國際的の

インテリ　知識階級。

インピリアリズム　帝國主義。

インフイルド　野球の內野。

インフレ 通貨膨脹、通貨が多くなれば、物價は高くなる。

【ウ】

ウーマン 女、婦人、女性。
ヴァーヂン 處女。
ヴァイオレット すみれ。
ヴァンパイア 妖婦。
ウイク・エンド 週末。
ウイット 機智
ウインドウ 窓、陳列窓。
ウインター・スポーツ 冬の競技、スキー、スケート等。
ウエルカム 歡迎、歡待。
ウォーター 水。
ウォーター・クロセット(W・C)便所。
ウオーター・ポロ 水球。
ウオッチ 懷中時計、看よ。
ヴォルト 電壓の單位。
ウラー ロシア語の萬歳。
ウルトラ 超、極端。

【エ】

エア・ポート 國際飛行場。
エア 空氣、瓦斯、空。
エアシップ 飛行船、航空船。
エア・メール 飛行郵便。
エア・ライン 航空路。
エアロプレーン 飛行機。
エキス光線 透視光線、レントゲン。
エキストラ 臨時の、號外。
エキストラ・インニング 延長戰(野球)
エキスプレッス 急行列車。
エキゾティック 異國的。
エクサイテング・ゲーム 接戰で熱狂する様な試合。
エクザミネーション 試驗。
エクザンプル 例、模範。
エクジビション 展覽會。
エクスパート 熟練家、專門家。
エゴイスト 利己主義者。
エコノミスト 經濟學者。
エス・オー・エス(SOS)汽船、航空機の危險球助信號。
エスカレーター 自動階梯。
エスケープ 逃げる、逃避。

エスペラント 世界共通の一つの言葉、世界語。
エックス 疑問、未知の事物。
エックスポート 輸出、輸出品。
エッセイ 論文、隨筆。
エッセンス 本體、根源、精神。
エディター 主筆、編輯人。
エデン 樂園(基督教)
エトランゼ 外國人、異國人。
エネルギー 精力、活動力。
エピソード 小話、挿話。
エピック 敍事詩。
エピローグ 終局、結末、プローグ(序曲)と對句。
エプロン 前掛、胸かけ。
エポック 新紀元、世紀。
エポック・メーキング 劃期的新時代を開く事。
エホバ キリスト教の神。
エラー 失策。
エレヴエーター 自動昇降機。
エレクトリック・ライト 電燈。
エンサイクロペディア 百科辭典、百科全集。

エンジニーア 技師、機關手。
エンジン 蒸氣、發動機。
エンゼル 天使、天人。
エンド 終、結果、目的。
エンパイア 帝國、皇國。
エンペラ 天皇、皇帝。
エンプレス 皇后。

【オ・ヲ】

オーヴァー 外套。
オーヴァースロ 野球で上手投。
オークル 小麥色。
オー・ケー(ok)承知した。その通り、よろしい等の意。
オーケストラ 管絃樂、笛、ラッパ、ヴァイオリン、ピアノ等で合奏する音樂。
オーシヤン 大洋、大海。
オーナメント 裝飾。
オーソリティ 權威、大家。
オートバイ 自動自轉車。
オーライ よろしい、合點の意。
オール 全部、一切、すべて。
オールド 老齡の、老年の。

オーロラ 極光、極地の光。
オアシス 沙漠の綠地。
オイル 油、石油。
オキシフル 消毒藥の一種。
オクターブ 一音階(音樂)
オフィス 事務所、事務室。
オブザーヴァ 傍聽者、視察者、立會人。
オフセット 印刷の一種、この「學友年鑑」はオフセット印刷です。
オプチミスト 樂天家。
オブラート 散藥を包んで飲む紙(醫藥)。
オペラ 歌劇。オペレッタは小歌劇。
オープン・ゲーム 公開競技。
オミット 省略、除外する。
オラクル 神託。
オリーブ 橄欖。
オリエンタル 東洋の。
オリエント 東洋、極東。
オリジナル 原始、創意。
オリンピック 國際競技。

オレンヂ 柑橘、橙色。
オンス ポンドの十六分の一にあたる目方の單位。
オンドル 朝鮮の暖房裝置。
オン・パレード 總出演(演劇)大行進。
オンリー たつた、それだけ。

【カ】

カー 車、電車、モーターカーは自動車、ガソリンカーはガソリンを燃料とする汽車。
カーペット 絨毯。
ガーゼ 薄いさらしの白布、主として醫療用。
ガーター 英國の最高勳章。靴下留。
カーテン 窓掛、まく。
ガーデン 庭園。
カード 札、名刺。
ガード 鐵橋。
カーニバル 謝肉祭、ドンチャン騒ぎ。
カーブ 曲線、線路の曲角。

カーボン 炭素。
ガール 小女、娘。
ガール・スカウツ 少女義勇團。
ガイスト 精神、靈。
ガイド 案内、通辯。
ガイド・ブック 案内書。
カヴァー 包み、おほひ。
カウボーイ 牛飼ひ。
ガウン 室内で着る上衣。
カウンター 勘定係。
ガゼット 新聞、官報。
ガソリン 發動機用の燃料。
ガソリンスタンド 自動車にガソリンを賣る店。ガソリン・ガールはその賣子の少女。
カタストロフィ 破滅、終局。
カタパルト 艦船の上から飛行機を射出する裝置。
カタログ 目錄、營業案内。
カッター 軍艦に乗せる小艇、艦載小艇。
カット 小挿畫、映畫では省略のこと。
カップ コップ、優勝杯。

カップル 夫婦。
カヌー 丸木舟。
カノン 遠距離射撃砲。
カビネ 寫眞の寸法の一種。
カフェー 珈琲。小料理店。
カフス ワイシャツの袖口。
カムフラーヂュ 擬裝、詐謀術。
カメラ 寫眞機。
カメラ・マン 寫眞技師。
カラー 洋服の襟、色。
カラット 純金含有量。
ガラリー 棧敷、傍聽席。
カリカチュア 漫畫
ガレージ 自動車々庫、飛行機格納庫。
カレッジ 單科大學、專門學校。
カレンダー 曆、柱ごよみ。
カレント・トピックス 時事解説
カルチュア 教養、文化。
カロリー 熱量の單位。
カンヴァス 畫布。
カンニング 不正行爲、狡猾。
カンフル 樟腦、樟腦液、カンフル注射(醫)

【キ】

キー 鍵、樂器の鍵盤。
キーパー 守る人、番人。
キネマ 活動寫眞、映畫。
キネマ・ファン 映畫愛好者。
キャスティング・ヴォート 裁決權、決裁權。
キャスト 配役。
キャッシュ 現金。
キャッチ 捕へる、會得する。
キャッチ・ボール 球投げ。
キャッチャー 捕手（野球）
キャピタル 主都、英文大文字。
キャビン 船室、客室。
キャプテン 船長、主將。
キャメル 駱駝。
キャラクター 性格。
キャラメル 飴を固めた菓子。
ギャラリ 廊下、美術館。
ギャング 惡漢の群。
キャンデー 菓子の一種。
キャンデー・ストア 菓子店。
キャンプ 野營、露營、天幕。
キャンピング 野營する。
キューピット キューピー。
キング 王樣、國王。
キングダム 王國

【ク】

クーデター 非常手段、暴壓政治を意味する。
クイン 女王。
クエスチョン 疑問。
グッド・バイ 左樣なら
グッド・ナイト 今晩は（挨拶）
グライダー 發動機なしの飛行機。
クライマックス 最高潮、絶頂。
クライミング けわしい山を登る事。
グラヴィア 寫眞版。
グラウンド 運動場、競技場。
クラシック 古典、上品。
クラス。級、組、階級。
クラスメート 同級生、級友。
グラフ 圖表、寫眞畫報。
グランド 大きな、偉大な。
グランド・オペラ 大歌劇。
グランド・ピアノ 大型のピアノ。
グランド・ファーザー 祖父。
グランド・マーザー 祖母。
グランマー 文典、文法。
クリーニング 乾燥洗濯。
クリーア 明かな、賢明な。
グリーン 綠の。
クリスチャン 基督教信者。
クリスマス 基督降誕祭。
クリテック 批評家。
グリル 高級な食堂。
グループ 仲間、くみ。
クルー 乘組員、ボート選手團。
クレディット 信用。
グロテスク 奇怪。
クロース 書籍の裝訂につかふ布地、この「學友年鑑」の表紙がクロースです。
クローズ・アップ 大寫（映畫）
クロール 水泳の早拔手法。
クロス・ゲーム 接戰（競技）
グロッキー ふらふらめく事。千鳥足のこと。
クロニクル 年代記のこと。

【ケ】

ケース 箱、彈丸の裝藥管、活字架。
ゲート 門。
ケーブルカー 索道、鐵索で運轉する車。
ゲーム 遊戲。
ゲーム・セット 勝敗の決定。

【コ】

コース 競走路、徑路。
ゴー・ストップ 進め、止れの交通整理標示。
コーチ 指導、訓練する。
コーチャー 指導者。
コーナー 曲り目、角、隅。
コーヒー 珈琲。
コーラス 合唱、合唱團。
コールド・ゲーム 試合中止。
ゴール 決勝點、目的地。
ゴール・イン 決勝點入り。

ゴールド 黃金、金貨。
コイル 電氣の捲線。
コイン 貨幣。
ココア カカオの果實からとつたチョコレートの原料。
ゴシック 活字の一種、この欄の上の語の活字はゴシック、解說の活字は明朝。
ゴシップ 噂さ話、よた話。
コスチューム 衣裳、服裝。
コスモス 世界、宇宙。
コスモポリタン 世界主義の人。
コダック 寫眞機の一種。
ゴッド 神、天帝。
コバルト 淡い群青、空色。
コピー 書寫し、複寫したもの
コメディー 喜劇、狂言、ラヂオ・コメディー等いふ。
ゴルフ 球戲の一種。
コレクション 集める、蒐集。
コレクション 正誤、修正。
コロタイプ 寫眞銅版の一種その印刷がコロタイプ印刷。
ゴング 銅鑼。
コンクール 競爭。
コングレス 集會、議會。
コンクリート セメントを固めたもの、鐵筋コンクリートは近代建物を代表する。
コンサート 音樂會、演奏會。
コンサイス 簡潔な、要領よき。
コンダクター 音樂指揮者。
コンディション 條件、地位。
コント 短篇小說。
コントラクト 契約。
コントラスト 對照、配合。
コントロール 管理、統制野球の制球。
コンミッション 賄賂。
コンミュニズム 共産主義。
コンミュニケ 聲明書、告示。
コンモンセンス 常識。

【サ】

サー 貴下、閣下。
サーヴァント 下男、下女。
サーヴィス 奉仕、世話。
サーカス 典馬團。
サークル 仲間、輪。
サージ 織物の名、セル地。
サーチライト 探照燈。
サード 第三壘（野球）
サーブ 球の打初め（庭球）
サイエンス 科學。
サイズ 大きさ、型。
サイト 視力。
サイド 橫、側面、わき。
サイド・カー 自轉車の脇につけた車。
サイド・ライン 側界線。
サイレン 號笛、警笛。
サイン 署名、捺印、信號。
サヴァリン 君主、元首。
サウス・ポー 左利投手。
サウンド・トーキー 發聲映畫。
サタン 魔の神、惡魔。
サッカー ア式蹴球の俗名。
ザッツ・オーケー よろしい。
サッパー 夕食。
サブマリーン 潜水艇、潜水艦。
サボタージュ 怠ける、サボる。
サラリー 月給、給料。
サラリー・マン 月給生活者。
サロン 客室、美術展覽會。
サン 太陽、日。
サンデー 日曜日。
サンク・ユー 有り難う。
サンタ・クロース クリスマスの前夜、子供に玩具を持つて來てくれる翁。
サンドウィッチ パン食の一種
サンプル 見本、標本。
サンマー 夏、夏期。

【シ】

シース 鞘、萬年筆入れ
シーズン 季節、好時期。
シーン 場面、情景、光景
シーツ 敷布、うはしき。
シアター 劇場。
シガー 葉卷煙草。
シガレット 紙卷煙草。
シグナル 信號、合圖、暗號。
シスター 妹、姉妹。
システム 制度、體系。
シティー 都市、都會。

シティズン　市民、公民。

シナリオ　映畫脚本。

シネマ　映畫、キネマと同じ。

シネマ・ファン　映畫好き。

ジプシー　漂流民族。

ジャーナル　新聞、雜誌。

ジャッジ　裁判官、判事

ジャケツ　短衣、短い上衣。

ジャップ　米國人の日本人に對する侮蔑の呼稱。日本では米國人をヤンキーと呼ぶ。

ジャンク　支那の帆船、戎克。

シャンデリア　裝飾電燈。

ジャンプ　跳躍。

ジャンボリー　少年團の競技。

シュークリーム　菓子の一種。

ジュニアー　年少者、後進者。

シュミーズ　婦人洋服の下着。

ショー　見世物、劇場。

ショウインドー　陳列窓。

ショール　肩掛け。

ショップ　店、工場、商買。

ショップ・ガール　女店員。

シルク・ハット　絹の禮帽。

ジョン・ブル　英人のこと。

シリーズ　連續の映畫、小說。

シロップ　果物からとる糖蜜。

シングル　單試合。

シンジケート　企業組合。

シンボル　象徵、表象。

【ス】

スーツ・ケース　旅行用カバン。

スープ　肉汁、ソップ。

スヰート　甘い、可愛らしい。

スヰート・ホーム　樂しい家。

スヰート・ポテート　菓子。

スヰート・ハート　仲よし。

スイッチ　電燈の點滅器。

スウイマー　水泳選手。

スカイ　空、天、大氣、氣候。

スカイ・サイン　電光ニュース。

スキー　雪辷り。

スキーヤー　スキーをする人。

スクール　學校。

スクール・マスター　校長。

スクラップ・ブック　切拔帳。

スクリーン　映寫幕（映畫）。

スケート　氷辷り。

スコア　得點（競技）表。

スター　星、花型、人氣者。

スタート　出發、出發點（競技）

スタイル　姿、型。

スタヂオ　撮影場（映畫）

スタッフ　棒、幹部。

スタンド　觀覽席（競技）

スタンプ　消印、印判、切手。

スチーム　蒸氣、蒸氣暖房。

ステージ　舞臺、階段。

ステーション　停車場。

ステートメント　聲明書。

ストーリー　物語り。

ストア　店、倉庫。デパートメント・ストアは百貨店、チエン・ストアは連鎖店。

ストップ　停車、止る。

ストライキ　同盟罷業。

ストラック・アウト　三振。

ストリート　街路、町內。

ストレート　眞實、公正、野球語で、カーブに對し直球。

ストロベリー　西洋いちご。

スナップ　寫眞の早撮り。

スパーク　火花。

スパイ　間諜、密偵。

スピーチ　輕い演述、會話。

スピード　速力、速度。

スプーン　さじ。

スピリット　精神、アルコール。

スペース　空間。

スポーツ　運動、競技。

スポンジ　海綿。

スフィンクス　挨及にある謎の巨像、頭は人で體は獅子。

スプリング　春、ばね、泉。

スマート　氣のきいた。輕快な。

スモーキング　喫煙。

スマッシング　强い球（庭球）

スランプ　暴落、不振な狀態。

スローガン　標語。

スロープ　傾斜、勾配。

スロー・モーション　緩漫な動作。

【セ】

セーフ　安全。

セーフ・ヒット　安打。

セーラー　水兵、水夫。

セカンド・ベース　二壘（野球）

ゼスチュア　身振、態度。

セッツルメント　植民地。

セット　一組、舞臺裝置（演劇）

ゼネラル　海軍大將、提督。

ゼネ・スト　總罷業。

セレナーデ　夜の調、小夜曲。

センセーション　感動、人氣。

センター　中央、中心、中堅。

センチメンタル　多感的。

センチュリー　百年、一世紀。

ゼントルマン　紳士。

【ソ】

ソーファ　長椅子、寢椅子。

ソール　靈魂、精神。

ソヴィエット　勞農政府、ソビイエット社會主義共和國聯邦はロシャの國名。

ソサイエティー　社會、社交會

ソフィスト　詭辯家。

ソーセージ　腸詰。

ソフト　柔かい。

ソプラノ　高音（音樂）

ソロ　獨唱、獨奏。

ソング　歌、小唄。

【タ】

ダーク　暗い、暗黑な。

ダーク・サイド　裏面。

ダーク・チェンヂ　暗轉。

ダーク・ホース　思ひがけぬ强者。

ダービー　大競馬。

ターン　折返し（水泳）

タイ　同じ、同等の。

ダイアリー　日記帳。

タイ記錄　前と同じ記錄。

タイトル　表題、映畫の字幕。

ダイビング　飛込み（水泳）

タイプ　型、樣子。

タイプライター　印字機。

タイム　時、時間。

タイムス　時報、新聞。

タイムリー・エラー　重要な時機の失策。

タイラント　暴君。

タッチ　觸れる。

ダブル　二度、二重。

ダンピング　投賣、大安賣。

【チ】

チーム　組、隊、團。

チェック　小切手。

チェンジ　變更、交替（野球）

チップ　心づけ、祝儀。

チャーミング　可愛らしい。

チャンス　機會、好機。

チョーク　白墨。

【ツ】

ツー・ベース・ヒット　二壘打。

ツーリスト　旅行者、觀光客。

ツーリスト・ビューロー　旅行客の案內局。

【テ】

デー　日、一日、日中。

ティー　茶。

テーマ　主題。

テーラー　洋服屋、仕立屋。

ディクショナリー　字引、辭典。

ティケット　切符、入場券。

テキスト　原文、題目　教科書。

テスト・マッチ　優勝決勝試合。

デス・マスク　石膏にとった死面。

デッド・ボール　死球。（野球）

デパートメント・ストア　百貨店。

デヴィス・カップ　デ氏寄贈の世界庭球爭覇戰の賞杯。

デビュー　初舞臺。

デモクラシー　民主政治。

デモンストレーション　示威運動。

デリケート　纖細な。

テレヴィジョン　電送映畫。

テレグラフ　電報。

テレスコープ　望遠鏡。

テレフォン　電話。

テロ　暴力。

テンポ　行進曲の速さ。

テンペスト　嵐。

【ト】

トーキー　發聲映畫。
トーナメント　爭覇戰（庭球）
ドア　戶、扉。
トイレット　化粧室、便所。
ドクトリン　原理、主義。
ドクトル　醫師、博士、學者。
ドグマ　教理、獨斷論。
トップ　先頭。
トピック　話題、題目。
ドライ・アイス　氣體になる氷。
ドライブ　自動車遊行。
トラクター　牽引式自動車。
トラック　貨物自動車。
トラブル　紛糾。煩悶。
トランク　旅行カバン。
ドラマ　演劇、芝居。
トリック　からくり（映畫）
トロフィー　優勝杯。

【ナ】

ナイーブ　純眞な、素朴な。
ナイス　綺麗な、心地よい。
ナイト　夜、無智。
ナイン　九ツ、野球團。
ナショナル　國民の、全國の。
ナショナリズム　國家主義。
ナチス　ドイツ首相ヒットラーの率る國粹社會黨。
ナチュラリズム　自然主義。
ナッシング　無、無一物。
ナプキン　口拭ひの紙又は布。
ナンセンス　戲れ、無邪氣。
ナンバー　かず、番號。
ナンバー・ワン　第一人者。

【ニ】

ニュー　新しい。
ニックネーム　綽名。
ニュース　新聞、報知。
ニュース・ペーパー　新聞。
ニュー・ファッション　最新型。
ニューム　アルミニュームの略。

【ヌ】

ヌーボー　新參の、新調の。
ヌーン　正午、ひるの十二時。

【ネ】

ネーション　國民、民族、國家。
ネーチュア　自然、天然、天性。
ネーム　姓名、名刺、名前。
ネーム・カード　名刺、名札。
ネオ　新しい、新。
ネオン・サイン　ネオンといふ氣體の管を用ゐた電飾。
ネット　網、特にテニスの網。
ネット・プライス　正價。
ネバー・マインド　心配無用。

【ノ】

ノー　いや、さうではない。
ノー・カウント　採點に入れぬ。
ノース　北、北方。
ノースモーキング　禁煙。
ノート　筆記帳、雜記帳。
ノーヘッド　頭がない、無能。
ノーブル　高貴の、氣高い。
ノーベル　小說。
ノーベル賞　世界最高の文化賞。
ノーマル　正常の。
ノック　たたく、戶をたたく。
ノックアウト　拳鬪の打倒、野球の敵の投手を打ちまくつて交替せしむる事。
ノット　海の里程、海里

【ハ】

パーク　公園。
バース・デー　誕生日。
パーセント　百分率、比例。
ハーバー　港。
バーバー　理髮店。
ハーフ　半分、なかば。
バイシクル　自轉車
ハイスクール　高等學校。
ハウス　家、住宅。
バクテリヤ　細菌。
バス　乘合自動車、乘合馬車。
パステル　繪具の一種。
バタ　牛乳の脂肪質を精製した食料品
パッション　熱情。
バット　野球で球をうつ棒。
ハッピー　幸福な、仕合せな。
ハッピー・エンド　小說、芝居

映畫等の最後が目出度し目出度しで終るもの。
パノラマ　光線を利用して繪畫等實景の如くみせる仕掛。
バランス　平均。
バリケード　防塞、保壘。
バルコニー　露臺
バルーン　風船。
バロメーター　晴雨計。
ハンカチーフ　ハンカチ。
バンガロー　屋根の勾配のゆるい平家。
バンク　銀行、土手、堤防。
パンチ　拳鬪語で打擊。
ハンマー　槌、金槌、打金。

【ヒ】

ピース　平和、太平、媾和。
ヒータ　暖房裝置、加熱器。
ピープル　人民、國民、民衆。
ピアニスト　ピアノ彈奏者。
ピエロ　道化役者。
ピクニック　郊外散步、遠足。
ビッグ　大きな。
ピックアップ　撰擇。
ピューア　純粹な。
ヒューマニズム　人道主義。
ビルデング　建築、建築物。
ピンチ　危機。

【フ】

プーア　貧しい、みすぼらしい。
ファースト　第一、一次。
ファツショ　擧國一致の意味。
ファッション　流行
ファミリー　家族、家庭。
ファン　熱狂者、野次馬。
フィニッシュ　終。
フエーア・プレー　正々堂々の勝負。
ブック・ケース　本箱。
プライス　價格。
プラチナ　白金。
プラットフォーム　汽車の昇降場
プラン　計畫。
フリー　自由な。
フレンド　友人、味方、仲間。
プログラム　番附、番組。
ブロック　結合、團體。
プロペラ　飛行機や汽鑵の推進機。

【ヘ】

ペーパー　紙　特に西洋紙。
ペーヴメント　步道。
ヘゲモニー　覇權。
ペンシル　鉛筆、石筆。
ベンチ　腰掛、長い腰掛。

【ホ】

ボーイ　男兒、男の給仕。
ボイコット　同盟して排斥すること。
ボクサー　拳鬪家。
ホッケー　球戲の一種。
ホテル　旅館、宿屋。
ホワイト　白、白色。

【マ】

マーク　しるし、商標。
マーチ　行進、行進曲。
マイクロホン　ラヂオの送話器。
マスゲーム　團體競技又は運動。
マネー　金錢、かね、貨幣。
マネキン　廣告のモデルになる人
ママ　小兒が母を呼ぶ語。
マン　人、男、成人。

【ミ】

ミクロン　一米の百萬分の一。
ミスター　男子の敬稱。
ミッドルスクール　中等學校。

【ム】

ムーン　月。
ムーン・ライト　月光。
ムッシユー・君、あなた

【メ】

メー・デー　勞働者祭日、五月一日。
メダル　賞牌、記念章。
メンタル・テスト　知能考查。
メンバー　仲間、會員、人員。

【モ】

モーション　行動、運動、動力。

モーニング　朝。
モデル　模型、手本、模範。
モラトリアム　支拂猶豫。
モンスター　怪物。畸形。

【ヤ】

ヤード　英國の尺度の單位。
ヤンキー　米國人。
ヤング　若い、幼い、未熟。

【ユ】

ユートピア　理想鄕。
ユーモア　滑稽、諧謔。
ユニヴァシティー　綜合大學。
ユニオン・ヂャック　英國國旗。
ユニヴァサル　萬民の、普遍的。
ユニフォーム　制服、運動服。

【ヨ】

ヨードホルム　沃度の化合物。
ヨット　極めて快速力の小艇。

【ラ】

ライスカレー　カレーをかけた飯、ライスは米。
ライフ　生涯、生活。
ライブラリー　圖書館。
ラヂオ・ドラマ　放送劇。
ラッシユ・アワ　こみあひ時。
ラット　ねずみ。
ランゲージ　言語、語學。
ランチ　晝食。

【リ】

リーダー　讀本、讀者、指導者。
リッチ　富む、金持。
リング　ゆびわ、輪。

【ル】

ルーズ　弛い、締りのない。
ルール　規則、法則。
ルネッサンス　文藝復興時代。
ルンペン　浮浪人。

【レ】

レーク　湖、湖水、深紅色。
レギュラー　正規の、正選手。
レスリング　西洋の相撲。
レター　手紙、文字。
レベル　水平線、標準點。

【ロ】

ロボット　人造人間。
ローカルカラー　地方色。
ロマンテイック　空想的。

【ワ】

ワーク　仕事、職業。
ワールド　世界、人生、社會。
ワイヤー　針金。
ワンダフル　驚くべき、素的。

各國の國花

日本	櫻
滿洲國	高粱
英吉利	薔薇
佛蘭西	鳶尾
亞米利加	山査子
獨逸	矢車草
イラン	チウリツプ
埃及	蓮
伊太利	雛菊
西班牙	オレンヂ
メキシコ	仙人掌
ペルー	向日葵
羅馬(古代)	月桂樹
印度	罌粟
アイルランド	白詰草
中華民國	梅

八重樫祈美子著
「花と文學」より

立身案内
學校職業

天上天下唯我獨尊。(釋迦)

○立てそむる志だに撓まずば、龍のあぎとの玉もとるべし。(大國隆正)

○成功を望まば、先づその職業を愛するを要す。(マーデン)

○成功の秘訣は、目的の一定不變なるにあり。(ヂスレリー)

○志立たざれば、天下成るべきの事なし。百工技藝と雖も、未だ志に基ざるものあらず。志立たざれば、舵なき舟、轡なき馬の如し。漂蕩奔逸、何の到る所かあらん。(王陽明)

○知者は惑はず、仁者は憂へず、勇者は懼れず。(論語)

○賢からんよりは、眞面目なれ。(西郷南州)

○汝自身を知れ。(ソクラテス)

○かたつむりそろ〳〵のぼれ富士の山。(一茶)

陸海軍軍人になるには

滿洲上海兩事變以來、日本國民の軍事に對する關心は限りなく高められ、赤き血潮に燃ゆる愛國の青少年がこぞつて陸海軍人を志願するに至つた事は國防の充實、國家の安泰に取つて誠に深い喜びである。

今や陸海軍ともに將來日本の國運を双肩に擔つて立つべき熱血の青少年を双手を擴げて待つて居る。「陸海軍軍人たらんには何等の學資をも要せず、眞面目な眞に國を思ふ青少年であればよい」と言ふ陸海軍の聲明に依つて覗ふ事が出來る。

さてそれならば如何にしたら軍人になれるか、又どんな立身の途があるか。概要を述べやう。

陸軍幼年學校

所在地＝東京市牛込區戸山ケ原

目的年限　陸軍幼年學校は將來陸軍將校となる希望を有する者の爲めに中學四年程度迄の普通學と武官になるに必要な心身の教育を施す學校で、三年の修業年限を經て直ちに陸軍士官學校豫科に入學する資格を得る。

入學資格　滿十三歳より滿十五歳迄の男子にして中學一年程度の學力を有するもの。

學資　特待生は官費、半特待生は月十圓、自費生は二十圓の學費が必要である。學費の中には寄宿舍生活を送るのであるから當然食費等が包含されて居る。

尚くわしい事を知りたい人は二錢切手封入、各地聯隊區司令部、麹町區代官町教育總監部、戸山陸軍幼年學校宛に志願者心得の送附を申込めば、直ちに送られるから熟讀玩味各自の目的を定められたい。

本校に入學すれば、所定の年限と勉强により陸軍將校となり得る事は確實で、陸軍士官學校へ進み、更に陸軍大學に至れば洋々たる無限の前途が展開されるのである。

陸軍士官學校

所在地＝東京市牛込區市ケ谷

目的年限　陸軍士官學校は我皇軍の根幹たるべき陸軍將校を養成する官費の學校である。年限は豫科二ケ年、本科一年十ケ月で豫科は高等學校程度の學科を修得し、二ケ年の途中から自分の希望の兵科に入つて、二ケ年修業と同時に、士官候補生として五ケ月間隊附勤務生をな

し、軍隊内の教育を受け、後本科に入校する。本科は主として軍事學を學び、一年十ケ月の修業後、直ちに見習士官として、再びもとの隊附となり二ケ月勤務した上で少尉に任官される。

入學資格　㈠陸軍幼年學校卒業者。㈡現役下士官からの志願者は、滿二十五歳未滿。㈢在營中の幹部候補生、又は現役間の志願者は滿二十五歳未滿。㈣陸軍部外即ち一般からの志願者は滿十六歳から滿二十歳未滿。學歴には制限はないが學力の程度は中學校第四學年第二學期修業の程度。

學資　總べて官費で其の上、手當として月額豫科生徒には四圓、本科生徒には六圓五十錢支給される。

陸軍工科學校

所在地＝東京市小石川區小石川町

目的年限　陸軍工科學校は陸軍の兵器類の製造及び修理の技術をつかさどる下士官及准士官即ち銃工長、電工長、鞍工長等の陸軍砲兵、工兵の諸工長を養成する學校である。

本校は陸軍士官學校を出ないで、獨學で陸軍將校になる最も都合のよい學校である。

修業年限は二ケ年で卒業の上は三等工長(伍長の階級)に任官し、軍隊に配屬せられ各々專門の兵器技術をつかさどる幹部となる。更に進級し一等工長になれば、甲種學生採用試驗受驗の資格を得、甲種學生卒業者は砲兵科又は工兵科少尉に任ぜられる。

入學資格　滿十七歳以上滿二十歳以下の男子にして學歴には制限ないが、高等小學校卒業程度の學力があれば入學試驗には充分である。

學資　生徒は總て寄宿舍に起居し一切官費である。尚其の上、手當として月額四圓を支給される。

陸軍通信學校

所在地＝東京市杉並區馬橋

目的年限　陸軍通信學校は優秀なる無線通信にあたる工兵下士官を養成し軍の重要なる通信に充當するのである。二ケ年の修業を經て卒業すれば通信下士官となり、成績の優秀なものは任官後、少尉候補生から通信將校に昇進出來る。他方現代の通信界は無電萬能の觀があるので退官後と雖も立派に無線通信技術を以て立身する事が

出來る。
入學資格　滿十五歳より滿十八歳未滿の男子、學歴には制限ないが、入學試驗問題は高等小學卒業程度。
學　資　衣食住其の他修學上必要なるものは官給され毎月四圓の手當を支給される。

陸軍戸山學校軍樂隊

所在地＝東京市牛込區戸山町
目的年限　陸軍軍樂隊は他の學校の樣に戰鬪を主とするものでなく平時、戰時を通じて軍樂を以て陸軍に奉仕するので、修業年限二ケ年中に陸軍の諸法規、音樂に關する諸學科、語學、普通學等を授けられ他に術科として軍樂器の一種を選定して練習するのである。一ケ年修業後は樂手補（上等兵の階級）となり營外に居住し、樂手補を命ぜられた年の十二月から數へて五ケ年の現役に服しなければならない。以後は志願により再服役が許され爾後累進し、一等樂長（大尉相當官）迄なれる。
入學資格　滿十六歳以上滿二十歳未滿。試驗科目は高等小學卒業程度。
學　費　校內に起居し生徒として要す物品一切を官給され、兵器、樂器、書籍、器具等を貸與又は支給され、其の上に月額四圓の手當を受ける。

陸軍現役兵志願

現役志願兵と云ふのは、滿二十歳にならない內に、滿十七歳から滿十九歳迄の內で現役兵を志願する事である。陸軍軍人として立身するには種々の途があり、特に幼年學校、士官學校へ入學すればよいのであるが、一般に學資、學歴はないが身體は丈夫であるし、家庭の顧慮もない人は現役志願兵より立身する方法が得策である。入隊後下士志願をして下士官となり、それから努力して陸軍士官學校豫科に入學してもよいし、又准士官となつてから四ケ年以上勤務すれば成績優秀なる者は少尉に任官する事が出來る。
志願者資格　滿十七歳以上徴兵適齡未滿の者にして、二年間在營する事を志願するもの。

陸軍少年航空兵志願

陸軍の航空兵になるには、㈠現役兵から航空兵科を志願し、㈡下士官になつてから陸軍飛行學校に入學する、㈢少年航空兵として最初から熊谷陸軍飛行學校生徒、今迄は所澤飛行學校であつたが（昭和十年八月一日の軍令第十號によつて熊谷陸軍飛行學校が新設され、少年航空兵の教育は此處で行はれる事となつた）となる三つがある。

少年航空兵は操縱生徒と技術生徒の二種に分けられ、操縱生徒は將來軍用飛行機の操縱士となるべき者を養成し、技術生徒は軍用航空器材の整備の實務に就くものを養成するのである。少年航空兵生徒がその課程、操縱生徒は二ケ年、技術生徒は三ケ年を修業すると、それぞれ全國の飛行聯隊に配賦され、直ちに伍長勤務上等兵として服役し、努力次第で逐次累進し六年目頃には少尉に任官する。

今や列國は各自空軍の威を競つて居る。空軍の躍進は今後益々大なるものがあらう。此の時に於て少年航空兵の使命は各方面の注視の的となつて居る。
入學資格　操縱生徒は滿十七歳以上十九歳以下。技術生徒は十五歳以上十八歳以下。入學試驗問題は高等小學校卒業程度。
航空兵は全く專門の技術兵であつて特に體格、學識の優秀なる者を要求し採用規定も他の兵に比して非常に嚴格である。
學　費　服裝起居及修學に要する費用等は一切官費であつて、其の上手當として毎月四圓給せらる。

海軍兵學校

所在地＝廣島縣江田島
目的年限　海軍兵學校は海軍兵科將校を養成するの目的の下に生徒を教育し、砲術、水雷、統卒、航海、運用の兵學を學習せしめ、將來海軍の中堅たる高等武官を養成するところである。修業年限は四ケ年。
入學資格　四月一日を基準にして滿十六歳以上十九歳迄の者にして學歴には制限ないが、學力は中學第四學年第二學期修了程度。
學　費　生徒は入校の日から海軍兵籍に編入せられ、一切官給せらるる。
學校を卒業すると海軍少尉候補生となり、練習艦隊に乘組み內地航海、續いて遠洋航海に出るのである。海軍少尉候補生の期間は一ケ年を經ると少尉となり、海軍士官の生活が始まる。

尙詳細を知りたい方は廣島縣江田島海軍兵學校生徒採用試驗委員宛問合せるがよい。

海軍機關學校

所在地＝京都府中舞鶴

目的年限　海軍機關學校は機關將校を養成するところ、卽ち各諸艦の機關一般に對する機關術を學習せしむる學校であつて修業年限は四ケ年。

入學資格　海軍兵學校同樣四月一日を基準として、十六歲以上十九歲迄の者。試驗科目は中學四年二學期修了程度。

學　費　生徒は入校の日から海軍兵籍に編入せられ一切官費。詳細を知りたい方は海軍機關學校海軍生徒採用試驗委員宛に問合せる事。

海軍經理學校

所在地＝東京市京橋區小田原町三丁目

目的年限　海軍經理學校は海軍に必要な會計、經理及びその硏究調査を行ひ、その修業年限は四ケ年である。

入學資格　四月一日を基準として滿十六歲以上二十一歲迄の者で試驗科目は前二者同樣中學四年第二學期修了程度、本校卒業者は主計士官となり努力次第で佐官、將官(最高 ― 主計中將)迄出世出來るのである。

海軍志願兵

我が海軍で如何なる理由で志願兵の採用に重きを置いて居るか、それには種々の理由があるが簡單に說明すれば

(一)　日本獨特の優秀なる艦船、兵器、機關等の活用は優れた日本靑年の手に依らねばならぬ。

(二)　最近科學の粹を集めた海軍を諒解する爲めには長期の服役を必要とする。

(三)　特務士官、准士官として活躍を期待する等に歸する事が出來る。戰艦陸奧、長門も、巡洋艦高雄、那智も其の效力の發揚には志願兵の力に俟つ事が多い。

志願資格　滿十七歲以上二十一歲未滿の者で正規の身體檢査及び學術試驗を得て採用される。學術試驗は國語及び算術の二科目で高等小學卒業程度である。

志願兵の入團期は六月一日であつて先づ四等兵を命ぜられ、六ケ月の基礎敎育を經て、三等兵として艦船に乘

込む事となる。一年過ぎると新しい兵が入つて來るので勉强の時間も出來、二ケ年を經過すれば、砲術學校、水雷學校、運用學校、潛水學校、機關學校、經理學校、飛行學校等に入學する資格が出來る。飛行學校を除く他の學校には普通科と高等科とがあつて各高等科の優等生は畏くも恩賜品御下賜の光榮に浴するのである。

詳細を知りたい方は、海軍省頒布の「海軍省志願兵の栞」を市町村役場に又は各鎭守府に請求の上熟讀せられん事を希望する。

海軍兵職階表

兵科	一等水兵	二等水兵	三等水兵	四等水兵
航空科	一等航空兵	二等航空兵	三等航空兵	四等航空兵
機關科	一等機關兵	二等機關兵	三等機關兵	四等機關兵
軍樂科	一等軍樂兵	二等軍樂兵	三等軍樂兵	四等軍樂兵
看護科	一等看護兵	二等看護兵	三等看護兵	四等看護兵
主計科	一等主計兵	二等主計兵	三等主計兵	四等主計兵

兵科	准士官	下士官		
	四ケ年	三ケ年四ケ月	一ケ年四ケ月	一ケ年四ケ月
	特務兵曹長	特務一等兵曹	特務二等兵曹	特務三等兵曹
航空科	航空特務兵曹長	航空特務一等兵曹	航空特務二等兵曹	航空特務三等兵曹
機關科	機關特務兵曹長	機關特務一等兵曹	機關特務二等兵曹	機關特務三等兵曹
軍樂科	軍樂特務兵曹長	軍樂特務一等兵曹	軍樂特務二等兵曹	軍樂特務三等兵曹
看護科	看護特務兵曹長	看護特務一等兵曹	看護特務二等兵曹	看護特務三等兵曹
主計科	主計特務兵曹長	主計特務一等兵曹	主計特務二等兵曹	主計特務三等兵曹

以上一兵から下士官、准士官、特務士官(特務少尉、特務中尉、特務大尉)と順次進むことが一般の進級方法であるが、努力次第で現役下士官から海軍兵學校、機關學校、經理學校の入學試驗を受けることが出來る。海軍部內よりの志願に對しては、一般志願者の定年齡よりも二ケ年を延長されて居る。

海軍少年航空兵志願

我が海軍では昭和五年度から神奈川縣田浦町横須賀海軍航空隊に少年航空兵と云はれる幼年志願兵の特殊制度を設けた。是が一般から少年航空兵と呼ばれるが制度の上では豫科練習生と呼ぶ。其の第一回卒業生が昭和八年海軍飛行家の卵として夫々各艦に配乘され、半ケ年の艦

上勤務に付いた。之が終ると各自の適性に應じて、操縦員、偵察員に分けられ、愈々實地の飛行練習を始めるのである。

入隊資格　滿十五歳以上滿十七歳迄。試驗課目は高等小學校卒業程度。海軍は勤務の性質上、特に體格、學識共に優秀なものを要求するが航空兵は猶更である。從つて其の採用は非常に嚴格である。

學　費　嚴選を經て採用されると其の日から四等航空兵となり、三度の食事は勿論、服裝、教科書その他一切官費である外一ケ月六圓二十錢の小使が支給される。

一年進級する每に一階級づゝ昇進し、卒業の時は一等航空兵となる。之れから六ケ月の艦隊勤務を終へて霞ケ浦（操縦）か横須賀（偵察）の海軍航空隊で一ケ年の空中教育を終へると三等航空兵曹となり、以後飛行勤務に服しながら五年位で航空兵曹長（准士官）となり、更に三年位經ると航空特務少尉となる。尚詳細は各市町村役場の兵事係に問合せるがいゝ。

海軍工廠見習工

海軍工廠は横須賀、呉、佐世保の三ケ所にあつて軍艦、驅逐艦、潛水艦、飛行機及各種の兵器等を製造若くは修理する處で、帝國の發展と共に逐年擴張せられ、最新式機械と、約八千（横須賀）の從業員が朝から晩まで働いて居る。

資　格　滿十四歳以上十七歳以下の男子、學科試驗は高等小學卒業程度。

待　遇　見習職工は採用の日より日給四拾五錢を給せられ、逐次昇給し兵役に服しても滿期退營後は再び工廠に勤むることが出來る。又心掛一つで教習所補習科や、技手養成所に入所して進んだ學術の研究をすることも出來、現に見習職工出身者で技師（高等官）に任ぜられた者も澤山ある。

普通文官となるには

普通文官と云ふのは判任文官の事である。官吏には高等文官と判任文官の二つがあり、諸官公署に於て國家事務の處理に當つてゐる。

判任官になるには、判任文官の資格を持たなければならない。文官任用令には次の如く規定してある。

第六條　判任文官は左の資格の一を有するものより之を任用す。

一、中學校又は文部大臣に於て之と同等以上と認定したる學校を卒業したる者。

二、高等試驗令第七條の規定により高等試驗を受くる事を得る者。

三、專門學校令に依り法律學、政治學、行政學又は經濟學を教授する學校に於て三年の課程を履習し其の學校を卒業したる者。

四、普通試驗に合格したる者。

五、高等試驗に合格したる者。

六、二年以上文官の職にありたる者。

七、四年以上雇員たる者。

然し此の第六條に適當する者は判任文官たるの資格を有して居るに過ぎなくて、就職には相當骨が折れる事は云ふ迄もない。然し四、五、六に當る者は最も採用率が多いのである。以下普通試驗に就いて述べる。

受驗資格　普通試驗は高等小學校卒業者ならば何人を問はず受驗出來るのであつて、程度は中學の學科目中の五科に就て行はれる。尤も試驗施行の官廳の必要によつて更に科目を加へる場合もあるが大體國語、漢文、作文、習字、地理、歴史、數學、憲法、行政法、民法、又は刑法か經濟學である。但し以上の科目中の一二科目は施行官廳によつて、取捨選擇自由になつて居る。普通試驗に合格し更に奮起一番、難關高等文官試驗を突破するならば局課長から內務部長、等國家の中樞官吏になる事も不可能でないのである。要するに各人の奮鬪次第にあるから前途有爲の諸君の奮起を促したい。

高等文官になるには

文官の職務は行政、司法、外交、軍法務等に分れ、大小諸官署の何れも最高首腦官は、卽ち高等文官である。故に國家行政機關の運用は、高等文官の手に依つて行はれてゐるのである。任免の上から云つて天皇御親ら任命し給ふ官吏であり、從つて其の責任は實に重大である。

然らば此の高等文官になるには如何に進むべきか。一般普通の順序として中學校、高等學校文科、帝國大學法科と進み、在學中或は卒業後一年位で高等文官試驗に合格すれば、高等文官としての前途は重に洋々たるものである。又他に中學を經、私立大學の法科に學び、而して高等文官試驗に合格するのも一方法である。

全然獨學で進まんとする人は第一に專檢（專門學校入學資格檢定試驗 — 科目中學卒業迄の全科目）實檢（實業學校卒業資格檢定試驗 — 科目甲種實業學校卒業迄の全科目）等を取り、次に豫備試驗を受けるのである。高等文官試驗には豫備試驗と本試驗があつて、高等學校高等科又は大學豫科を修了したもの或は之と同等以上の學力を有すると認められた者は豫備試驗を免除されてゐる。豫備試驗に合格し、最後に高等文官試驗を受けるのである。

高等文官試驗
- 行政科—行政官吏（諸官省官吏）
- 司法官—裁判所官吏・辯護士
- 外交科—外務省官吏

尙、高等學校、大學（官私）は最後にかゝげたから、參考に供せられたい。

學・費　高等學校三年間の費用として大體概略は授業料入學金及校友會費—參百圓。寄宿食費—六百圓。教科書代金五拾圓。制服制帽—五拾圓。雜費—五百圓。合計—千五百圓。

帝國大學三年間の費用としては大體授業料—參百六拾圓。下宿料—九百圓。制服制帽靴代—七拾圓。雜費—九百六拾圓。合計金貳千貳百九拾圓。（參考書代を含まず）

私立大學の一年間の學費（平均）としては

豫科＝入學金—五圓。教科書代—拾五圓。授業料—九拾圓前後。其他雜費、被服費等、高等學校と大同小異。校友會費—拾壹圓。教練費—五圓。

大學部＝入學金—五圓。校友會費—拾壹圓。授業料—百圓前後。教練費—五圓。

其他の諸雜費は官立大學と大同小異。

外交官になるには

國際聯盟脫退及び滿洲國獨立、海軍軍備縮少會議等の非常時局を控へて、今や全く文字通りの外交戰である。從つて優秀なる外交官の頭腦と手腕こそ、此の非常時局に際して最も望まるゝ所のものである。

外交官になる最も順當の道は矢張り中學校、高等學校文科、帝國大學法科或は經濟學科に進み、外交官試驗に合格する事である。現在の外交の衝に當つてゐる外交官の主要な人々は、大抵此の經過を經て來たのである。他に私立大學等の法科に學び、外交官試驗を取る方法のある事勿論であつて、更に獨學の人は前の高等文官に就て述べたと同樣に豫備試驗を經て、外交官試驗に向ふ道がある。此の外に

外務省書記生試驗　外務省書記生とは大使館、公使館の書記であつて、其の地位は判任官である。此の試驗は學歷に制限がない。從つて獨學の人々に取つては好都合であるが、試驗科目は專門學校卒業程度である。每年合格者は十名内外に過ぎないが、此の書記生試驗に合格すれば、其の殆ど全部が國家の費用で外國に派遣され、大使館、公使館、領事館の書記生として華々しい活躍をなす事が出來るのである。

外務省留學生試驗　外務省留學生は、外務大臣の必要と認むる外國語講習のため、外國に留學せしめらるゝものである。

受驗資格は出願の時、年齡滿十八歲以上、二十五歲以下で中學校及び中學校以上の學校を卒業したものに限られてゐる。合格後は、將來外務省書記生となる者であるから、留學費用は全部國家の支辨である。外國語に自信のある人は留學生試驗を撰むべきである。

醫師になるには

醫師になるには、どうすればよいか、先づ醫師法第一條は次の樣に醫師の資格を規定して居る。

一、大學令に依る大學に於て醫學を修め、學士と稱することを得る者、又は官立公立若くは文部大臣の指定したる私立醫學專門學校醫學科を卒業したるもの。

二、醫師試驗に合格したるもの。

三、外國醫學校を卒業し、又は外國に於て醫師免許を得たる者にして命令の規定に該當する者。

右の中の第二の醫師試驗と云ふのは、中學卒業若くは之と同等以上の資格を取得した後、修業年限四ケ年以上の醫學校を卒業した者でないと受けられないので、事實上學校を經ずして獨學で醫師にはなれないのである。

然らば醫師になるには、どう云ふ學校があるかと云へば、

東京帝國大學醫學部	東京市本鄉區本富士町
京都帝國大學醫學部	京都市上京區吉田町
東北帝國大學醫學部	仙臺市北四番町
北海道帝國大學醫學部	札幌市北八條西六丁目

九州帝國大學醫學部　福岡縣筑紫郡千代町
京城帝國大學醫學部　京城府蓮建洞
岡山醫科大學　岡山市岡町
新潟醫科大學　新潟市旭町通一番町
千葉醫科大學　千葉縣千葉郡都村
金澤醫科大學　金澤市土取場永町
長崎醫科大學　長崎市里鄉
大阪帝國大學醫學部　大阪市北區常安町
名古屋醫科大學　名古屋市中區鶴舞町
熊本醫科大學　熊本市本庄町

入學資格　高等學校卒業者又は之と同等以上の學力あるもの、學習院高等科を卒へたる者、大學部に於て試驗を行ひ高等學校を卒へたる者と同等以上の學力ありと認めた者、尙北海道帝國大學醫學部及京城帝國大學醫學部に於ては豫科（高等學校同程度）を募集する。

修業年限　四年。

學費　醫學部四ケ年間の學費として

入學料—五圓。授業料—四百八十圓。下宿料—千二百圓。制服制帽代—六拾圓。諸雜費（小使金）九百圓。外に敎科書、參考書學用品、諸會費等合せて—五百圓。合計金參千六拾五圓。

高等學校三年間の學費として大體千五百圓位必要である。外私立の醫科大學として、

慶應義塾大學醫學部　東京市四谷區信濃町
東京慈惠會醫科大學　東京市芝區愛宕町
日本醫科大學　東京市本鄉區駒込千駄木町

入學資格　豫科—中學校卒業者及び同程度の資格を有するもの。

修業年限　豫科—二年、本科—四年。

授業料　何れも本科は年額二百圓以上二百六拾圓。

專門學校としては

日本大學專門部醫學科　東京市神田區駿河臺
日本醫學專門學校　東京市本鄉區駒込千駄木町
東京醫學專門學校　東京市淀橋區大久保一丁目
東京女子醫學專門學校　東京市牛込區河田町
昭和醫學專門學校　東京市荏原區中延町
大阪高等醫學專門學校　大阪市外高槻町
九州醫學專門學校　久留米市小森野町
岩手醫學專門學校　盛岡市仁王第一割宇內丸
京城醫學專門學校　京城府

臺灣總督府醫學專門學校　臺北市東門町

入學資格　中等學校卒業者及び之と同程度の學歷を有する者。

修業年限　豫科一年、本科四年。

授業料　年額百五拾圓。

齒科醫師になるには

齒科醫師は齒科醫業を營む者であつて、一般醫業とは劃然と區別されて居る。齒科醫術が一般醫術と異るのは所謂技工を特に必要とするからである。

齒科醫師になるにはどうすればよいかと云へば、文部大臣の指定した學校を卒業するか、又は齒科醫師試驗に合格しなければならない。

文部大臣の指定した專門學校としては

東京高等齒科醫學校（官立）　東京市本鄉區湯島三丁目
東京市齒科醫學專門學校（官立）東京市神田區三崎町
日本齒科醫學專門學校（私立）　東京市麴町區富士見町
日本大學專門部齒科（私立）　東京市神田區駿河臺
大阪齒科醫學專門學校（私立）　大阪府北河內郡牧野村
九州齒科醫學專門學校（私立）　福岡市今泉町
京城齒科醫學專門學校（私立）　京城府長谷川町
東洋女子齒科醫學專門學校（私立）東京市本鄉區元町
東京市女子齒科醫學專門學校（私立）　東京市品川區大井水神町

入學資格　中等學校卒業者及同卒業資格者。

修業年限　四年。

授業料　八拾圓以上百五拾圓迄。

何れも無試驗開業の特典がある。

齒科醫學校としては

日本大學齒科醫學校（私立）　東京市神田區駿河臺

修業年限　三年（夜間授業）

授業料　月額七圓。

京北高等齒科醫學校（私立）　埼玉縣大宮町

修業年限　三年。

授業料　年額八拾圓。

東北齒科醫學校（私立）　仙臺市東八番町

修業年限　三年（夜間部は四年）

授業料　年額百貳拾圓、夜間部は八拾圓。

入學資格—何れも中學卒業者又は同卒業資格者。

何れも齒科醫師試驗の受驗資格がある。

齒科醫師試驗

受驗資格　中學校卒業又は之と同等以上の資格を取得した後、修業年限三ヶ年以上の齒科醫學校を卒業したる者。

受驗地　東京市及び廣島市（春秋二回）

銀行員となるには

近來經濟生活の發達と共に銀行の業務は繁雜に向ひ、從つて之に從事する銀行員を需要する事が頗る多くなつた。此の銀行と云ふのは、特に信用の上に立つて金錢の取扱ひをする仕事だけに餘程細心の注意を要するものでや、もすると思はぬ間違ひが出來、此の間違ひが信用に多大の影響を與へるものであるから、極めて注意周到で緻密な頭を有する人でなければ、銀行員として不向きなのである。

銀行員となつて出世しやうと志す人は、先づ中學校或は商業學校を卒業し、銀行に就職するのが最も普通である。又、中學校、高等學校を經、帝國大學經濟學科或は商科を出るか、商科大學豫科を經て本科（修業年限各三年即ち高等學校、帝國大學を卒業すると同樣の期間）を卒業するならば、普通には一層出世の道が速いと思ふ。又、私立大學の商學部を卒業し、銀行に就職する方法もある。

更に又、高等小學を卒業したゞけて、給仕或は見習生として銀行に入り、眞面目に働き大いに出世した人もある。

銀行によつては高等小學校卒業生を見習として採用し學費を與へて夜間商業學校へ通學させる所もあるから、學歴のない人も、銀行員としての前途が大いに開かれて居るわけである。

文士になるには

文士即ち小說家、作家になるにはどうすればよいか。官吏や醫師になるのと違つて、高等文官試驗に合格するとか、一定の大學を卒業すると云ふ必要はないが、文士としての素養を作る爲めに、官立或は私立の大學の文科或は社會科で學ぶと云ふ事が必要である。然し學校に入らないで文學に關する澤山の本を讀破し、研究し、文學の素養を作つても大學に入ると何等變らない。文學界に於ては老人も、青年も、男も女も皆同一樣各人の技量一

つて立身出來るのである。

故に文學的趣味を持つてゐて、自分が自由に觀察した事を簡明に書き得る事、即ち銳敏な觀察眼を有し事物の眞實をつかむ事、大家の作を範として文を錬る事。絕へざるこうした鍛錬が文學を志す人には一番必要な事である。又文學は人生の表現である。從つて種々樣々な人々の生活を細く觀察しなければならない。

最後に文士として世に認められるには並大抵の努力では容易にない。故にあく迄も自分の志を貫徹すると云ふ忍耐心が必要となつて來る。以下文士志望者の辿るべき道としては

㈠大家との子弟關係—子弟關係と云ふのは、文壇に名をなして居る小說家と子弟關係を結んで文學的指導をして貰ふ事である。完成した作家は自分の子弟と、色々文學上の問題や人生の問題を議論する。その間に弟子の作品等にも目を通す。こうして居る中に先生の立場にある作家は自分の子弟を世に紹介してくれるのである。斯くしてその子弟は小說家の地位を獲得する。

㈡懸賞應募—新聞や、一流の文學雜誌では定期的又は時々新人の小說家の紹介のため、懸賞によつて作品を募る。文學青年は之に應募して小說を書き、若しそれが當選すれば、その作者は多大の懸賞金を得るのみならず、世間から小說家として待遇され、小說家としての地位を得るのである。

㈢同人雜誌—之は文學青年の普通一般に取つてゐる方法である。文學青年達は常に文學青年同志で、文學上の議論をしたり、小說家の作品を研討し、又自分でも作品を書く。彼等は此の自分の作品を何等かの方法で世間に發表してみたいと思ふ。然し新聞や雜誌は此の樣な無名作家の作品は發表してくれない。そこで彼等はお互に金を出し合つて同人雜誌を出版し、それに依つて文壇の大家、又は一般の人々に認めて貰はんとするのである。

畫家になるには

畫家になるには先づ第一に天分がなければならない。然し、いくら天分があつたとして世の中に畫家として認められるには容易な努力ではない。畫家となる一番近道としては矢張り美術學校に入學する事である。

東京美術學校　東京市下谷區上野公園

入學資格　中學校卒業者及び同資格者。

修業年限　本科―五年。圖畫師範科―三年。
學　　費　授業料―年額八拾圓。研究科―年額五拾圓。

日本美術學校　東京市戸塚荒井山

入學資格　小學校卒業者、中學校卒業者及び同資格者。
修業年限　繪畫科―二年。彫塑圖案科―三年。
學　　費　入學金五圓。授業料―年額七拾八圓。

帝國美術學校　東京府下武藏野町吉祥寺

入學資格　中學校卒業者及び同資格者。
修業年限　本科―五年。師範科―三年。
學　　費　授業料―年額八拾五圓。研究料―年額五拾圓。

東京女子美術學校　東京市本鄕區菊坂

入學資格　高等女學校卒業者及小學校本科正教員。
修業年限　高等師範科―四年。高等科―二年。
學　　費　授業料―年額七拾圓。校費年額六圓。

以上に列記した學校に入る事の不可能な人は、畫家の門下生となる事である。通學する者と其の家の書生（傍學生）とあるが、之は知合を辿るか、他の紹介を求めなければ駄目である。

最後に畫家として立つて行くには、どうしても平常から眼の働きを養成するやうに心がけなければならない。畫家の眼は鋭敏でなくてはならぬ。鋭敏な眼を養成すると云ふ事は自然を見てピンと感ずる眼、心の底ではつきりと自然を、美術を、映感する心眼を養成する事である。

音樂家になるには

音樂家を志す人は、先づ自分の音樂的才能を靜かに考へて見なければならない。總ての藝術と云ふものは各々個人々々の先天的な特殊才能に俟つて、始めて成し遂げられるものなのであるから、自分は果して音樂家になる素質があるか否かと云ふ事を決定するのである。若し自分で判らなかつた時は、音樂の道に携つてゐて信じられる先輩の意見を聞いて見る。場合によつては才能檢査をやつて貰ふ。又聲樂を志したならば、一流の聲樂家の門を叩いて才能檢査を乞ふのも一方法である。

自分に音樂の才能があると信じたなら、順序として音樂學校に入學するのが正しいのである。

東京音樂學校（本邦唯一の官立）東京市下谷區上野公園

學　　科　本科と師範科との二科があつて、本科を聲樂部、器樂部及作曲部の三部に分ける。師範科は師範學校、中學校、女學校の音樂科教員の養成を目的とする。又、本科に入る者の爲めに豫科を設けて居る。

入學資格　豫科―中學又は女學校の四年修了者。本科―豫科を卒業した者。又は豫科入學の資格を具へ試驗の上、豫科卒業と同等以上の學力ありと認めたるもの。師範科、師範學校、中學校、女學校を卒業したるもの又は之と同資格者。

學　　資　豫科、本科―年額八拾圓。師範科―なし。
修業年限　豫科―一年。本科―三年。師範―三年。

外に私立の音樂學校としては

東洋音樂學校　東京市豐島區雜司ヶ谷町
日本音樂學校　東京市澁谷區常盤松
東京高等音樂院　東京府下國立大學町
大阪音樂學校　大阪市東區味原町

小學校教員になるには

小學校教員の種類は、之を五つに分ける事が出來、そして其の各々資格や、待遇が違ふのである。

一、高等小學校本科正教員

師範學校本科第一部　之は本正とも云ひ、小學校教員中一番資格や待遇がよい。師範學校一部卒業者や師範學校二部卒業生などは皆本科正教員になれるのである。小學校卒業だけの學歷しか持つて居ない者や、師範學校以外の中等學校を卒業した者が、此の本科正教員の資格を得るには、各府縣で施行する小學校本科正教員檢定試驗に合格しなければならない。試驗の學科目や程度は師範學校で敎へるものと同じ位である。兎に角、合格するには相當の勉强が必要であるから、尋常小學校准敎員檢定試驗と云ふ樣な程度の低い試驗から、順次に此の試驗に進むのが最も賢明有效な方法であると思ふ。

入學資格　修業年限二ヶ年の高等小學校卒業若くは、年齡十四歲以上にして同等以上の學力あるもの。入學の年の四月一日に於て年齡滿十四歲以上十八歲未滿のもの。
入學試驗　高等小學校二年修了の程度。
修業年限　五年。
學　　費　公費生は縣によつて違ふが、月額七、八圓位、支給される。私費生は月額二十五圓位の學費が必要である。

師範學校本科第二部　中學校卒業者、中等實業學校卒業者、又は之と同程度の學力を有することを入學

資格として修業年限は二ケ年である。

二、尋常小學校本科正教員　尋正とも云ひ、尋常小學校本科正教員檢定試驗に合格しなければならない。前に述べた本科正教員檢定試驗よりずつと程度が低いが學科目が相當多いから多分の奮鬪を要する。之は本正合格者が尋常科高等科何れも擔任出來るに反して、專ら尋常科のみを擔當するのである。

三、專科正教員　之はある特種の學科目に就てのみ本科正教員として、教授が出來る小學校教員で、專科正教員檢定試驗に合格しなければならない。專科正教員は農業科、工業科、商業科、手工科、圖畫科、音樂科、體操科、英語科、家事科、裁縫科等の十種類がある。此の試驗には各自の受驗する科目の外に、教育學、教授法、學校管理法等が加はるだけで非常に科目が少いので割合に樂である。

四、小學校准教員　此の場合も小學校准教員檢定試驗に合格しなければならない。試驗科目や程度は大體本正と尋正との中間である。

五、尋常小學校准教員　矢張り尋常小學校准教員檢定試驗に合格しなければならないが、小學校を卒業しただけの人は、之が一番好都合である。程度は大體高等小學三年程度と云ふ所である。

鐵道職員となるには

蜂の巣の様な線路網、間斷なき列車の運轉、然も規則的な正確な時間によらざるを得ない。こうした鐵道業務には特殊な訓練と、素質が必要である。故に鐵道省では其の職員に特殊な教育訓練を施して、交通萬端遺漏なきを期して居る。從つて鐵道職員となつた後も、鐵道局教習所、普通部、專修部、專門部等に入學すれば、職員は所定の業務に從事しながら勉學する事に依つて、夫々の學校を經て立身する事が出來るのである。然らば先づ鐵道職員になるにはどうすればよいか。大體を云へば、第一に鐵道採用試驗に合格しなければならない。

受驗資格　鐵道の採用試驗を受けるには、受驗資格と云ふものはない。小學校だけを卒業した者も、高等小學校を卒業したものも年齢は何歳でもよいのである。試驗科目は普通算術、國語、地理及び歷史等であつて、學科試驗に合格した者は、更に人物試驗を經て最後に體格檢査を受け、そして全部に合格して始めて就職する事が出來るわけである。

受驗の手續方法　鐵道採用試驗は全國で施行する。鐵道は全國を六つの鐵道局即ち東京、名古屋、大阪、門司、仙臺、札幌等に分けて居る。之等の六鐵道局に夫々五、六箇所の運輸事務所があつて、採用試驗はこれ等の運輸事務所或は鐵道局で施行するのである。從つて採用試驗を受けやうとするものは、先づ願書を運輸事務所に提出しなければならない。そして又試驗合格後は、願書を提出した運輸事務所管內に勤務する事となるので、つまり願書を提出する運輸事務所は勤務箇所を決定するわけである。採用試驗は一年に一回で新聞に募集するのでないから注意しないと手續を忘れたり、時期を失つたりするから、詳しい事は近くの驛に聞くと親切に教へて呉れる。

次に鐵道局教習所に就て述べやう。

所在地	
東京鐵道局教習所	東京市豐島區高田町雜司ケ谷
名古屋鐵道局教習所	名古屋市東區千種町
大阪鐵道局教習所	神戶市若松町五丁目
門司鐵道局教習所	門司市大里町
仙臺鐵道局教習所	仙臺市東八番町
札幌鐵道局教習所	札幌市苗穗町

目的年限　鐵道業務に須要な學術技能を教授する所であつて、業務科、土木科、機械科、電氣科等に分れて居るが、修業年限は何れも三年である。

入所資格　年齢十四歲以上十七歲迄の男子、高等小學卒業程度の學力を有し、半年以上鐵道省管內に服務してゐなければならない。出願期日は各教習所で別々になつて居て一定して居ないから、出願せんとする者は豫め各教習所に切手封入して規則書を取り寄せて照會する事。

朝鮮鐵道從業員養成所

所在地　京城府漢江通十六番地

修業年限　本科—三年。工作科—二年。電信科—三十週間。

入所資格　高等小學程度の學力あるもの。

遞信官吏となるには

遞信省官吏になり立身するには他の官吏同樣、高等文官の資格や判任官の資格を持つてゐなければならないが遞信業務は他官廳と違ひ、郵便、電信、電話、電氣、貯金等特殊の仕事をして居る關係上、之等の業務に携はるべき中堅人物の養成機關として、遞信官吏養成所を設置

して特殊の學科や、技術を教授して遞信官吏を養成して居る。

先づ遞信講習所に就て述べよう。

・所在地

東京遞信講習所　東京市麻布區廣尾町
札幌遞信講習所　札幌市南七條西ノ十二
仙臺遞信講習所　仙臺市
名古屋遞信講習所　名古屋市外安城町
大阪遞信講習所　大阪市北區中之島町櫻之宮
廣島遞信講習所　廣島市外三條町楠
熊本遞信講習所　熊本市出水町水前寺通

・目的年限　電信電話の通信事務に熟練せる吏員を養成するを目的とし、卒業後は電信事務員として採用され後判任官に昇進する。年限は普通科一年。

・入所資格　男子部、女子部共に滿十四歲以上滿十八歲以下で、高等小學校卒業程度の學力を有するもの。試驗科目は算術、國語、作文、外に體格檢査、心理檢査を通過しなければならない。

・給　費　日額五十五錢を支給する。

普通科卒業後一年の勤務を經、高等科に入學し更に所謂遞信官吏養成機關としての最高學府たる遞信官吏養成練習所に進む事が出來れば其前途は洋々たるものである。

朝鮮遞信官吏員養成所

・所在地　京城府光化門通り

・目的年限　朝鮮内の通信事務員の養成を目的とし、修業年限は普通科一年である。

・入所資格　滿十四歲以上滿十八歲以下の男女にして試驗科目の程度は高等小學校程度。

・給　費　入所と同時に日給六十錢の支給を受け、卒業後は月給四十圓內外の遞信郵便局員となる。

滿洲電信電話會社員養成所

・所在地　大連市桔梗町一二〇番地

・目的年限　滿洲國內の電信電話の通信事務員を養成し修業年限は一年である。

・入所資格　十一年度入所年齡は大正六年十二月二日以降同九年四月三十日迄に出生の男子にして、試驗科目は高等小學卒業程度である。

・給　費　日額八十錢を支給される。

無線技士となるには

最近無線電信、電話の發達著しく、陸に海に或は軍用に民間用に其の應用範圍は頗る廣汎となり、無電に携はる者を要求する事、實に切實となつて來た。

無電技士になるには遞信省施行の無線通信士資格檢定試驗に合格しなければならない。年齡は滿十七歲以上受驗資格は別に制限はなく、試驗は每年一回施行されるが期日や場所は其の都度發表されるから、よく官報に注意しなければならない。此の無線通信士資格檢定試驗に合格すれば無電技士の資格が出來たのであるから官公署や各汽船會社に採用され、愈々業務に就く事になる。

無線通信士資格は特殊の技術、專門學科を試驗するのであるから獨學で合格する事は殆ど不可能であり、從つて先づ是等の技術や學科を教授する學校に入學するのが近道である。權威ある學校としては

遞信官吏練習所の無電通信科（本邦唯一の官立）
無線電信講習所　東京市下目黑
中野無線電信學校　東京市中野區

小學校卒業者が滿洲國に就職するには

昭和十年四月滿洲國皇帝は、はるばる海を越えて友邦日本を訪れ遊ばされた。且つ日滿親善の波高き秋に當り滿洲國は心から滿洲國に對して、深き同情と理解とを持つ我々日本人の渡滿活躍を歡迎してゐる。滿洲國の發展はこれからだ。文明は之から植えつけられて行くのだ。文明の開拓者は何れから招かれるか。我が日本からだ。我々日本人は兄として滿洲國を育てゝ行く義務がある。茲に將來滿洲國に活躍せんと志す人々に滿鐵育成學校を紹介しやう。

滿鐵育成學校　所在地―大連市

南滿洲鐵道會社の中堅社員を養成する目的を以て設立せられ、由來二十數年幾多の俊材を社內に輩出してゐる。

・修業年限は四ケ年。

・入學資格　高等小學卒業者。試驗は春秋二回に行はれ試驗科目は算術、國語、作文。

・學　費　入學すると白亞寮（寄宿舍）に入る事となり、被服並びに食費を給せられる外、日給十五錢の支給を受ける。

・學校生活　學校は創立の趣旨、卽ち中堅社員の養成の爲めに在學中から既に社務の見習をやり、社員の用事の

手傳ひをし、授業は夜間である。從つて授業時間は短いが、卒業後は立派な滿鐵社員となり、他の中學卒業者よりも優先した待遇を受けるのである。尙本校に就ての規則は、大連市滿鐵本社總務部人事係に問ひ合せる事。

短期の修業で就職するには

蠶業練習生採用試驗

所在地—各府縣立蠶業試驗場。修業年限—一ヶ年。

入學資格　年齡十七歳以上の男子。高等小學校卒業程度の學力あるもの。試驗科目は算術、國語、作文、養蠶法。

給費　每月五圓乃至十圓を支給される。

目的待遇　養蠶事業の向上を計る目的を以て養蠶敎師又は蠶業技術員を養成し、終了後は養蠶敎師、蠶業技術員となる資格を得る外、蠶業取締吏員、蠶業會社に就職する。

農業練習生採用試驗

所在地—各府縣立農業試驗場。修業年限—一ヶ年。

入場資格　年齡十八歳以上の男子にして高等小學卒業以上の學力を有し勞働に耐へ得るもの。

給費　每月手當五圓乃至十圓支給される。

待遇目的　農村に於ける農業技術員養成と農業改善知識涵養を目的とし終了後は市町村農會の技術員となる。

看護婦になるには

看護婦は修業費を餘り必要とせず資格を得るのに困難でないのに收入が比較的他の職業に比して多いと云ふ點から此の職業に對して正しい理解と自覺を持たず志望する事は失敗の原因となる。

資格を得る道は、㈠各地方長官、東京府又は警視總監の指定した看護婦學校又は講習所に入學して二ヶ年以上の修業を積み無試驗で資格を得るか、㈡每年春秋二期に各府縣の看護婦試驗に合格して資格を得るかの二つである。卒業後無試驗にて資格を得られる學校は大體次の樣である。

東京帝國大學醫學部附屬醫院看護婦講習所
京都帝國大學醫學部附屬醫院看護婦養成所
慶應義塾大學醫學部附屬醫院看護婦養成所
大阪醫科大學附屬看護婦養成所
名古屋醫科大學附屬看護婦養成所
東京慈惠會看護婦敎育所

聖路加女子專門學校

タイピストになるには

新らしい職業として仲々發展してゐる職業である。邦文タイピストと歐文タイピストの二種あつて、何れも語學と手先に相當の實力を持つて居る人でなければならない。手先と頭を使ふ職業なのである。大抵の人は女學校を卒業して一定のタイピスト學校に入つて、六ヶ月なり一年の修業を積むのである。

權威ある學校としては

タイピスト養成所（東京市京橋區南傳馬町一ノ一／東京市芝區三田豐岡町十三）
外國語協會學校タイピスト部　東京市神田區小川町一
東京タイピスト學校　東京市神田區三崎町二丁目
東京駿河臺女學院タイピスト科　東京市神田區駿河臺

此の外、名古屋、橫濱、靜岡、和歌山、岡山、山口、高知、宮崎等の各都市にもそれぞれ養成所や學校がある。以上の學校なり養成所なりを卒業すればドンドン就職出來る。邦文タイピストが初給三十圓、歐文タイピストは四十圓位であるが、各自の腕次第で段々收入も增加するのである。

電話交換事務員になるには

曾ては男子で占めて居た此の職業も、婦人の細心と人をそらさぬ社交性とによつて遂に男子を追出し全く婦人の獨占場となつた。仕事は絕えず聽音器を耳に當てて通話者注文に應じて送話器をかけ換へて行くのであるから通話のこむ時など中々の激務である。交換事務員になるには次の樣な資格が必要である。

資格　年齡十三歳以上二十三歳迄小學校卒業以上の學力を有する者。希望者は電話局養成課へ履歷書を送り豫備試驗をうける。

選拔試驗　體格檢査、學術試驗—國語、算術、作文、地理。

以上の選拔試驗に合格すれば直ぐ電話見習となつて養成所で約三ヶ月位の學科と實習の敎育を受けて、日給五十錢（尋卒）日給六十錢（高卒）日給七十錢（高女卒）を支給して吳れる。かうして一人前の局員となつて各交換局へ配屬される。又は交換局を退いた人は私設交換手として銀行、會社、百貨店其の他の私設交換臺で働く事が出來る。

洋裁家になるには

近代頓みに發展して來た職業であつて、現在は婦人及び子供服の裁縫が主となつてゐるが、將來充分開拓發展される有望な職業である。綿密な頭を有し、視覺が充分で、流行を巧みに生かす創作的な頭腦を有する人は成功疑ひなしである。

デパートや婦人子供洋服店の裁縫部に就職すれば五十圓乃至百圓の收入があり、又洋服店を開業すれば相當の實收を得られ、又近代婦人の內職としても好適の職業である。權威ある學校としては

學校	所在地
文化裁縫女學院	東京市澁谷區代々木山谷一八五
ドレスメーカー	東京市品川區大崎四ノ二二九
東京高等ミシン學校	東京市四谷區新宿一丁目四
東京女子高等洋服學校	東京市蒲田區蒲田町
日本文華裁縫學院	東京市小石川區大塚仲町四一
中村洋服裁縫學院	大阪市南區惠美須町
神戶洋服專修學校	神戶市西代御屋敷通五丁目

美容師になるには

美容師は女子に取つて最も有望な職業の一つであつて其の中には美髮術、美顏術、美爪術、衣裳の着付等が含まれて居る。美容師になるには、㈠美容學校、美容術研究所に入學して學科、實地を修得して美容術試驗を受ける。㈡美容院の助手として實地に就て修業して美容術試驗を受ける。以上の二つの方法があつて、何れにしても美容術試驗を受けなければならない。

權威ある美容學校としては

學校	所在地
芝山美容學校	橫濱市中區住吉町二ノ三
丸の內美容院	東京市丸ビル一階
マリー・ルウキズ美容女學校	東京市麻布區材木町
女子整容大學院	東京市麴町區紀尾井町
日本女子美髮學校	東京市神田區表猿樂町二
日本女子美容術學校	東京市中野區中野町一五
函館女子職業學校	北海道函館市
名古屋美髮女學校	名古屋市中區春日町
大阪理髮學校	大阪市此花區西野田
高等美髮學校	廣島市廣瀨町
九州女子美髮學校	福岡市

一般に一人前の美容師になるには、一年以上の日數と二百圓位の學費を必要とする。くわしい事を知りたい人は上記の學校に規則書を請求する事。

學校一覽

昭和十年十一月

帝國大學

學校	學部	所在地
東京帝國大學	法、醫、工、文、理、農、經	(東京市)
京都帝國大學	法、醫、工、文、理、經、農	(京都市)
東北帝國大學	醫、理、工、法文	(仙臺市)
九州帝國大學	醫、工、農、法文	(福岡市)
北海道帝國大學	農、醫、理、工、豫	(札幌市)
京城帝國大學	法、文、醫	(京城府)
臺北帝國大學	文政、理農	(臺北市)
大阪帝國大學	醫、理、工	(大阪府)

官公立大學

學校	學部	所在地
東京商科大學	商、豫、專	(東京市外國立)
神戶商業大學		(神戶市)
岡山醫科大學		(岡山市)
金澤醫科大學		(金澤市)
長崎醫科大學		(長崎市)
新潟醫科大學		(新潟市)
千葉醫科大學		(千葉市)
熊本醫科大學		(熊本市)
東京文理科大學		(東京市)
廣島文理科大學		(廣島市)
東京工業大學		(東京市)
大阪商科大學	豫	(大阪市)
名古屋醫科大學		(名古屋市)
京都府立醫科大學	豫	(京都市)
旅順工科大學		(旅順市)

私立大學

學校	學部	所在地
東京慈惠醫科大學	豫	(東京市)
滿洲醫科會大學		(奉天)
日本醫科大學	豫	(東京市)
早稻田大學	政經、法、文、理工、商、豫	(東京市)
慶應義塾大學	經、法、文、醫、豫	(東京市)
明治大學	法、政經、商、豫	(東京市)
中央大學	法、經、商、豫	(東京市)
日本大學	商、法文、工、豫	(東京市)
法政大學	法文、經、豫	(東京市)
專修大學	經、法、豫	(東京市)
拓殖大學	商、豫	(東京市)
國學院大學	文、豫	(東京市)
立敎大學	文、經、豫	(東京市)
東京農業大學	農、豫	(東京市)
立正大學	文、豫	(東京市)
駒澤大學	文、豫	(東京市)
同志社大學	法、文、豫	(京都市)
立命館大學	法、經、豫	(京都市)
龍谷大學	文、豫	(京都市)
大谷大學	文、豫	(京都市)
大正大學	文、豫	(東京市)
高野山大學	文、豫	(和歌山縣)
東洋大學	文、豫	(東京市)
關西大學	法文、經、豫	(大阪市)
上智大學	文、商、豫	(東京市)
關西學院	法文、商、豫	(兵庫縣)

高等學校

學校	所在地
第一高等學校	(東京市)
第二高等學校	(仙臺市)
第三高等學校	(京都市)
第四高等學校	(金澤市)
第五高等學校	(熊本市)
第六高等學校	(岡山市)
第七高等學校	(鹿兒島市)
第八高等學校	(名古屋市)
新潟高等學校	(新潟市)
松本高等學校	(松本市)
山口高等學校	(山口市)
松山高等學校	(松山市)
水戶高等學校	(水戶市)
山形高等學校	(山形市)
佐賀高等學校	(佐賀縣)
弘前高等學校	(弘前市)
松江高等學校	(島根縣)
浦和高等學校	(浦和市)
大阪高等學校	(大阪市)
福岡高等學校	(福岡市)
靜岡高等學校	(靜岡市)
高知高等學校	(高知市)
姬路高等學校	(兵庫縣)
廣島高等學校	(廣島市)
東京高等學校	(東京市)
學習院高等科	(東京市)
東京府立高等學校	(東京市)
公立富山高等學校	(富山縣)
公立浪速高等學校	(大阪府)
公立臺北高等學校	(臺北市)
私立武藏高等學校	(東京市)
私立甲南高等學校	(兵庫縣)
私立成蹊高等學校	(東京市)
私立成城高等學校	(東京市)

官公立專門學校

- 神戸高等工業學校（神戸市）
- 濱松高等工業學校（濱松市）
- 德島高等工業學校（德島市）
- 長岡高等工業學校（長岡市）
- 福井高等工業學校（福井縣）
- 山梨高等工業學校（甲府市）
- 米澤高等工業學校（米澤市）
- 桐生高等工業學校（桐生市）
- 横濱高等工業學校（横濱市）
- 金澤高等工業學校（石川縣）
- 名古屋高等工業學校（名古屋市）
- 廣島高等工業學校（廣島市）
- 熊本高等工業學校（熊本市）
- 仙臺高等工業學校（仙臺市）
- 京城高等工業學校（京城府）
- 東京高等工藝學校（東京市）
- 京都高等工藝學校（京都市）
- 山口高等商業學校（山口市）
- 長崎高等商業學校（長崎市）
- 小樽高等商業學校（小樽市）
- 名古屋高等商業學校（名古屋市）
- 大分高等商業學校（大分市）
- 福島高等商業學校（福島縣）
- 和歌山高等商業學校（和歌山市）
- 彦根高等商業學校（彦根町）
- 横濱高等商業學校（横濱市）
- 高松高等商業學校（高松市）
- 高岡高等商業學校（高岡市）
- 京城高等商業學校（京城府）
- 盛岡高等農林學校（盛岡市）
- 鹿兒島高等農林學校（鹿兒島市）
- 東京高等農林學校（東京府）
- 三重高等農林學校（津　市）
- 宇都宮高等農林學校（宇都宮市）
- 宮崎高等農林學校（宮崎市）
- 岐阜高等農林學校（岐阜縣）
- 鳥取高等農業學校（鳥取市）
- 東京高等蠶絲學校（東京市）
- 上田高等蠶絲學校（上田市）
- 京都高等蠶絲學校（京都市）
- 富山藥學專門學校（富山縣）
- 熊本藥學專門學校（熊本市）
- 東京高等齒科醫學校（東京市）
- 秋田鑛山專門學校（秋田市）
- 明治專門學校（戸畑市）
- 東京高等商船學校（東京市）
- 神戸高等商船學校（兵庫縣）
- 東京外國語學校（東京市）
- 大阪外國語學校（大阪市）
- 東京美術學校（東京市）
- 東京音樂學校（東京市）
- 函館高等水産學校（北海道）
- 千葉高等園藝學校（松戸町）
- 水原高等農林學校（朝鮮水原）
- 臺灣總督府高等農林學校（臺北）
- 東京藥學專門學校（東京市）
- 臺北高等商業學校（臺北市）

私立專門學校

- 神戸高等商業學校（神戸市）
- 横濱商業專門學校（横濱市）
- 京城法學專門學校（京　城）
- 京城醫學專門學校（京　城）
- 臺北醫學專門學校（臺北市）
- 岐阜藥學專門學校（岐阜市）
- 京都繪畫專門學校（京都市）
- 東京醫學專門學校（東京市）
- 日本大學醫學專門學校（東京市）
- 昭和醫學專門學校（東京市）
- 岩手醫學專門學校（盛岡市）
- 九州醫學專門學校（久留米市）
- 大阪高等醫學專門學校（大　阪）
- 聯合醫學專門學校（京　城）
- 平壤醫學講習所（平　壤）
- 大邱醫學講習所（大　邱）
- 大阪齒科醫學專門學校（大阪市）
- 東京齒科醫學專門學校（東京市）
- 日本齒科醫學專門學校（東京市）
- 九州齒科醫學專門學校（福岡市）
- 京城齒科醫學專門學校（京城府）
- 東京高等齒科醫學校（東京市）
- 日本大學齒科醫學校（東京市）
- 京北齒科醫學校（浦和市）
- 東北齒科醫學校（仙臺市）
- 明治藥學專門學校（東京市）
- 京都藥學專門學校（京都市）
- 東京藥學專門學校（東京市）
- 大阪藥學專門學校（大阪市）
- 京城藥學專門學校（京城府）
- 東京工業專修學校（東京市）
- 日本大學高等工學校（東京市）
- 早稻田高等工學校（東京市）
- 中央高等工學校（東京市）
- 東京高等工學校（東京市）
- 攻玉社高等工學校（東京市）
- 關西高等工學校（大阪市）
- 帝國高等工業學校（東京市）
- 名古屋高等理工科學校（名古屋市）
- 武藏高等工科學校（東京市）
- 南滿洲工業專門學校（大連市）
- 大倉高等商業學校（東京市）
- 高千穗高等商業學校（東京市）
- 巣鴨高等商業學校（東京市）
- 仙臺高等實務學校（仙臺市）
- 東京高等造園學校（東京市）
- 早稻田大學專門部（東京市）
- 慶應義塾高等部（東京市）
- 明治大學專門部（東京市）
- 中央大學專門部（東京市）
- 日本大學專門部（東京市）
- 法政大學專門部（東京市）
- 横濱專門學校（横濱市）
- 明治學院高等學部（東京市）
- 青山學院專門部（東京市）
- 關西學院高等學部（兵庫縣）
- 東北學院專門部（仙臺市）

- 西南學院高等學部（福岡市）
- 關東學院（横濱市）
- 東京物理學校（東京市）
- 東京寫眞專門學校（東京市）
- 大東文化學院（東京市）
- 國士舘專門學校（東京市）
- 二松學舍專門學校（東京市）
- 滿洲教育專門學校（奉　天）
- 延禧專門學校（朝鮮高陽）
- 普成專門學校（京　城）
- 崇實專門學校（平　壤）
- 筑豐鑛山學校（直方市）
- 日本體育會體操學校（東京市）
- 武道專門學校（京都市）
- 無線電信講習所（東京市）
- 大阪無線電信電話學校（大阪市）
- 哈爾賓學院（ハルビン）
- 東亞同文書院（上　海）
- 文化學院本科（東京市）
- 津田英學塾（東京府）
- 日本女子大學（東京市）
- 東京女子醫學專門學校（東京市）
- 東京女子大學（東京市）
- 東京女子齒科醫學專門學校（東　京）
- 東洋女子齒科醫學專門學校（東　京）
- 帝國女子藥學專門學校（大阪市）
- 同志社女子專門學校（京都市）

高等師範學校

- 實踐女子專門學校（東京市）
- 共立女子專門學校（東京市）
- 日本女子體育專門學校（東京市）
- 東京高等師範學校（東京市）
- 廣島高等師範學校（廣島市）
- 東京女子高等師範學校（東京市）
- 奈良女子高等師範學校（奈良市）
- 早稻田大學高等師範部（早大内）
- 法政大學高等師範部（法大内）
- 日本大學高等師範部（日大内）
- 國學院大學高等師範部（國學院内）

夜間大學及專門學校

- 中央大學專門部夜間部（東京市）
- 明治大學專門部夜間部（東京市）
- 日本大學夜間部（東京市）
- 早稻田大學專門學校（東京市）
- 法政大學專門部夜間部（東京市）
- 日本大學專門學校（大阪府）
- 專修大學專門部（東京市）
- 關西大學專門部（大阪府）
- 拓殖大學專門部（東京市）
- 東洋大學專門部（東京市）

特殊實業學校（東京市）

- 東京府立實科工業學校
- 東京府立工藝學校（本郷區元町）
- 東京府立化學工業學校（深川區千田町）
- 早稻田工手學校（淀橋區戸塚町）
- 日本簿記專修學校（芝區白金三光町）
- 東京タイピスト學校（神田區三崎町）
- 基督教青年會タイピスト學校（神田區美士代町）
- 東京府立園藝學校（世田ヶ谷區駒澤町）
- 東京獸醫學校（世田ヶ谷區駒澤）
- 海外植民學校（世田ヶ谷區）
- 東京貿易語學校（本所區横網町）
- 岩倉鐵道學校（下谷區車坂町）
- 日本鐵道學校（澁谷區常盤松）
- 日本飛行學校（蒲田區）
- 日本自動車學校（蒲田區）
- 帝國自動車學校（世田ヶ谷區駒澤）
- 東京自動車學校（東京府下田無町）
- 電機學校（神田區錦町）
- 明治理髮學校（神田區錦町）

（深川區富川町）

官費の學校

- 海軍兵學校（廣島縣江田島）
- 海軍機關學校（京都府舞鶴町）
- 海軍經理學校（東京市築地）
- 陸軍幼年學校（東京市牛込區戸山町）
- 陸軍士官學校（東京市市ヶ谷）
- 陸軍工科學校（東京市小石川）
- 陸軍戸山學校軍樂部（東京市牛込區戸山町）
- 熊谷飛行學校少年航空兵（埼玉縣熊谷市）
- 横須賀航空隊少年航空兵（奈川縣田浦町）
- 遞信官吏練習所（東京芝公園）
- 遞信講習所（大阪、廣島、熊本、東京、名古屋、仙臺、札幌）
- 鐵道教習所（東京、名古屋、神戸、門司、仙臺、札幌）
- 朝鮮總督府鐵道從事員養成所
- 臺灣總督府鐵道從事員養成所
- 各府縣師範學校、女子師範學校（各府縣廳）
- 巡査教習所
- 燈臺看守業務傳習所（横濱市）
- 航空機操縱生養成所（遞信省）
- 農林省水産講習所（東京市）

漢字扁(へん)、旁(つくり)の呼び方

【一畫】

乙　オツネウ

【二畫】

亠　ケイサンカムリ
亻人　ニンベン
儿　ニンネウ
八　ハチカシラ
入　イリカシラ
冂　ケイガマヘ／マキガマヘ
冖　ヒラカムリ／ワカムリ
冫　ニスヰ
几　キネウ
凵　カンガマヘ
刂刀　リツタウ
力　チカラ
勹　ツツミガマヘ
匚　ハコガマヘ
匸　カクシガマヘ
卩　フシヅクリ
㔾　フシヅクリ
厂　ガンダレ

【三畫】

口　クチヘン
囗　クニガマヘ
土　ツチヘン／ドヘン
夂　スヰネウ
女　ヲンナヘン
子　コヘン
宀　ウカンムリ
尸　シカバネ
山　ヤマヘン
工　タクミヘン
巾　ハバヘン／キンヘン
广　マダレ
廴　エンネウ
弓　ユミヘン
彐彑　ケイガシラ
彡　サンツクリ
彳　ギヤウニンベン
忄心　リツシンベン
扌手　テヘン
氵水　サンズヰ
犭犬　ケモノヘン
阝邑　オホザト
阝阜　コザトヘン

【四畫】

⺗心　シタゴコロ
戈　ホコ
戶　トカンムリ
支　シネウ／エダネウ
攴攵　ボクネウ
文　ブンネウ
斗　トマス
斤　ヲノツクリ
方　カタヘン
日　ニチヘン／ヒヘン
曰　ヒラビ
月　ツキヘン
月肉　ニクヅキ
木　キヘン
欠　アクビ
止　トメヘン
歹　ガツヘン
殳　ルマタ
毋　コマタ
气　キガマヘ
氺水　シタミヅ
火　ヒヘン
灬　シングワ／シツクワ
爫爪　サウネウ／ツメカンムリ
爿　シヤウヘン
片　カタヘン
牙　キバヘン
牜牛　ウシヘン
王玉　タマヘン

礻示　シメスヘン
罓网　アミガシラ
耂老　オイカンムリ
艹艸　サウカウ／クサカンムリ
辶辵　シンネウ

【五畫】

田　タヘン
疒　ヤマヒグレ
癶　ハツガシラ
皮　ケガハ
皿　サラ
目　メヘン
罒网　アミガシラ

【六畫】

网　アミガシラ
矛　ホコヘン
矢　ヤヘン
石　イシヘン
禾　ノギヘン
穴　アナカンムリ
立　タツヘン
歹　ガツヘン
衤　コロモヘン
竹　タケカンムリ
米　コメヘン
糸　イトヘン
缶　ホトギヘン
羊　ヒツジヘン
耒　スキヘン／ライスキ
耳　ミミヘン
聿　フデツクリ
舌　シタヘン
舟　フネヘン
虍　トラカシラ／トラカンムリ
虫　ムシヘン
行　ユキガマヘ

【七畫】

角　ツノヘン
言　ゴンベン
豆　マメヘン
豕　ヰノコヘン
豸　ムジナヘン
貝　カヒヘン／コガヒ
走　ソウネウ
足　アシヘン
身　ミヘン
車　クルマヘン
酉　トリヘン／ヒヨミノトリ
釆　ノゴメヘン
里　サトヘン

【八畫】

金　カネヘン
門　モンガマヘ／カドガマヘ
隹　フルトリ
雨　アメカンムリ／アマカンムリ

【九畫】

革　カハヘン
韋　ナメシガハ
頁　オホガヒ
食　ショクヘン

【十畫】

馬　ウマヘン
骨　ホネヘン
髟　カミカンムリ／カミガシラ
鬥　タタカヒガマヘ／トウガマヘ
鬲　カナヘ
鬼　キネウ

【十一畫】

魚　ウヲヘン
鳥　トリヘン／トリツクリ
麥　ムギヘン／バクネウ
麻　アサカンムリ

【十四畫】

鼻　ハナヘン

【十五畫】

齒　ハヘン

ローマ字 (ALPHABET) アルファベット

印刷體 大文字	印刷體 小文字	筆記體 大文字	筆記體 小文字	讀方	印刷體 大文字	印刷體 小文字	筆記體 大文字	筆記體 小文字	讀方
A	a	*A*	*a*	(ei) エイ	N	n	*N*	*n*	(en) エヌ
B	b	*B*	*b*	(biː) ビー	O	o	*O*	*o*	(ou) オウ
C	c	*C*	*c*	(siː) シイー	P	p	*P*	*p*	(piː) ピー
D	d	*D*	*d*	(diː) デイー	Q	q	*Q*	*q*	(kjuː) キユー
E	e	*E*	*e*	(iː) イー	R	r	*R*	*r*	(ɑː) アー
F	f	*F*	*f*	(ef) エフ	S	s	*S*	*s*	(es) エス
G	g	*G*	*g*	(dʒiː) ヂー	T	t	*T*	*t*	(tiː) テイー
H	h	*H*	*h*	(eitʃ) エイチ	U	u	*U*	*u*	(juː) ユー
I	i	*I*	*i*	(ai) アイ	V	v	*V*	*v*	(viː) ヴイ
J	j	*J*	*j*	(dʒei) ヂエイ	W	w	*W*	*w*	(dʌbljuː) ダブルユー
K	k	*K*	*k*	(kei) ケイ	X	x	*X*	*x*	(eks) エックス
L	l	*L*	*l*	(el) エル	Y	y	*Y*	*y*	(wai) ワイ
M	m	*M*	*m*	(em) エム	Z	z	*Z*	*z*	(zed) ゼット

ローマ字綴 （日本式）

	ア A, a	イ I, i	ウ U, u	エ E, e	オ O, o	拗音 Ya	Yu	Yo	Wa
K, k	カ ka	キ ki	ク ku	ケ ke	コ ko	キヤ kya	キユ kyu	キヨ kyo	クワ kwa
S, s	サ sa	シ si	ス su	セ se	ソ so	シヤ sya	シユ syu	シヨ syo	—
T, t	タ ta	チ ti	ツ tu	テ te	ト to	チヤ tya	チユ tyu	チヨ tyo	—
N, n	ナ na	ニ ni	ヌ nu	ネ ne	ノ no	ニヤ nya	ニユ nyu	ニヨ nyo	—
H, h	ハ ha	ヒ hi	フ hu	ヘ he	ホ ho	ヒヤ hya	ヒユ hyu	ヒヨ hyo	—
M, m	マ ma	ミ mi	ム mu	メ me	モ mo	ミヤ mya	ミユ myu	ミヨ myo	—
Y, y	ヤ ya	(イ i)	ユ yu	(エ e)	ヨ yo	—	—	—	—
R, r	ラ ra	リ ri	ル ru	レ re	ロ ro	リヤ rya	リユ ryu	リヨ ryo	—
W, w	ワ wa	ヰ wi	(ウ u)	ヱ we	ヲ wo	—	—	—	—
G, g	ガ ga	ギ gi	グ gu	ゲ ge	ゴ go	ギヤ gya	ギユ gyu	ギヨ gyo	グワ gwa
Z, z	ザ za	ジ zi	ズ zu	ゼ ze	ゾ zo	ジヤ zya	ジユ zyu	ジヨ zyo	—
D, d	ダ da	ヂ di	ヅ du	デ de	ド do	ヂヤ dya	ヂユ dyu	ヂヨ dyo	—
B, b	バ ba	ビ bi	ブ bu	ベ be	ボ bo	ビヤ bya	ビユ byu	ビヨ byo	—
P, p	パ pa	ピ pi	プ pu	ペ pe	ポ po	ピヤ pya	ピユ pyu	ピヨ pyo	—

1. はねる音には凡て nを使ふ　Banzai
2. つまる音には次に來る kspt を二つ重ねて書く　Beppu
3. 引く音には母音 a i u e o の上に∧をつける　Tôkyô

内國郵便

普通郵便料

第一種
一、書狀　重量十五瓦(四匁)又はその端數毎に金三錢
二、書狀にあらざるも郵便法に依り第一種郵便物として取扱はるべきもの金二錢
三、全部印刷したる無封の書狀、盲人用點字の無封書狀及大部分印刷したる左記書狀金二錢
一、官公署、公共團體、社寺、學校又は營利を目的とせざる法人若は團體より發するもの
一、營業者より其營業に關し發する報知書、送狀、契約申込書、契約の承諾又は拒絶書、請求書、督促狀、計算書、見積書、明細書、領收書

第二種
普通葉書金一錢五厘、往復葉書、封緘葉書金三錢

第三種
毎月一回以上刊行する定期刊行物七十五瓦(二〇匁)又はその端數毎に金五厘、限度一、一瓩(約二九二匁)

第四種
書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書、畫、圖、商品見本及雛形、博物學上の標本、重量は一一〇瓦又は其の端數毎に金二錢、限度は一、一瓩(約二九二匁)商品見本及雛形は限度三五〇瓦(約九十二匁)

第五種
農產物種子、重量は一一〇瓦又は其端數毎に金一錢、限度は一、一瓩(約二九二匁)

小包郵便料

內地相互間　同一郵便區市內　普通小包 六錢　書留小包 十二錢　×印は書留

	內地相互間同一郵便區外		內地・臺灣・樺太相互間		內地・朝鮮・南洋群島及關東廳管內相互間
五〇〇瓦迄	一〇錢	×一五錢	二七錢	×四二錢	×四二錢
一瓩迄	一四錢	×二一錢	三四錢	×四九錢	×四九錢
二瓩迄	二二錢	×三三錢	四七錢	×六二錢	×六二錢
三瓩迄	三〇錢	×四五錢	六〇錢	×七五錢	×七五錢
四瓩迄	三八錢	×五七錢	七三錢	×八八錢	×八八錢
五瓩迄	四六錢	×六九錢	七九錢	×九四錢	×九四錢
六瓩迄	五四錢	×八一錢	八五錢	×一圓	×一圓

南洋群島及朝鮮宛發着するものは書留に限り取扱ひます

重量の限度は六瓩(一貫六〇〇匁)

電信

同一市町村內は片假名十五字以內金十五錢、五字以內を增す毎に金三錢
內地(小笠原島を除く)各地間。朝鮮、滿洲、芝罘相互間十五字以內金三十錢
五字以內を增す毎に金五錢

航空郵便

種類	量目	內地相互間	內地鮮滿間
有封書狀	一五瓦	一五錢	三〇錢
無封書狀	三五瓦	一五錢	三〇錢
通常ハガキ	一般料金の外に	七錢	同 一五錢
三乃至五種	七五瓦毎に	一般料金の外に 二五錢	同 五〇錢
小包	一瓩迄	一般料金の外に 一圓	同 一圓
	一瓩以上五〇〇瓦毎に	一般料金の外に 五〇錢	同 一圓
速達取扱	右料金の外に金八錢		

代金引替　金五錢、留置期間は十日間
外國郵便　書狀金十錢、葉書金六錢
滿洲國、中華民國は普通郵便に限り內地と同じ。

外國郵便到着日數

東廻便(橫濱起點)

ホノルル	九日
バンクーバー	一一日
シヤトル	一三日
シカゴ	一五日
モントリオール	一六日
ボストン	一六日
ニューヨーク	一六日
ブリスベーン	二四日
メルボルン	二七日
モンバサ	三七日
カイヤオ	四七日
バルバライソ	六五日
ボートサイド	三二日
リオデジヤネイロ	三〇日
ヴエノスアイレス	三五日
シドニー	二六日

滿洲・北支那便(下關起點)

大連	三日
青島	三日
新京	四日
天津	四日

西廻便(門司神戸起點)

上海	三日
漢口	一〇日
マニラ	一〇日
シンガポール	一三日
西貢	一四日
コロンボ	二〇日
カルカッタ	二四日
ボンベイ	二四日

西比利亞(東京起點)

ハルビン	五日
モスクワ	一三日
レニングラード	一三日
ワルソー	一三日
ベルリン	一四日
ハンブルグ	一五日
ロンドン	一五日
パリー	一五日
ゼノア	一六日
マドリッド	一七日
アレキサンドリヤ	二四日
ケープタウン	三八日

メートル法度量衡比較

	名称 メートル法		尺貫法	ヤードポンド法
度	ミリメートル……(粍 mm)	メートルの千分の一	〇・〇〇三三〇尺	〇・〇三九三七インチ
	センチメートル……(糎 cm)	メートルの百分の一	〇・〇三三〇〇尺	〇・三九三七〇インチ
	デシメートル……(粉 dm)	メートルの十分の一	〇・三三〇〇〇尺	〇・三二八〇八フート
	メートル……(米 m)		三・三〇〇〇〇尺	一・〇九三六一ヤード
	キロメートル……(粁 km)	千メートル	九・一六六六七町	〇・六二一三七マイル
	海里……	千八百五十二メートル	一六・九七六六七町	一・一五〇七八マイル
面積	平方メートル……(平方米 m^2)		一〇・八九〇〇〇平方尺	一・一九五九九平方ヤール
	土地 アール……(亞 a)	百平方メートル	三〇・二五〇〇〇歩	
	土地 ヘクタール…(百亞 ha)	百アール	一・〇〇八三三町	二・四七一〇五エーカー
量	立方メートル……(立方米 m^3)		三五・九三七〇〇立方尺	一・三〇七九五立方ヤール
	ミリリットル……(竓 ml)	リットル千分の一	〇・〇五五四三勺	
	リットル……(立 l)	立方デシメートル	五・五四三五二合	〇・二二〇一ガロン米
	キロリットル……(竏 kl)	千リットル	五・五四三五二石	二八・三七七六ブッセル米
衡	ミリグラム……(瓱 mg)	キログラムの百萬分の一	〇・二六六六七毛	〇・〇一五四三グレーン
	グラム……(瓦 g)	キログラムの千分の一	二・六六六六六分	一五・四三二三〇グレーン
	キログラム……(瓩 kg)		二六六・六六六六七匁	二・二〇四六ポンド
	トン……(瓲 t)	千キログラム	二六六・六六六六六貫	〇・九八四一九英トン
	寶石類 カラット……	二百ミリグラム	五・三三三三三厘	三・〇八六四二グレーン

概算

- 曲一寸…三センチメートル
- 曲一尺…三〇センチメートル
- 鯨一尺…四〇センチメートル
- 鯨一丈…三・八メートル
- 一間…一・八メートル
- 一町…一一〇メートル
- 一里…四キロメー
- 匁…四グラム
- 八十匁…三〇〇グラム
- 一斤…六〇〇グラム
- 四貫…一五キログラム(正確)(白米一斗五合二勺の目方)
- 一合…一・八デシリットル
- 五合…九デシリットル
- 一升…一・八リットル
- 一畝…一アール
- 一町歩…一〇〇アール
- 一トン(千瓩)…二六七貫
- 一哩…十四町四十五間
- 四粁…一里

親等表

- 六世の祖(6)—五世の祖(5)—高祖父母(4)
  - 曾祖父母の兄弟(5)—其子(6)
  - 曾祖父母(3)
    - 祖父母の兄弟(4)—其子(5)
    - 祖父母(2)
      - 伯父母(3)
        - 從兄弟(4)—其子(5)
        - 從姉妹(4)—其子(5)
      - 父母(1)
        - 兄弟(2)—甥姪(3)
        - **自分**—子(1)—孫(2)—曾孫(3)—玄孫(4)
        - 姉妹(2)—甥姪(3)
      - 叔父母(3)
        - 從兄弟(4)—其子(5)
        - 從姉妹(4)—其子(5)
    - 祖父母の姉妹(4)—其子(5)
  - 曾祖父母の兄弟(5)—其子(6)

親等とは親族關係に於ける親疎の等級を示すもので、親族間の世數を算へて之を定める。卽ち親子の間を一世とし、順次其世數を上下に算へる。傍系親では其一人又は配偶者より其始祖(生んだ親)に溯り、其始祖より他の一人に下るまでの世數による。例へば孫は子の子なるが故に二親等である(直系の場合)。伯父は祖父母(二親等)の子なるが故に三親等である(傍系の場合)。而して今日の民法では、血族六親等まで、姻族三親等までを親族といふ。

圖中の數字は親等順を示したものである。

家庭儀式

着帶祝

七夜祝 小兒生れて七日目の祝

宮參

食初祝

初誕生 生後滿一年の誕生日。

初節句 生後初めての節句、女子は三月三日、男子は五月五日。

七五三祝 三歲、五歲、七歲の祝、何れも十一月十五日に產土神に參詣

就學祝

還曆祝 六十一歲の誕生日に行ふ

古稀祝 七十歲の長命を祝ふ。

喜の字祝 七十七歲の誕生日に行ふ七十七の三字を合すれば草書の喜の字に似る。

八十の祝

米の字祝 八十八歲の誕生日に行ふ八十八の三字を重ねると米の字となる。

いろは俚諺

い・ゐ

○石に立つ矢 ○石に釘 ○一文吝しみの百知らず ○命あっての物種 ○一寸の虫にも五分の魂 ○命の洗濯 ○一寸伸ぶれば尋伸ぶる ○石の上にも三年 ○急がば廻れ ○犬も歩けば棒にあたる ○井の中の蛙大海を知らず

ろ・は

○論語讀みの論語知らず ○論より證據 ○論に負けても業で勝つ ○花より團子 ○花は櫻木人は武士 ○旗色を見て靡く ○鳩にも三枝の禮 ○針ほどの事を棒 ○走り馬に鞭 ○箸にも棒にもかゝらぬ ○花に嵐 ○馬鹿と鋏は使ひやう ○馬鹿が鐵砲打つ

に

○二枚舌 ○二の足を踏む ○二足の草鞋は穿けぬ ○人を見て法を說く ○煮ても燒いても食へぬ ○逃した魚は大きい ○二度あることは三度ある

ほ

○佛作って魂入れず ○佛の顏も三度 ○骨折損の草臥儲け ○盆と正月が一度に來た

へ

○下手の横好き ○下手の長談議 ○瓢簞から駒 ○臍が茶をわかす

と・ち

○遠くの親類近くの他人 ○豆腐に鎹 ○遠ざかるもの日々に疎し ○燈臺下暗し ○ところ變れば品かはる ○飛んで火に入る夏の虫 ○鳥なき里の蝙蝠 ○泥の中の蓮 ○泥棒に追錢 ○隣家の苦菜 ○塵積って山となる ○血で血を洗ふ ○ちぎれても錦 ○小さくとも針は飲めぬ ○長者の萬燈貧者の一燈 ○地獄で佛 ○地震雷火事親爺 ○提燈に釣鐘

り

○理を非に枉げる ○良藥は口に苦し ○兩手に花 ○律義ものの子澤山 ○理屈屋の義理知らず

ぬ

○盜人を捕へて繩をなふ ○糠に釘 ○ぬれ手で粟

る

○類を以て集る ○琉璃の板よりも俎板 ○琉璃も玻璃も照らせば光る ○類は友

を・お

○終り初物 ○小田原評議 ○鬼に金棒 ○鬼の目に涙 ○親の心子知らず ○老いては子に從へ ○思ひ立つ日が吉日 ○お山の大將 ○重荷に小づけ

わ

○笑ふ門に福來る ○渡りに船 ○破れ鍋にとぢ蓋 ○綿に針を包む ○禍も三年たてば福となる ○渡る世間に鬼はない ○我身を抓って人の痛さを知れ

か

○蛙の面に水 ○蟹の横這ひ ○影辨慶 ○壁に耳あり ○枯木に花 ○可愛い子には旅させろ ○勝って兜の緒をしめる ○かせぐに追つく貧乏なし

よ

○夜道に日は暮れぬ ○葦の髓から天を見る ○横車 ○横槍

た

○玉に瑕 ○短氣は損氣 ○高見で見物 ○立つ鳥あとを濁さず ○旅は道づれ世はなさけ ○立寄らば大樹の下 ○倒れてもたゞ起きぬ ○棚から牡丹餅 ○蟷螂の斧

れ・そ

○多勢に無勢 ○寶の持腐れ

格言集

困難は人の眞價を證明するものなり。（エピクテータス）

健康は富に優れり。（イギリス俚諺）

眞理は敵味方を超越す。（シルレル）

學は專心を尙ぶ。（貝原益軒）

時間を無益にするは贅澤の絕頂なり。（フランクリン）

不德を避くるは即ち德なり。（ホレース）

誠は天の道なり、之を誠にするは人の道なり。（中庸）

卒直に、純眞に、文句ぬきな生活がしたい、文句ぬきな交際がしたい。（曉烏敏）

誠實は最良の手段なり。（ワシントン）

熱誠のみ人生を永遠にす。（ゲーテ）

志を立つるは大にして高きを欲し、小にして低きを欲せず。（貝原益軒）

よく始められたる仕事は半ば終りたるものなり。（プラトン）

進まざるものは地歩を失ふ。（ラテン俚諺）

やらうと思はなければ横に寢た箸を堅にすることも出來ん。（夏目漱石）

意志ある處に方法あり。（イギリス俚諺）

己惚れ心の强き人々ほど他人に對して不公正なる判斷を下す者なし。（ボルジョン）

井の中の蛙大海を知らず。（日本俚諺）

職業の貴賤は人品の高下に關せず。（スマイルス）

何人も眠りて聖人たるものなし。（ニーチエ）

働けば氷るひまなき水車。（日本俚諺）

足ることを知つて及ばぬことを思ふな。（楠公訓）

一錢を笑ふものは一錢に泣く。（日本俚諺）

忍耐は金剛石よりも强い。（ユダヤ俚諺）

必要は發明の母なり。（ウイツチヤーレー）

瓦も磨けば玉となる。（毛吹草）

一人立てる時に强き者は眞正の勇者なり。（シルレル）

神は自ら勇者を助く。（オビツト）

斷然決心することの出來る人は憂愁に打ち勝つ。（モルトケ）

先づ熟慮し、然る後斷行す。（リチヤードシセル）

多くの事を爲す第一の捷徑は一度に只一事を爲すにあり。

習慣は第二の天性にして、第一の天性を破壞す

簡素な生活で高潔な思想（テニスン）

己を制する人は最も强し。（日本俚諺）

○禮儀より實氣 ○損して徳を取る ○惣領の順祿 ○底に底あり

つ

○月夜に提灯 ○月夜に釜をぬかる ○月にすつぽん ○月にむら雲 ○爪で拾うて箕でこぼす ○鶴の一聲 ○角を矯めて牛を殺す

ね・な

○猫に小判 ○寢耳に水 ○願つたり叶つたり ○念には念を入れよ ○泣面に蜂 ○七轉び八起き ○ならぬ勘忍するが勘忍

ら・む

○來年の事をいへば鬼が笑ふ ○樂は苦の基苦は樂の基 ○六日の菖蒲十日の菊 ○無理が通れば道理が引つ込む ○向ふ三軒兩隣

う

○馬の耳に念佛 ○馬の耳に風 ○牛は牛づれ ○牛に曳かれて善光寺まゐり ○うどの大木 ○氏より育ち ○瓜の蔓に茄子は生らぬ ○噂をすれば影 ○嘘から出た誠 ○嘘八百 ○打てば響く ○鵜の眞似する烏水に溺れる

の

○咽喉元すぎて熱さを忘れる ○能書筆を選ばず ○鑿といへば槌 ○のりかけた舟 ○能ある鷹は爪をかくす

く

○口は調法 ○口は禍の門 ○食はず嫌ひ ○腐つても鯛 ○苦しい時の神だのみ

や・ま

○病治りて醫者を忘る ○闇につぶて ○藪から棒 ○安物買ひの錢失ひ ○山に千年海に千年 ○燒野のきぎす夜の鶴 ○燒石に水 ○柳の枝に雪折なし ○蒔かぬ種は生えぬ ○待てば海路の日和 ○負けるが勝

不義にして富み且つ貴きは我に於て浮雲の如し。（孔子）

眼は魂の窓である。（バワース）

不本意に承諾せんよりは穩かに拒絶せよ。（ドイツ俚諺）

汝を責むるもののために祈れ。（キリスト）

苦は樂、樂は苦の種と知るべし。（徳川光圀）

出來るか出來ぬか分らぬ時は出來ると思つて努力せよ。（三宅雪嶺）

其人を知らんとせば其友を見よ。（史記）

感謝して受ける者には豐かな收穫がある。（ブレーク）

善に誇れば善を失ひ、能に語れば能を失ふ。（貝原益軒）

不幸に堪へ得ない程大なる不幸はない。（西洋俚諺）

珍客と雖も長座に過ぐれば嫌はれる。（アンデルセン）

人遠き慮なければ、必ず近き憂あり。（論語）

善友の怒り顔は惡友の笑顔よりも尊し（丁抹格言）

人の振見て我が振り直せ。（日本古諺）

け・ふ

○喧嘩兩成敗 ○古川に水絶えず ○河豚は食ひたし命は惜し ○富士の山を蟻がせせる

こ・え・て

○後悔先に立たず ○子を持つて知る親の恩 ○轉ばぬ先の杖 ○故鄕へ錦 ○弘法にも筆のあやまり ○怖いもの見たさ ○蝦で鯛釣る ○緣の下の力持 ○天下まはり持 ○天道人を殺さず ○出る杭は打たれる

あ・さ・き

○あとの祭 ○朝起きは三文の徳 ○暑さ寒さも彼岸まで ○麻の中の蓬 ○惡事千里 ○頭かくして尻かくさず ○當つて碎けろ ○虻蜂取らず ○雨降つて地固まる ○後の雁が先になる ○猿も木から落ちる ○三人寄れば文珠の智惠 ○木に竹をつぐ ○狐を馬に乘せる ○聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥 ○聞いて極樂見て地獄 ○狂人に刄物

ゆ・め・み

○油斷大敵 ○夢に牡丹餅 ○ゆきがけの駄賃 ○めくら蛇に怖ぢず ○めくら千人の世の中 ○目も口ほどに物をいふ ○目の上の瘤 ○名人は人を謗らず ○實のなる木は花から知れる ○身を捨てて浮ぶ瀬 ○身から出た錆 ○水かけ論 ○三つ兒の魂百まで ○三日見ぬ間の櫻

し・ゑ

○尻に帆かけて遁げる ○知らぬが佛 ○正直の頭に神宿る

ひ・も

○貧乏ひまなし ○飢じい時にまづいものなし ○人の振り見て我が振り直せ ○人は一代名は末代 ○元の木阿彌 ○門前の小僧習はぬ經を讀む ○餅は餅屋

せ・す

○栴檀は二葉より ○背に腹は換へられぬ ○住めば都 ○好きこそ物の上手

失敗の原因を知れば則ち、成功すべし。（フリードレー）

過ちて改めざる、是を過と謂ふ。（孔子）

過は改むるに憚る勿れ。（孔子）

羞恥の心無きは人に非ざる也（孟子）

何處にも神を見た者はない。が、若しも吾々が互に愛し合ふならば、神は吾々の胸に宿るのである。（トルストイ）

仕事をする時には、上機嫌でやることだ。さうすれば仕事も捗るし、身體も疲れない。（ワイレー）

天才とは九十九パーセントの汗と一パーセントの靈感である。（エヂソン）

『否』といへぬものは人に非ず。（伊國俚諺）

運命は神の考へるものだ。人間は人間らしく働けばそれで結構だ。（夏目漱石）

たゞ考へるのみにては、何事も實現せぬ。（ワナメーカー）

昭和十一年版の『學友年鑑』は『兒童年鑑』とは全く別の計畫でつくるつもりでしたが、編輯してみると、なかなか思ふようにできません。それで、彩色頁や寫眞頁、及び統計その他、可なりの範圍が、共通の頁になつてしまひました。

×

しかし、それは結局、區別する必要を認められないから――といふことにもなります。

實際、圖繪や、地圖、その他きまりきつた統計や何かで、『兒童年鑑』との區別をつける必要はないのです。

×

必要なところは、大體に於て補つてあるつもりでございます。歴史年表の如き、新語辭典を追加した如き、特に『學校・職業立身案内』の如き、小學校から、中等學校へ、或は職業に就く方々のための特輯です。

×

別冊『集印帖』は、『學友年鑑』と共に『兒童年鑑』にも、『昭和年鑑』にも同じものを添付しました。

『昭和年鑑』は、その内容全部が、この『學友年鑑』と同一であります。

『昭和年鑑』は、先生方や、家庭のお母様に、お持ちになつていたゞくために、その名だけを、大人らしくかへたものです。

×

女學校を出たお姉様も、大學を卒業したお兄様でも、世間のこと、社會の活きた事物に就ては、殆ど何にも知つてゐないといふやうな場合が尠くありません。

さういふお兄様やお姉様には、ぜひ『昭和年鑑』を敎へてあげていたゞきたう存じます。

×

『學友年鑑』は、もつとよくせねばなりません。どうしたら、あなたの役に立つ、もつと優れた年鑑になるか？いいお考へを、どしどし敎へていたゞきたいと思ひます。

追加資料贈呈券――で御住所氏名をお知らせ下さるおついでに、御注意、御希望をお聞かせ下さいませ。

昭和十年十一月八日印刷
昭和十年十一月十五日發行
昭和十一年一月一日三版

學友年鑑

不許複製

定價八十錢

編著者 東京市瀧野川區西ヶ原町六八 志村文藏
第一線社代表者
發行者 東京市瀧野川區西ヶ原町六八 志村文藏
印刷者 東京市芝區金杉川口町二二 瀧田文雄

發行所 東京市瀧野川區西ヶ原町六八 野ばら社
振替東京三三九五三番
電話王子三三五一一番

追加資料は昭和十一年四月頃發行、この券お送りの方に無代贈呈申上げます。この券はなるべく早くお送り願上げます。（昭和十一年五月卅一日限り有効）

昭和十一年版―『學校・職業立身案內』の如き、小學―は、ぜひ『昭和年鑑』を教へてあげて

日本帝國
滿洲帝國
中華民國
イギリス
フランス
アメリカ
トルコ
シヤム
ソヴイエト
ドイツ
イタリヤ
ブラジル
リベリヤ
カナダ
デンマーク
フインランド
オランダ
エクアドル
キューバ
メキシコ
エチオピア
南アフリカ
チエツコスロバキヤ
スエーデン
ベルギー
ペルー
ハイチ
グアテマラ
イラン
モンテネグロ
オーストリー
ノルウエイ
スイス
ボリビヤ
サントドミンゴ
サルバドル
イラク
サンマリノ
エストニヤ
リトワニヤ
ラトビヤ
チリー
ベネズエラ
ホンヂュラス
アフガニスタン
フィリッピン
アイスランド
ポーランド
ルーマニヤ
アルゼンチン
コロンビヤ
ニカラグア
ネパール
ブータン
ルクサンブルグ
オーストラリヤ
ハンガリー
ブルガリヤ
イスパニヤ
パラグアイ
コスタリカ
エジプト
ニュージーランド
ユーゴスラビヤ
ギリシヤ
ポルトガル
ウルグアイ
パナマ

學友年鑑

GAKUYU YEAR-BOOK

2596

學友年鑑

昭和十一年版

1936